キャンパスライフ　第9回

CAMPUS LIFE

大学院生生活実態調査報告書

ま　え　が　き

大学院生生活実態調査も第９回となりました。この調査は，本学大学院生の生活実態や要望を調査することで，福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し，本学における大学院教育全般の改善を図る目的で２年ごとに行われております。今回は令和４年 11 月に６研究科・２教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員（1,393 人）にアンケート調査を実施しました（回収率 34.0%）。その結果がまとまりましたのでご報告いたします。

本報告書は，調査の概要，続いて調査項目①基本的事項，②家族・住居・通学，③収入・支出，④健康状態，⑤学生生活上の問題点，⑥修学状況，⑦進路選択・就職について，総計 104 の質問により調査（日本語と英語）し，各質問項目について分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各研究科・教育部の現状と課題ならびに総括と提言を記載しております。

本調査からは，本学大学院生の生活実態がよく分かります。例えば前期課程学生の半数以上がアルバイトをしていること，前期課程学生，後期課程学生の約８割が何らかの悩みや不安を抱えており，学生の約半数が現在気になる身体症状があると答えていること，そして，こういった悩みを相談するのはほとんどが友人や家族であること，交通事故に２～３割の大学院生が遭遇していること，指導教員とのコミュニケーションは「充分とれている」,「ある程度とれている」は前期・後期課程学生とも約９割であること，また海外渡航が少なく（前期課程学生，後期課程学生の約８割は入学後なし），国際学会での発表も新型コロナウイルス感染症の影響もあり，未経験の学生が多いことなど，これから本学の大学院教育の改善・改革を進める上で貴重なデータが得られています。

大学院教育に関して文部科学省は，平成 17 年度より「新時代の大学院教育」，平成 23 年度には，「グローバル化社会の大学院教育」を謳い，その充実と改革を進めてきています。更に平成 30 年度には「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」で高等教育が目指すべき姿が示されました。本学におきましても，各大学院研究科・教育部において，グローバル人材を育成するため，英語講義の開設や英語コース等の充実を図っています。

一方で教育システムの充実と同様に学生を取り巻く環境を整備することが，研究活動を支える必要条件と考えられます。グローバル化に伴い世界各国からの留学生も増加しており，大学には多様なサービスが求められる時代となっています。多くの言語文化を背景にする学生が集うことからも各々への対応が必要です。また，社会人学生への支援の充実も欠かすことができません。大学院での学びには，奨学金などの経済的支援，就労支援等，生活基盤の安定が必要条件となり，学業に専念することが可能となります。

本調査には研究活動上の関わりでは教員に伝わらないデータも含まれており，さらなる支援のための手がかりとして，ご活用いただければ幸甚です。

最後になりますが，本学高等教育研究センターキャリア支援部門学生生活支援室の委員の先生方，ご協力いただいたキャンパスライフ健康支援センターおよびキャリア支援部門の先生方，学務部職員の方々には，アンケート項目の設定，調査の実施，集計，結果の分析まで，ご多忙の中精力的に遂行していただき，早期に報告書を作成していただきました。本年度の本調査に関わられた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。また，調査にご協力いただきました多数の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

令和５年３月

徳島大学副学長（教育担当）
河　野　文　昭

目　　次

まえがき……1

序　章　大学院生生活実態調査の概要……4
1　調査の目的……4
2　調査の組織……4
3　調査の対象及び方法……4
4　調査の時期……4
5　調査の内容……4
6　回答票の回収状況……5
7　図中の％表示……5
8　前期課程・後期課程……5
9　研究科（教育部）等の略語表示……5

附表「令和４年度学生生活実態調査」（日本人学生用）……7
附表「2022 STUDENT LIFE SURVEY」（外国人留学生用）……22

第１章　本調査の対象者について……40
１－１　出身地……40
１－２　最終学歴……41
１－３　社会人大学院生と留学生……42

第２章　家族・住居・通学について……44
２－１　家庭の年間所得……44
２－２　住居区分……46
２－３　住居費……48
２－４　配偶者や子供の有無……50
２－５　通学方法……53
２－６　通学時間……54

第３章　収入・支出について……57
３－１　１か月の平均収入額……57
３－２　親等からの援助額……59
３－３　１か月の平均支出額（授業料支出は除く）……61
３－４　奨学金……63
３－５　アルバイト……64
３－６　アルバイト従事時間数……66
３－７　アルバイトの目的……68
３－８　アルバイト収入金額……70
３－９　アルバイトにおけるトラブル……72

第４章　健康状態について……74
４－１　睡眠時間……74
４－２　気になる症状……75
４－３　症状の内容……76

４－４　主な悩みと不安……77
４－５　相談相手……78
４－６　現在の精神状態……79
４－７　喫煙……80
４－８　飲酒……80
４－９　キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識……80

第５章　学生生活上の問題点について……82
５－１　迷惑行為……82
５－２　総合相談部門（総合相談室）の利用……85
５－３　犯罪被害・交通事故・違法薬物使用……87
５－４　大学事務室の対応……90

第６章　修学状況について……91
６－１　教育理念・方針と教育に対する満足度……91
６－２　本学を選んだ理由と目的……94
６－３　研究活動と研究指導……99
６－４　研究環境と所属大学院に対する満足度……106
６－５　図書館の利用状況……109
６－６　学習への取り組み……114
６－７　海外渡航の経験と英会話……116
６－８　日本語会話……121
６－９　本学の教育への期待……123

第７章　進路選択・就職について……127
７－１　後期課程への進学意思……127
７－２　進学希望先……128
７－３　就職希望職種……129
７－４　進路選択の要件……131
７－５　進路選択の情報入手手段……133
７－６　キャリア支援室の利用状況……135
７－７　就職に関する大学への要望……137

第８章　研究科・教育部の現状と課題……141
８－１　創成科学研究科……141
８－２　総合科学教育部……143
８－３　医学研究科……143
８－４　口腔科学研究科……150
８－５　薬学研究科……152
８－６　医科栄養学研究科……156
８－７　保健科学研究科……160
８－８　先端技術科学教育部……165
特　記　留学生の現状と課題……168

第９章　総括と提言……171

あとがき……173

序章　大学院生生活実態調査の概要

1　調査の目的

この調査は，本学大学院生の生活の実態や要望を把握し，今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2　調査の組織

この調査は，徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門学生支援班学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し，分析作業を行った。

区　分	氏　名	所　属	職　名
室　長	鶴尾吉宏	大学院医歯薬学研究部	教授
委　員	堤　和博	大学院社会産業理工学研究部	教授
委　員	濵田賢一	大学院医歯薬学研究部	教授
委　員	難波康祐	大学院医歯薬学研究部	教授
委　員	直井美貴	ポストLEDフォトニクス研究所	教授
委　員	三戸太郎	バイオイノベーション研究所	教授
委　員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講師
委　員	井ノ崎敦子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講師
協力者	宇都義浩	高等教育研究センターキャリア支援部門	部門長 教授
協力者	井崎ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	センター長 教授

3．調査の対象及び方法

この調査は，本学大学院修士･博士前期課程及び博士･博士後期課程に在学する学生全員 1,393 人（令和 4 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は，教務システムのアンケート機能を利用し，WEB により実施した。

4．調査の時期

この調査は，令和 4 年 11 月 1 日から 11 月 11 日まで実施し，11 月 1 日現在の実状について回答を依頼した。

5．調査の内容

調査項目は，大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6．回答票の回収状況

調査票の回収状況は，調査対象者 1,393 人のうち回答数は 473 人で，回収率は 34.0％であった。研究科（教育部）・専攻別，学年別の回収状況は次表のとおりである。

7．図中の％表示

端数処理の関係で合計が 100％にならない場合がある。

8．前期課程・後期課程

報告書中では，修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程，博士後期課程と 4 年制博士課程（医･歯･薬）を合わせて後期課程と表現した。

9．研究科（教育部）等の略語表示

本報告書中，研究科（教育部）名等を以下のとおり略語で記載する。

創成科学研究科 → 創成科学
総合科学教育部 → 総合科学
医学研究科 → 医学
口腔科学研究科 → 口腔科学
薬学研究科 → 薬学
医科栄養学研究科 → 医科栄養学
保健科学研究科 → 保健科学
先端技術科学教育部 → 先端技術科学
第 1 回大学院生生活実態調査（平成17年度実施）→ 第 1 回調査
第 2 回大学院生生活実態調査（平成20年度実施）→ 第 2 回調査
第 3 回大学院生生活実態調査（平成22年度実施）→ 第 3 回調査
第 4 回大学院生生活実態調査（平成24年度実施）→ 第 4 回調査
第 5 回大学院生生活実態調査（平成26年度実施）→ 第 5 回調査
第 6 回大学院生生活実態調査（平成28年度実施）→ 第 6 回調査
第 7 回大学院生生活実態調査（平成30年度実施）→ 第 7 回調査
第 8 回大学院生生活実態調査（令和 2 年度実施）→ 第 8 回調査

令和４年度　大学院生生活実態調査　集計表 〈研究科・専攻・学年別〉

研究科(教育部)名	専攻名	修士・博士前期課程														博士・博士後期課程																			
	課程	修士・博士前期課程														博士・博士後期課程																			
	学年	1年				2年				小計				回収率		1年				2年				3年				4年				小計				回収率	
		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体	うち留学生	全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体	うち留学生
		在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	(%)	(%)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	(%)	(%)
創成科学研究科	地域創生専攻	9	8	4	4	18	7	4	3	27	15	8	7	55.6	87.5																				
	臨床心理学専攻	12	5	0	0	9	4	1	0	21	9	1	0	42.9																					
	理工学専攻	321	94	14	6	308	91	10	5	629	185	24	11	29.4	45.8																				
	生物資源学専攻	36	20	0	0	39	12	1	0	75	32	1	0	42.7																					
	創成科学専攻															28	11	12	5													28	11	12	5	39.3	41.7
	小計	378	127	18	10	374	114	16	8	752	241	34	18	32.0	52.9	28	11	12	5													28	11	12	5	39.3	41.7
総合科学教育部	地域科学専攻					2	2	1	1	2	2	1	1	100.0	100.0					2	0	0	0	4	4	1	1					6	4	1	1	66.7	100
	臨床心理学専攻					0	0	0	0	0	0	0	0																								
	小計					2	2	1	1	2	2	1	1	100.0	100.0					2	0	0	0	4	4	1	1	0	0	0	0	6	4	1	1	66.7	100.0
医学研究科	医科学専攻	10	5	2	2	8	5	0	0	18	10	2	2	55.6	100.0																				
	医学専攻															34	9	4	2	36	5	2	1	31	2	3	1	71	5	8	2	172	21	17	6	12.2	35.3
	小計	10	5	2	2	8	5	0	0	18	10	2	2	55.6	100.0	34	9	4	2	36	5	2	1	31	2	3	1	71	5	8	2	172	21	17	6	12.2	35.3
口腔科学研究科	口腔保健学専攻	2	2	0	0	4	2	0	0	6	4	0	0	66.7		1	1	0	0	4	4	2	2	5	4	0	0					10	9	2	2	90.0	100.0
	口腔科学専攻															27	13	2	2	15	5	4	0	8	2	3	2	18	6	6	4	68	26	15	8	38.2	53.3
	小計	2	2	0	0	4	2	0	0	6	4	0	0	66.7		28	14	2	2	19	9	6	2	13	6	3	2	18	6	6	4	78	35	17	10	44.9	58.8
薬学研究科	創薬科学専攻	32	11	0	0	36	13	1	0	68	24	1	0	35.3		8	4	1	0	9	4	1	1	11	3	2	0					28	11	4	1	39.3	25.0
	薬学専攻															2	2	0	0	4	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	8	6	1	1	75.0	100.0
	小計	32	11	0	0	36	13	1	0	68	24	1	0	35.3		10	6	1	0	13	6	1	1	12	4	2	0	1	1	1	1	36	17	5	2	47.2	40.0
医科栄養学研究科	医科栄養学専攻	24	5	1	1	35	15	0	0	59	20	1	1	33.9	100.0	7	4	2	0	9	3	2	0	16	6	0	0					32	13	4	0	40.6	
保健科学研究科	保健学専攻	31	24	1	1	26	14	1	0	57	38	2	1	66.7	50.0	10	6	3	0	8	7	3	2	10	3	0	0					28	16	6	2	57.1	33.3
先端技術科学教育部	知的力学システム工学専攻									0		0								5	0	1	0	7	2	1	1					12	2	2	1	16.7	50.0
	物質生命システム工学専攻									0		0								5	1	2	0	8	4	2	1					13	5	4	1	38.5	25.0
	システム創生工学専攻					0	0	0	0	0	0	0	0							11	6	7	4	15	4	6	2					26	10	13	6	38.5	46.2
	小計					0	0	0	0	0	0	0	0							21	7	10	4	30	10	9	4					51	17	19	8	33.3	42.1
	合計	477	174	22	14	485	165	19	9	962	339	41	23	35.2	56.1	117	50	24	9	108	37	24	10	116	35	18	8	90	12	15	7	431	134	81	34	31.1	42.0

注）在学者数欄は11月１日現在で，休学者を除いた数である。

令和４年度　学生生活実態調査

令 和 ４ 年 １ １ 月
徳　　島　　大　　学

お願い

この調査は，みなさんの学生生活を把握し，今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は，令和４年１１月１日現在，本学に在学する大学院学生全員を対象に匿名で行います。他の目的に使用することはありませんので，ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く，大変とは思いますが，この調査の趣旨をご理解のうえ，ご協力をお願いします。

［調査実施期間　１１月１日（火）～１１月１１日（金）］

＜回答記入上の注意事項＞

１ 令和４年１１月１日現在で記入してください。
２ 回答内容の該当するものを一つだけ選んでください。ただし，複数回答可を指定している場合は，複数選んでも差し支えありません。
３ 回答者を指定している箇所は，指定された人のみ回答してください。
４ 末尾に自由記載欄を設けています。学生生活全般について，気づいたことや要望したいこと，あるいは期待することがあれば，自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A．基本的事項について

１【常三島地区：修士・博士前期課程の方のみ回答】所属はどこですか。
１．創成科学研究科（地域創成専攻）
２．創成科学研究科（臨床心理学専攻）
３．創成科学研究科（理工学専攻・社会基盤デザイン）
４．創成科学研究科（理工学専攻・機械科学）
５．創成科学研究科（理工学専攻・応用化学）
６．創成科学研究科（理工学専攻・電気電子システム）
７．創成科学研究科（理工学専攻・知能情報システム）
８．創成科学研究科（理工学専攻・光システム）
９．創成科学研究科（理工学専攻・数理科学）
10．創成科学研究科（理工学専攻・自然科学）
11．創成科学研究科（生物資源学専攻）
12．総合科学教育部（地域科学専攻）
13．総合科学教育部（臨床心理学専攻）
14．先端技術科学教育部（知的力学システム工学専攻）
15．先端技術科学教育部（物質生命システム工学専攻）
16．先端技術科学教育部（システム創生工学専攻）

２【常三島地区：博士後期課程の方のみ回答】所属はどこですか。
１．総合科学教育部（地域科学専攻）
２．先端技術科学教育部（知的力学システム工学専攻）
３．先端技術科学教育部（物質生命システム工学専攻）
４．先端技術科学教育部（システム創生工学専攻）
５．創成科学研究科（創成科学専攻・社会基盤システムプログラム）
６．創成科学研究科（創成科学専攻・化学生命工学系プログラム）
７．創成科学研究科（創成科学専攻・機械科学系プログラム）
８．創成科学研究科（創成科学専攻・電気電子物理科学系プログラム）
９．創成科学研究科（創成科学専攻・知能情報・数理科学系プログラム）
10．創成科学研究科（創成科学専攻・生物資源学系プログラム）
11．創成科学研究科（創成科学専攻・光科学系プログラム）

３ 【蔵本地区】所属はどこですか。
１．医学研究科（医科学専攻）　２．医学研究科（医学専攻）
３．口腔科学研究科（口腔保健学専攻）　４．口腔科学研究科（口腔科学専攻）
５．薬学研究科（創薬科学専攻）　６．薬学研究科（薬学専攻）
７．医科栄養学研究科（医科栄養学専攻）　８．保健科学研究科（保健学専攻）

４ 【全員】何年生ですか。
１．修士・博士前期課程１年生　２．修士・博士前期課程２年生
３．博士後期課程１年生　４．博士後期課程２年生
５．博士後期課程３年生　６．博士課程１年生
７．博士課程２年生　８．博士課程３年生

９．博士課程４年生

５　【全員】性別はどちらですか。
１．男
２．女

６　【全員】出身地はどこですか。
１．徳島県　　２．四国（徳島県以外）　３．九州　　４．中国　　５．近畿
６．中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
７．関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
８．東北　　９．北海道　　10．その他（海外）

７　【全員】現在所属している研究科又は教育部に進学する前の最終学歴はどこですか。
１．徳島大学　　２．徳島大学以外の国内の大学
３．高等専門学校の専攻科　　４．外国の大学
５．徳島大学大学院修士・博士前期課程　　６．徳島大学大学院以外の国内の大学院
７．外国の大学院

８　【全員】社会人または留学生ですか。
１．社会人大学院生
２．留学生
３．どちらでもない

B．家族・住居・通学について

９　【全員】あなたの生計を支援している家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか（自活者は自己の年収）。
１．２５０万円未満　　２．２５０～５００万円未満
３．５００～７５０万円未満　　４．７５０～1,０００万円未満
５．1,０００～1,５００万円未満　　６．1,５００万円以上　　７．わからない

１０　【全員】あなたの住居区分はどれですか。
１．自宅（家族と同居）　　２．アパート・マンション（家族と別居）
３．国際交流会館、日亜会館留学生宿舎及び蔵本宿舎　　４．間借り
５．親戚・知人宅　　６．その他

１１　【国際交流会館、日亜会館留学生宿舎及び蔵本宿舎入居者を除く自宅外通学者】１か月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。
１．３万円未満　　２．３万円～４万円未満
３．４万円～５万円未満　　４．５万円～６万円未満
５．６万円～７万円未満　　６．７万円～８万円未満
７．８万円～９万円未満　　８．９万円～１０万円未満
９．１０万円以上

１２　【全員】あなたには現在，生計を共にしている配偶者・子供がいますか。
１．配偶者なし，子供なし　　２．配偶者なし，子供あり
３．配偶者あり，子供なし　　４．配偶者あり，子供あり

１３　【問１２で「２」「４」を選んだ方】授業や研究をしているとき，子供の世話は誰がみていますか。
（複数回答可）
１．配偶者　　２．親や親戚
３．保育施設にあずける　　４．小学校等の学校に通っている
５．その他
（注：要望事項があれば末尾の自由記入欄にＱ１３とともに書いてください）

１４　【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。
１．徒歩　　２．自転車
３．バイク（原付自転車・自動二輪）　　４．自動車
５．バス・ＪＲ

１５　【全員】通学時間はどれですか。
１．１５分未満　　２．１５分～３０分未満
３．３０分～１時間未満　　４．１時間～２時間未満
５．２時間以上

Ｃ．収入・支出について

１６　【全員】あなたの１か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。
１．３万円未満　　２．３～５万円未満
３．５～７万円未満　　４．７～１０万円未満
５．１０～１５万円未満　　６．１５～２０万円未満
７．２０～２５万円未満　　８．２５～３０万円未満
９．３０万円以上

１７　【全員】親等からの援助はいくらありますか。
１．全くない　　２．３万円未満
３．３～５万円未満　　４．５～７万円未満
５．７～１０万円未満　　６．１０～１５万円未満
７．１５～２０万円未満　　８．２０万円以上

１８　【全員】あなたの１か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。
１．３万円未満　　２．３～５万円未満
３．５～７万円未満　　４．７～１０万円未満
５．１０～１５万円未満　　６．１５～２０万円未満
７．２０～２５万円未満　　８．２５～３０万円未満
９．３０万円以上

１９　【全員】奨学金を受けることを希望しますか。
１．現在受給中であるが，更に希望する
２．現在受給していないが，希望する
３．現在受給していないし，希望もしない

２０　【全員】現在，アルバイトをしていますか。

１．はい
２．いいえ

２１　【問２０で「１」を選んだ方】①１週間の従事時間は平均何時間ですか。（移動に要する時間も含む）
１．５時間未満　　２．５～１０時間未満
３．１０～１５時間未満　　４．１５～２０時間未満
５．２０～２５時間未満　　６．２５時間以上

２２　【問２０で「１」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。（複数回答可）
１．生活費や学費のため　　２．学会参加のため
３．レジャー・旅行費のため　　４．日常の娯楽・嗜好品等購入のため
５．高額商品（パソコン，バイク，自動車等）購入のため
６．社会体験のため　　７．その他

２３　【問２０で「１」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（１か月平均）はいくらですか。
１．３万円未満　　２．３～５万円未満
３．５～７万円未満　　４．７～１０万円未満
５．１０～１５万円未満　　６．１５万円以上

２４　【問２０で「１」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）
１．ない　　２．給料の不払い
３．給料が契約より低かった　　４．客とのトラブル
５．解雇　　６．雇用者との意見の不一致
７．事故・ケガ　　８．その他

２５　【問２４で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

D．健康状態について

２６　【全員】１日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。（休日を除く）
１．４時間未満　　２．４～６時間未満
３．６～８時間未満　　４．８～１０時間未満
５．１０時間以上

２７　【全員】現在気になる身体症状はありますか。
１．ない
２．時々ある
３．常にある

２８　【問２７で「３」を選んだ方】気になる症状は何ですか。（複数回答可）
１．頭痛　　２．腹痛・嘔気
３．下痢・便秘　　４．動悸・不整脈
５．めまい・立ちくらみ　　６．咳・痰

７．生理痛・生理不順　　８．アトピー・アレルギー
９．不眠　　１０．その他

２９　【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。（複数回答可）
１．ない　　２．経済状態
３．勉学　　４．交友・異性関係
５．身体的不調　　６．家族関係
７．自分の性格　　８．就職や進路
９．生き甲斐や目標　　１０．その他

３０　【全員】悩み事は誰に相談しますか。（複数回答可）
１．友人　　２．家族
３．教員　　４．総合相談部門（学生相談室）
５．保健管理部門　　６．学務（教務）係
７．１～６以外の人　　８．誰にもしない

３１　【全員】現在の精神状態はどうですか。
１．充実している　　２．気分は普通
３．いらいらする　　４．なんとなく不安
５．落ち込みやすい　　６．やる気がでない
７．その他

３２　【全員】喫煙しますか。
１．喫煙しない　　２．ときどき喫煙する
３．毎日喫煙する　　４．過去に喫煙していたが，現在はしない

３３　【全員】飲酒をしますか。
１．飲酒はしない　　２．たまに飲酒する
３．１週間に１～２日飲酒する　　４．１週間に３～４日飲酒する
５．１週間に５日以上飲酒する

３４　【全員】キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を利用したことがありますか。（複数回答可）
１．健康診断のために行ったことがある
２．健康診断以外（診療，相談，健康機器の利用，証明書作成など）で利用したことがある
３．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らなかった
４．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門は知っているが，行ったことがない

E．学生生活上の問題点

３５　【全員】あなたは，現在所属の大学院入学以来，迷惑行為を受けたことがありますか。（複数回答可）
１．受けたことはない　　２．悪徳商法に引っかかった
３．いたずら電話を受けた　　４．ストーカーにあった
５．大学内でセクハラを受けた　　６．大学内でアカハラを受けた
７．飲酒を強要された　　８．インターネットによる誹謗・中傷を受けた
９．カルトのような集団への勧誘を受けた
10．その他

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは 相手を不快にさせる性的な言動を行い，それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり，精神的な苦痛などを与えること。
アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは 大学などで，指導教員が学生に対し，教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

３６　【問３５で「５」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

１．友人　　２．家族
３．教員　　４．キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）
５．学務（教務）係　　６．１～５以外の人
７．誰にもしない

３７　【問３５で「６」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

１．友人　　２．家族
３．教員　　４．キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）
５．学務（教務）係　　６．１～５以外の人
７．誰にもしない

３８　【問３５で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

３９　【全員】キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）を利用したことがありますか。

１．利用したことがある
２．総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが，利用したことがない
３．総合相談部門（総合相談室）を知らない

４０　【問３９で「１」を選んだ方】総合相談部門（総合相談室）を利用して対応はどうでしたか。

１．満足である　　２．どちらかといえば満足である
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

４１　【問４０で「３」「４」を選んだ方】内容を記載して下さい。

４２　【全員】あなたは，現在所属の大学院入学以来，盗難（盗み），強盗，傷害，痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。（複数回答可）

１．被害に遭ったことがない
２．盗難（盗み）に遭ったことがある
３．強盗に遭ったことがある
４．傷害に遭ったことがある

５．痴漢に遭ったことがある
６．その他

４３　【問４２で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

４４　【全員】あなたは，交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。
１．被害者・加害者の両方になったことがある　　２．被害者になったことがある
３．加害者になったことがある　　４．被害者・加害者両方ともなったことがない

４５　【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。
１．ある　　２．ない

４６　【全員】大学事務室の対応に満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足である
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

４７　【問４６で「３」「４」を選んだ方】理由」を記載して下さい。

Ｆ．修学状況

４８　【全員】所属する研究科又は教育部の教育理念や教育方針を知っていますか。
１．良く知っている　　２．だいたい知っている
３．あまり知らない　　４．知らない

４９　【問４８で「１」「２」を選んだ方】上記の研究科又は教育部の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。
１．思う　　２．思わない

５０　【全員】あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

５１　【問５０で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

５２　【徳島大学卒業者】大学院進学の際，現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

１．第一志望だった　　２．第二志望だった
３．第三志望だった　　４．その他

５３　【他大学卒業者】大学院進学の際，現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。
１．第一志望だった　　２．第二志望だった
３．第三志望だった　　４．その他

５４　【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。（複数回答可）
１．出身大学だから　　２．希望する研究分野があるから
３．指導教員に勧められたから　　４．地元の大学だから
５．就職等将来を考慮して　　６．研究環境が整っているため
７．希望する就職先がなかったから　　８．継続して修学するため
９．先輩や友人に勧められて　　10．その他

５５　【問５４で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

５６　【全員】大学院で勉学することにより，あなたの目指すものは何ですか。
１．高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人
２．創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者
３．確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員
４．知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
５．その他

５７　【問５６で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

５８　【全員】あなたは，あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

５９　【問５８で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６０　【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。
１．３０分未満　　２．３０分～９０分未満
３．９０分～５時間未満　　４．５～１０時間未満
５．１０～２０時間未満　　６．２０～４０時間未満
７．４０～６０時間未満　　８．６０時間以上

６１　【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。
１．教授　　２．准教授
３．講師　　４．助教
５．その他

６２　【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。
１．３０分未満　　２．３０～９０分未満
３．９０分～５時間未満　　４．５～１０時間未満
５．１０時間以上

６３　【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

６４　【問６３で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６５　【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

６６　【問６５で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６７　【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。
１．充分とれている　　２．ある程度とれている
３．あまりとれていない　　４．まったくとれていない

６８　【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。
１．充分に行われている　　２．ある程度行われている
３．あまり行われていない　　４．全く行われていない

６９　【問６８で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

７０　【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

７１　【問７０で「３」「４」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）
１．施設・設備　　２．研究費用
３．研究時間　　４．その他

７２　【問７１で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

７３　【全員】あなたは所属している研究科又は教育部・専攻に全体として満足していますか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

７４　【問７３で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

７５　【全員】図書館をどのくらいの頻度で入館利用（実際に登校して入館すること）しますか。
１．ほぼ毎日
２．１週間に２～３回
３．１週間に１回程度
４．２週間に１回程度
５．１か月に１回程度
６．半年に１回程度
７．１年に１回程度か，それ以下

７６　【全員】図書館を利用する主な目的は何ですか（オンライン等の非来館利用も含む）。（複数回答可）
１．図書等の貸し出し
２．図書等の閲覧やコピー
３．自習
４．グループ研究(学習)
５．パソコンの利用
６．電子ジャーナル・データベース
７．授業等の間の時間調整
８．その他

７７　【全員】図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。
１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

７８　【問７７で「３」「４」を選んだ方】内容を記載して下さい。

７９　【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。
１．よく学習している　　２．かなりしている
３．あまりしていない　　４．全然していない

８０　【全員】入学後，海外渡航をしたことがありますか。
１．ない　　２．１回
３．２回　　４．３回
５．４回以上

８１　【問８０で「１」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。（複数回答可）
１．留学　　２．語学研修
３．学会参加　　４．学術調査
５．社会活動　　６．観光
７．一時帰国　　８．その他

８２　【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。
１．海外の国際学会で口頭発表したことがある
２．海外の国際学会でポスター発表したことがある
３．国内の国際学会で口頭発表したことがある
４．国内の国際学会でポスター発表したことがある
５．国際学会で研究発表をしたことはない

８３　【日本人の方】英会話はどの程度できますか。
１．専門用語を使った会話ができる　　２．日常会話ができる
３．なんとか日常会話ができる　　４．あまりできない
５．できない

８４　【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。（複数回答可）
１．英会話等の学校に通っている
２．ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
３．TOEIC，　TOEFL 等を受験する
４．外国語の新聞，雑誌を購読している
５．外国のラジオ，テレビを視聴している
６．つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
７．何もしていない

８５　【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。
１．専門用語を使った会話ができる　　２．日常会話ができる
３．なんとか日常会話ができる　　４．あまりできない
５．できない

８６　【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。

1．受講している　　2．以前受講したことがある
3．今後受講する予定である　　4．受講の予定はない

８７　【問８６で「１」「２」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。
1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

８８　【問８７で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

８９　【全員】あなたの将来のために，本学の教育に何を望みますか。（複数回答可）
1．統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2．複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3．企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4．高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5．産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究
6．個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7．その他
8．特にない

９０　【問８９で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９１　【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。
1．非常に積極的であると思う　　2．どちらかといえば積極的であると思う
3．どちらかといえば積極的とは思わない　　4．積極的とは思わない

９２　【問９１で「３」「４」を選んだ方】理由を記載して下さい。

G．進路選択・就職について

９３　【修士・博士前期課程の方】博士（後期）課程への進学を考えていますか。
1．進学したい（進学予定者を含む）
2．奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3．就職したい
4．未定

９４　【問９３で「１」「２」を選んだ方】それは本学ですか，他大学ですか。

１．本学
２．他大学
３．未定

９５　【問９３で「３」「４」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。（複数回答可）

１．大学・官公庁の教育・研究職　　２．１以外の公務員
３．技術職　　４．事務職
５．企業等の研究職　　６．教育職
７．マスコミ関係　　８．専門職（医師等）
９．既に就職している　　10．その他

９６　【問９５で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９７　【全員】進路選択で重視するものは何ですか。（３個以内で回答）

１．収入
２．就職先の将来性・安定性
３．就職先の社会的評価
４．能力を発揮できること
５．勤務地の地理的条件
６．先端技術を駆使しているところ
７．仕事に対して適正な評価をしてくれるところ
８．経営方針
９．企業規模
10．転勤・異動の有無
11．その他

９８　【問９７で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９９　【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。（複数回答可）

１．指導教員　　２．就職担当教員
３．キャリア支援室の情報または就職相談員　　４．先輩・知人
５．直接会社に照会　　６．就職情報誌・新聞・マスコミ
７．家族等　　８．大学内資料
９．Ｗｅｂ・インターネット　　10．会社説明会
11．その他

１００　【問９９で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

１０１　【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

１．現在も利用している　　２．以前に利用したことがある
３．利用したことがない

１０２　【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。（複数回答可）

１．就職情報誌など就職関係書籍の充実
２．面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
３．公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
４．企業説明会の内容充実
５．就職ガイダンスの充実
６．求人企業の開拓
７．その他

１０３　【問１０２「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

１０４　自由記載欄

その他ご意見・ご要望等があれば，具体的に記載してください。

ご協力ありがとうございました

2022 STUDENT LIFE SURVEY

November 2022
Tokushima University

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in Tokushima University. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.
This is an anonymous survey administered to all students enrolled at Tokushima University as of November 1, 2022. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.
It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

［Survey Period: November 1−11］

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2022.
2. Please choose one answer for each question. Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. You may also write comments or requests regarding school life on the entry space ”104”at the end of this questionnaire （if any）.

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY　(GRADUATE SCHOOL)

A . BASIC INFORMATION

1 .【Subject: Only Master's students　("Hakase Zenki")　in Josanjima Area】

Which Graduate School do you belong to?

1.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Regional Development)
2.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Clinical Psychology)
3.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Civil and Environmental Engineering)
4.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Mechanical Science)
5.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Applied Chemistry)
6.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Electrical and Electronic Engineering)
7.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Computer Science)
8.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Optical Science)
9.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Mathematical Science)
10.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology・Natural Science)
11.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Bioresource Science)
12.Graduate School of Integrated Arts and Science (Regional Sciences)
13.Graduate School of Integrated Arts and Science (Clinical Psychology)
14.Graduate School of Advanced Technology and Science (Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering)
15.Graduate School of Advanced Technology and Science (Earth and Life Environmental Engineering)
16.Graduate School of Advanced Technology and Science (Systems Innovation Engineering)

2.【Subject: Only doctoral students　("Hakase Koki")　in Josanjima Area】

Which Graduate School do you belong to?

1.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Regional Development)
2.Graduate School of Advanced Technology and Science (Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering)
3.Graduate School of Advanced Technology and Science (Earth and Life Environmental Engineering)
4.Graduate School of Advanced Technology and Science (Systems Innovation Engineering)
5.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Social and Infrastructure System Program)
6.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Applied Chemistry and Biological Engineering Program)
7.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Mechanical Science Program)
8.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Electrical Engineering, Electronics and Physics Program)
9.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Computer Science and Mathematical Science Program)
10.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Bioresources Program)

11.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Optical Science Program)

3.【Subject:Kuramoto Area】

Which Graduate School do you belong to?

1.Graduate School of Medical Sciences (Medical Science)
2.Graduate School of Medical Sciences (Medicine)
3.Graduate School of Oral Sciences (Oral Health Science)
4.Graduate School of Oral Sciences (Oral Science)
5.Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmaceutical Sciences)
6.Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmacy)
7.Graduate School of Nutrition and Bioscience (Human Nutrition)
8.Graduate School of Health Sciences (Health Sciences)

4.【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

5.【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male　　2. Female

6.【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region　(other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region　(Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region　(Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country and the number of this question(6)on the entry space"104"at end of this questionnaite .)

7. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. Tokushima University
2. University in Japan other than Tokushima University
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of Tokushima University
6. Graduate School in Japan other than Tokushima University
7. Graduate School abroad

8. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus　2. Foreign student　3. Neither

B . FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

9. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?(For self-supporting students, your own annual income)

1. Less than ¥2,500,000　2. ¥2,500,000－4,999,999　3. ¥5,000,000－7,499,999
4. ¥7,500,000－9,999,999　5. ¥10,000,000－14,999,999　6. More than ¥15,000,000
7. I don't know.

10. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House/Nichia Kaikan International House residents/ Kuramoto Dormitory of Tokushima University
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

11. 【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents/ Kuramoto Dormitory 】 **How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities) ?**

1. Less than ¥30,000　2. ¥30,000－39,999　3. ¥40,000－49,999　4. ¥50,000－59,999
5. ¥60,000－69,999　6. ¥70,000－79,999　7. ¥80,000－89,999　8. ¥90,000－99,999
9. More than ¥100,000

12. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child (ren) living with you?

1．No spouse or child　　2．No spouse, but have child (ren)
3．Have a spouse, but no child　　4．Have a spouse and child (ren)

13.【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q12】
Who takes care of your child (ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

1．Spouse　　2．Your or spouse's parent (s) /relative (s)　　3．Daycare facility
4．School (elementary school, etc.)　　5．Others

(Note: Please use the back of entry space"104" at the end of this questionnaire to write the number of this question (13) and the specifics.)

14.【Subject: ALL】
How do you usually commute to the university?

1．By walking　2．By bicycle　3．By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle)
4．By car　5．By bus/JR

15.【Subject: ALL】
How long does it take to commute to the university?

1．Less than 15 minutes　　2．15－less than 30 minutes　　3．30 minutes－less than 1 hour
4．1－less than 2 hours　　5．More than 2 hours

C．INCOME/EXPENDITURE

16.【Subject: ALL】
How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)？

1. Less than ¥30,000　2. ¥30,000—49,999　3. ¥50,000—69,999　4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999　6. ¥150,000—199,999　7. ¥200,000—249,999　8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

17.【Subject: ALL】
How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None　2. Less than ¥30,000　3. ¥30,000—49,999　4. ¥50,000—69,999
5. ¥70,000—99,999　6. ¥100,000—149,999　7. ¥150,000—199,999　8. More than ¥200,000

18.【Subject: ALL】
How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)？

1. Less than ¥30,000　2. ¥30,000—49,999　3. ¥50,000—69,999　4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999　6. ¥150,000—199,999　7. ¥200,000—249,999　8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

19.【Subject: ALL】
Do you wish to receive a scholarship?

1．Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2．Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.

3．No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

20.【Subject: ALL】
Do you have a part-time job?
1．Yes　　2．No

21.【Subject: Those who chose （Yes） for Q20】
① How much is the average weekly work hours （including commuting time）?
1．Less than 5 hours　　2．5－less than 10 hours　　3．10－less than 15 hours
4．15－less than 20 hours　　5．20－less than 25 hours　　6．More than 25 hours

22.【Subject: Those who chose （Yes） for Q20】
② What is the purpose of having a part-time job?
1．For living expenses or tuitions　　2．To attend academic conferences
3．For leisure/travel　　4．For daily leisure （ex. favorite food or beverages, etc.）
5．To purchase expensive products （PC, motorcycle, car, etc.）
6．To gain social experiences　　7．Others

23.【Subject: Those who chose （Yes） for Q20】
③ How much is the average monthly income from your part-time job?
1．Less than ¥30,000　　2．¥30,000－49,999　　3．¥50,000－69,999
4．¥70,000－99,999　　5．¥100,000－149,999　　6．More than ¥150,000

24.【Subject: Those who chose （Yes） for Q20】
④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?
1．No　　2．Unpaid salary　　3．Paid less than agreed in contract
4．Trouble with customer (s)　　5．Termination of employment　　6．Disagreement with employer
7．Accident/injury　　8．Others

25.【Subject: Those who chose （Others） for Q24】
Please write the details.

D．HEALTH CONDITIONS

26.【Subject: ALL】
How long do you sleep per day （excluding weekends and holidays）?
1．Less than 4 hours　　2．4－less than 6 hours　　3．6－less than 8 hours
4．8－less than 10 hours　　5．More than 10 hours

27.【Subject: ALL】
Are there any physical conditions you are concerned about?

1．Yes　　2．Sometimes　　3．Constantly

28.【Subject: Those who chose （Constantly） for Q27】
What is/are the symptom (s) ? （Multiple answers allowed）

1．Headache
2．Stomachache/ nausea
3．Dizziness/ light headedness
4．Palpitation/irregular heartbeat
5．Diarrhea/ constipation
6．Coughs/sputum
7．Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8．Atopy/allergy
9．Insomnia
10．Others

29.【Subject: ALL】
Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern (s) ? （Multiple answers allowed）

1. No
2. Financial concerns
3. Research and Study
4. Friends/relationships
5. Poor physical condition
6. Family relation
7. Own personality
8. Future career
9. Motivation or purpose in life
10. Others

30.【Subject: ALL】
Who do you usually consult concerns or worries? （Multiple answers allowed）

1．Friend (s)
2．Family
3．Teacher/professor
4．Student and Staff Counseling Division
5．Health Service Division
6．Section of Academic Affairs in your Department/Faculty
7．Those other than 1－6
8．Nobody

31.【Subject: ALL】
What is your current emotional state?

1．Fulfilled　2．Normal　3．Irritated　4．Anxious for no apparent reason
5．Easily depressed　6．Low energy　7．Others

32.【 Subject: ALL 】 Do you smoke?

1．Never　2．Sometimes
3．Everyday　4．Smoked in the past but not anymore

33.【Subject: ALL】
Do you drink alcoholic beverages?

1．No　2．Sometimes　3．1－2 times a week
4．3－4 times a week　5．More than 5 times a week

34【Subject: ALL】
Have you ever visited the Health Service Division of the Health service, Counseling and Accessibility Center ? (Multiple answers allowed)

1．Yes, I have visited there for health check-ups
2．Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups （examination, consultation, healthcare

equipment, issuance of certificate, etc.)

3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.

4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

35.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others

SEXUAL HARASSMENT:	ACADEMIC HARASSMENT:
It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.	It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

36.【Subject: Those who chose (5) for Q35】

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1－5
7. Nobody

37.【Subject: Those who chose (6) for Q35】

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1－5
7. Nobody

38.【Subject: Those who chose (10) for Q35】

Please write the details.

39.【Subject: ALL】

Have you ever visited Student and Staff Counseling Division of the Health service,Counseling and Accessibility Center?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

40.【Subject: Those who chose (1) for Q39】

How was the service at the Student and Staff Counseling Division of the Health service,Counseling and Accessibility Center?

1. Excellent 2. Satisfactory 3. Slightly unsatisfying 4. Unsatisfying

41.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q40】

Please write the reason.

42.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others

43.【Subject: Those who chose (others) for Q42】

Please write the detils.

44.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause.
2. I have been a victim.
3. I have been a cause.
4. I have never been either a victim or a cause.

45.【Subject: ALL】

Have you ever used any illegal drug (s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes
2. No

46.【Subject: ALL】

How would you rate the service of the administration office of Tokushima University?

1. Excellent
2. Satisfactory

3．Slightly unsatisfactory　　4．Unsatisfactory

47.【Subject: Those who chose （3）or（4） for Q46】
Please write the reason.

F．EDUCATION ENVIRONMENT

48.【Subject: ALL】
Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1．Very familiar　　2．Moderately familiar
3．Slightly unfamiliar　　4．Unfamiliar

49.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q48】
Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1．Yes　　2．No

50.【Subject: ALL】
How would you rate the curriculums of your graduate school?

1．Excellent　　2．Satisfactory
3．Slightly unsatisfactory　　4．Unsatisfactory

51.【Subject: Those who chose （3）or（4） for Q50】
Please write the reason.

52.【Subject: Graduates of Tokushima University】
Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1．Yes, it was my FIRST choice.　　2．No, it was my SECOND choice
3．No, it was my THIRD choice.　　4．Others

53.【Subject: Graduates of universities other than Tokushima University】
Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1．Yes, it was my FIRST choice.　　2．No, it was my SECOND choice
3．No, it was my THIRD choice.　　4．Others

54.【Subject: ALL】

What is (are) the reason (s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed) Because:

1. I am a graduate of Tokushima University.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others

55.【Subject: Those who chose (others) for Q54】

Please write the reason.

56.【Subject: ALL】

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others

57.【Subject: Those who chose (others) for Q56】

Please write the reason.

58.【Subject: ALL】

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

59.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q58】

Please write the reason.

60.【Subject: ALL】

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes　2. 30—less than 90 minutes　3. 90 minutes—less than 5 hours
4. 5—less than 10 hours　5. 10—less than 20 hours　6. 20—less than 40 hours
7. 40—less than 60 hours　8. More than 60 hours

61.【Subject: ALL】

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor　2. Associate Professor　3. Lecturer
4. Assistant Professor　5. Others

62.【Subject: ALL】

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 61?

1. Less than 30 minutes per week　2. 30－less than 90 minutes per week
3. 90 minutes－less than 5 hours per week　4. 5－less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

63.【Subject: ALL】

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent　2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory　4. Unsatisfactory

64.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q63】

Please write the reason.

65.【Subject: ALL】

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

1. Satisfied　2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied　4. Dissatisfied

66.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q65】

Please write the reason.

67.【Subject: ALL】

How is the communication between you and your instructor?

1. Excellent　2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory　4. Unsatisfactory

68.【Subject: ALL】

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

1. Highly appropriate　　2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate　　4. Not appropriate

69.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q68】

Please write the reason.

70.【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the research environment?

1. Satisfied　　2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

71.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q70】

What is (are) the reason (s) ? (Multiple answers allowed)

1. Facility/equipment　　2. Research funding　　3. Research time
4. Others

72.【Subject: Those who chose (others) for Q71】

Please write the details.

73.【Subject: ALL】

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

1. Satisfied　　2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

74.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q73】

Please write the reason.

75.【Subject: ALL】

How often do you "physically" visit the library?

1. Almost everyday　　2. 2－3 times a week　　3. Once a week
4. Once in two weeks　　5. Once a month　　6. Once in six months

7．Once a year or less

76.【Subject: ALL】

What is the main purpose of using the library ？（including non-visiting use）

1．Lending books.
2．Browsing and copying books
3．Self- s tudy
4．Group study （learning）
5．Use of PC
6．Electronic journal database
7．Spending time between classes
8．Others

77.【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the library services（facilities,books,magazines,and electronic journal）？

1．Satisfied
2．Relatively Satisfied
3．Relatively dissatisfied
4．Dissatisfied

78.【Subject: Those who chose （3）or（4） for Q77】

Please write the reason.

79.【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1．Very high　2．High　3．Low　4．No effort

80.【Subject: ALL】

Have you ever been abroad （other than Japan） since the enrollment in the current graduate school?

1．No　2．Once　3．Twice　4．Three times　5．More than four times

81.【Those who chose other than （No） for Q80】

What was the purpose of the travel abroad? （Multiple answers allowed）

1．To study
2．To learn language
3．To attend academic conference
4．For academic research
5．For social activities
6．Sightseeing
7．Returning home temporarily
8．Others

82.【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1．Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2．Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3．Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4．Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5．No, I have never made a presentation at an international academic conference.

83.【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

84.【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

85.【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

86.【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by Tokushima University?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

87.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q86】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of Tokushima University?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

88.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q87】

Please write the reason.

89.【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of Tokushima University?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others
8. No particular expectations

90.【Subject: Those who chose (others) for Q89】

Please write the details.

91.【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of Tokushima University in responding to the trend of internationalization?

1. Very high　　2. Relatively high
3. Relatively low　　4. Very low

92.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q91】

Please write the reason.

G. FUTURE CAREER

93.【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

94.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q93】 Where are you planning to receive the education?

1. Tokushima University　　2. Other university　　3. Not decided yet.

95.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q93 / Those who are currently enrolled in the Doctoral

Course/ second program of the Doctoral Course】

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than above
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others

96.【Subject: Those who chose (others) for Q95】

Please write the details.

97.【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation of the place of employment
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Giving a fair evaluation of work.
8. Managerial policies
9. Business size
10. Possibility of transfer or relocation
11. Others

98.【Subject: Those who chose (others) for Q97】

Please write the details.

99.【Subject: ALL】

What is (are) the method (s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Information provided by Career Support Room or Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media

7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Company information session
11. Others

100.【Subject: Those who chose （others） for Q99】
Please write the details.

101.【Subject: ALL】
Have you ever used Career Support Room of Tokushima University?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

102.【Subject: ALL】
Do you have any requests for Tokushima University regarding future career? （Multiple answers allowed）

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others

103.【Subject: Those who chose （others） for Q102】
Please write thedetails.

104. If you have any other comment or request,please write"Comments/Requests"

Thank you for your cooperation.

第１章　本調査の対象者について

本調査は，本学大学院の創成科学，総合科学，医学，口腔科学，薬学，医科栄養学，保健科学，先端技術科学の６研究科２教育部の前期課程に在籍する962名，および後期課程に在籍する431名の計1,393名（休学者は除いている。以下同じ）を対象とした。

なお，在籍者数の些少な研究科・教育部については，以下において研究科・教育部ごとに着目した傾向をみる場合などに対象からは除くことがある。また，個人情報保護の観点よりグラフを非表示にしているが，全体数には反映している。

さて，回収数は，前期課程で339，後期課程で134，計473であった。回収率は前期課程が35％，後期課程が31％，全体では34％であった。研究科・教育部ごとの回収率をみると，前期課程で32％から67％（総合科学，口腔科学，先端技術科学を除く），後期課程で12％から57％（総合科学を除く）である。全体的に回収率の低さが目につく。また，学年ごとの回収率では後期課程４年の回収率の低さ（13％）が目立っている。以上のような回収率の実態は，調査結果を解釈する際には注意を要する。本調査の精度を今後高めていくには，回収率を上げる工夫を検討することが必要であろう。なお，男女間での回収率には女子が42％，男子が31％で，女子の方が男子より10ポイント以上高くなっている。

１－１　出身地（図１－１－１，図１－１－２）

最初に出身地をみる。前期課程では徳島県（31％），近畿（30％），中国（14％）など，第８回調査と大差はない。目に付いたところでは，徳島県以外の四国出身者が全体では11％と中国を下回る中，医学（30％），薬学（25％）の医学系で比較的多数を占めている。また，医科栄養学は近畿が30％で，徳島県の20％を上回っている。なお，その他（海外）は7％であり，第８回調査の2％よりは上昇している。

後期課程においても前期課程と同様に徳島県及び近県出身者の割合が高い。一方，薬学･医科栄養学･保健科学・先端技術科学は近畿出身者が徳島県を上回っている。薬学と先端技術科学においては，徳島県（ともに6％）の少なさが目立つ。なお，その他（海外）は26％であり，第８回調査の14％よりは

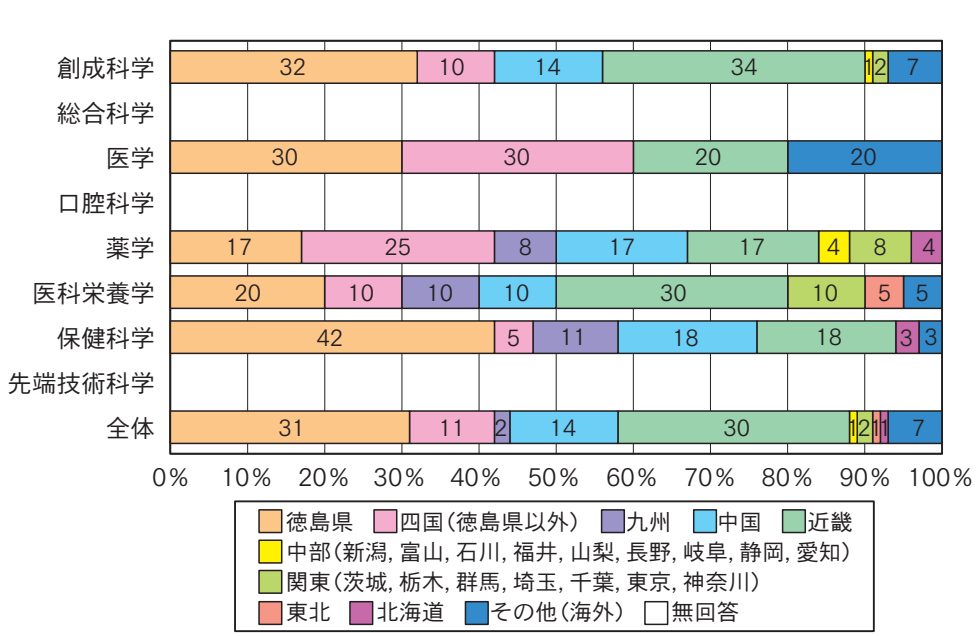

図１－１－１　出身地

10 ポイント以上高くなっている。コロナ禍による規制の緩和によるものであろうか。

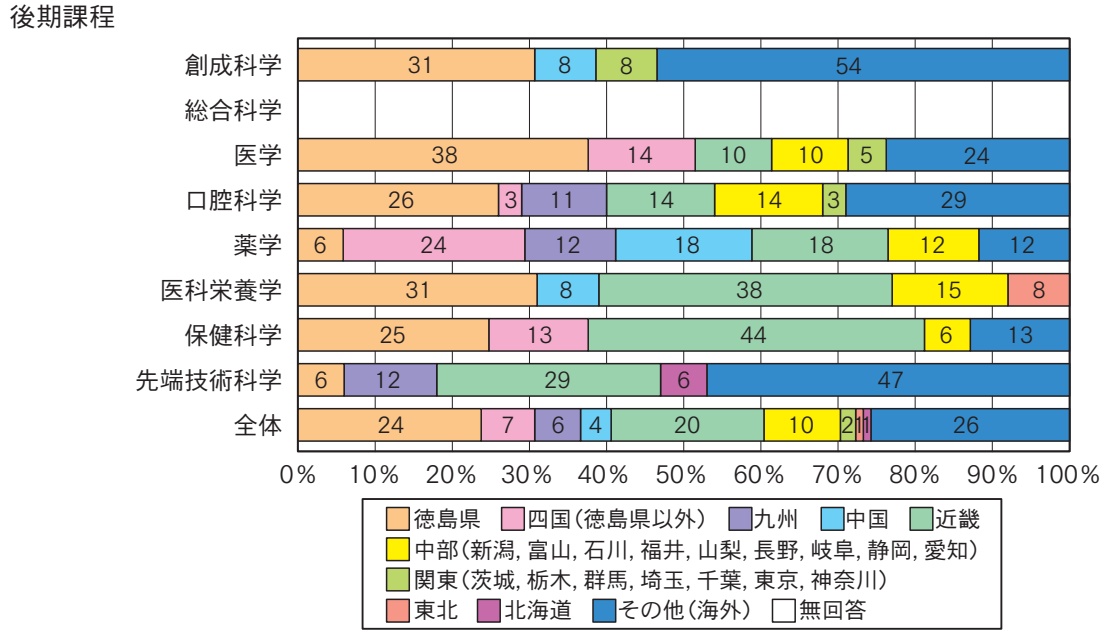

図１－１－２　出身地

１－２ 最終学歴（図１－２－１，図１－２－２）

次に最終学歴についてみる。前期課程では，全体で 85％が本学（徳島大学または徳島大学大学院修士・博士後期課程）出身者であった。研究科・教育部別では，医学が 20％と最も低かった反面，薬学の徳島大学出身が 100％であるのが目を引く。外国の大学または外国の大学院の出身者は併せて 6％であった。次に述べる後期課程に比べて低い割合である傾向が続いている。前期課程からより多くの外国の大学および外国の大学院の出身者を受け入れる方策が求められよう。

後期課程における本学（徳島大学または徳島大学大学院修士・博士後期課程）出身者は，第 4 回調査

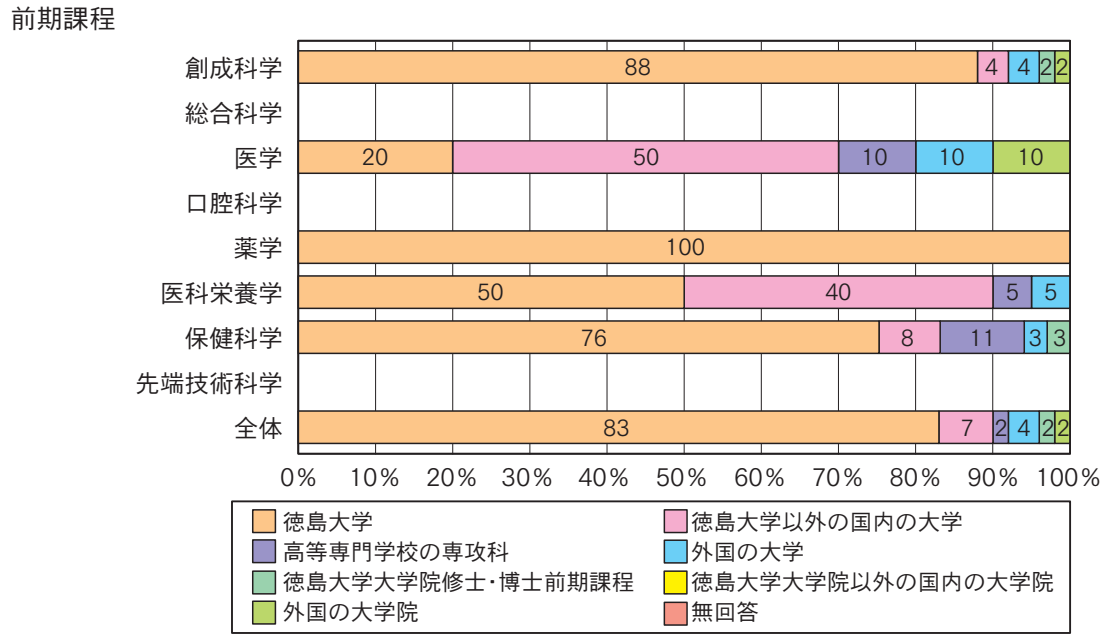

図１－２－１　最終学歴

以来，63%，50%，51%，56%，54%と推移し，今回は52%であった。なお，外国の大学および外国の大学院の出身者は併せて24%で，第8回調査の25%とほぼ同じであった。

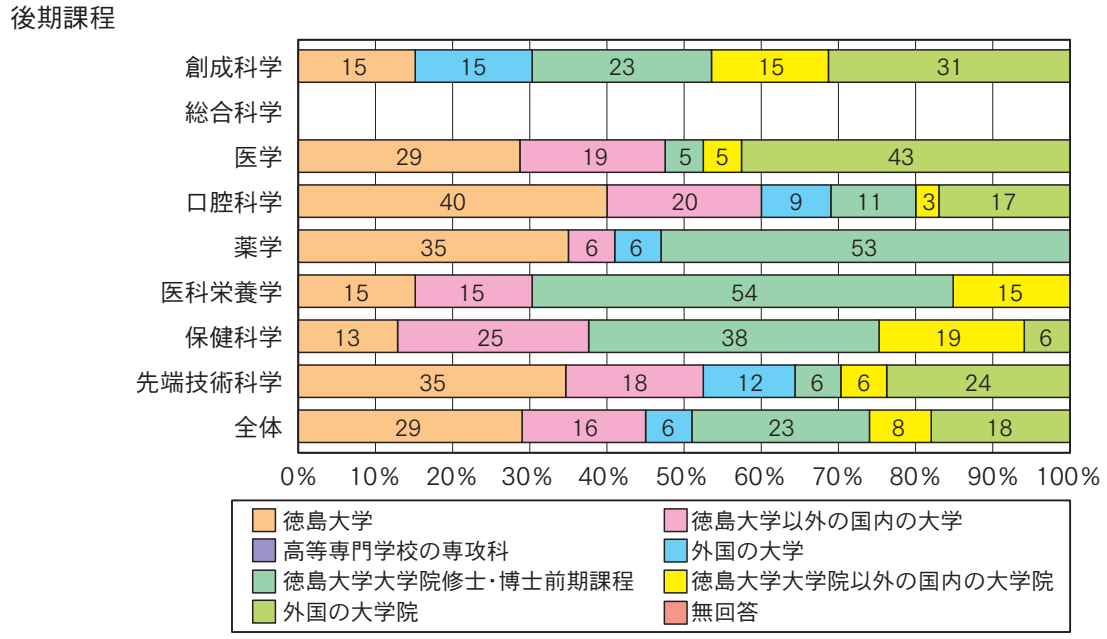

図1－2－2　最終学歴

1－3　社会人大学院生と留学生（図1－3－1，図1－3－2）

社会人からみる。前期課程においては，全体で8%であったのは第8回調査の10%より若干減少している。また，研究科・教育部ごとの違いが大きいのは第8回調査と同様であった。中で，医学の40%と保健科学の24%が目立っている。第7回調査では25%に減じた医学は第8回調査では50%に増加したが，今回も40%と高率を保った。割合の低いところでは，医科栄養学の0（回収率は34%）と創成科学・薬学（共に4%）が目立っている。後期課程においては，全体で43%であり，例年通り前期課程に比べてかなりの高率を示しており第8回調査の35%よりは増加している。中で，保健科学の81%と医学の57%の高率は目に付くところである。

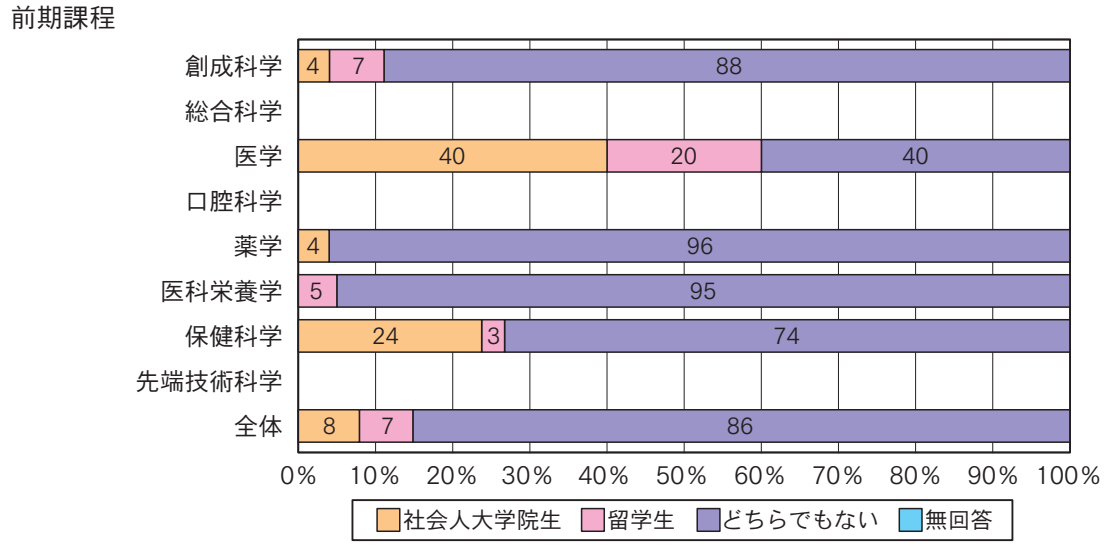

図1－3－1　社会人学生，留学生

留学生の割合は，前期課程で7%，後期課程で26%である。第8回調査からは，前期課程は変わらず，後期課程は31%から減少している。

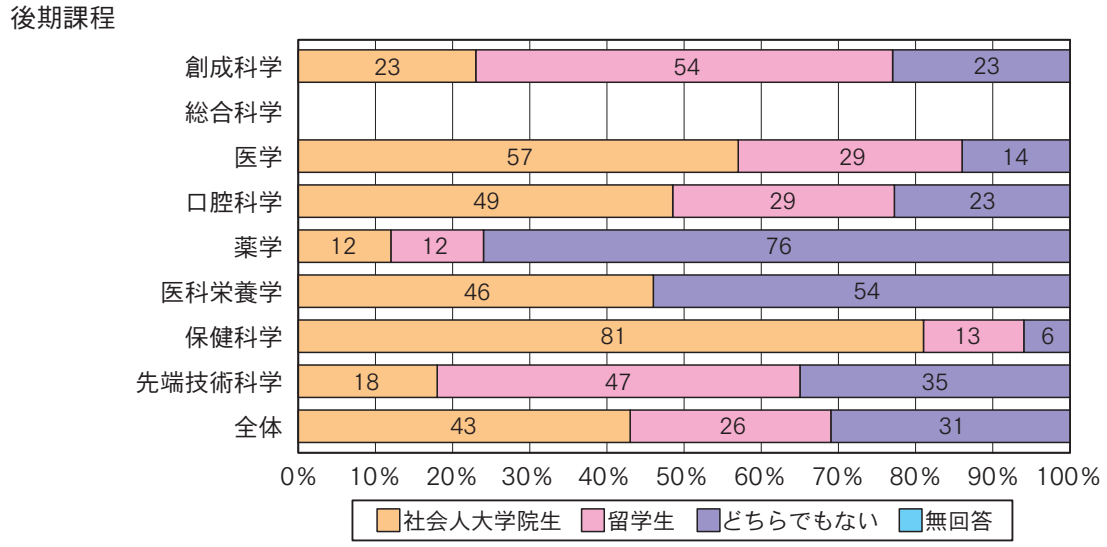

図１－３－２　社会人学生，留学生

第２章　家族・住居・通学について

２－１　家庭の年間所得（図２－１－１～図２－１－４）

大学院生の年間所得について，全体として令和２年度の第８回調査と比べると，前期課程において，250 ～ 500 万円未満と 500 ～ 750 万円未満の割合が減少して，250 万円未満，250 ～ 500 万円未満，500 ～ 750 万円未満，750 ～ 1,000 万円未満が 15 ～ 18％の間でほぼ同じ割合となったが，後期課程において，割合に大きな変化はみられず，250 万円未満が 31％と最も高く，次に 250 ～ 500 万円未満が 24％で，500 ～ 750 万円未満が 16％と続いた。前期課程と後期課程において，研究科・教育部では変化がみられた。

前期課程において，創成科学では，個々の割合は全体における割合とほぼ同様であった。医学では，250 ～ 500 万円未満が 30％と高く，次に 500 ～ 750 万円未満が 20％に減少し，250 万円未満，750 ～ 1,000

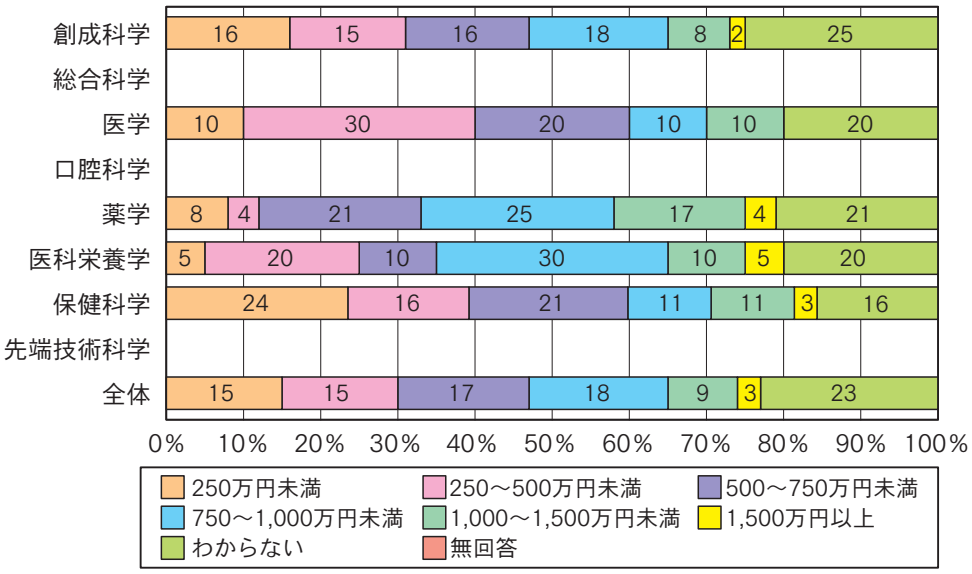

図２－１－１　家庭の年間所得

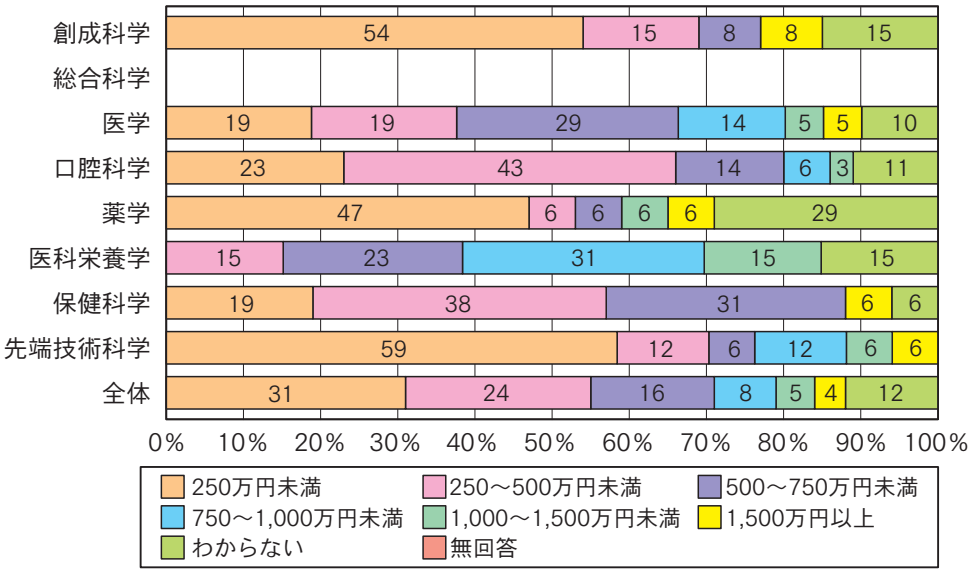

図２－１－２　家庭の年間所得

万円未満，1,000 ～ 1,500 万円未満がそれぞれ 10％で続いた。薬学では，750 ～ 1,000 万円未満が 25％と最も多く，次に 500 ～ 750 万円未満が 21％に増加し，1,000 ～ 1,500 万円未満が 17％と続き，250 万円未満が 8％に減少し，250 ～ 500 万円未満が 4％に著減し，1,500 万円以上と同じ割合となった。医科栄養学では，750 ～ 1,000 万円未満が 30％と最も高く，次いで 250 ～ 500 万円未満が 20％に増加し，500 ～ 750 万円未満が 10％に減少し 1,000 ～ 1,500 万円未満と同じ割合となり，250 万円未満と 1,500 万円以上が 5％で同じ割合となった。保健科学では，250 万円未満が 24％に増加し最も高く，次に 500 ～ 750 万円未満が 21％に半減し，250 ～ 500 万円未満が 16％に減少して続き，1,000 ～ 1,500 万円未満が 11％に増加して，750 ～ 1,000 万円未満と同じ割合となった。

後期課程において，創成科学では，250 万円未満が 54％と最も高く，次いで 250 ～ 500 万円未満が 15％と続き，500 ～ 750 万円未満と 1,500 万円以上が 8％で同じ割合であった。医学では，500 ～ 750 万円未満が 29％と最も高く，次いで 250 万円未満が 19％に減少して，250 ～ 500 万円未満と同じ割合となり，750 ～ 1,000 万円未満が 14％と続き，1,000 ～ 1,500 万円未満と 1,500 万円以上が 5％であった。

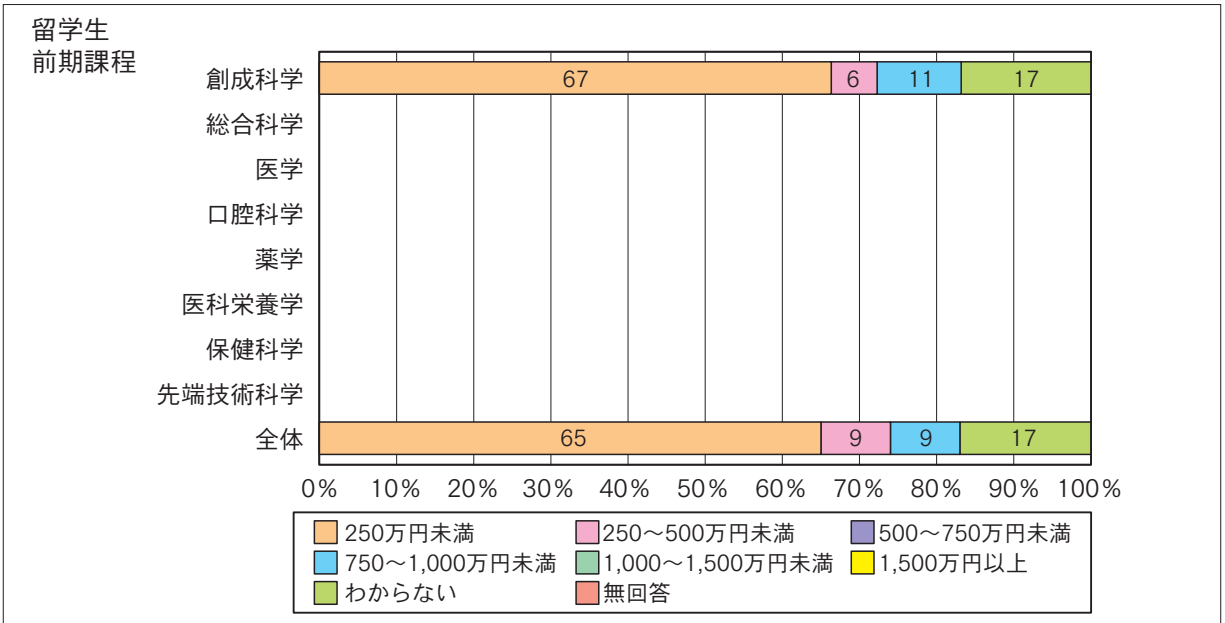

図２－１－３　家庭の年間所得

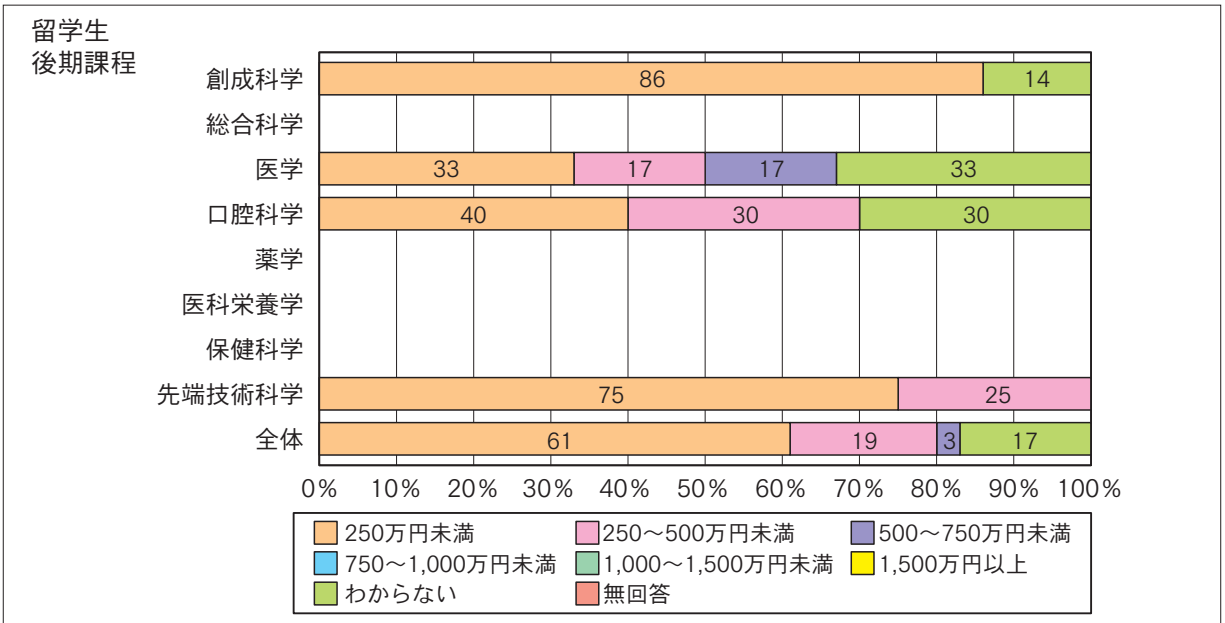

図２－１－４　家庭の年間所得

口腔科学では，250 ～ 500 万円未満が 43％に増加して最も高く，次いで 250 万円未満が 23％と前回の半分以下に減少し，500 ～ 750 万円未満が 14％で続いた。薬学では，250 万円未満が 47％とほぼ半分を占めるほどに著増し，250 ～ 500 万円未満，500 ～ 750 万円未満，1,000 ～ 1,500 万円未満，1,500 万円以上がそれぞれ 5％で続いた。医科栄養学では，750 ～ 1,000 万円未満が 31％に増加し最も高く，次いで 500 ～ 750 万円未満が 23％と変わらず，250 万円未満が 15％に減少して，1,000 ～ 1,500 万円未満と同じ割合となった。保健科学では，250 ～ 500 万円未満が 38％と前回の 3 倍以上に増加して最も高く，次いで 500 ～ 750 万円未満が 31％と続き，250 万円未満が前回ではみられなかったが 19％となり，1,500 万円以上が 6％であった。先端技術科学では，割合は前回とほぼ同じく，250 万円未満が 59％と最も高く，次いで，250 ～ 500 万円未満と 750 ～ 1,000 万円未満が 12％で続き，500 ～ 750 万円未満，1,000 ～ 1,500 万円未満，1,500 万円以上が，それぞれ 6％であった。

留学生の全体では，前期課程において，250 万円未満が 65％に増加して最も高く，次いで 250 ～ 500 万円未満と 750 ～ 1,000 万円未満が 9％で続いた。後期課程において，250 万円未満が 61％に減少したが最も高く，250 ～ 500 万円未満が 19％で続いた。留学生の全体の年収は，大学院生の全体と比べて 250 万円未満の割合が高いようである。

2 － 2　住居区分（図 2 － 2 － 1 ～図 2 － 2 － 4）

大学院生の住居区分について，全体として前期課程及び後期課程ともに令和 2 年度の第 8 回調査とよく似た傾向がみられた。大学院生のうち，前期課程では 27％，後期課程では 24％が自宅から通学しており，前期課程では 66％，後期課程では 60％がアパート・マンション（家族と別居）で居住していた。前期課程において，自宅から通学は，薬学が 13％，医科栄養学が 20％と低く，創成科学が 27％，医学が 30％，保健科学が 37％で続き，研究科・教育部によってばらつきがみられた。後期課程においても，薬学が 6％，先端技術科学が 12％，医科栄養学が 15％と低く，創成科学と口腔科学が 23％で続き，医学が 38％で，保健科学が 44％で自宅からの通学は最も高かった。アパート・マンション（家族と別居）は，前期課程において，薬学が 88％，医科栄養学が 70％，創成科学が 66％と高く，後期課程において，薬学が 94％，医科栄養学が 77％と高かった。国際交流会館での居住は，前期課程においては，医学で 20％，医科栄養学で 10％，創成科学で 5％にみられ，後期課程において，創成科学で 31％，口腔科学で 14％，先端技術科学で 12％にみられた。

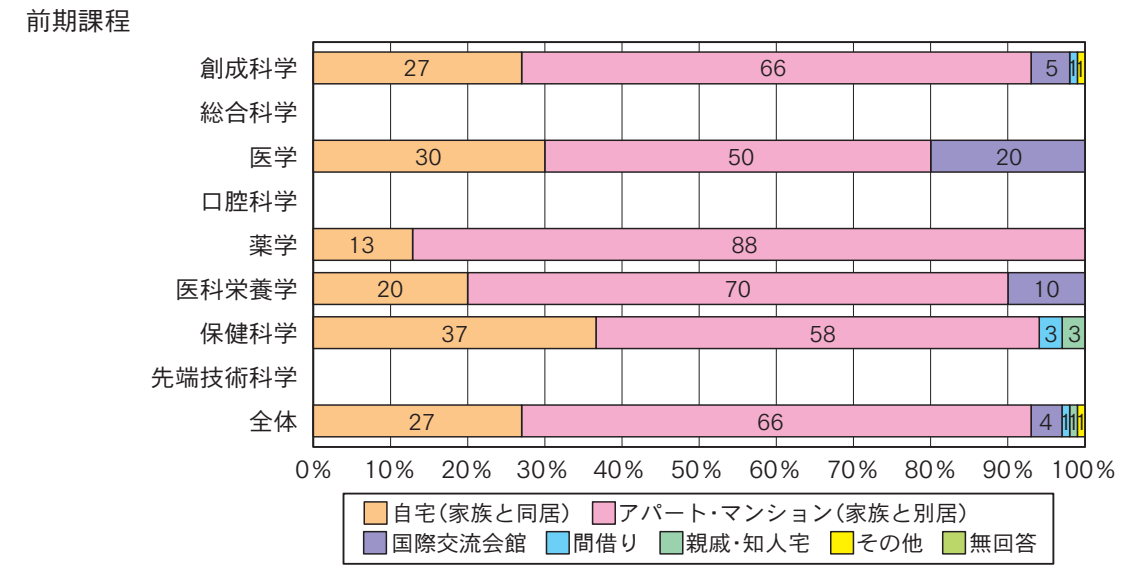

図 2 － 2 － 1　住居区分

後期課程

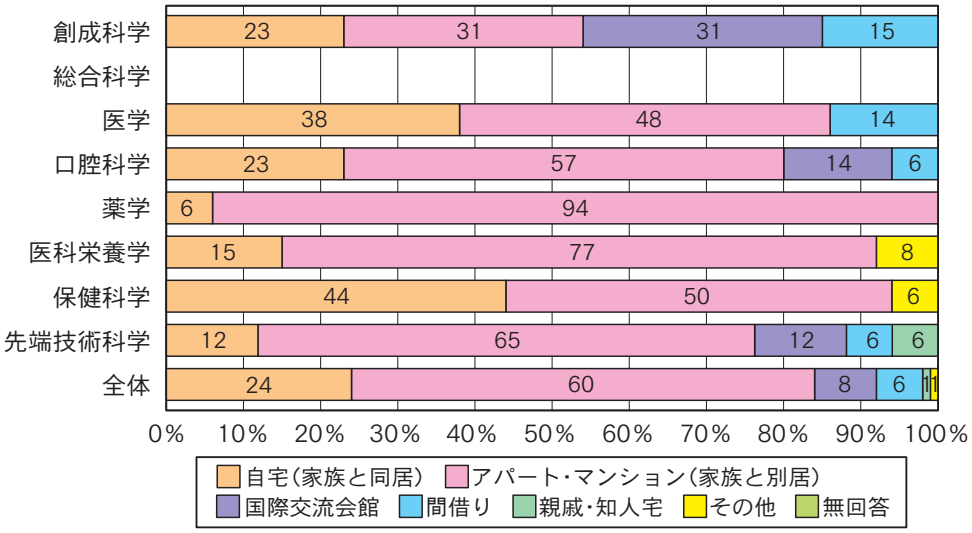

図２－２－２　住居区分

留学生
前期課程

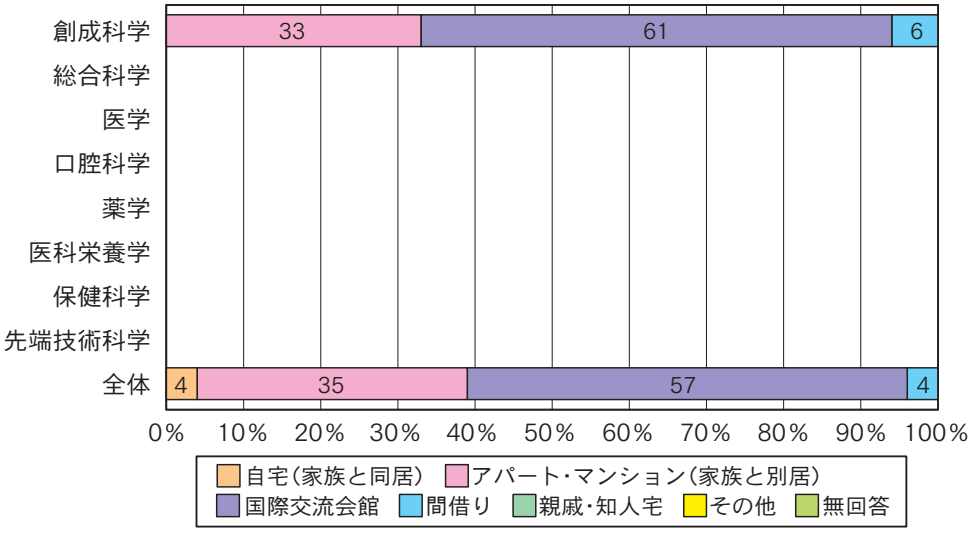

図２－２－３　住居区分

留学生
後期課程

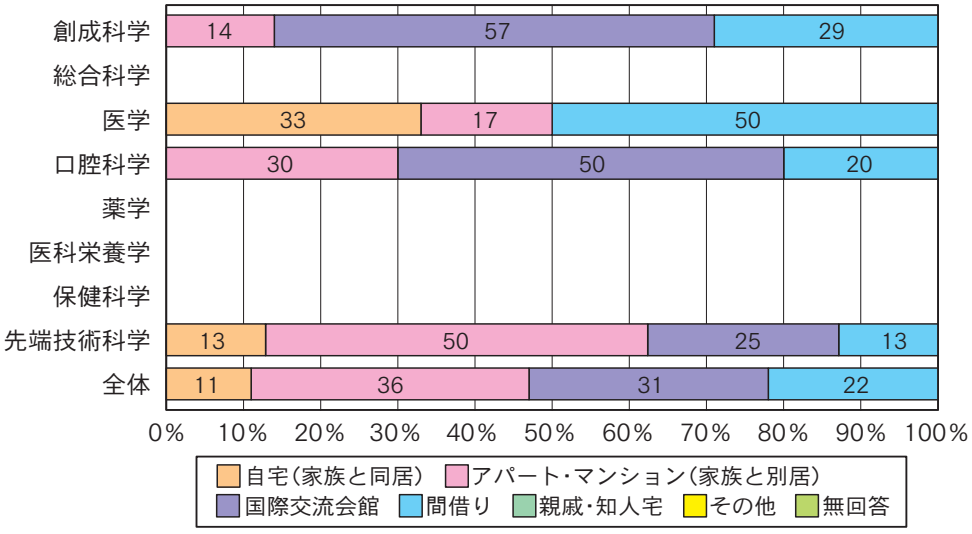

図２－２－４　住居区分

留学生の全体では，前期課程において，国際交流会館が57％と最も高く，次いでアパート・マンション（家族と別居）が35％，自宅（家族と同居）と間借りがそれぞれ4％であり，後期課程においても同様な傾向がみられ，アパート・マンション（家族と別居）が36％で最も高く，次いで国際交流会館が31％，間借りが22％，自宅（家族と同居）が11％であった。留学生の全体では，国際交流会館を住居としている割合は，大学院生の全体と比べて高いようである。

２－３　住居費（図２－３－１～図２－３－４）

大学院生の住居費について，全体として令和２年度の第８回調査と同様に，前期課程では23％，後期課程では21％と無回答が多かったが，前期課程では，前回と同様な傾向がみられ，後期課程におい

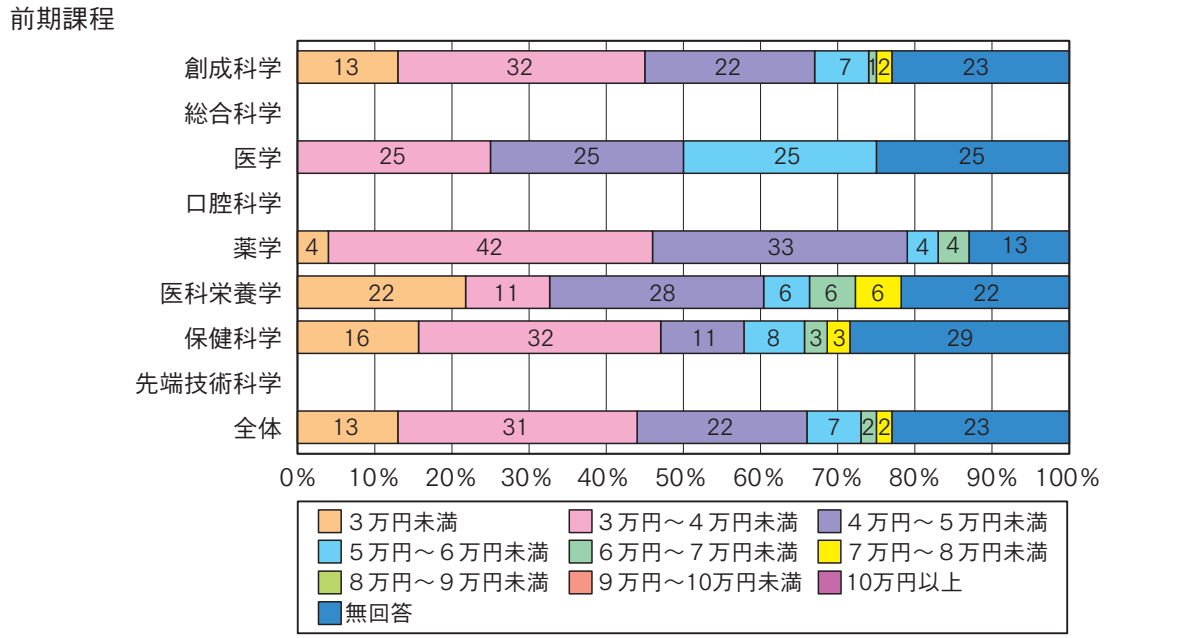

図２－３－１　住居費

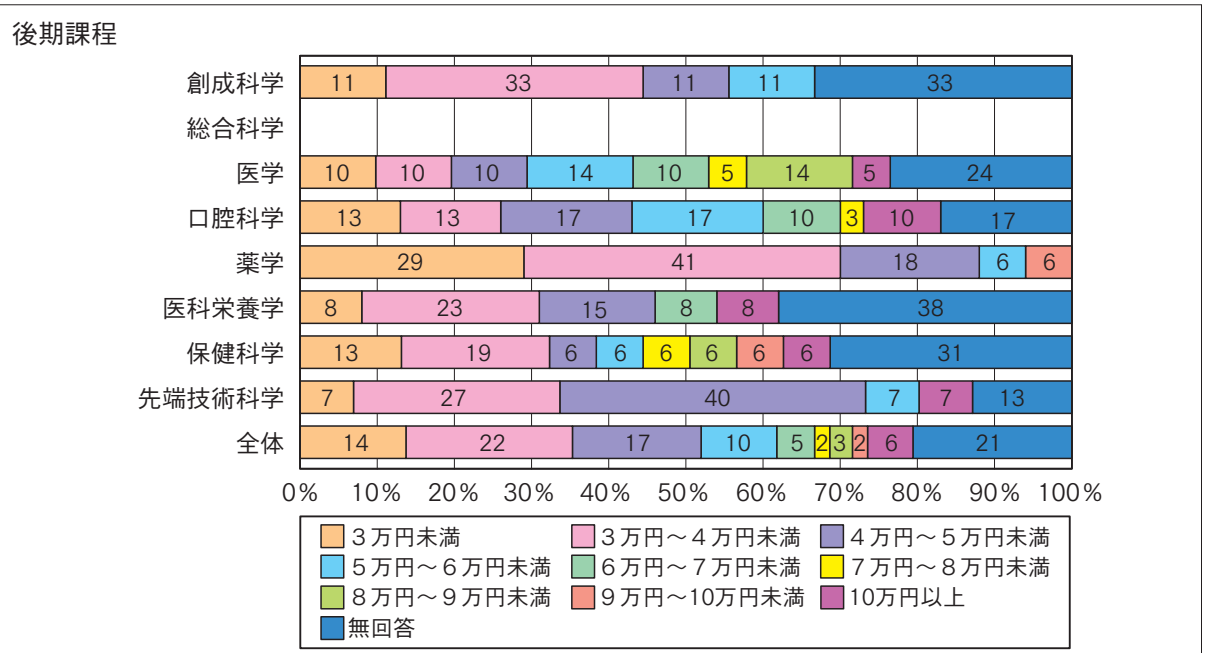

図２－３－２　住居費

ても，３万円未満の割合が半減したが，前回と似た傾向がみられた。

前期課程において，全体では，３万円～４万円未満が31％と最も高く，次いで４万円～５万円未満が22％，３万円未満が13％，５万円～６万円未満が７％であった。医学では，３万円未満はみられず，３万円～４万円未満，４万円～５万円未満，５万円～６万円未満がそれぞれ25％であった。創成科学と保健科学では，割合は全体とよく似ていた。薬学では，３万円～４万円未満が42％と最も高く，４万円～５万円未満が33％と続くが，３万円未満が４％に前回から著減した。医科栄養学では，４万円～５万円未満が28％と最も高く，次いで３万円未満が22％で続き，３万円～４万円未満が11％に減少した。

後期課程において，全体では，３万円～４万円未満が22％と最も高く，次いで４万円～５万円未満が17％，３万円未満が14％で続き，５万円～６万円未満が10％で続いた。創成科学では，３万円～４万円未満が33％と最も高く，３万円未満，４万円～５万円未満，５万円～６万円未満がそれぞれ11％で続いた。

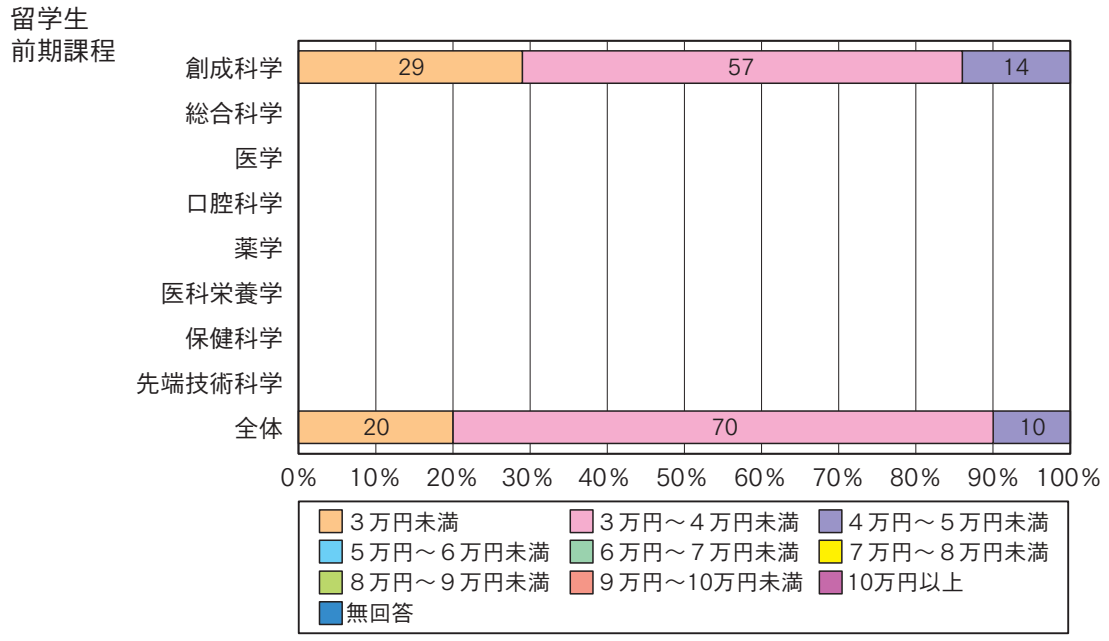

図２－３－３　住居費

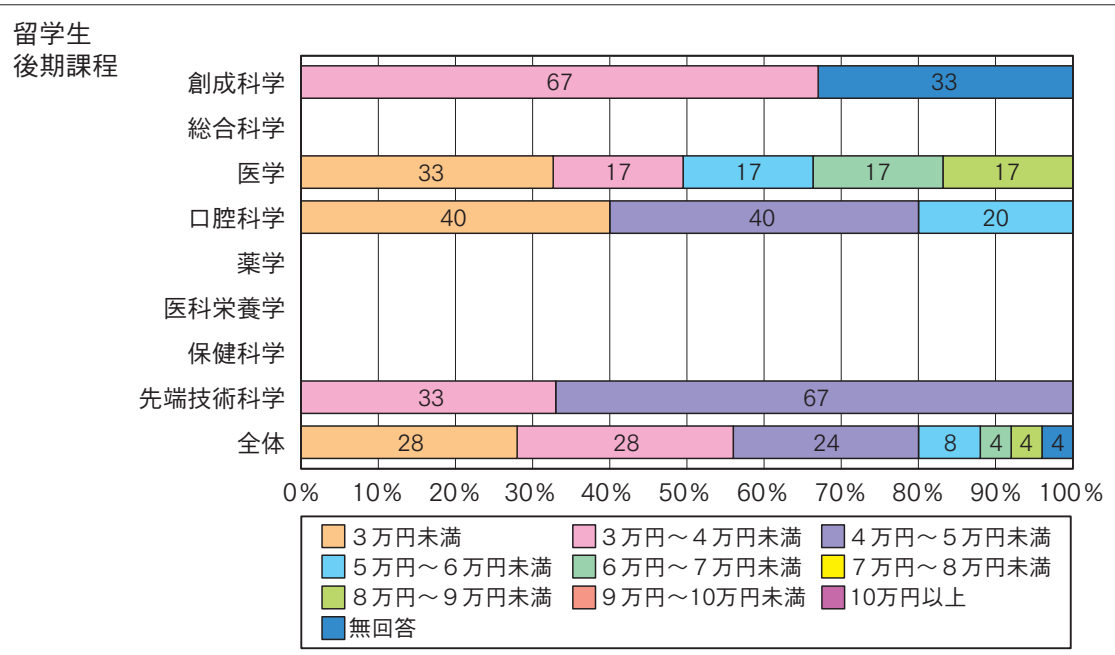

図２－３－４　住居費

医学では，5万円～6万円未満と8万円～9万円未満がそれぞれ14％と最も高く，次いで3万円未満，3万円～4万円未満，4万円～5万円未満，6万円～7万円未満がそれぞれ10％，7万円～8万円未満と10万円以上が5％で続いた。薬学では，3万円～4万円未満が41％に著増して最も高く，次いで3万円未満が29％で続き，4万円～5万円未満が18％であった。医科栄養学，保健科学，先端技術科学では，全体の割合とよく似た割合を示したが，医科栄養学では，3万円未満の割合が8％に減少し，保健科学では，4万円～5万円未満が6％に減少して，5万円～6万円未満，7万円～8万円未満，9万円～10万円未満，10万円以上と同じ割合であった。先端技術科学では，4万円～5万円未満が40％に増加して最も高く，次いで3万円～4万円未満が27％で続き，3万円未満が7％に著減して，5万円～6万円未満，10万円以上と同じ割合となった。

留学生の全体では，前期課程において，3万円未満が20％と前回の3分の1に著減し，3万円～4万円未満が70％に著増して，後期課程において，3万円未満が28％と前回の半分に著減し，3万円～4万円未満と同じ割合となり，次いで4万円～5万円未満が24％に増加し，5万円～6万円未満が8％と続いた。留学生の全体では，3万円未満の割合が，大学院生の全体と比べて高いようである。

2－4　配偶者や子供の有無（図2－4－1～図2－4－7）

大学院生の配偶者や子供について，全体として，前回とほぼ同じ傾向にあり，前期課程において，配偶者と子供がない割合が96％，配偶者があり子供なしの割合が2％，配偶者と子供がある割合が1％であり，後期課程において，配偶者と子供がない割合が68％，配偶者があり子供なしの割合が7％，配偶者と子供がある割合が25％であった。後期課程では，前期課程と比べて，配偶者と子供がある割合と，配偶者があり子供なしの割合は，ともに高かった。

留学生の全体についても，前回とほぼ同様な割合がみられ，前期課程において，配偶者と子供がない割合が87％，配偶者があり子供なしの割合が13％であり，後期課程において，配偶者と子供がない割合が64％，次いで配偶者と子供がある割合が31％と続き，配偶者がなく子供ありの割合と，配偶者があり子供なしの割合が，それぞれ3％であった。

子供がいる大学院生について，授業や研究をしているときに誰が子供の世話をしているのかは，全体として，前回とよく似た傾向であった。前期課程において，配偶者が38％と最も高く，次いで，保育施設にあずけると，小学校等の学校に通っているが25％で続き，後期課程においても，配偶者が47％

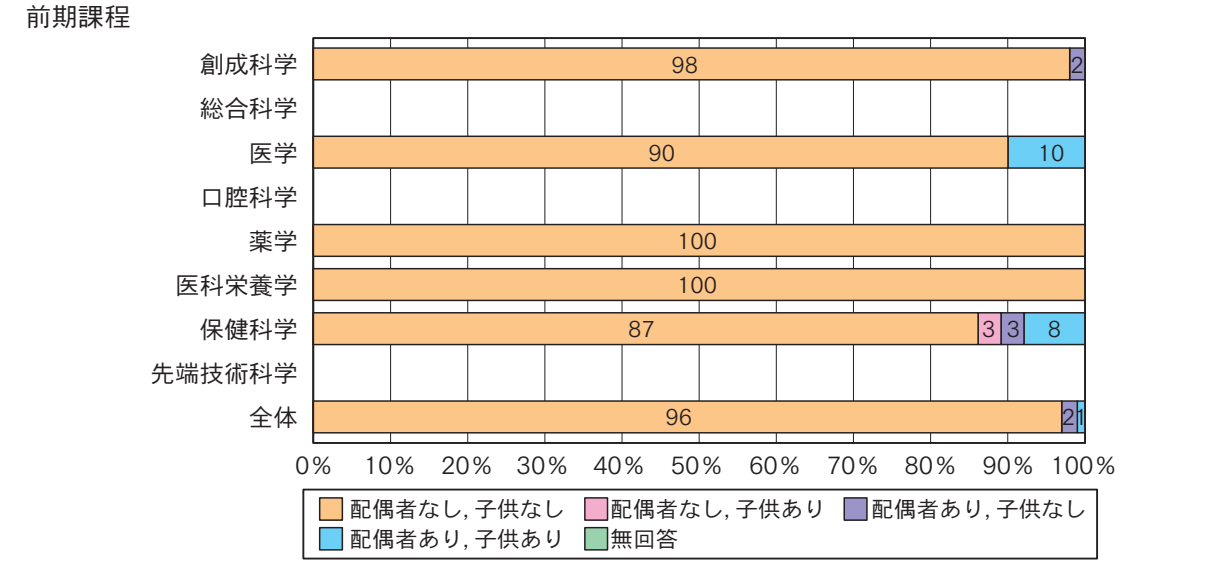

図2－4－1　配偶者や子供の有無

後期課程

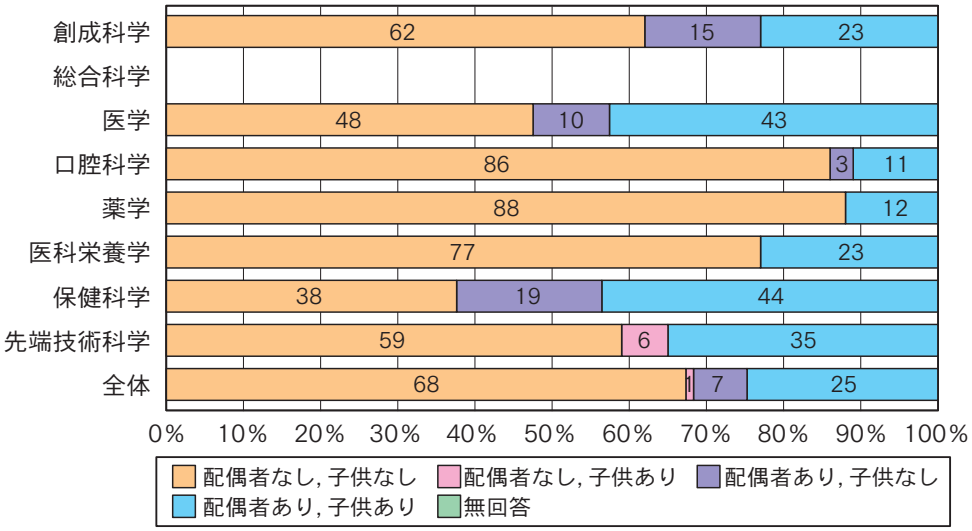

図２－４－２　配偶者や子供の有無

留学生
前期課程

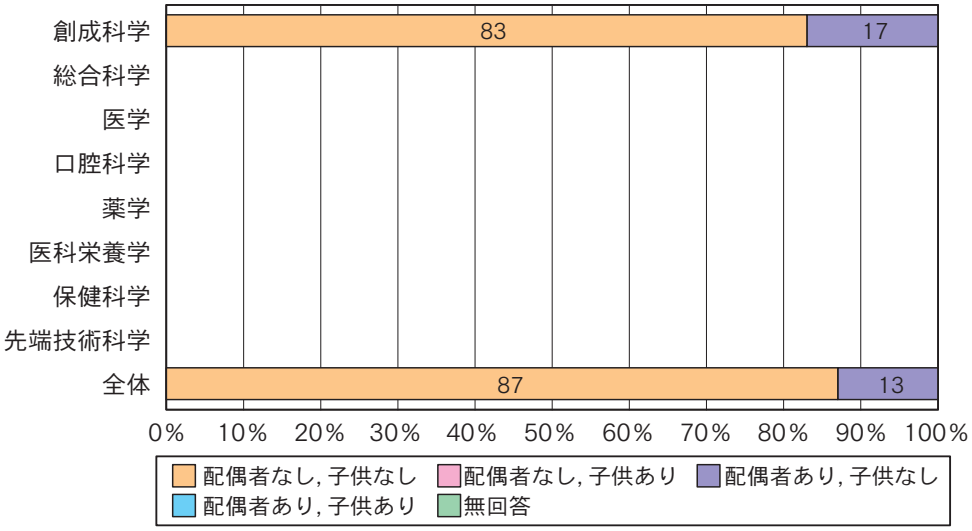

図２－４－３　配偶者や子供の有無

留学生
後期課程

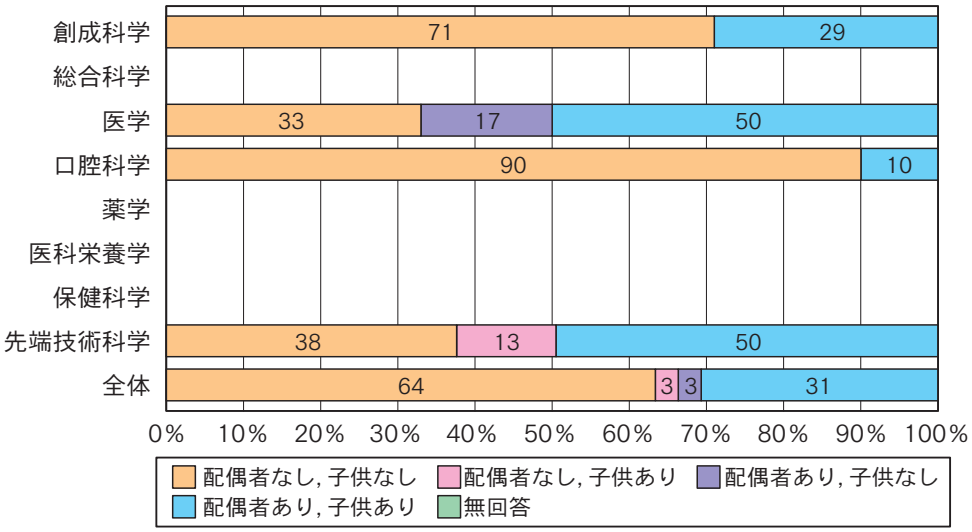

図２－４－４　配偶者や子供の有無

前期課程

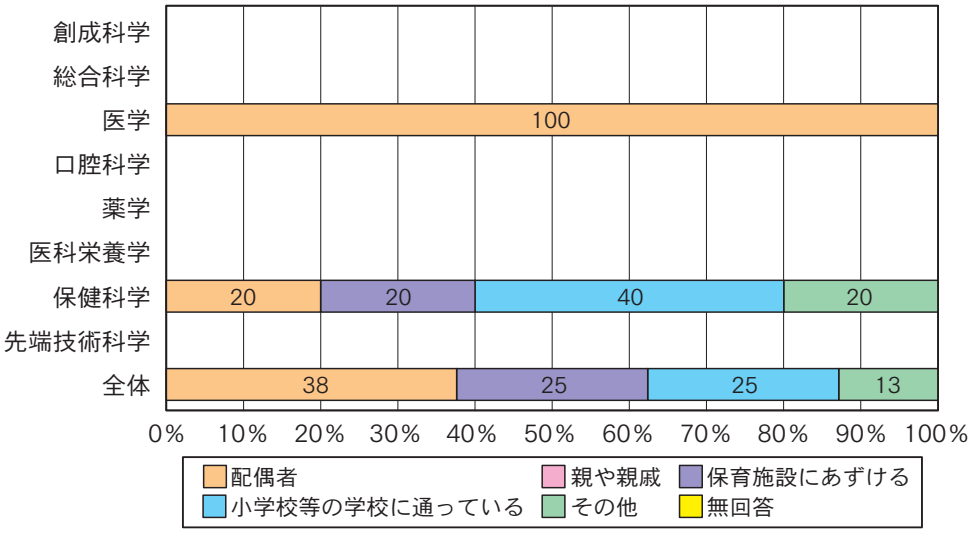

図２－４－５　子供の世話

後期課程

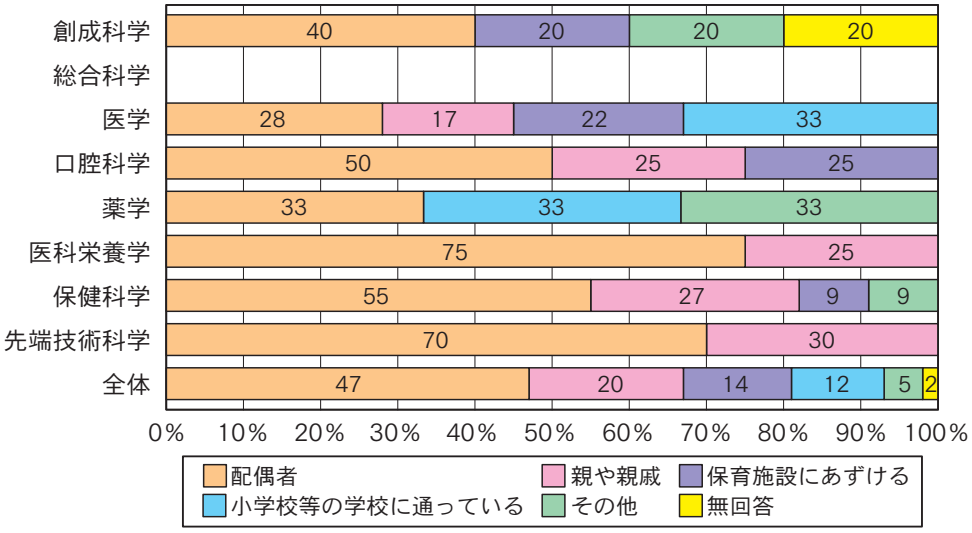

図２－４－６　子供の世話

留学生
後期課程

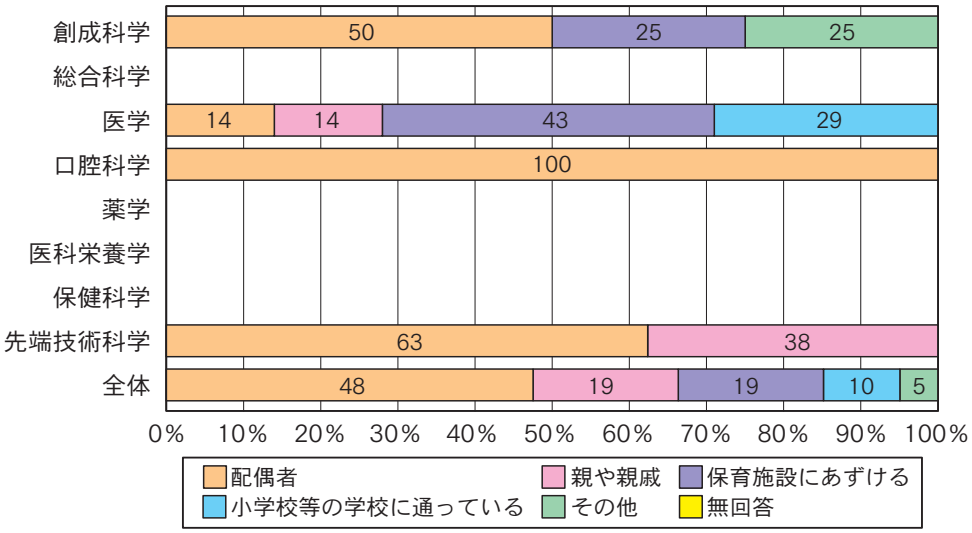

図２－４－７　子供の世話

で最も高く，次いで親や親戚が20％と続き，保育施設にあずけるが14％，小学校等の学校に通っているが12％であった。

子供がいる後期課程の留学生について，授業や研究をしているときに誰が子供の世話をしているのかは，全体として，後期課程の大学院生とよく似た傾向であり，配偶者が48％で最も高く，次いで親や親戚と，保育施設にあずけるが，それぞれ19％で続き，小学校等の学校に通っているが10％であった。

２－５　通学方法（図２－５－１～図２－５－４）

大学院生の通学方法について，全体として令和２年度の第８回調査の結果とほぼ同じであり，前期課程及び後期課程ともに，自転車（65％，43％）の割合が最も高く，次いで自動車（16％，26％），徒歩（10％，16％），バス・ＪＲ（5％，12％）バイク（原付自動車・自動二輪）（5％，2％）の順であった。

前期課程において，創成科学，医科栄養学，保健科学では，全体の割合と同様の傾向がみられたが，医学では，自動車が40％に増加し最も高く，次いで自転車が30％と続き，徒歩が20％，バス・ＪＲが10％であった。薬学では，自転車が92％で最も高く，次に自動車が8％であった。後期課程において，

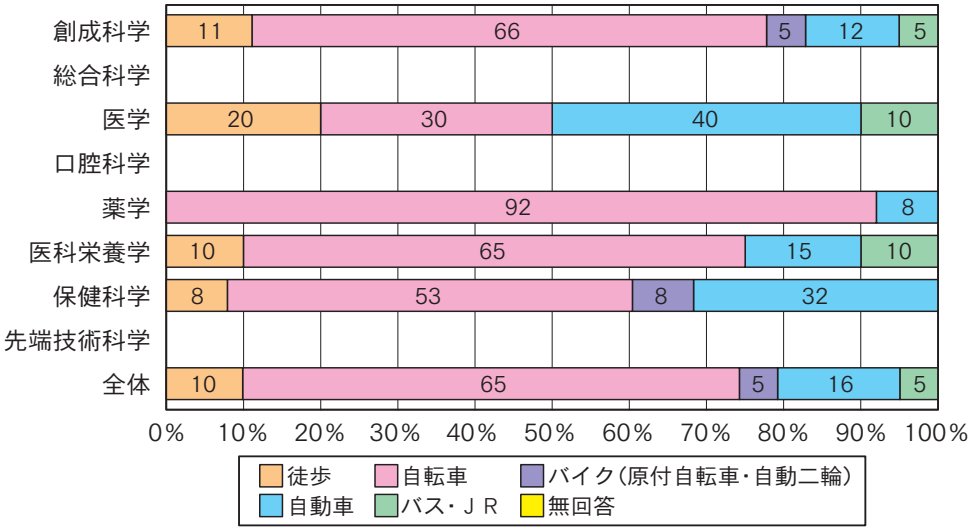

図２－５－１　通学方法

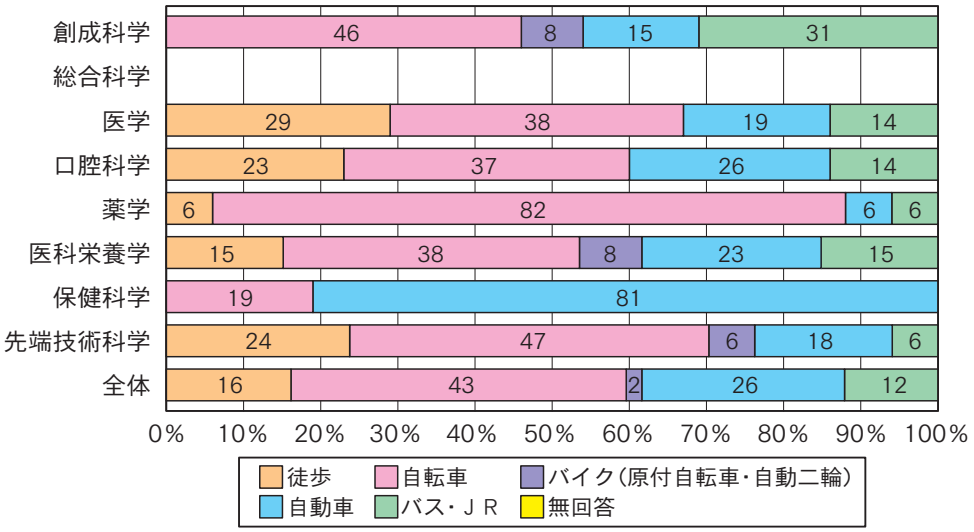

図２－５－２　通学方法

医学，口腔科学，医科栄養学，先端技術科学では，全体と同じ傾向がみられたが、創成科学では，徒歩の割合がみられず，自転車が46％と最も高く，次いでバス・ＪＲが31％であった。薬学では，自転車が82％と最も高く，次いで徒歩，自動車，バス・ＪＲがそれぞれ6％であった。保健科学では，自動車が81％と最も高く，次に自動車が19％であった。

留学生の全体についても，前回と同様な傾向がみられ，前期課程及び後期課程ともに，自転車の割合（91％，69％）が最も高く，次いで徒歩（4％，17％），バス・ＪＲ（4％，6％）であった。

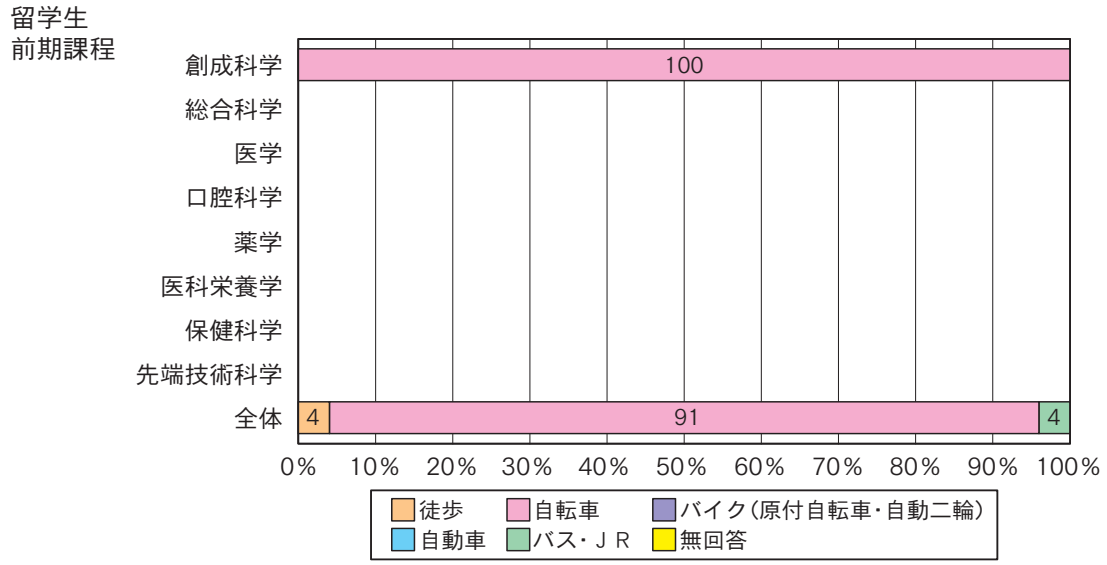

図２－５－３　通学方法

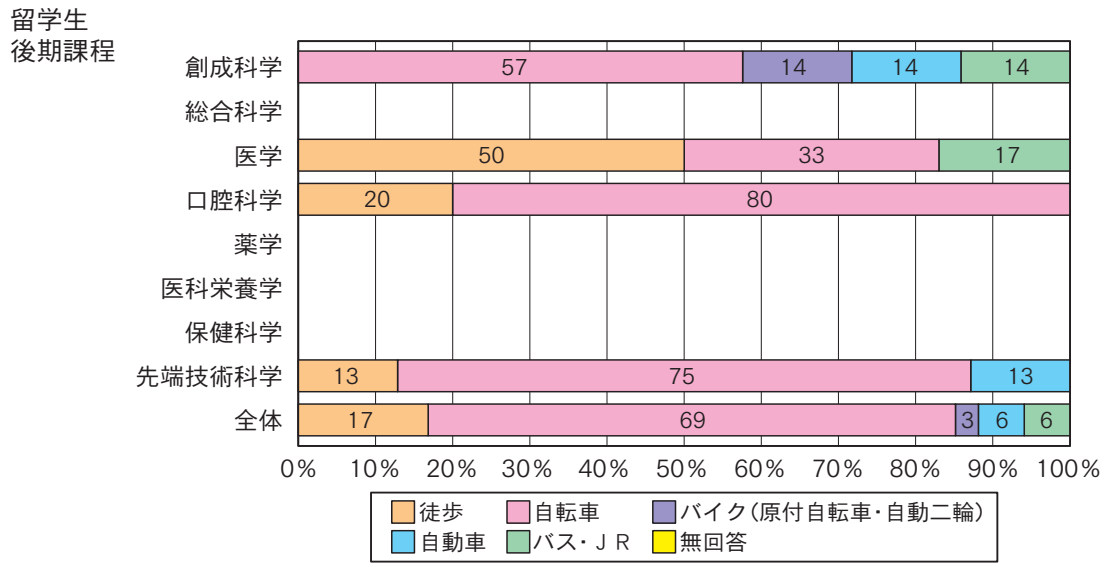

図２－５－４　通学方法

２－６　通学時間（図２－６－１～図２－６－４）

大学院生の通学時間について，全体として令和２年度の第８回調査の結果とほぼ同じであり，前期課程において，15分未満が66％と最も高く，次いで15～30分未満が17％，30分～１時間未満が12％，１時間～２時間未満が4％であり，後期課程においても，15分未満が51％と最も高く，次いで15～30分未満が25％，２時間以上が10％，30分～１時間未満が9％，１時間～２時間未満が6％であった。

前期課程において，創成科学，薬学，医科栄養学，保健科学では，全体と同様な傾向がみられたが，

医学では，15 分～ 30 分未満が 40％と最も高く，次いで 15 分未満と 30 分～ 1 時間未満が，それぞれ 30％であった。

後期課程において，医学，口腔科学，医科栄養学，先端技術科学では，全体と同様な傾向がみられたが，創成科学では，15 分～ 30 分未満が 31％で最も高く，次いで 30 分～ 1 時間未満が 23％で続き，15 分未満が 15％で，1 時間～ 2 時間未満，2 時間以上と同じ割合であり，薬学では，15 分未満が 82％で最も高く，次いで 15 分～ 30 分未満が 12％で続き，2 時間以上が 6％であった。

留学生の全体について，前期課程において，15 分未満の割合が 48％に減少して最も高く，次いで 15 分～ 30 分未満と 30 分～ 1 時間未満が，それぞれ 26％で続いた。後期課程においても，前回と同様な傾向であり，15 分未満が 64％で最も高く，次いで 15 分～ 30 分未満が 17％で続き，30 分～ 1 時間未満が 14％であった。

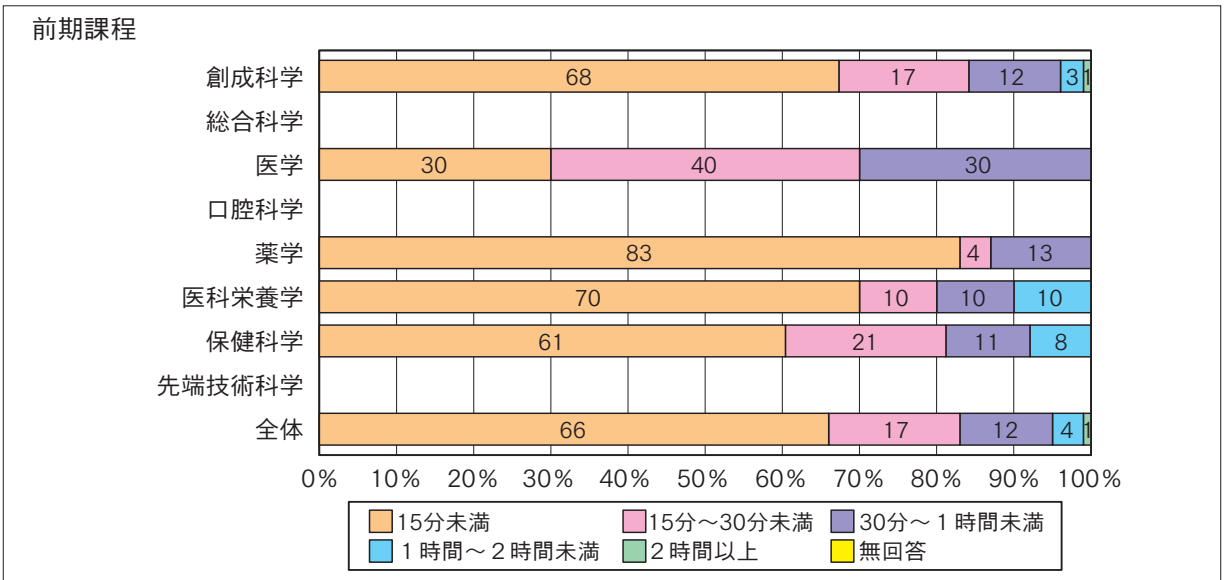

図２－６－１　通学時間

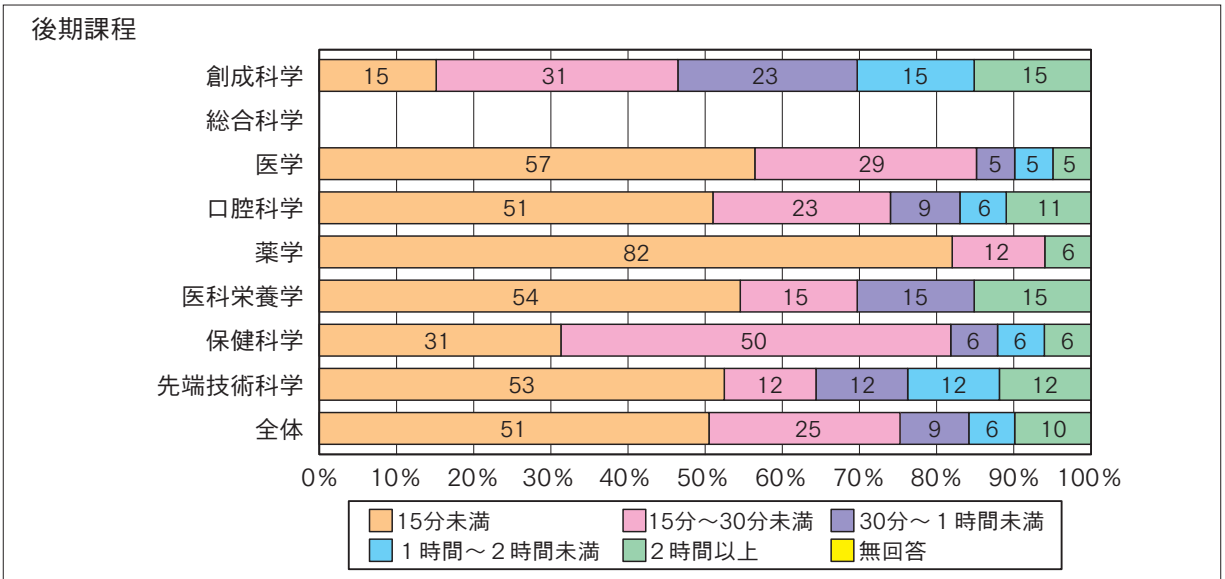

図２－６－２　通学時間

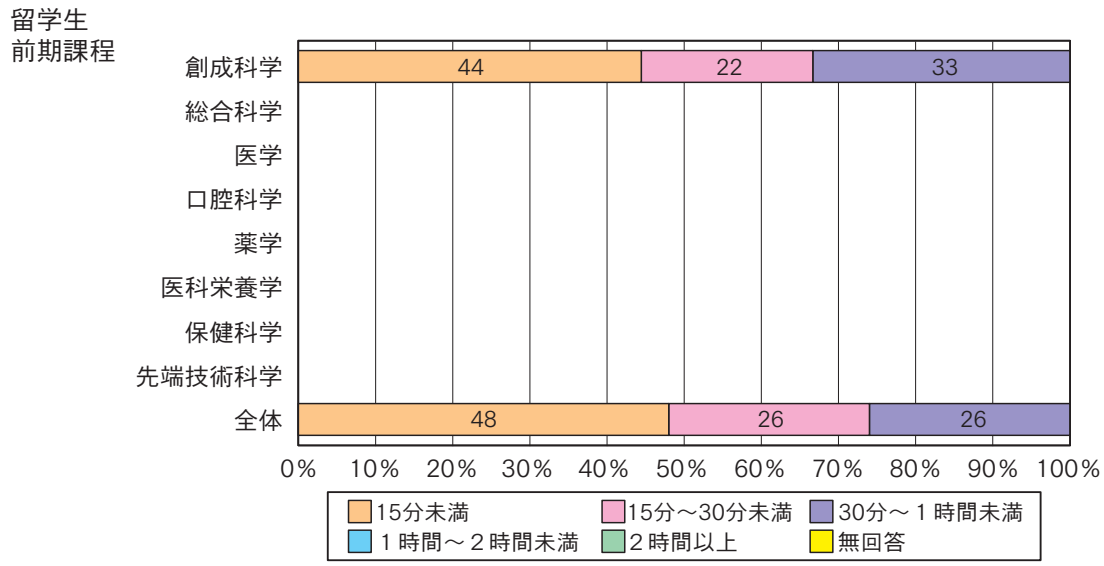

図２－６－３　通学時間

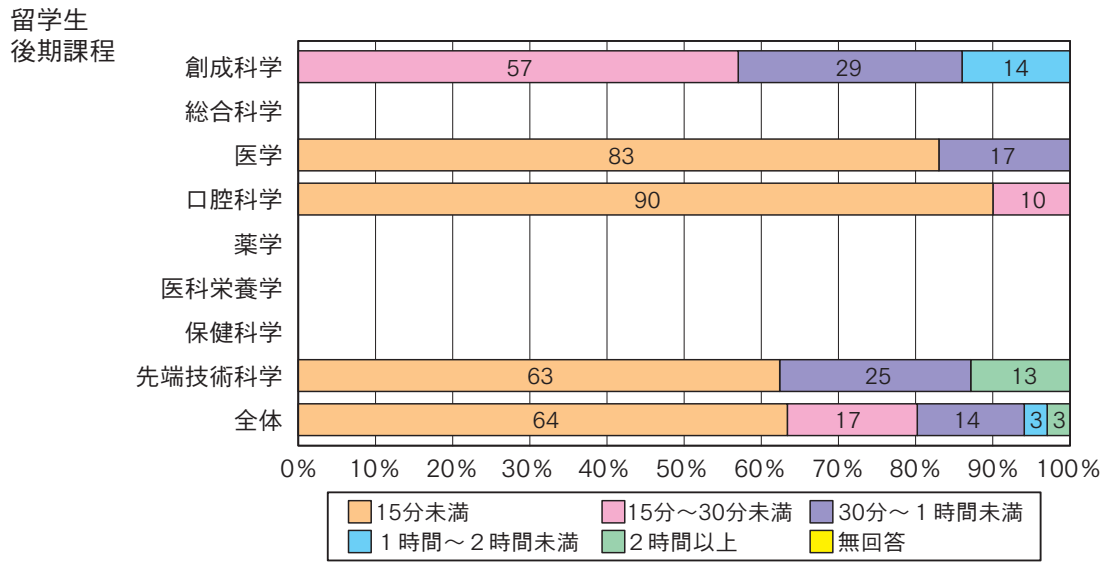

図２－６－４　通学時間

第３章　収入・支出について

３－１　１か月の平均収入額（図３－１－１～図３－１－４）

前期課程では，全体の中央値は３～５万円にある。第１回から第８回までの調査では，３万円未満が５回，３～５万円が３回であり，直近２回が３～５万円であることを考えると，漸増傾向とも考えられる。また，収入額の分布に大きな変化は認められない。研究科別にみると，中央値が最も低い３万円未満であるのは薬学，医科栄養学の２研究科で，創生科学がそれに次ぐ。薬学については，第１回から第３回までの調査ではより高い収入額であったが，第４回以降は３万円未満が続いており，収入が減少傾向に

前期課程

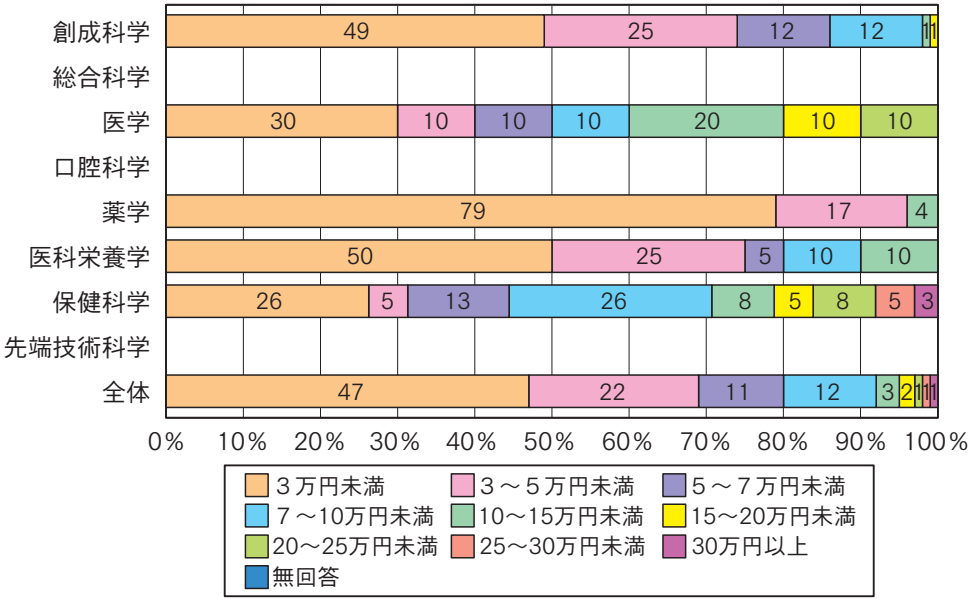

図３－１－１　１か月の平均収入額

後期課程

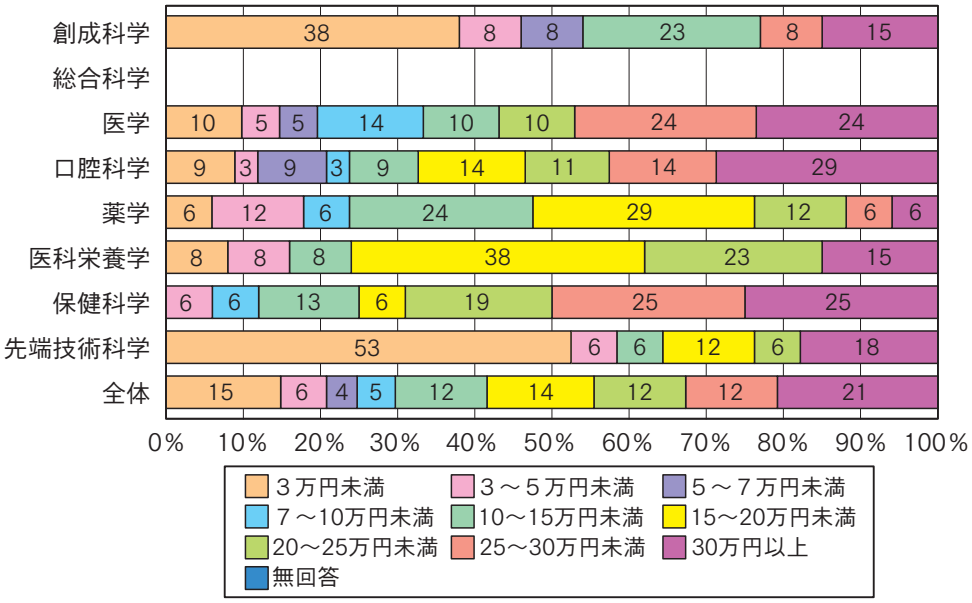

図３－１－２　１か月の平均収入額

あるとも考えられる。医科栄養学と創生科学については，第８回まで３万円未満か３～５万円のいずれかで，長期的な傾向は認められない。一方，中央値が最も高い７～10万円である医学，保健科学においては，金額範囲は増減するものの，研究科・教育部の比較において最も高い傾向が続いている。

後期課程では，全体の中央値は15～20万円にある。第２回から第８回までの調査では10～15万円であり，漸増傾向とも考えられる。研究科別では，中央値が相対的に高いのは保健科学，医学，口腔科学であり，以前からの傾向が続いている。

留学生前期課程全体の中央値は３万円未満であり，第８回調査の３～５万円より低下したが，留学生のみのデータ収集は２回目であり，傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

留学生後期課程全体の中央値は３～５万円であり，こちらも第８回調査の５～７万円より低下したが，留学生のみのデータ収集は２回目であり，傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

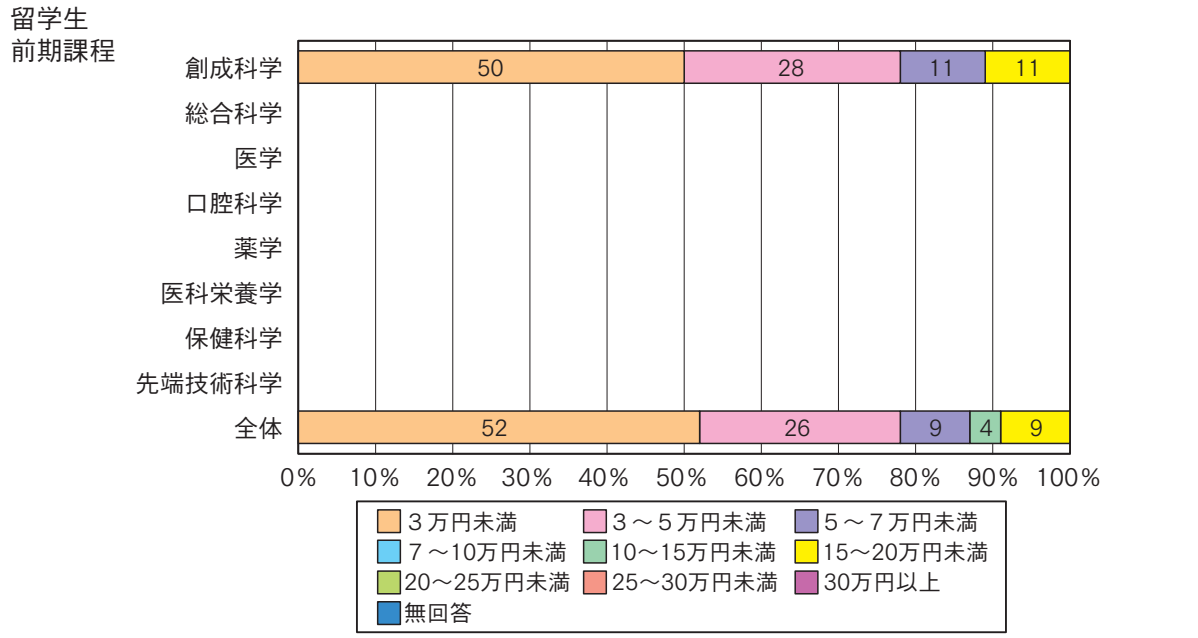

図３－１－３　１か月の平均収入額

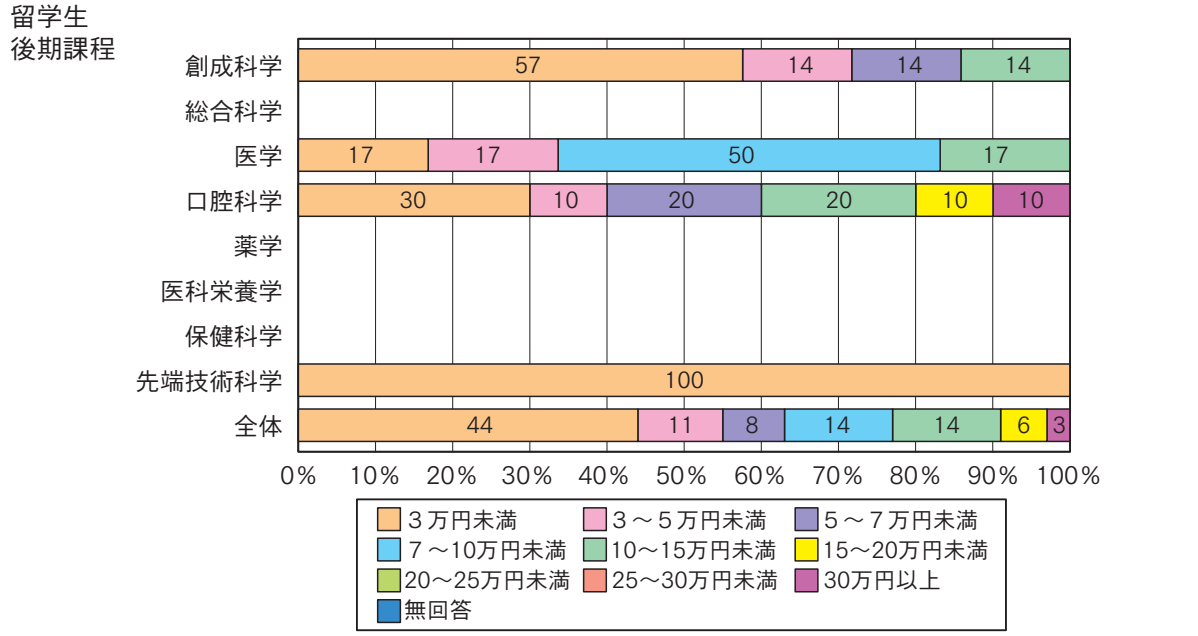

図３－１－４　１か月の平均収入額

３－２　親等からの援助額（図３－２－１～図３－２－４）

前期課程では，全体の中央値は３万円未満であり，第８回までの３～５万円より減少している。研究科別では，医学では第８回まで中央値は概ね「全くない」であったが，今回は３～５万円に増加している。その一方，薬学では第８回まで中央値が概ね３～５万円であったのに対し，今回は３万円未満に減少しており，全体的な傾向は明確ではない。

後期課程では，全体でも各研究科でも中央値は「全くない」であり，第８回までと概ね同傾向であった。

前期課程

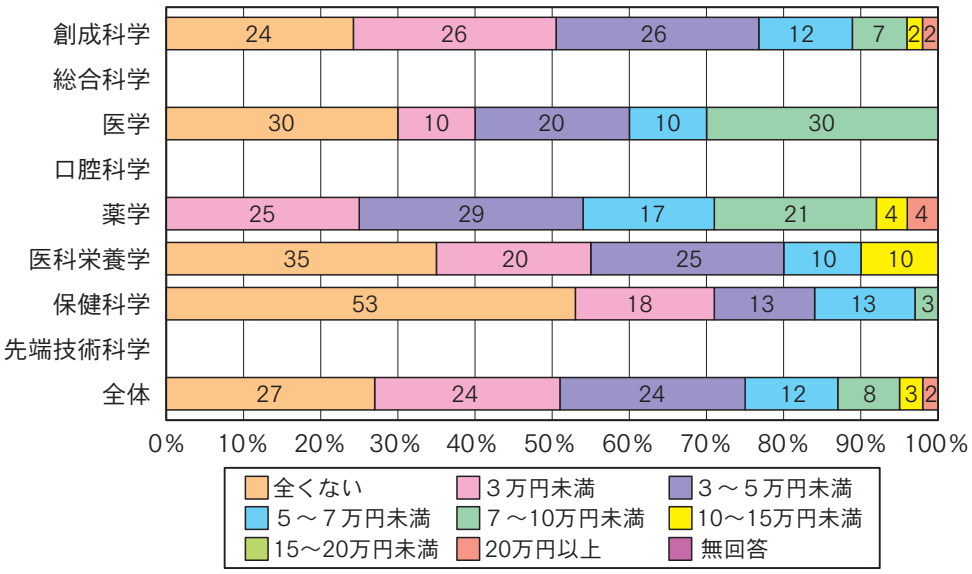

図３－２－１　親等からの援助額

後期課程

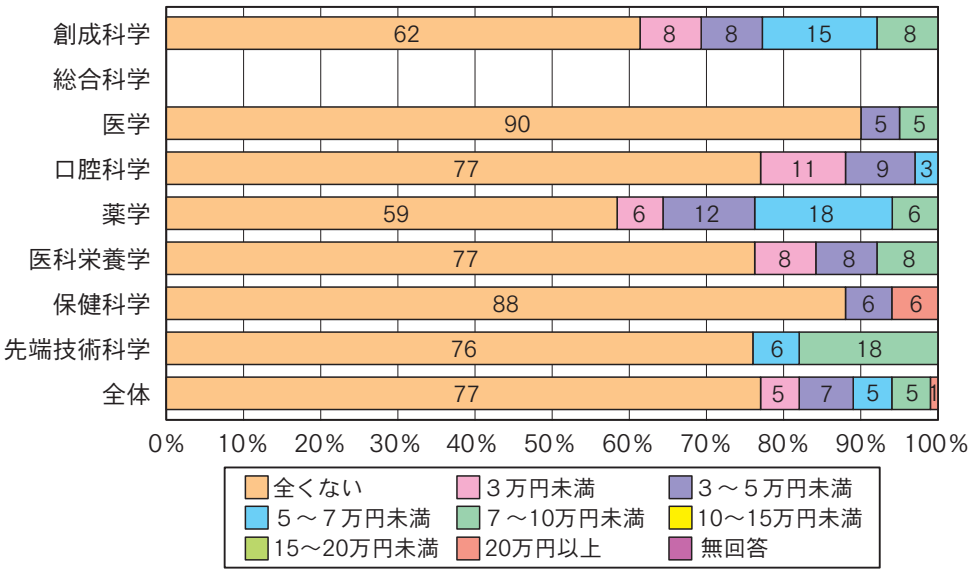

図３－２－２　親等からの援助額

留学生前期課程では中央値は３万円未満であり，前回の３～５万円より減少した。留学生後期課程では中央値は「全くない」であり，前回と同等であった。留学生のみのデータ収集は２回目であり，傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

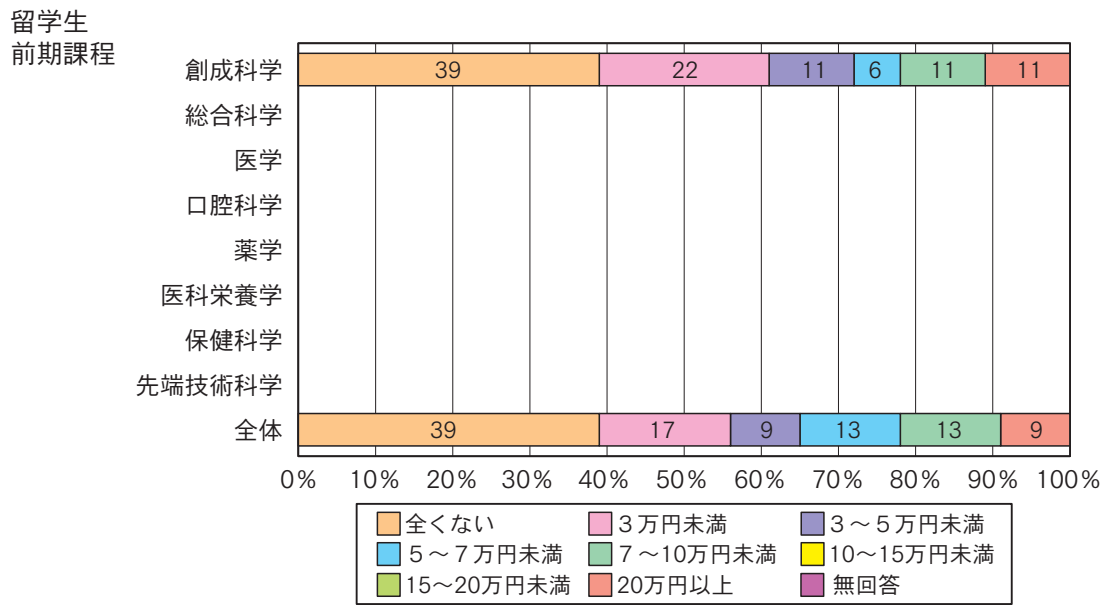

図３－２－３　親等からの援助額

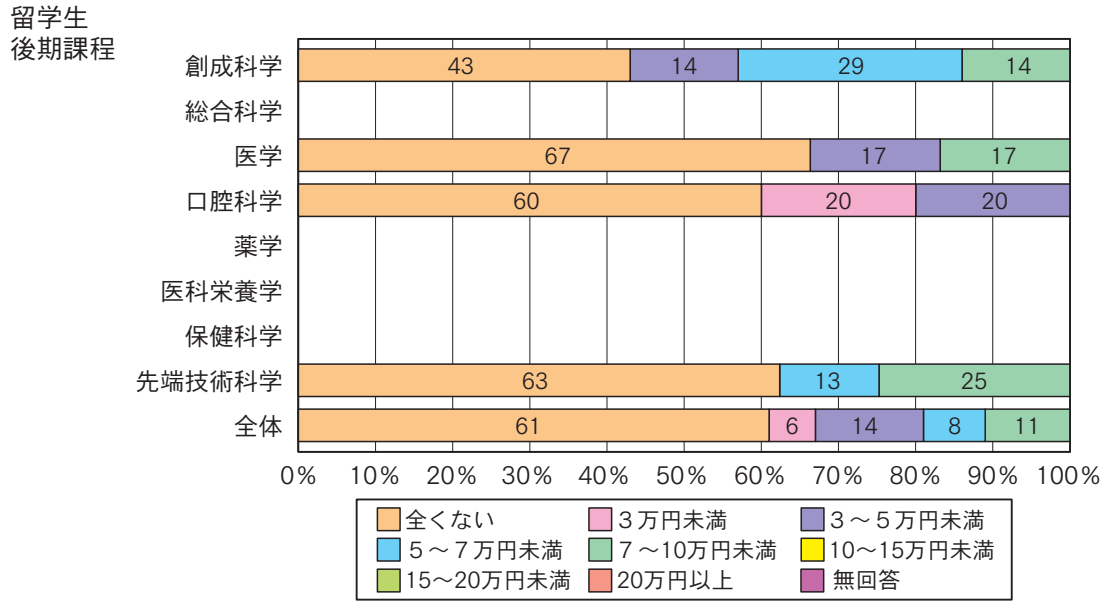

図３－２－４　親等からの援助額

３－３　１か月の平均支出額（授業料支出は除く）（図３－３－１～図３－３－４）

前期課程の中央値は３～５万円であり，第２回から第７回までの５～７万円から減少した第８回と同等であった。支出金額の漸減傾向を示しているか判断するのは時期尚早だが，今後引き続き留意すべき点である。研究科別でも中央値は概ね３～５万円か５～７万円となっており，大差はないと考えられる。

後期課程の中央値は７～10万円であり，第４回から第８回までと同等であった。第２，第３回では10～15万円，第４，第５回では５～７万円であったことを考えると，顕著な変化傾向は確認できない。研究科別では，医学と保健科学の中央値が高い。過去のデータでも医学は高い傾向があるが，保健科学は調査ごとの変動が大きい。ただし，本データからは変動の原因を明らかにすることはできず，他のデータとの相関から原因を探る試みが必要と考える。

前期課程

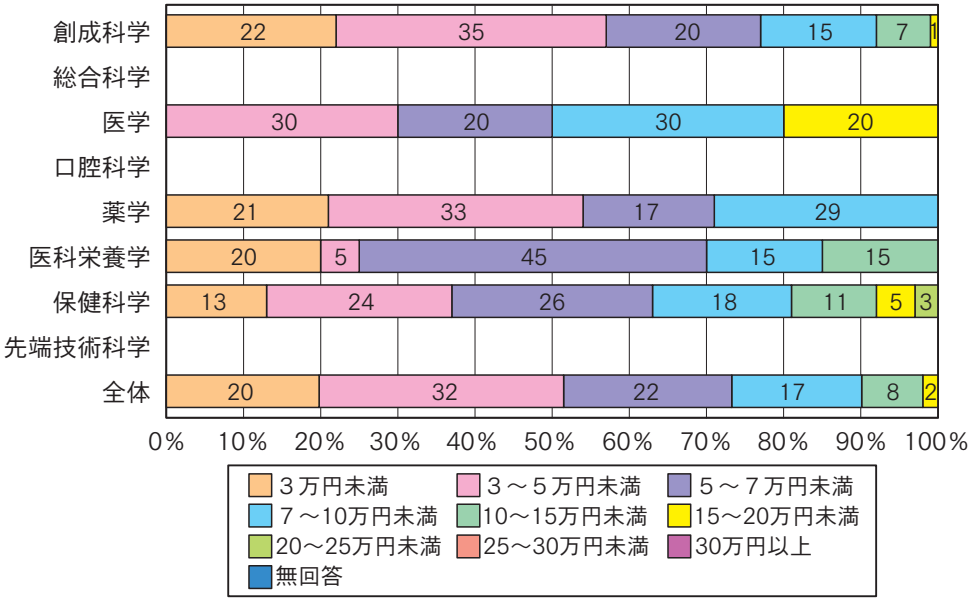

図３－３－１　１か月の平均支出額

後期課程

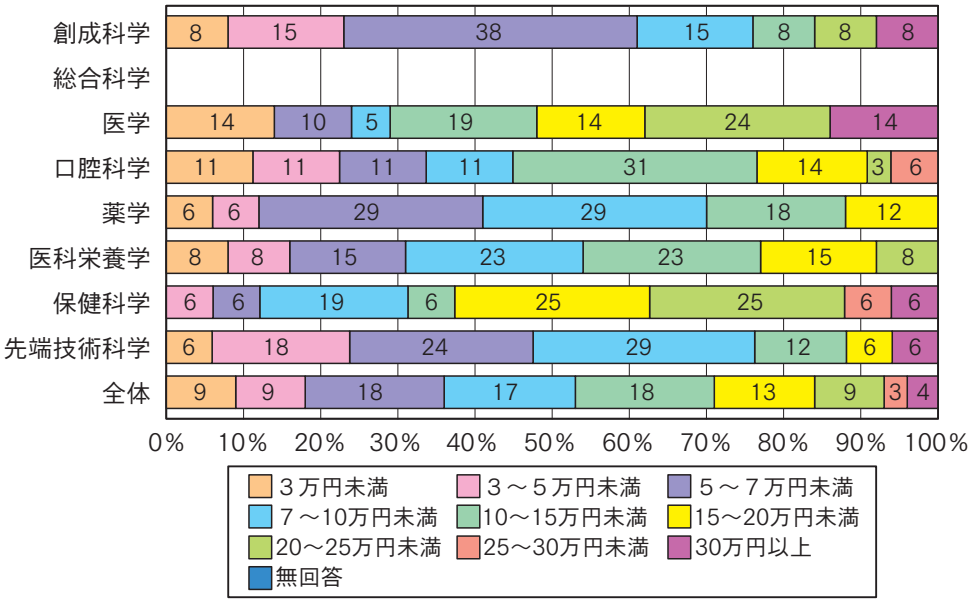

図３－３－２　１か月の平均支出額

留学生前期では，全体の中央値は５～７万円で非留学生を上回った。前回調査でも留学生の方が高く，生活に必要な費用が高い可能性に留意する必要がある。留学生後期でも全体の中央値は５～７万円だが，非留学生を下回った。ただし，留学生のみのデータ収集は２回目であり，傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

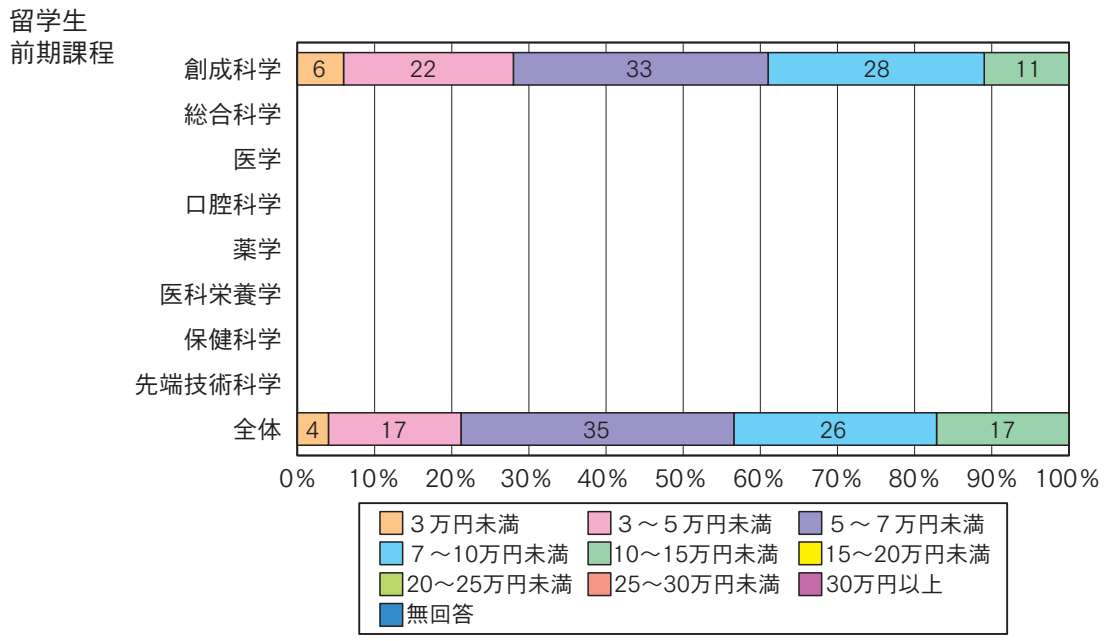

図３－３－３　１か月の平均支出額

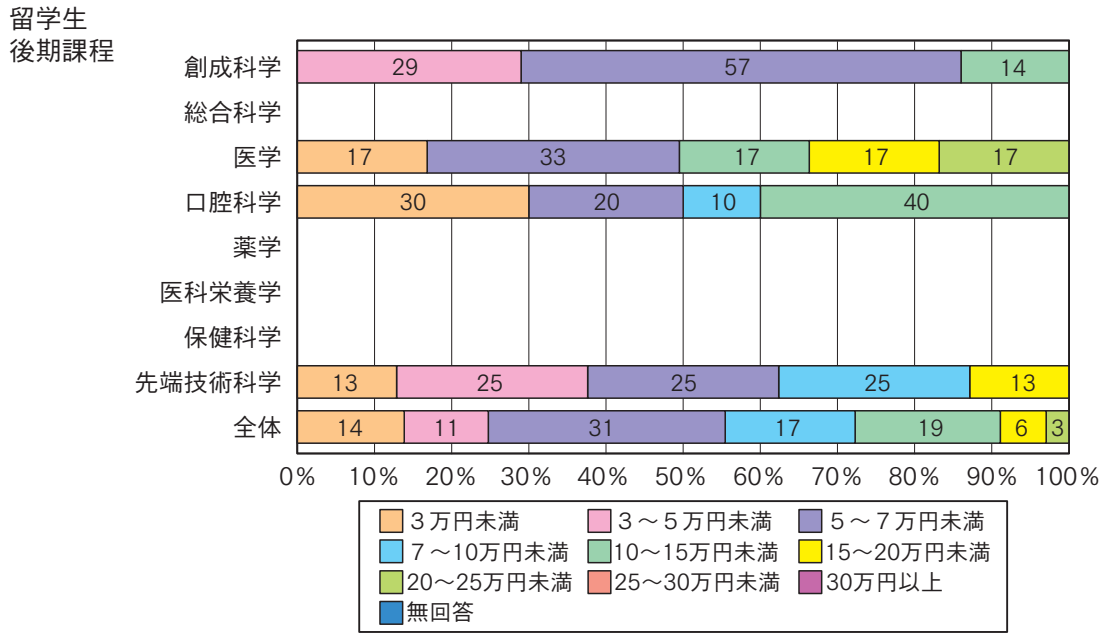

図３－３－４　１か月の平均支出額

３－４　奨学金を受けることを希望しますか（図３－４－１～図３－４－４）

前期課程の全体では，奨学金受給希望比率は第１回～第８回の50％前後と同程度で，傾向に顕著な変化はないと考えられる。現在の奨学金受給者比率は33％であり，第６回までの概ね40％台から第７回で38％に減少した傾向が続いているとも考えられる。

後期課程の全体では，奨学金受給希望比率は第２回～第８回の概ね60％台前後と同程度で，顕著な変化は認められない。

前期課程

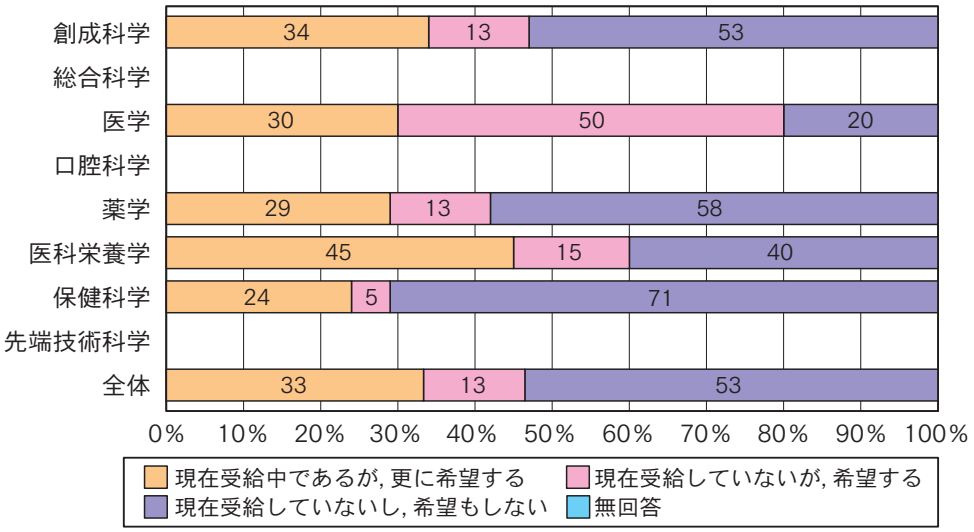

図３－４－１　奨学金

後期課程

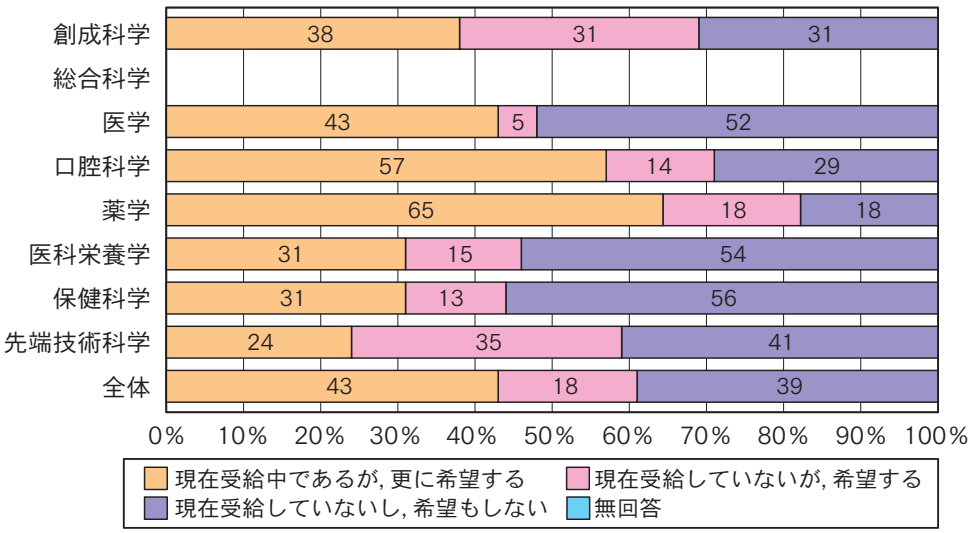

図３－４－２　奨学金

留学生前期課程では，調査対象のすべての研究科において受給希望比率が100％であり，前回調査と同じであった。留学生後期課程でも受給希望比率は非常に高く，すでに受給している割合も高いが，少数ながら希望しない者も存在していることがわかる。

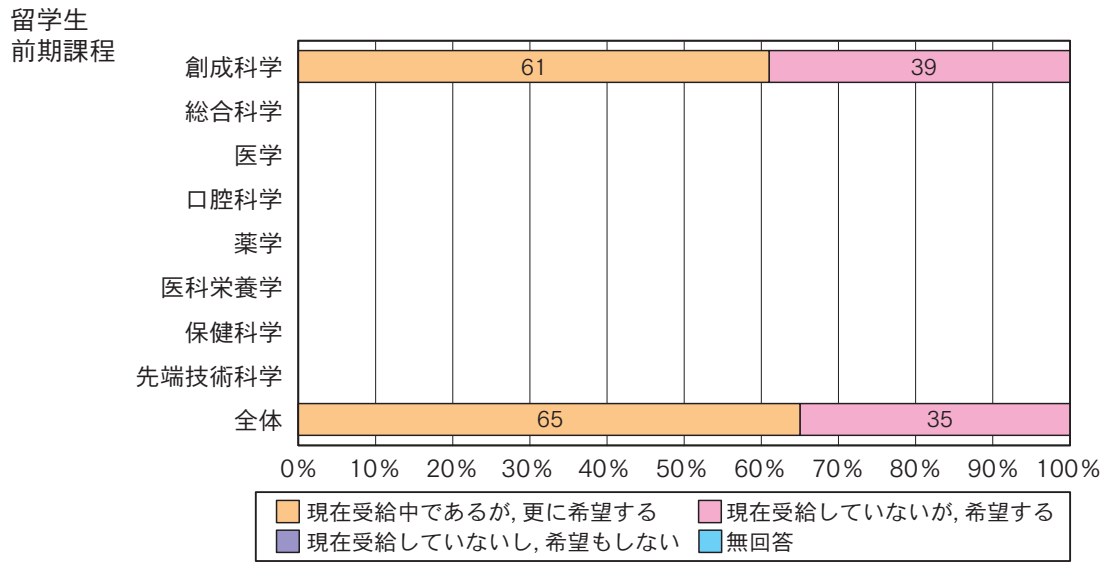

図３－４－３　奨学金

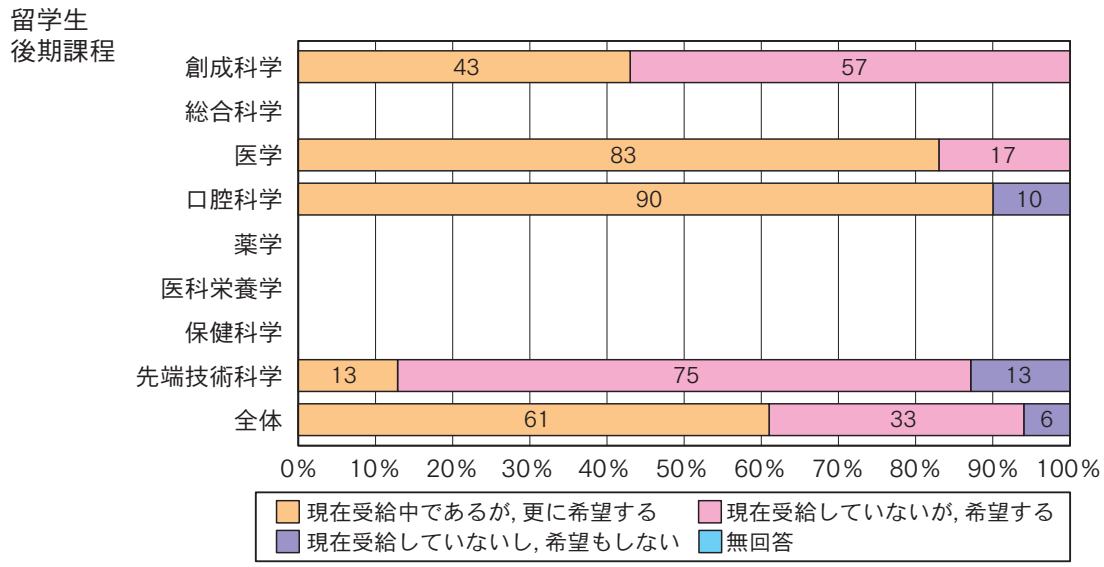

図３－４－４　奨学金

３－５　現在，アルバイトをしているか（図３－５－１～図３－５－４）

前期課程の全体では，アルバイトをしている者の比率は第８回までの概ね 50 ～ 60％と同程度であり，顕著な変化傾向はないと考えられる。研究科別の比率には大きな差異があるが，調査ごとに各研究科の比率の変動が大きいことから，特筆すべき傾向は認められない。

後期課程の全体では，アルバイトをしている者の比率は８回までの概ね 30％と同程度であり，顕著な変化傾向は認められない。また，前期課程より低比率である傾向にも顕著な変化傾向は認められない。研究科別でも比率に顕著な差はなく，調査ごとの変動の範囲を超えていないと考えられる。

留学生前期課程では，比率が前回調査（52％）より低い値を示しているが，調査が２回目であり傾向を分析するのは困難である。研究科ごとの比率の差は大きく，前回調査と同様の傾向を示しているが，有意性は不明である。

留学生後期課程では，比率が前回調査（29％）と近似した値を示しているが，調査が２回目であり傾向を分析するのは困難である。研究科ごとの比率の差は大きく，前回調査よりも差が拡大したように見

前期課程

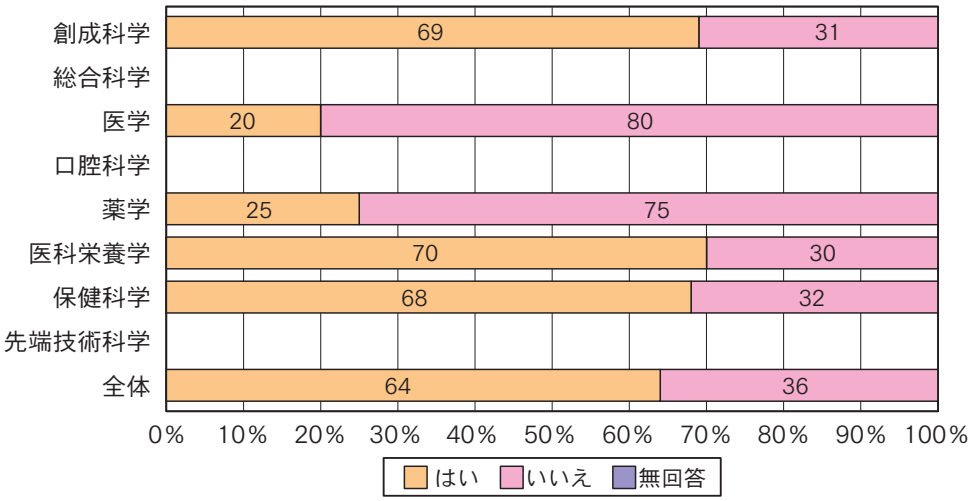

図３－５－１　アルバイト

後期課程

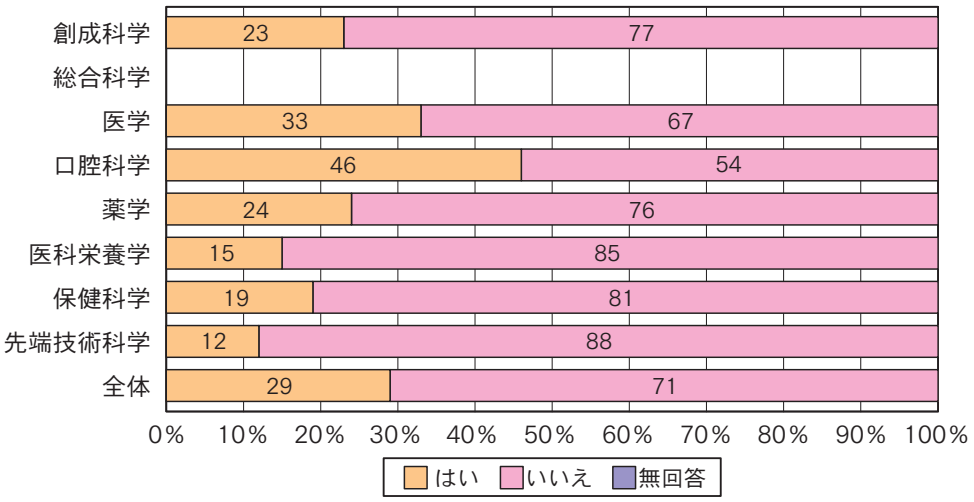

図３－５－２　アルバイト

留学生
前期課程

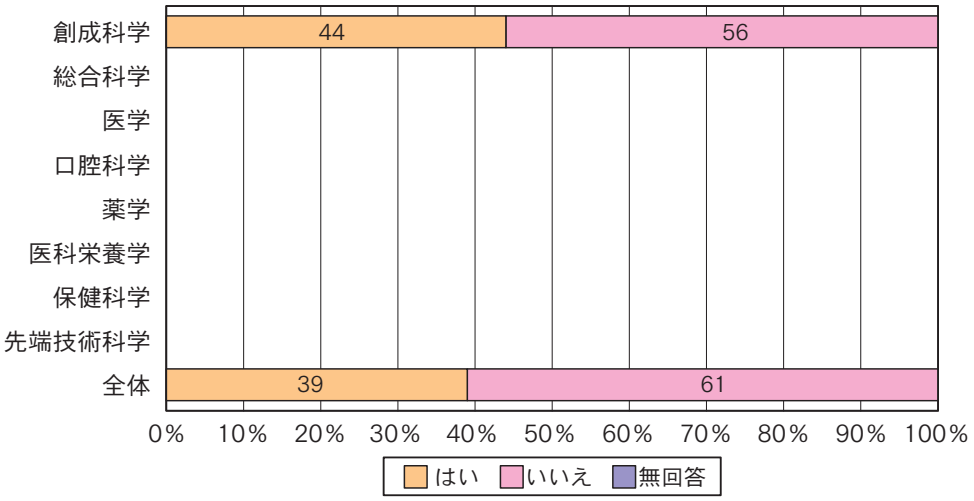

図３－５－３　アルバイト

えるが，有意性については明らかではない。

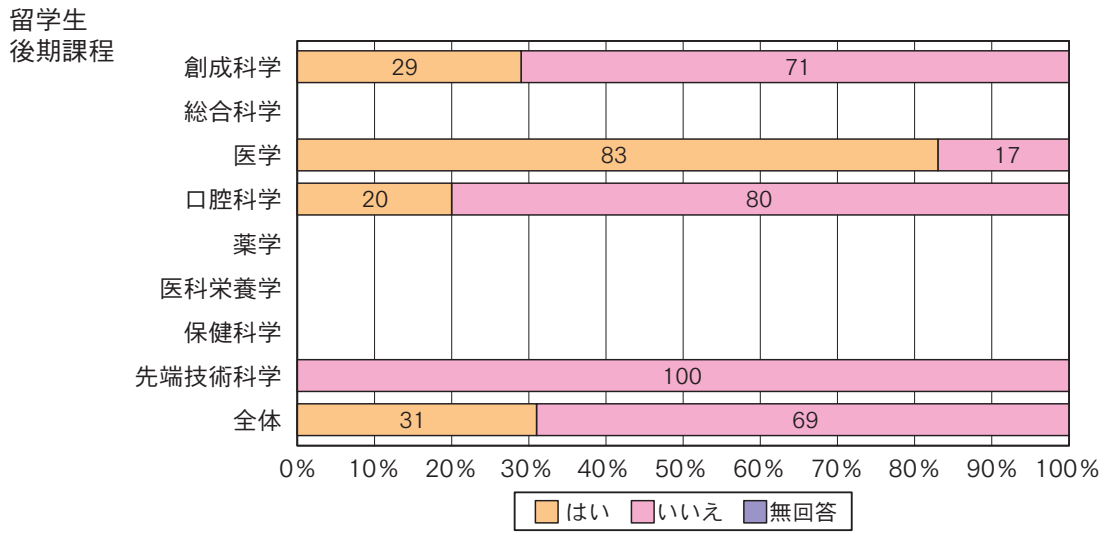

図３－５－４　アルバイト

３－６　アルバイト従事時間数（図３－６－１～図３－６－４）

前期課程の全体では，中央値は５～10時間で，第８回までと同等であった。研究科別では，医学が前回調査で高い中央値を示していたが，今回の調査では元に戻っており，長期的には顕著な変動は認められない。他の研究科では，前回までの中央値と同等と考えられる。

後期課程の全体では，中央値が10～15時間で，第８回までが５～10時間か10～15時間であったことを考えると，顕著な変化傾向は認められなかった。研究科別では回ごとの変動が大きく，個人の従事時間数が安定して確保できていない可能性について留意すべきと考えられる。

留学生前期課程の全体では，中央値が前回の10～15時間に対して低下しているが，有意な変化傾向であるかは判断できない。留学生後期課程の全体では，中央値が前回と同程度であったが，変化傾向の分析にはデータの蓄積を待つ必要がある。研究科ごとのデータ分布についても，変化傾向の分析にはデータの蓄積を待つ必要がある。

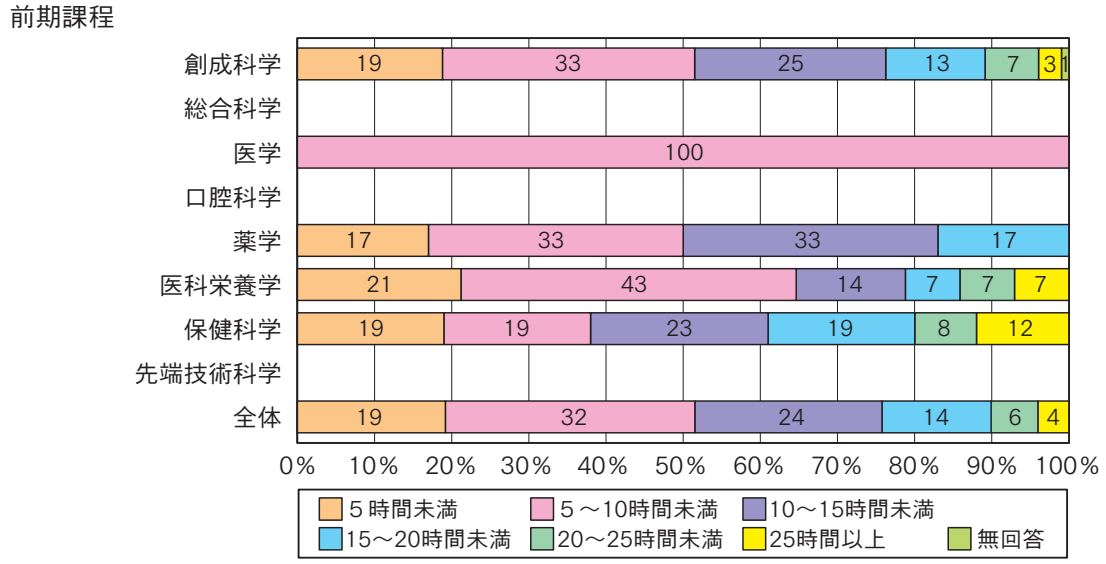

図３－６－１　アルバイトの従事時間

後期課程

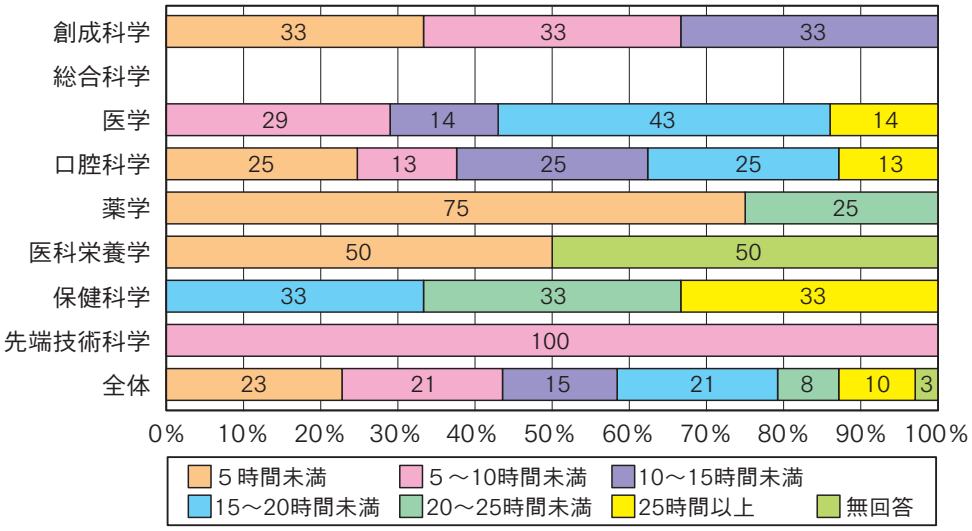

図３－６－２　アルバイトの従事時間

留学生
前期課程

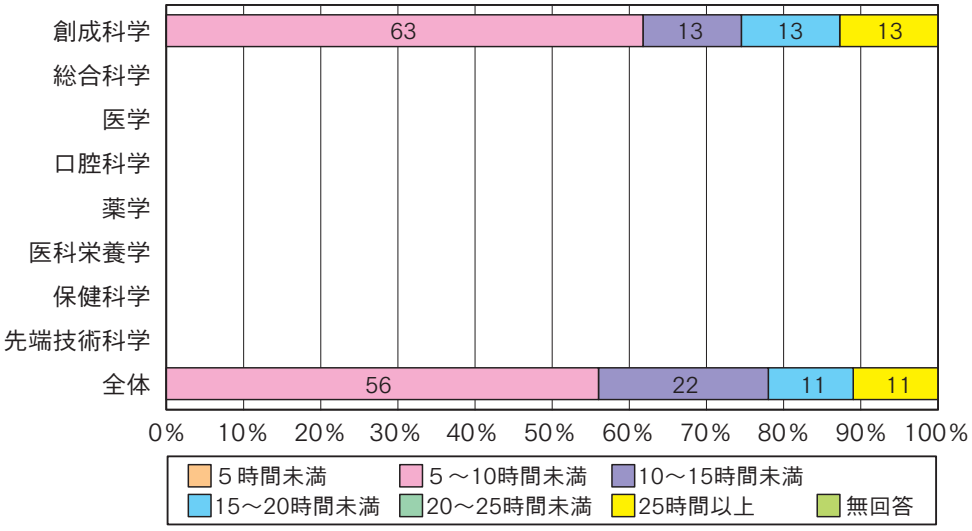

図３－６－３　アルバイトの従事時間

留学生
後期課程

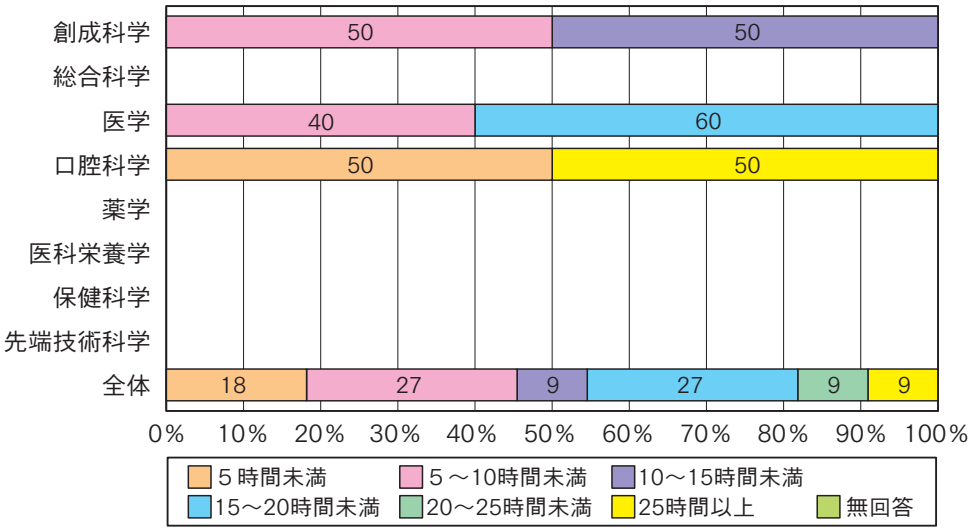

図３－６－４　アルバイトの従事時間

3－7　アルバイトの目的（図3－7－1～図3－7－4）

前期課程の全体でもっとも高い比率を示したのは「生活費や学費」で，第8回までと同じ傾向であった。一方，「レジャー・旅行費」と「娯楽等」を合計すると「生活費や学費」に匹敵し，こちらも第8回までと同じ傾向であった。研究科別では，必ずしも「生活費や学費」がもっとも高いわけではないが，過去の調査を含め，ほとんどの研究科では主要目的の1つであった。その他の目的も調査ごとの変動はあるものの，特筆すべき長期的変化傾向は認められない。

後期課程の全体でも高い比率を示したのは「生活費や学費」で，第8回までと同じ傾向であった。前後期の「生活費や学費のため」の比較では，後期の方が高い比率を示したが，これも第8回までと同じ傾向であった。「学会参加」も後期が高い比率を示したが，第8回までででも後期は前期と同等あるいは

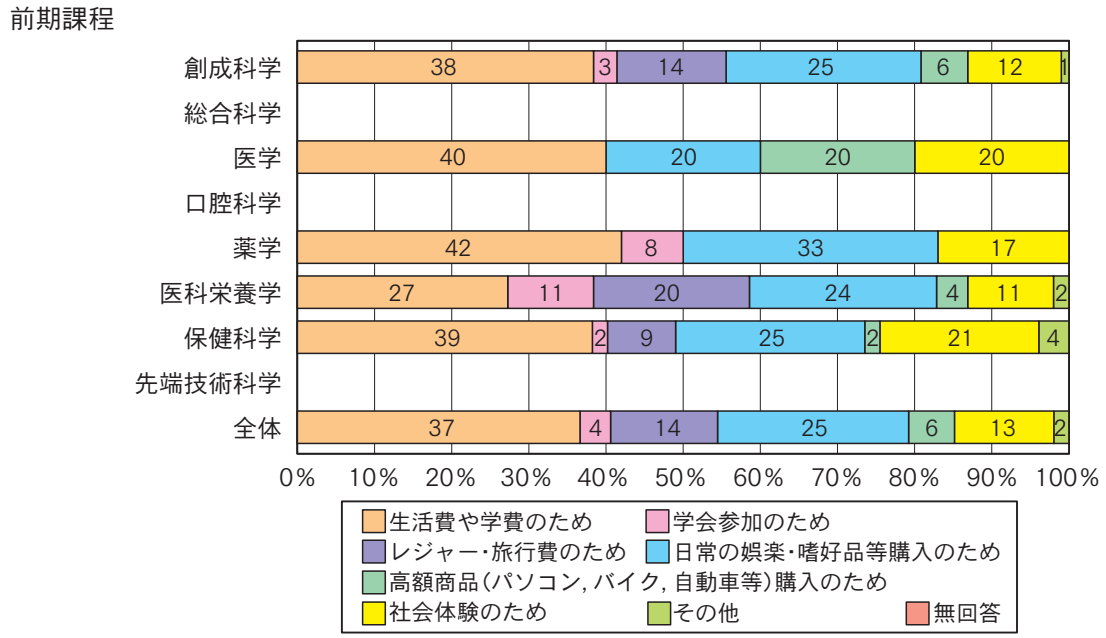

図3－7－1　アルバイトの目的（複数回答可）

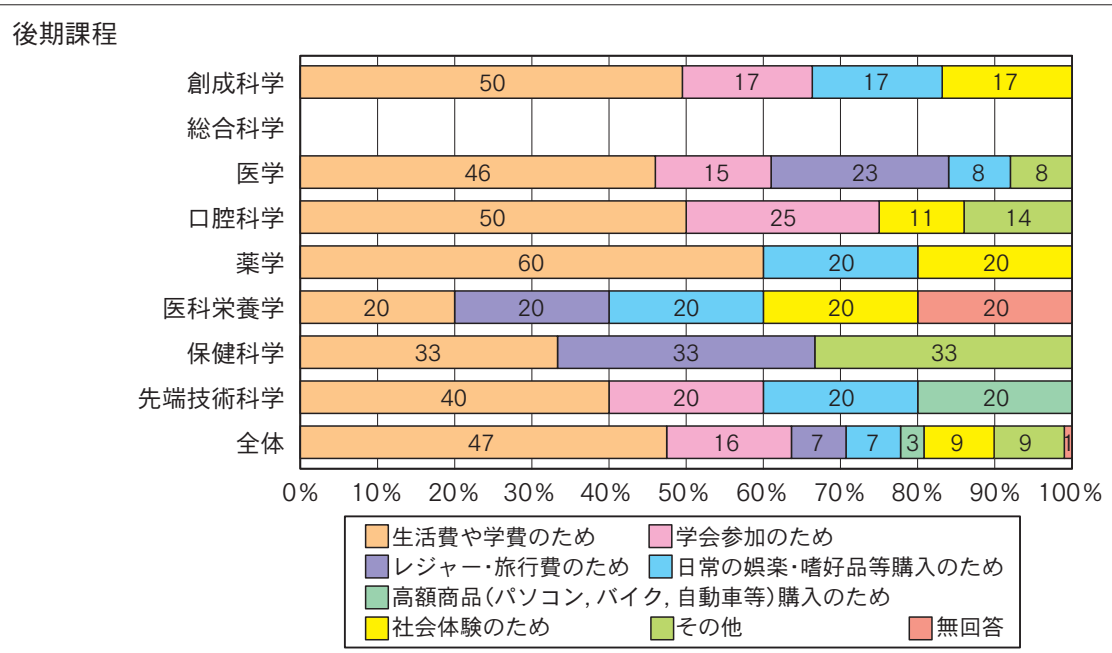

図3－7－2　アルバイトの目的（複数回答可）

高い比率を示しており，顕著な変化傾向は認められない。それに対し，「レジャー･旅行費」と「娯楽等」の合計は後期の方が低比率を示し，これも第８回までと同じ傾向であった。

留学生前期課程，後期課程とも，全体では「生活費や学費」が主であり，「レジャー・旅行費のため」は相対的に低比率である。これは前回調査と同じ傾向である。

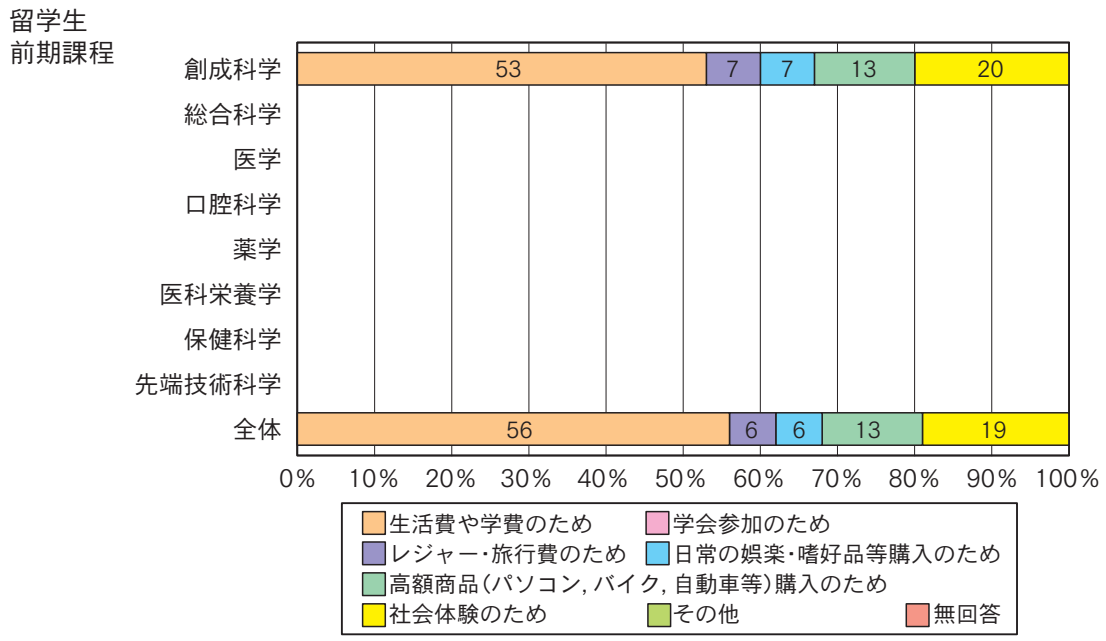

図３－７－３　アルバイトの目的（複数回答可）

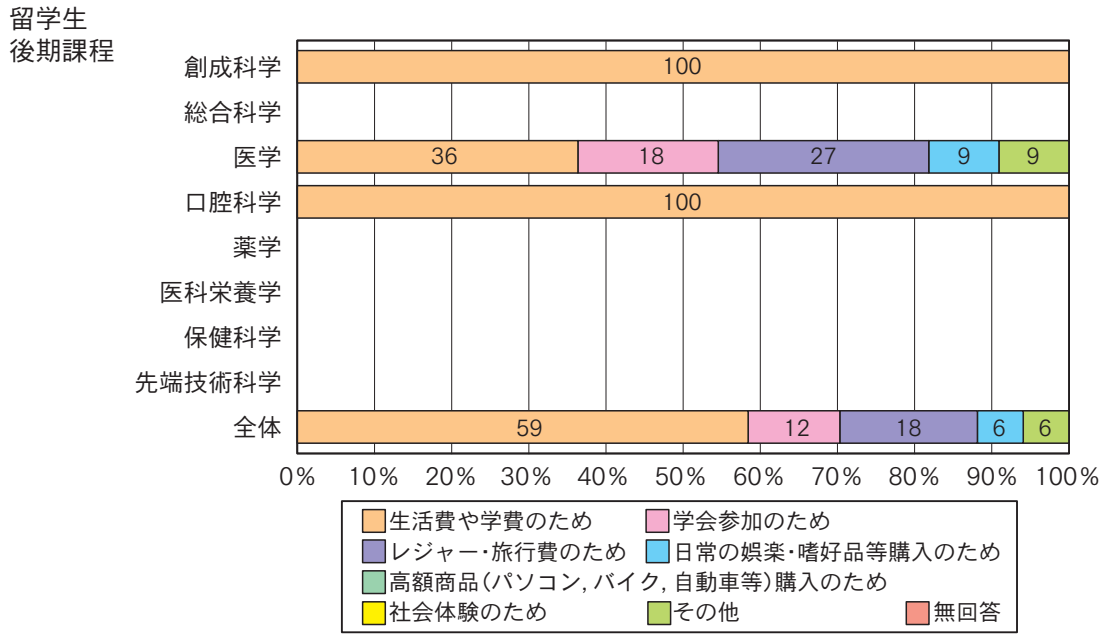

図３－７－４　アルバイトの目的（複数回答可）

３－８　アルバイト収入金額（図３－８－１～図３－８－４）

前期課程全体では，中央値は３～５万円であった。第２～８回でも同じ区分であり，長期的な変動傾向は認められない。研究科別の比較では，保健科学の中央値が５～７万円と他研究科より高い区分にあるが，第８回までの調査でも同様の傾向であり，保健科学の特徴と考えられる。

後期課程の全体では，中央値は５～７万円であった。第３～７回では７～10万円であった中央値が，第８回では５～７万円に減少した傾向が続いているとも考えられる。研究科別では，医学，口腔科学，保健科学で15万円以上の割合が目につくが，第８回までは保健科学で15万円以上の割合はゼロであり，新たな傾向であるとも考えられる。また，医学では，15万円以上の割合は第７回までは56～87％であったが，第８回で25％に低下し，その傾向が続いているとも考えられる。口腔科学科でも，第７回までは７～33％であったものが第８回でゼロになったが，今回は25％と回復傾向を示しているとも考えられる。

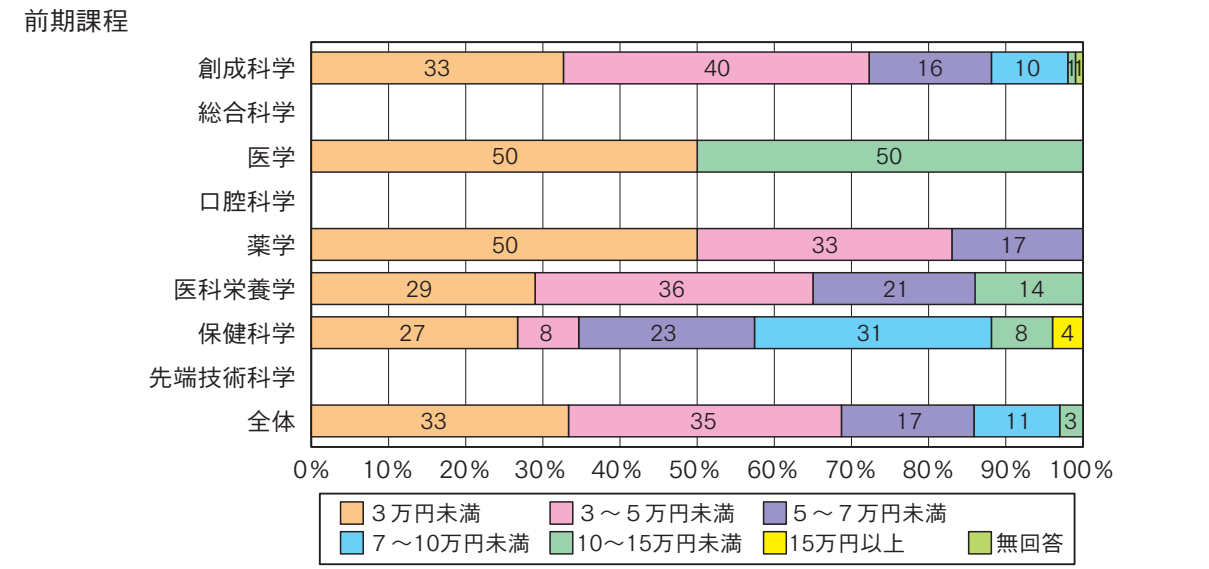

図３－８－１　アルバイト収入

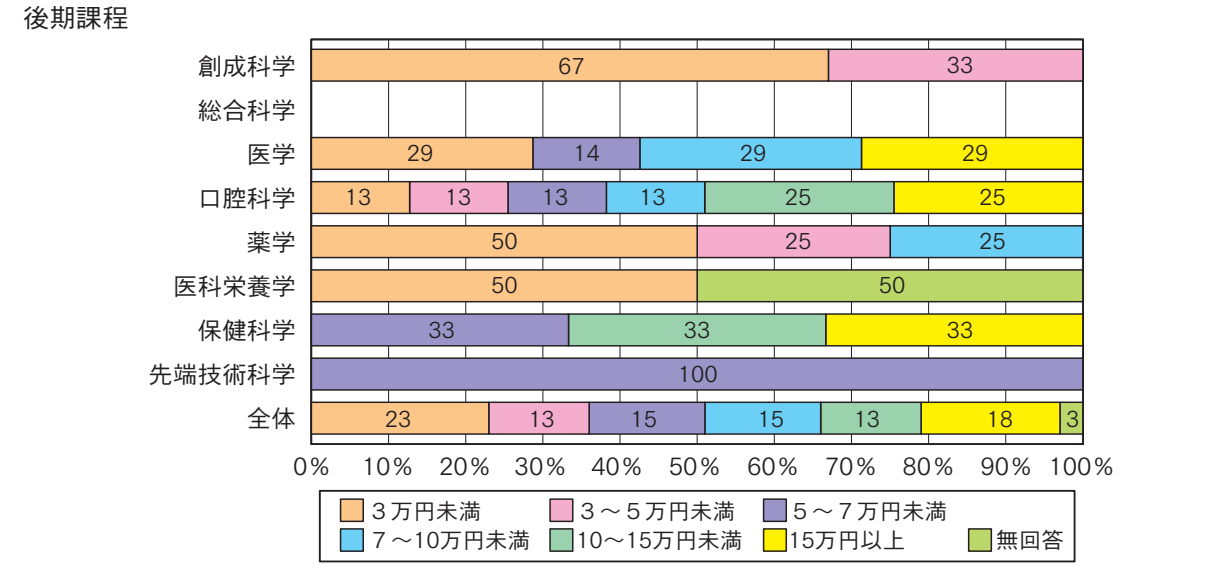

図３－８－２　アルバイト収入

留学生前期課程の全体では中央値は３～５万円であり，前回調査と同等だった。後期課程の全体でも中央値は３～５万円であったが，前回調査の５～７万円より低下した。とはいえ，長期的傾向を分析するにはデータの蓄積が必要である。研究科別では，薬学のように前回調査の中央値５～７万円から３万円未満に減少した研究科も認められるが，データ数の限界と調査回数の限界から，現時点での分析は困難である。

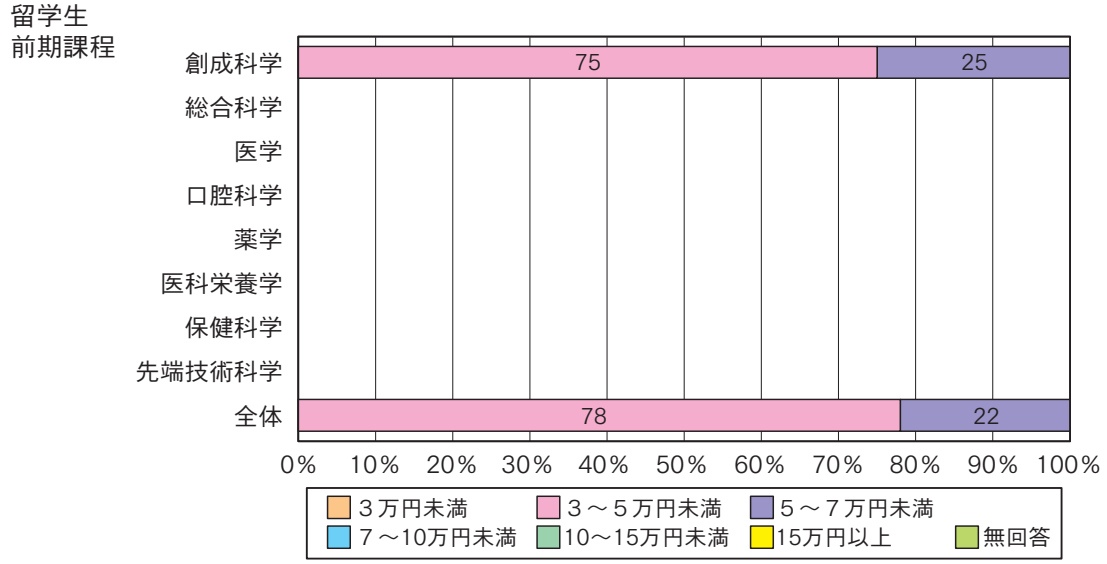

図３－８－３　アルバイト収入

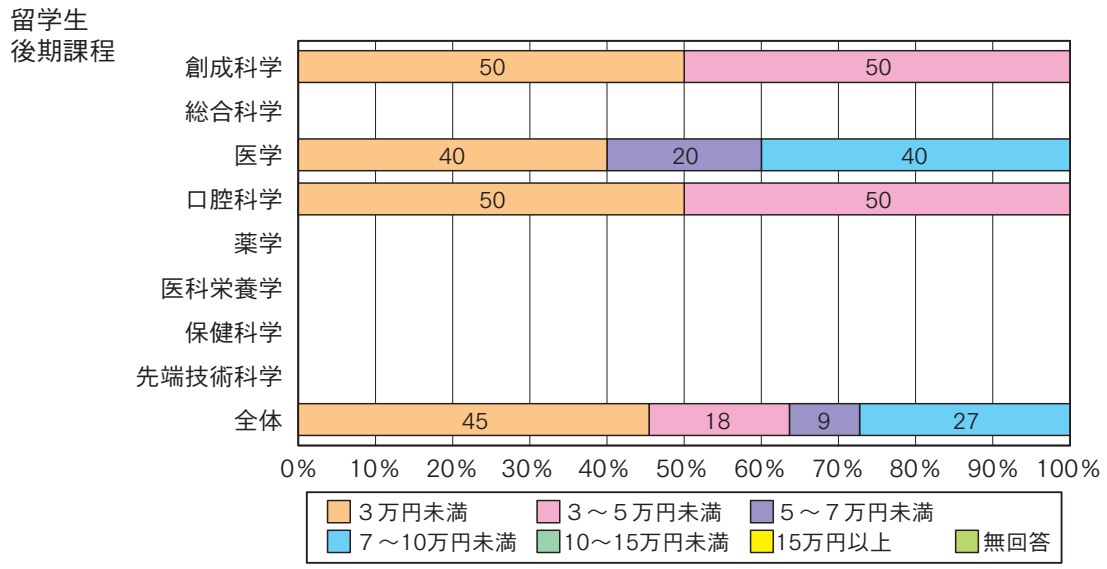

図３－８－４　アルバイト収入

３－９　アルバイトにおけるトラブル（図３－９－１～図３－９－４）

前期課程全体では，トラブルを経験していない比率が80％を超え，研究科別でも同様の傾向であった。全体の第２～５回ではトラブル未経験比率が70％前後であったのに対し，第６回以降は80％近いことから，トラブル経験比率は漸減しているとも考えられる。全体で経験したトラブルの種類では「客とのトラブル」が高率だったが，これは第８回までと同様であり，変化は認められない。

後期課程全体でも，トラブルを経験していない比率が80％を超え，第８回までと同程度であった。研究科別では，創成科学が第８回までの結果とは異なりトラブル経験比率が高いが，傾向の変化を示すものかは判断できない。

前期課程

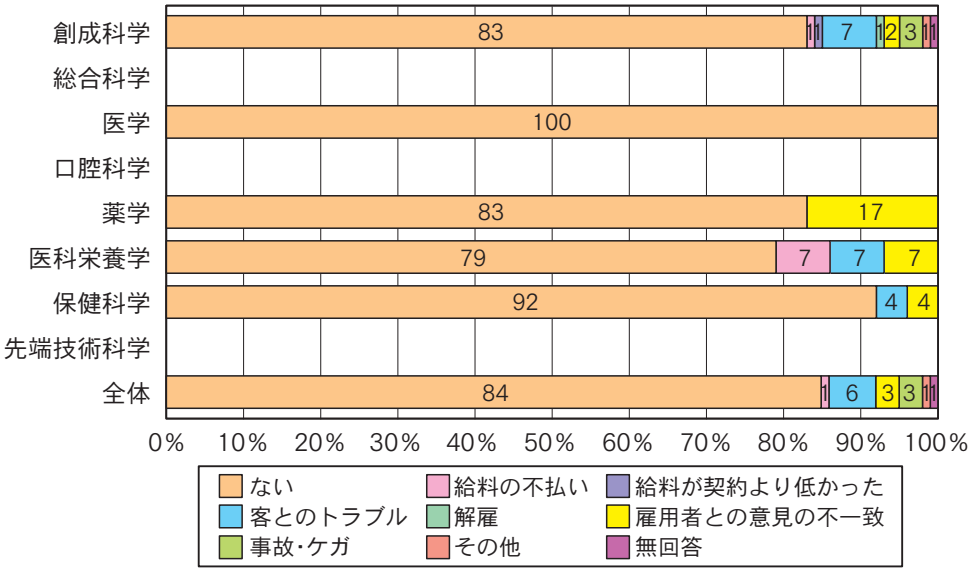

図３－９－１　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

後期課程

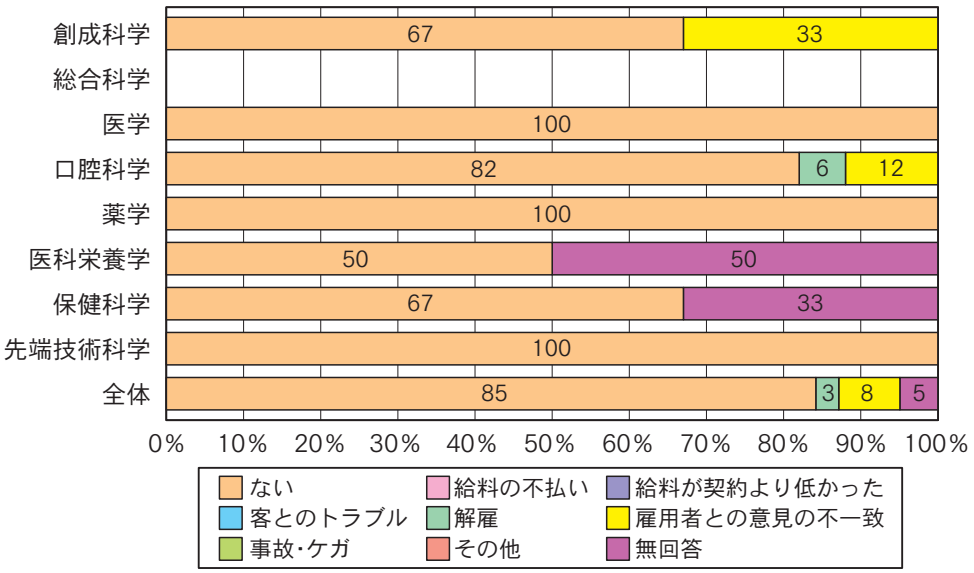

図３－９－２　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

留学生前期課程，後期課程ともにアルバイトのトラブル経験はなかった。前回は少数ながらトラブル経験が報告されていたことからすると改善傾向にあるとも考えられるが，データ数の限界もあり，解析にはデータの蓄積が必要である。

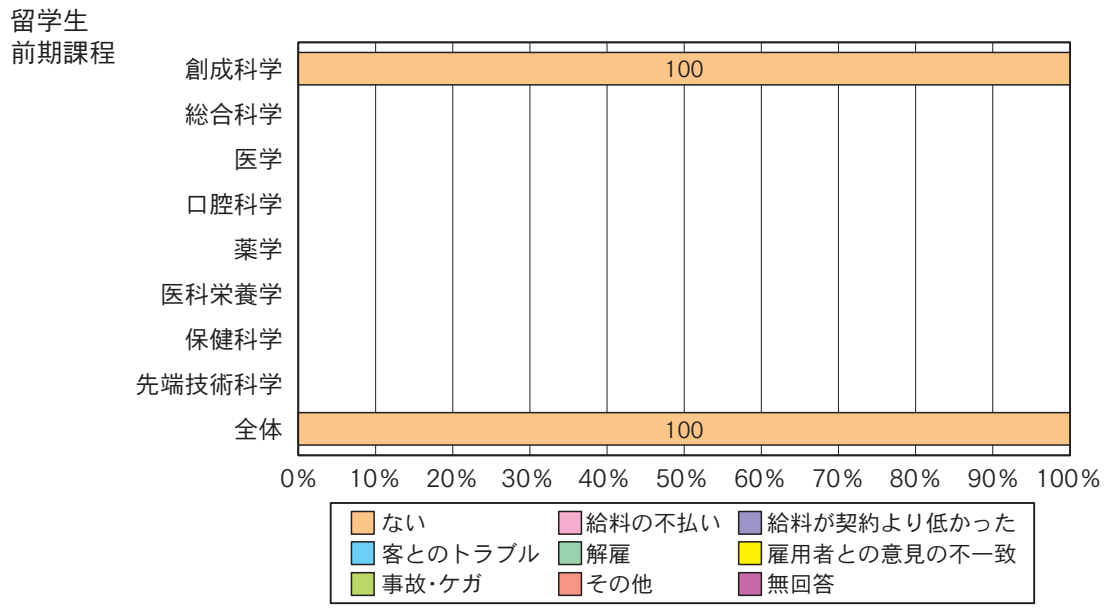

図３－９－３　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

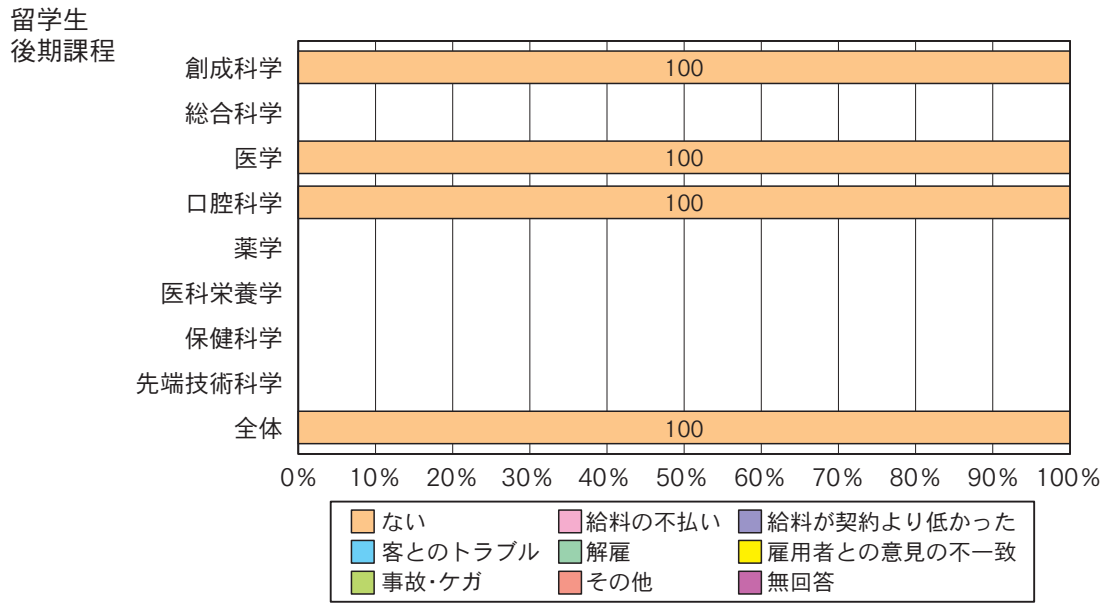

図３－９－４　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

第４章　健康状態について

４－１　睡眠時間（図４－１－１，図４－１－２）

睡眠時間は，「6～8時間未満」の学生が前期課程，後期課程で，それぞれ59%，54%と半数以上を占め，この傾向に変化はない。最も健康的な睡眠時間は一般に7～8時間といわれているため，良好に睡眠を取れている学生が過半数を占めているが，睡眠時間が「4～6時間未満」および「4時間未満」とした学生が前期課程で34%，後期課程では41%みられており，睡眠不足に留意が必要である。留学生では，「6～8時間未満」が66%，「4～6時間未満」が32%で十分な睡眠時間を確保できている者が，より多かった。

平日の蓄積した睡眠負債を休日の朝寝で解消している場合は，睡眠リズムを乱し，夜間の入眠困難や日中の眠気につながる悪循環をもたらす場合もある。睡眠不足は心身の疲労を招き，活動性の低下や心身の変調，注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため，健康・安全管理のため

前期課程

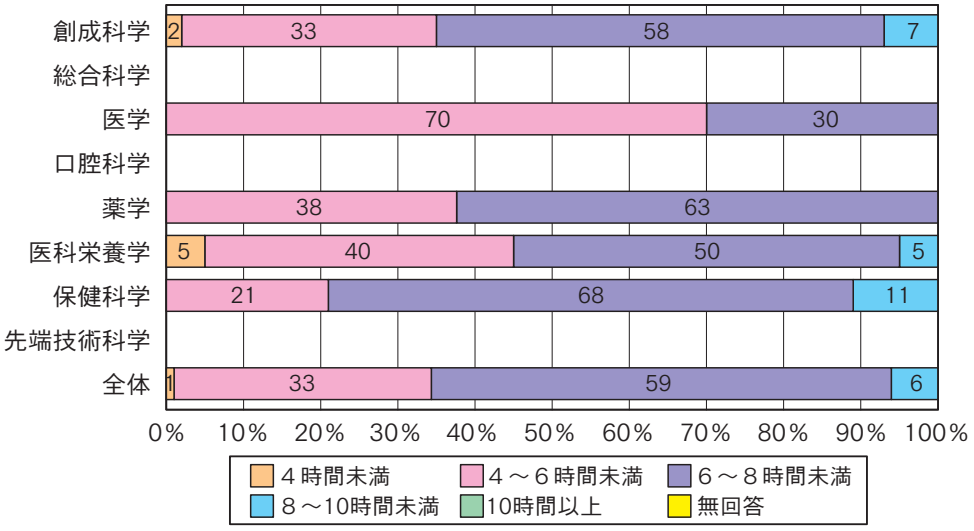

図４－１－１　睡眠時間

後期課程

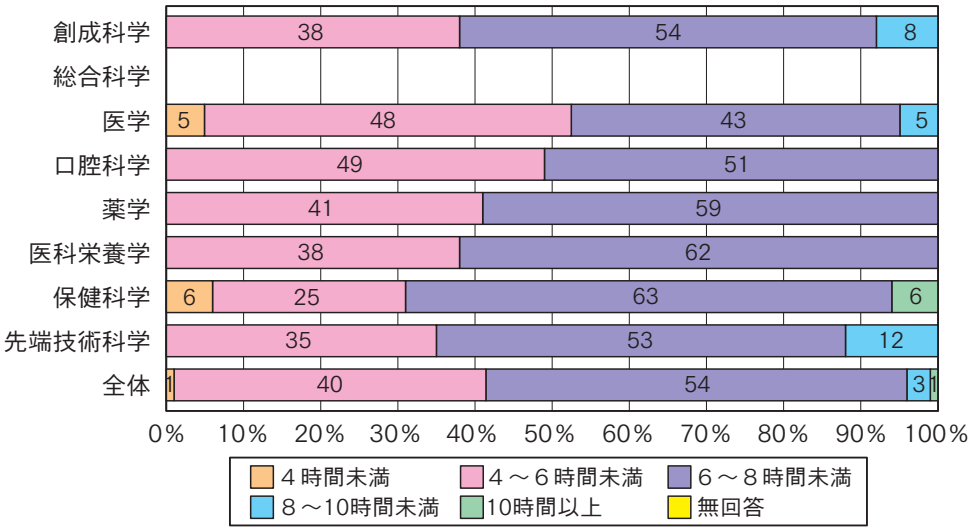

図４－１－２　睡眠時間

に，睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。また，不眠による睡眠不足が続いている場合は，睡眠衛生の見直しとともに，医療面での相談も検討したい。

4－2　気になる症状（図4－2－1，図4－2－2）

気になる症状が「ある」と答えた学生は，4～5割であり，近年の調査と同様の傾向である。留学生においては，気になる症状が「ある」とした学生が5割を超えていたが，気になる症状が「常にある」とした留学生はほとんどいなかった。一方，気になる症状が「常にある」と答えた学生は前期課程で8%，後期課程で10%見られ，健康管理面での対策が必要であると考えられる。

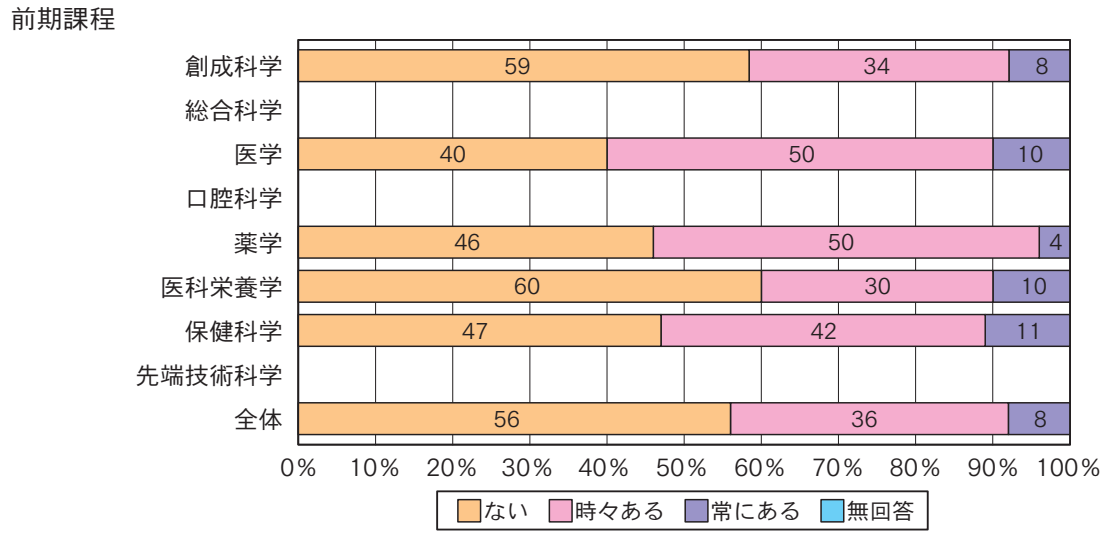

図4－2－1　気になる症状

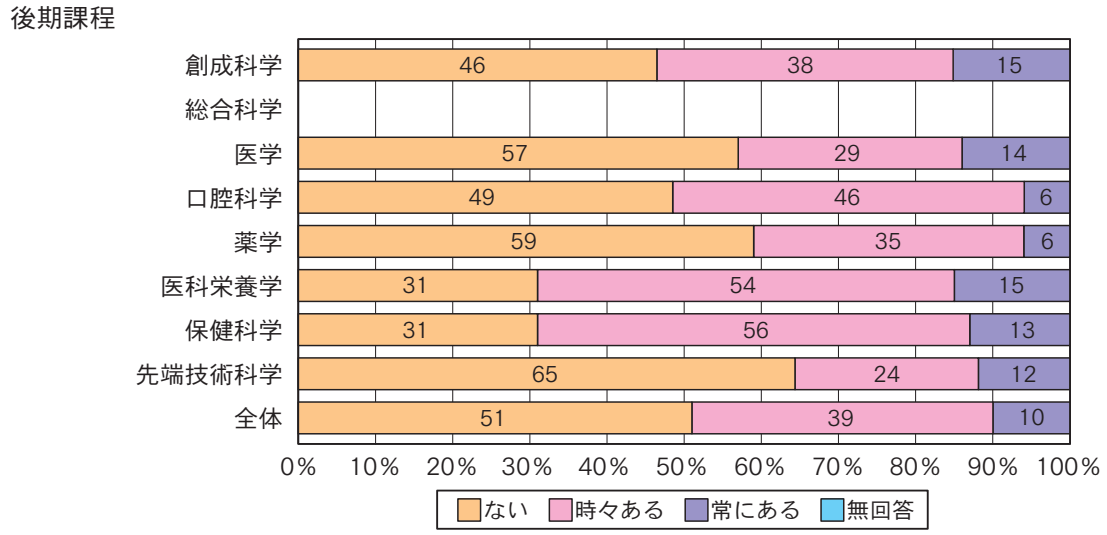

図4－2－2　気になる症状

4－3　症状の内容（図4－3－1，図4－3－2）

前期課程・後期課程合わせて，気になる不調が常にあるとした学生は，平均2つの症状をもっており，症状の内容としては，頭痛，下痢・便秘，その他（それぞれ約3割）が最も多く，次いで腹痛・嘔気，アトピー・アレルギー，生理痛・生理不順，不眠（それぞれ2～3割）の順に多かった。症状の内容は前回調査と似た傾向であるが，今回調査では，その他も多く，この中には項目として取り上げていない，肩こりや腰痛などの整形外科的な症状が含まれている可能性がある。生活習慣の見直し，保健管理部門を活用した健康相談や医療機関で適切に加療を受けることなどが求められる。

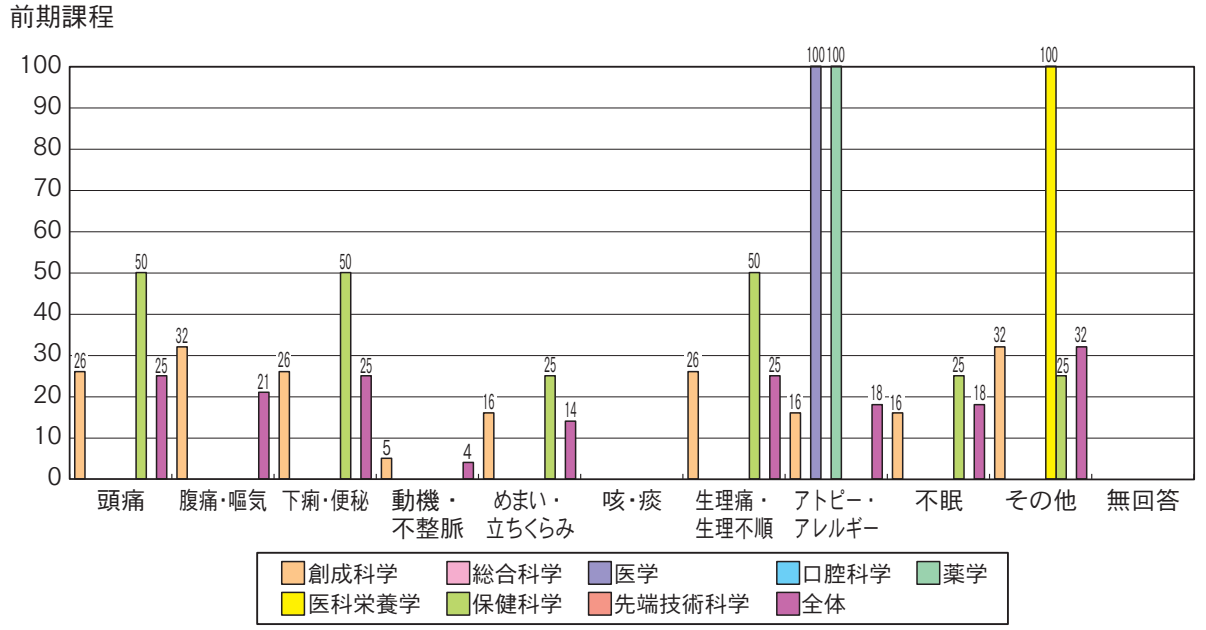

図4－3－1　症状の内容（複数回答可）

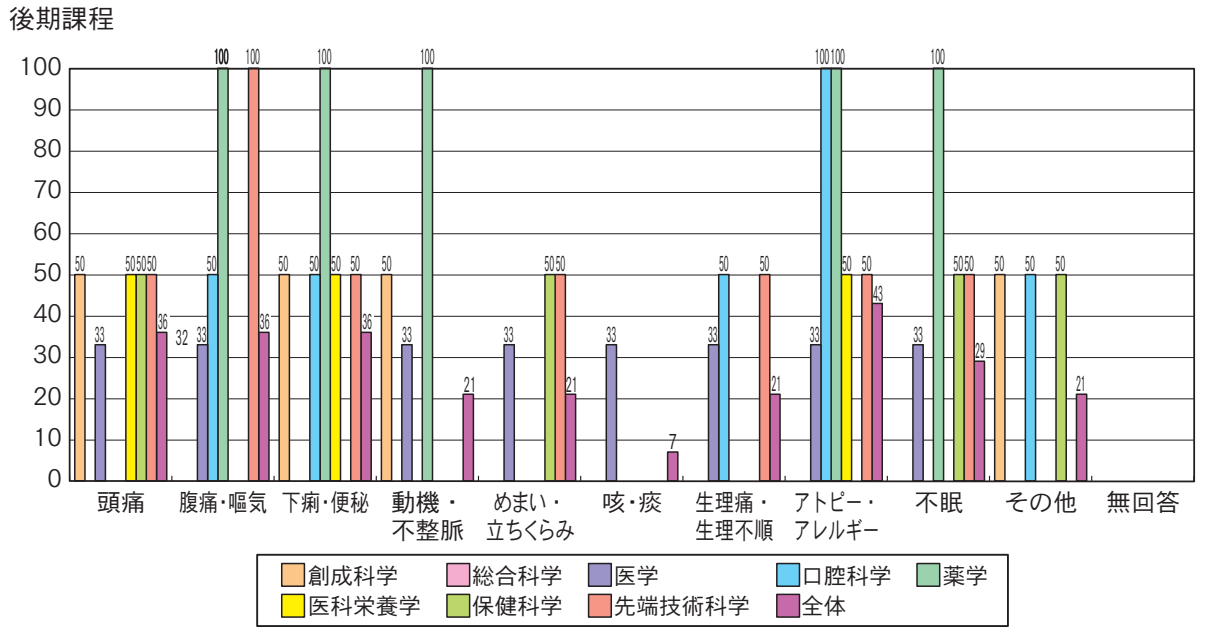

図4－3－2　症状の内容（複数回答可）

4－4　主な悩みと不安（図4－4－1，図4－4－2）

主な悩みや不安は，前期課程，後期課程とも「就職や進路」，「勉学」，「経済状態」が多い傾向はこれまでの調査と同様である。悩みや不安がないとした者の割合は，前期課程35％，後期課程32％と後期課程より前期課程の学生の方が多いが，勉学，経済状態それぞれに悩みや不安をもつ者の割合は後期課程で多くみられる。留学生全体では，悩みや不安は「ない」とした者が3割弱であり，主な悩みや不安の内容も学生全体のそれと同様であり，前回調査では「経済状態」の悩みと不安をもつ者が留学生では約7割と突出していたが，幸い今回調査では5割を切っていた。

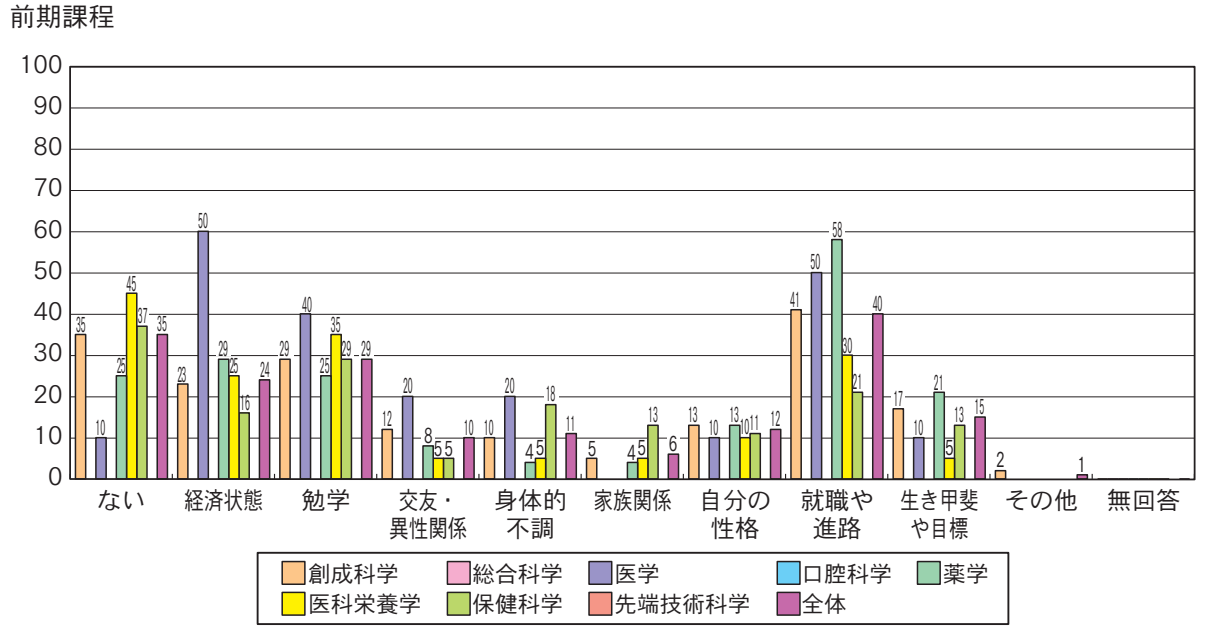

図4－4－1　主な悩みと不安（複数回答可）

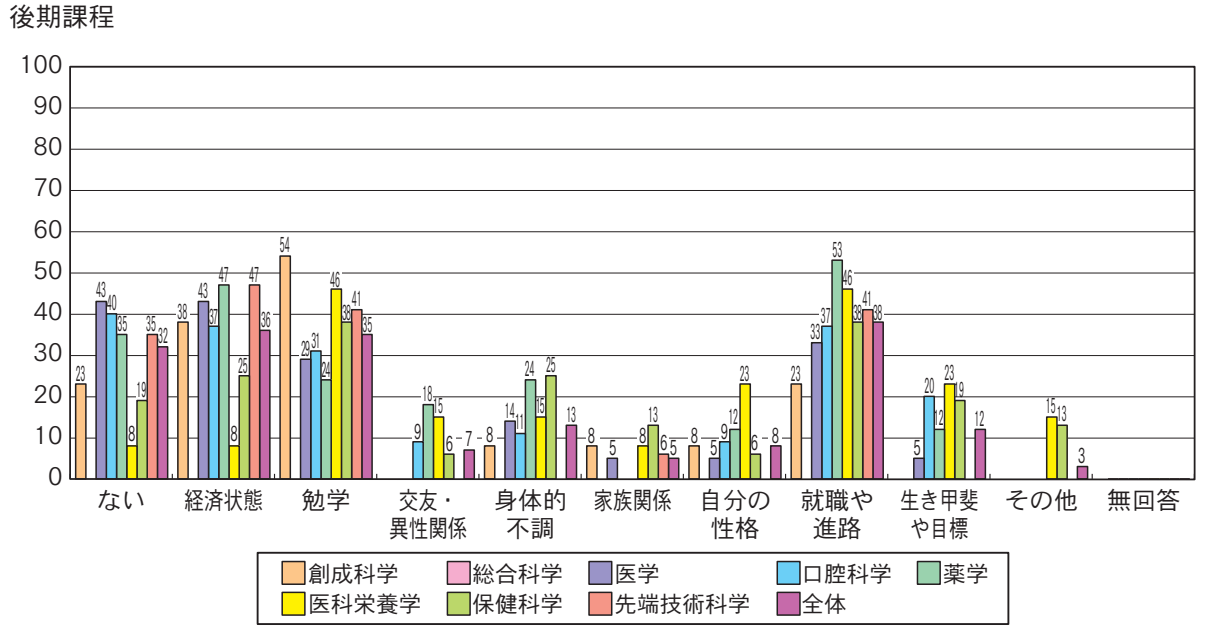

図4－4－2　主な悩みと不安（複数回答可）

4－5　相談相手（図4－5－1，図4－5－2）

悩み事は，友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く，次いで教員となっており，この傾向は留学生でも同様であった。また，全体，留学生ともに教員に相談する学生の割合が，後期課程でより多くなっているのも前回同様である。多くの学生が悩みを最も身近な人に相談することで，悩みや問題への対処を行っていることが推測される。学内の専門相談機関である学生相談室や保健管理部門の利用は合わせて3%と変化はみられない。一方悩みを誰にも相談しないと回答した学生は全体では2割弱，留学生では約1割弱にみられた。悩みを誰にも相談しないことについては，自分で問題を解決可能，または自力で解決を図る傾向，相談するという行動自体に抵抗がある，信頼して相談できる人間関係を欠いている，など様々な理由が考えられるが，悩みを一人で長期間抱えこむことで，ストレス耐性が低

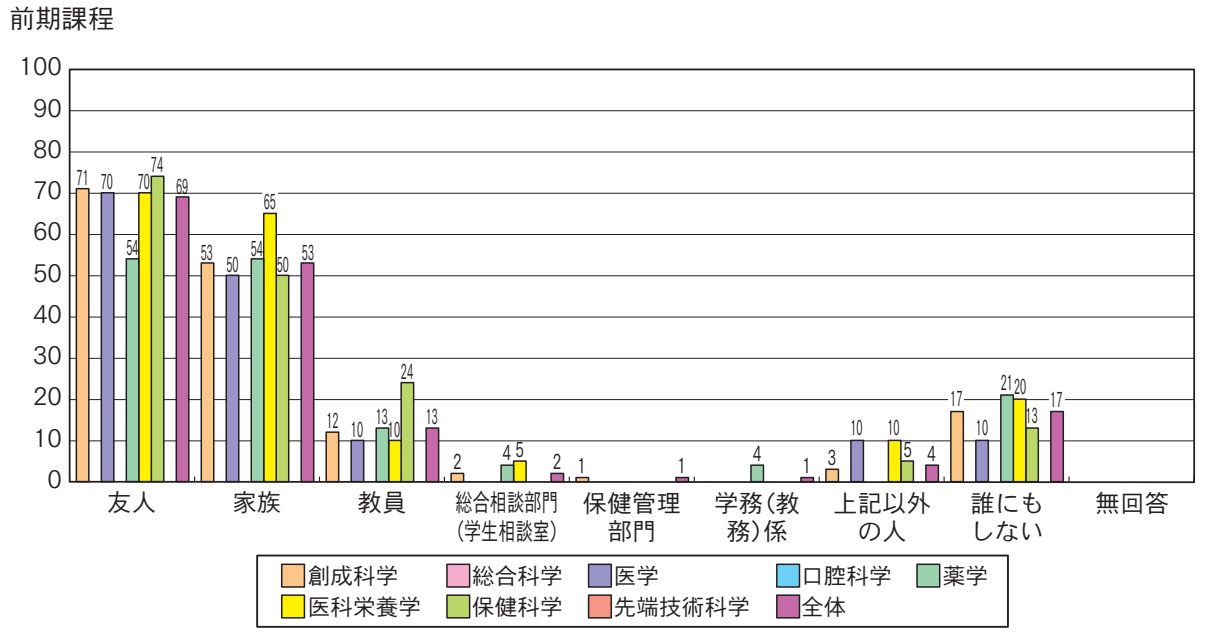

図4－5－1　相談相手（複数回答可）

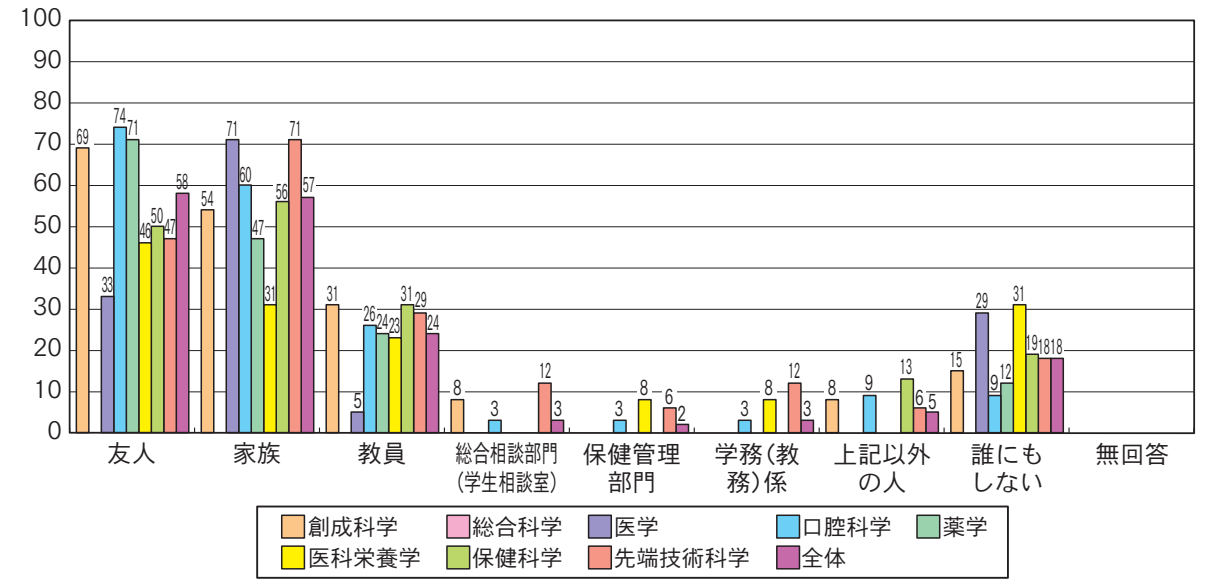

図4－5－2　相談相手（複数回答可）

くならないように心がけたい。

4－6　現在の精神状態（図4－6－1，図4－6－2）

前期・後期課程ともに，7割の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び，精神的な健康を保っていると考えられ，この傾向は前回･前々回調査と同様である。また，留学生でも8～9割が「充実している」または「気分は普通」を選んでいる。一方，全体では3割の学生が何らかの精神的不調感を持っており，なんとなく不安を選んだ者が多かった。セルフケアや身近な人への相談等で，解消しにくい場合は，学内外の専門機関の活用も検討したい。

前期課程

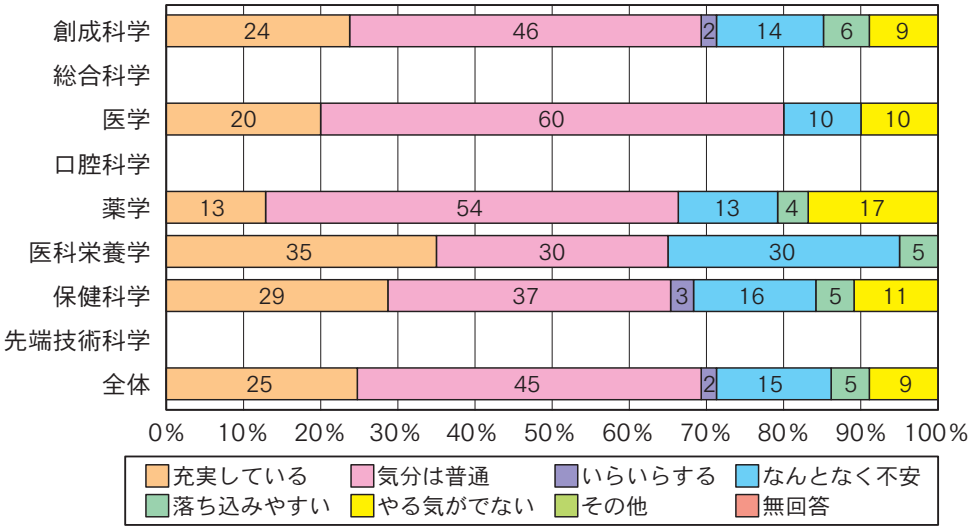

図4－6－1　現在の精神状態

後期課程

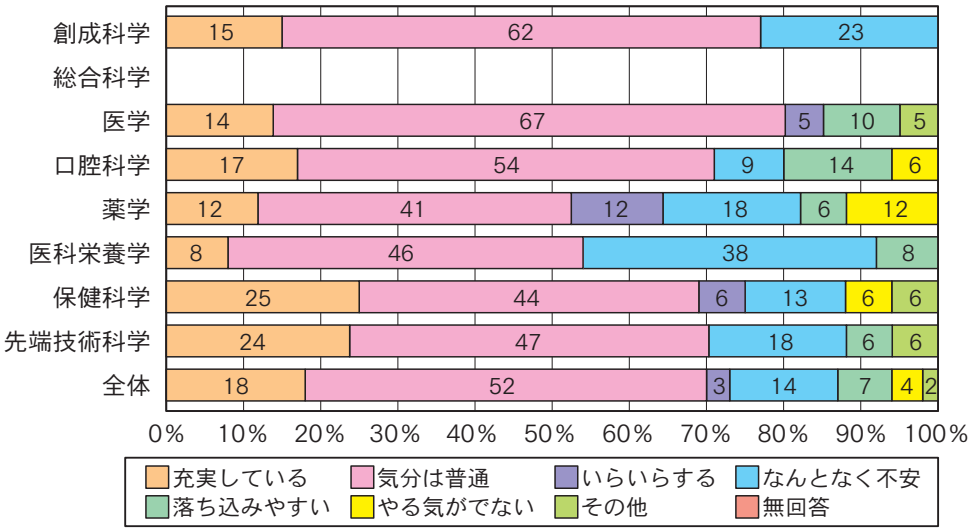

図4－6－2　現在の精神状態

4－7　喫煙（図4－7）

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが，現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子86%，女子99%で，喫煙率は男子14%，女子1%で，前回調査と比べて男子の喫煙率は横ばい，女子では1ポイント下がって漸減傾向が続いている。留学生の男子の喫煙率は20%で全体より高い喫煙率だった。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため，さらに禁煙の啓蒙を続けていく必要がある。

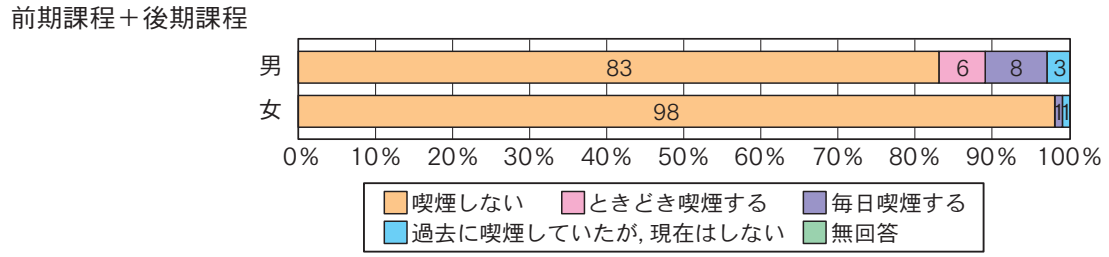

図4－7　喫煙

4－8　飲酒（図4－8）

「飲酒はしない」および「たまに飲酒する」と答えた学生はそれぞれ男子で25%，57%，女子で33%，55%であり，飲酒習慣がない学生は男子82%，女子88%で前回同様であったが，女子では飲酒しない学生が8%減り，たまに飲酒する学生が9%増えていた。留学生ではほとんどが飲酒習慣はないとの回答であった。一方，飲酒習慣のある学生のうち，週3～4日以上飲んでいる学生は男子で11%，女子で6%であり前回調査（男子12%，女子4%）とほぼ同様であった。飲酒習慣のある学生においては，1回の飲酒量の平均が純アルコール20 g（日本酒で1合）未満を心がけ，アルコール関連健康障害などの酒害の予防に留意することが必要である。

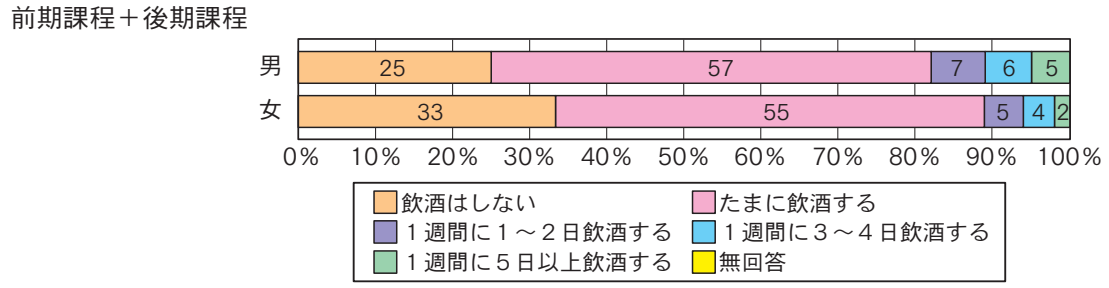

図4－8　飲酒

4－9　キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識（図4－9－1，図4－9－2）

保健管理部門に「健康診断のために行ったことがある」学生は，前期課程で78%と前回調査より12%増加した。健診受診のための利用者の増加はよい傾向であり，今後さらに高める工夫が必要であろう。一方，後期課程では健診での利用が40%とやや減少，また「保健管理部門があることを知らなかった」が26%と前回より10%増加しており，後期課程では社会人も多いため，学生として本学の健診実施機関である保健管理部門の利用率が低くなることはやむを得ないこととしても，健康診断以外にも，診療や心身の健康相談，感染症対策のワクチン接種などの健康管理のための，他のサービスが提供され

ていることを含めて，周知が必要と考えられる。

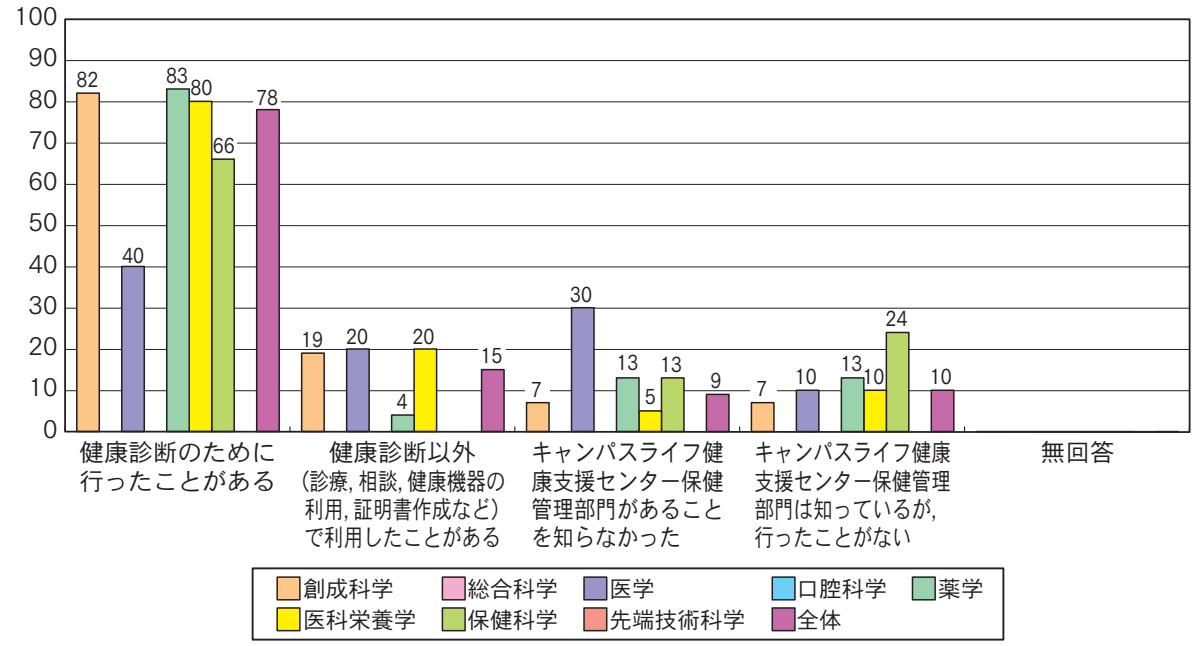

図４－９－１　保健管理部門の認識（複数回答可）

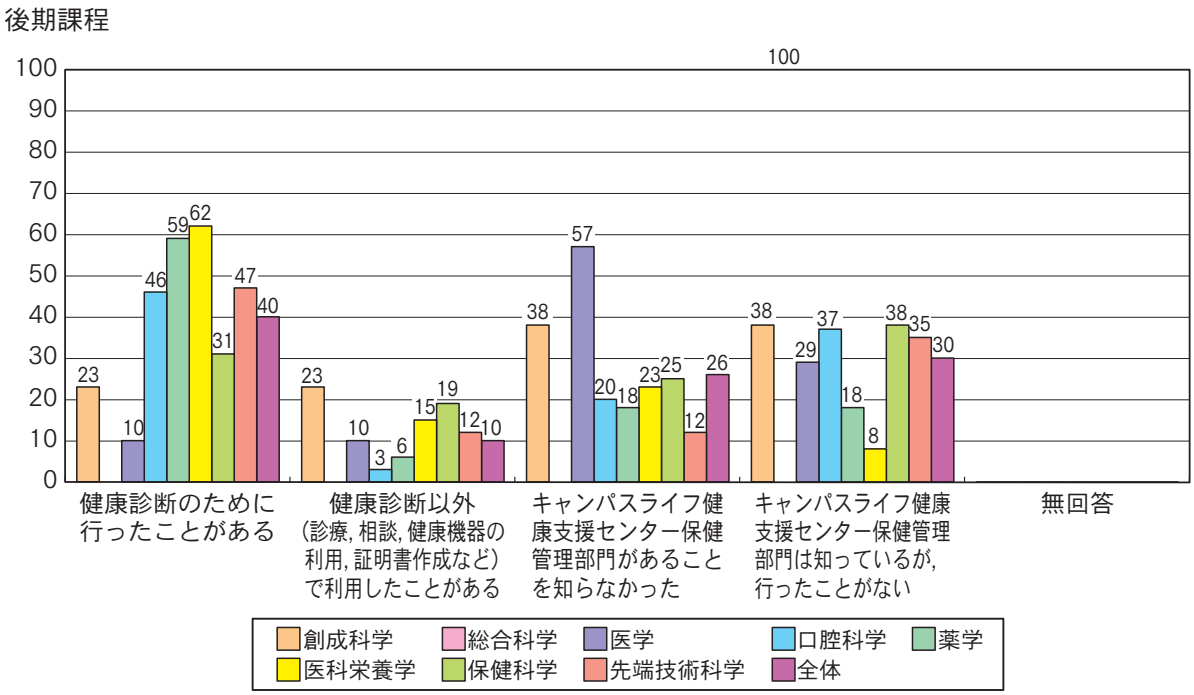

図４－９－２　保健管理部門の認識（複数回答可）

第５章　学生生活上の問題点について

５－１　迷惑行為（図５－１－１～図５－１－６）

前期課程全体では 69%，後期課程全体では 76%の学生が何らかの迷惑行為を受けていることが明らかとなり，第８回調査から大幅に増加した。第８回調査時以降に状況が急激に悪化したことや，第８回調査時においては被害の認識が薄く，実際には被害を受けていても，受けていないと回答した者が多かったことなどが考えられる。被害増加の要因について慎重に検討しつつ，これまで以上に丁寧な予防啓発活動を行う必要がある。

前期課程

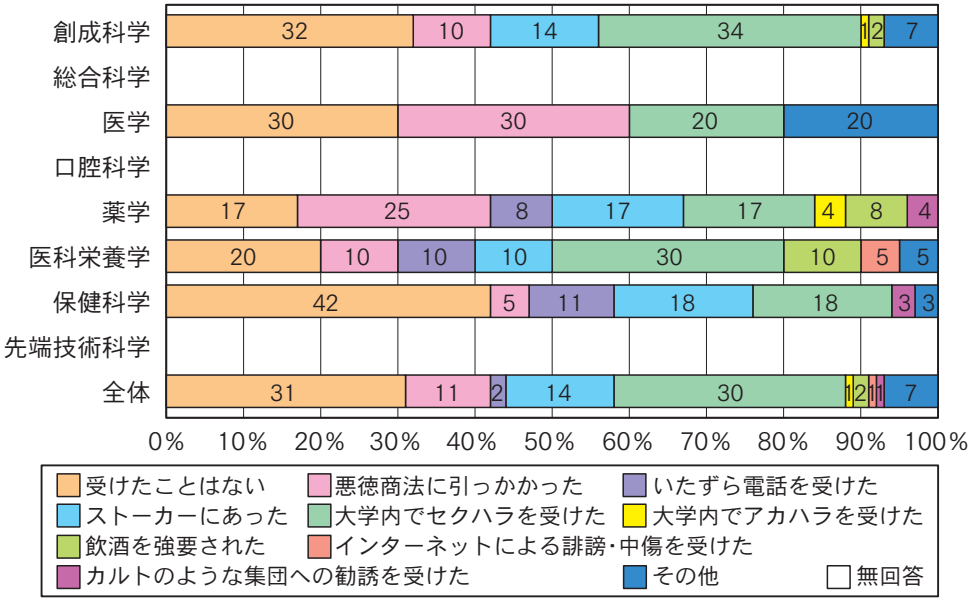

図５－１－１　迷惑行為の経験とその内容（複数回答可）

後期課程

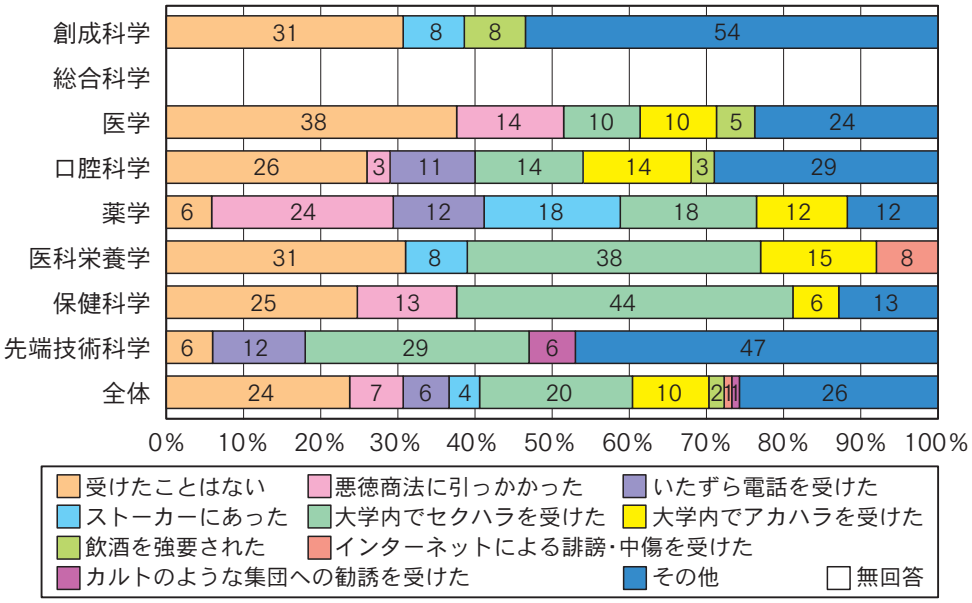

図５－１－２　迷惑行為の経験とその内容（複数回答可）

セクハラを受けた時の相談相手として，前期課程で最も多く選ばれたのは友人であった。一般的に人は相談相手として最も信頼できる他者を選ぶ傾向がある。そうしたことから学生が相談相手として友人を最も多く選ぶのは頷ける。セクハラを受けた者が相談相手からさらに傷つけられるといった二次被害を受けることを防ぐために，学生向けのセクハラ予防啓発活動を充実させることが求められる。また，前期課程，後期課程とも，教職員を相談相手と選んでいなかった。こうしたことから，学生が教職員を安心して頼ることができるように，教職員向けのセクハラ予防啓発活動を充実させることが求められる。

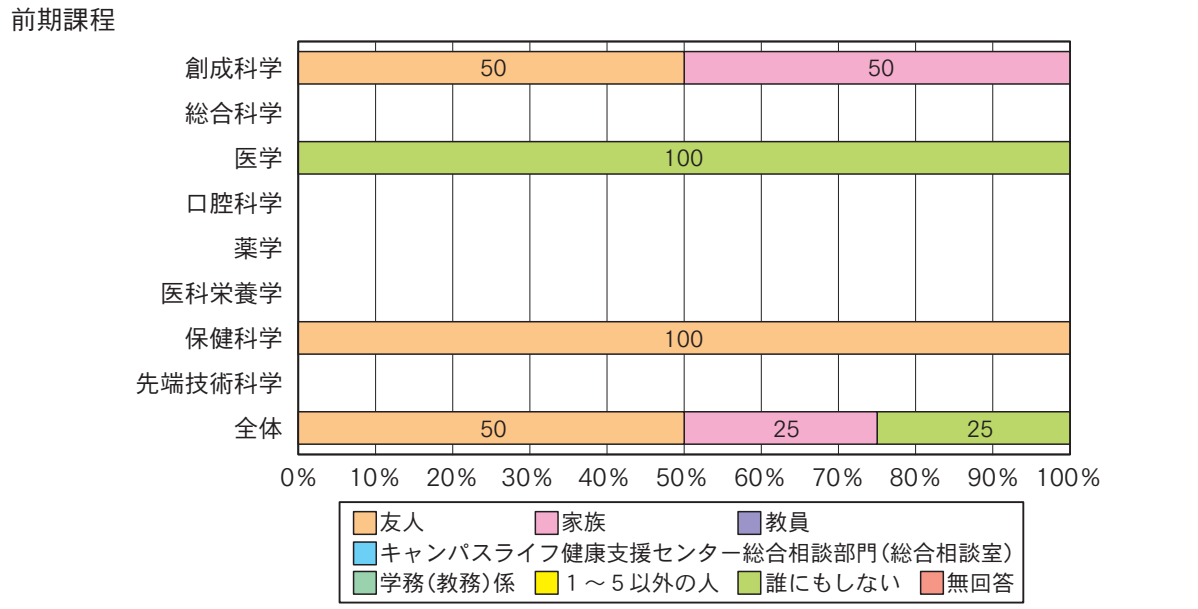

図５－１－３　セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

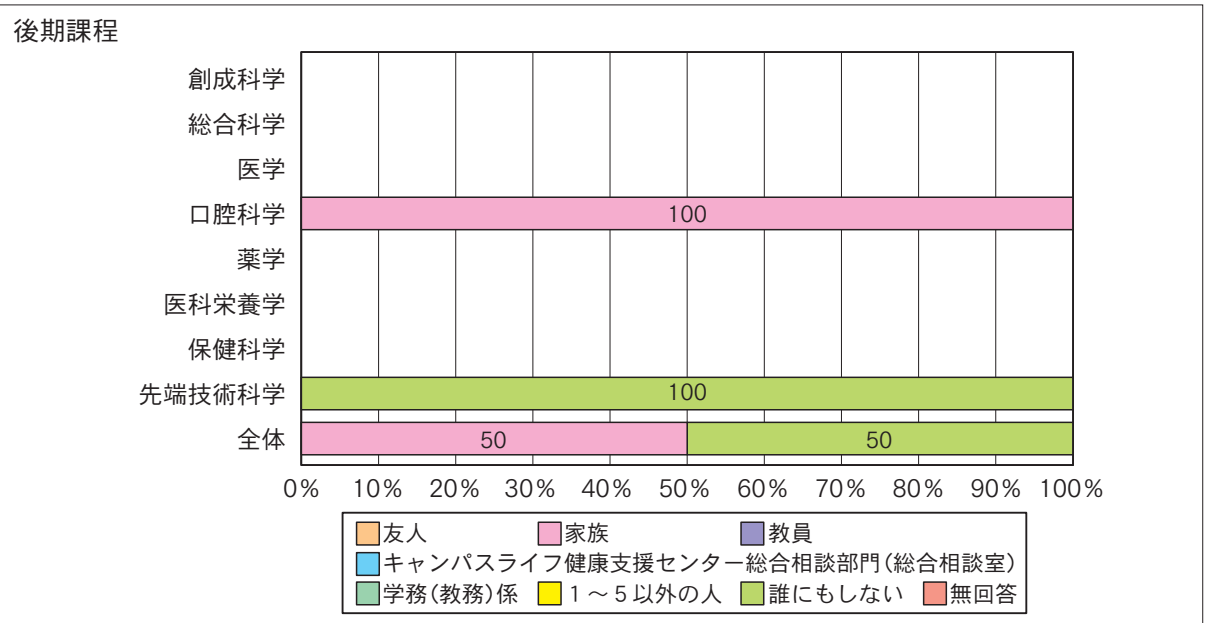

図５－１－４　セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

前期課程の学生ではアカハラの相談相手は友人と家族が同率で最も多く，その次に教員という順になっている。後期課程の学生では友人，教員，学務（教務）係が同率となっており，前期課程の学生とは異なり，家族を相談相手として選択する者はいなかった。前期課程の学生に比べると後期課程の学生は教職員との信頼が深いと推察される。また，前期課程，後期課程いずれにしても総合相談部門（総合相談室）への相談が少なくない。学生らが総合相談部門（総合相談室）を専門支援機関として認識し，必要に応じて活用できている様子が伺える。

前期課程

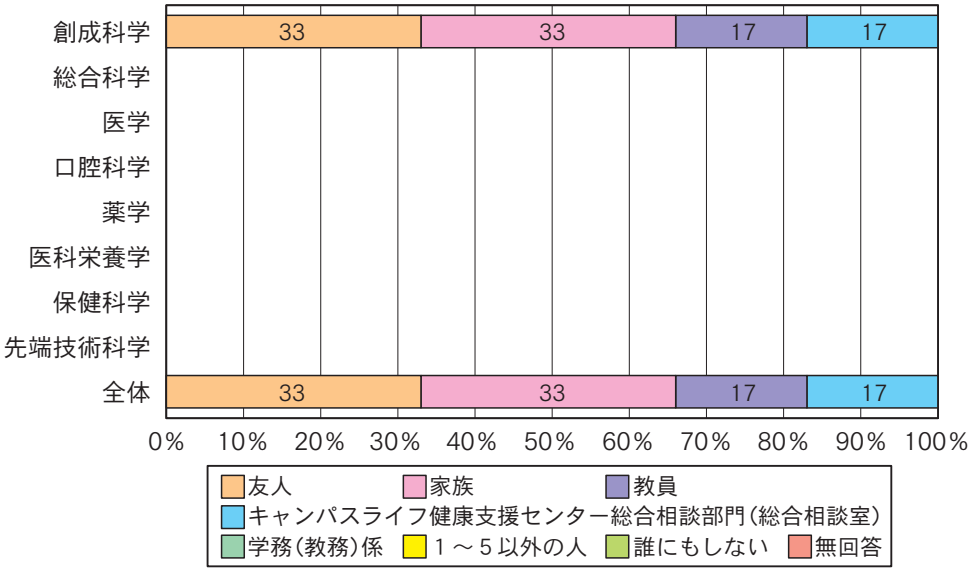

図５－１－５　アカハラを受けた時の相談者（複数回答可）

後期課程

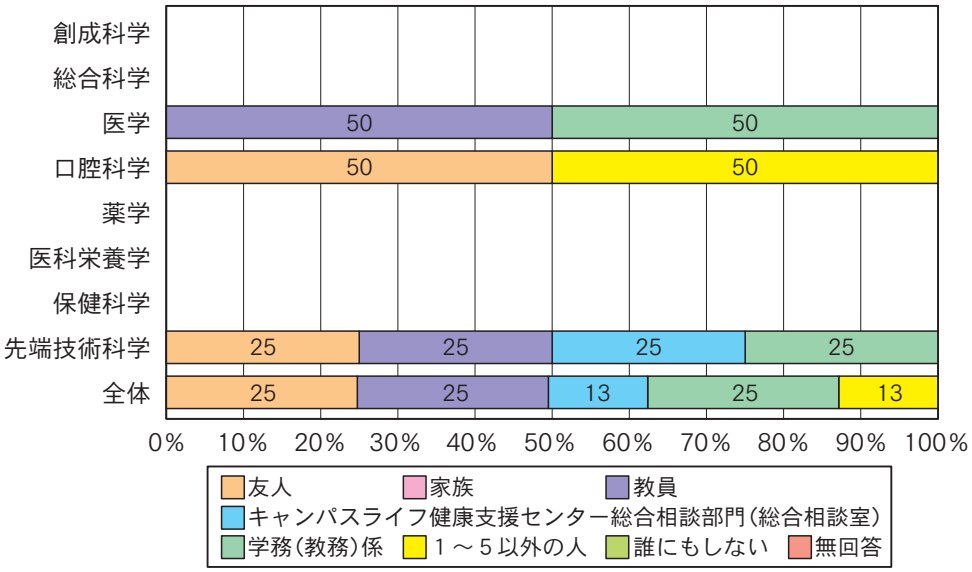

図５－１－６　アカハラを受けた時の相談者（複数回答可）

5－2　総合相談部門（総合相談室）の利用（図5－2－1～図5－2－4）

総合相談部門（総合相談室）を利用したことのある学生は前期課程で7%，後期課程で12%と前期課程では第8回調査時よりも減少し，後期課程では増加している。総合相談部門（総合相談室）は何か困ったり悩みが生じたりしたときに初めて利用する機関であるのでこの利用割合はかなり高いと考えられる。一方，総合相談部門（総合相談室）の存在を知らない学生が前期課程で31%，後期課程で33%となっていることから，総合相談部門（総合相談室）の周知活動を積極的に継続して行うことが求められる。

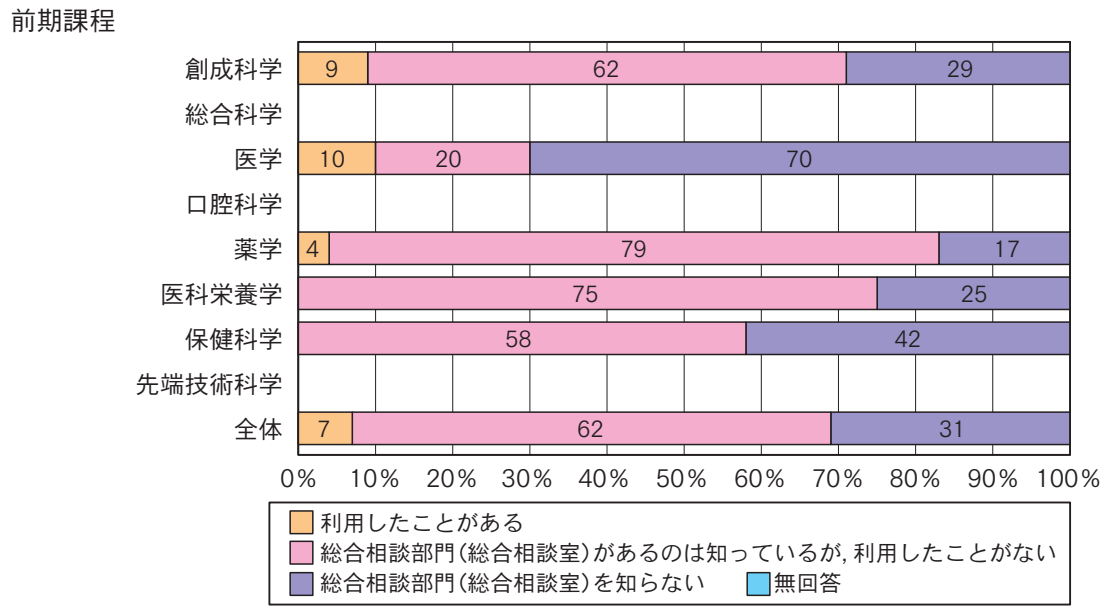

図5－2－1　総合相談部門（総合相談室）の利用の有無と認知度

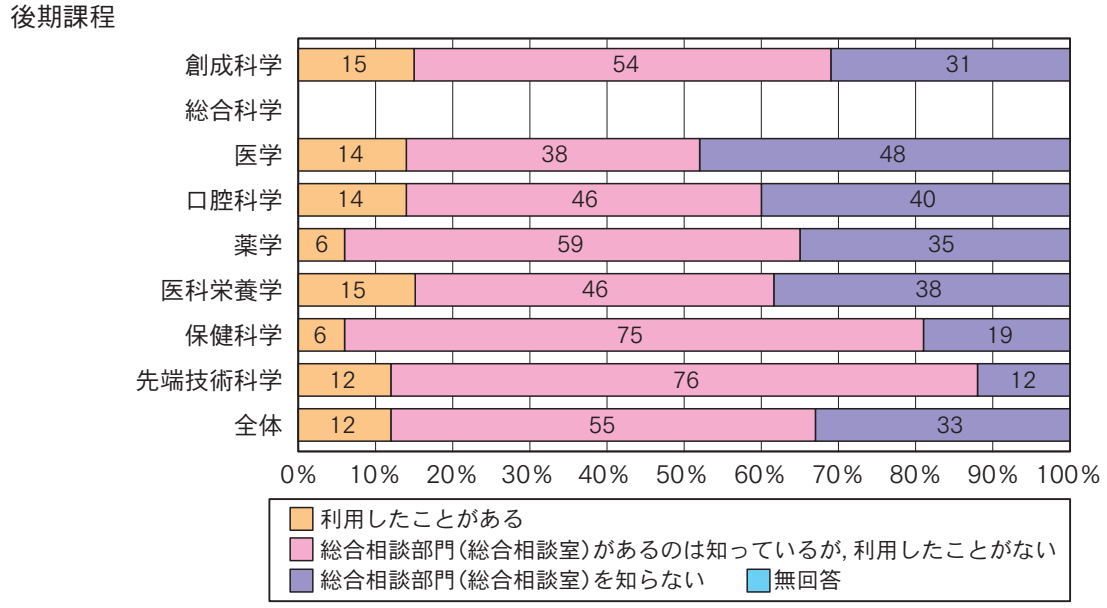

図5－2－2　総合相談部門（総合相談室）の利用の有無と認知度

利用後の満足度に関しては約9割の学生が満足であるまたはどちらかといえば満足であると回答しており，カウンセリング等による効果は十分にあると考えられる。ただ，不満足であると回答している学生が数名存在する。それらの原因を分析し，学生らのニーズを満たす支援のあり方をさらに検討することが求められる。

前期課程

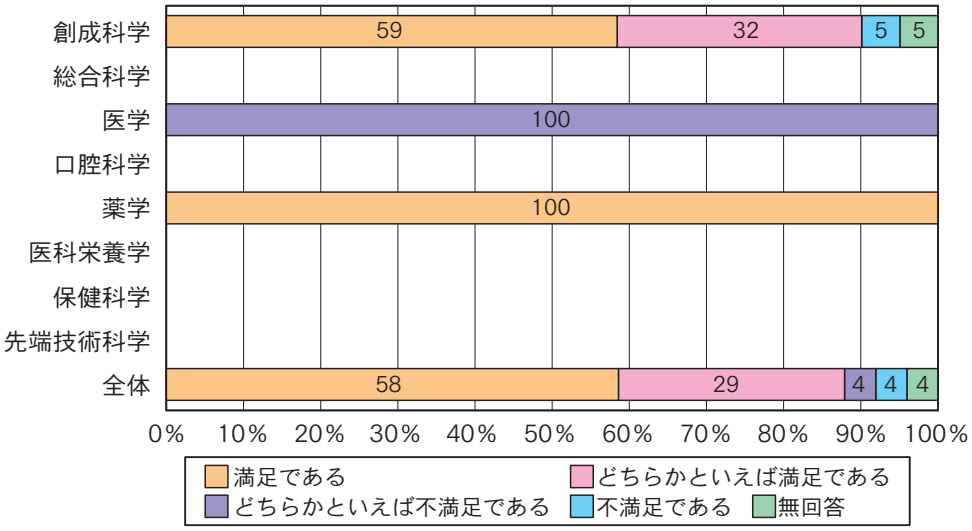

図５－２－３　総合相談部門（総合相談室）利用後の満足度

後期課程

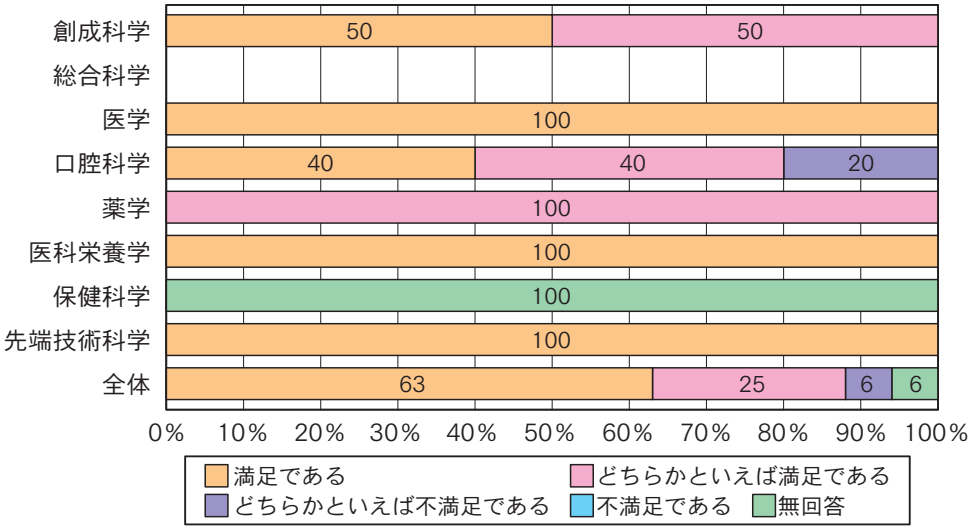

図５－２－４　総合相談部門（総合相談室）利用後の満足度

5－3　犯罪被害・交通事故・違法薬物使用（図5－3－1～図5－3－6）

事件事故に関しては「盗難（盗み）に遭ったことがある」が最も高く，前期課程で7%，後期課程で4%の学生が被害を受けており，第8回調査時よりわずかながら減少した。戸締りを十分にせず外出することも被害を受けることにつながっていると推察される。また傷害や痴漢など身体に危害が及ぶような被害も認められており，学生へのさらなる注意喚起が必要である。

前期課程

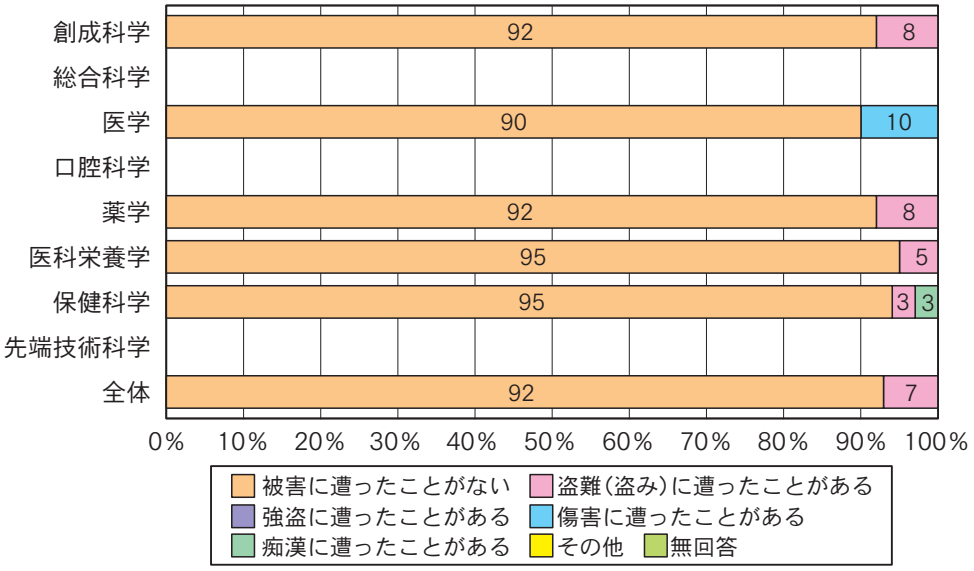

図5－3－1　犯罪被害経験の有無とその種類（複数回答可）

後期課程

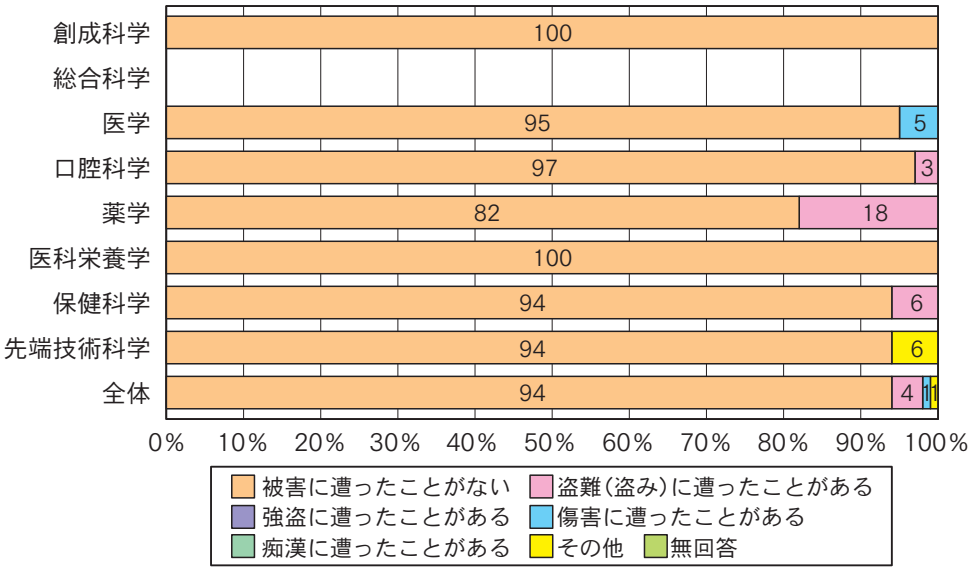

図5－3－2　犯罪被害経験の有無とその種類（複数回答可）

交通事故に関しては前期課程で22%。後期課程で27%の学生が経験しており，第8回調査時と似たような結果となった。交通事故の加害者となったケースも少なくない。最近では，スマートフォンを見ながら自転車に乗るなど，周囲への注意がおろそかになっている学生も目立ち，重大事故につながる恐れがある。学生の心身の安全や命を守るために，今一度，自転車やバイク等の運転マナーの再確認を学生に促すことが求められる。

前期課程

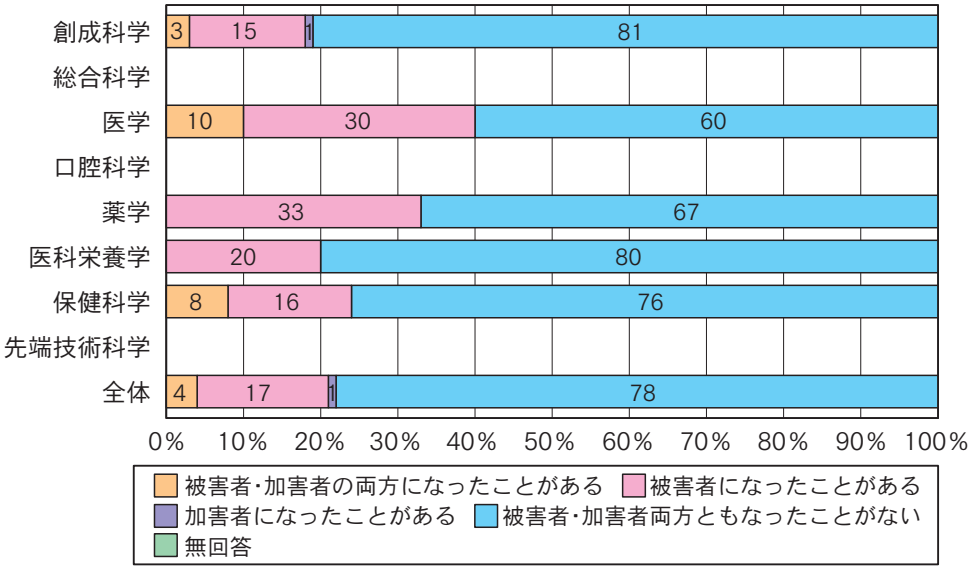

図５－３－３　交通事故遭遇の有無と加害・被害の別

後期課程

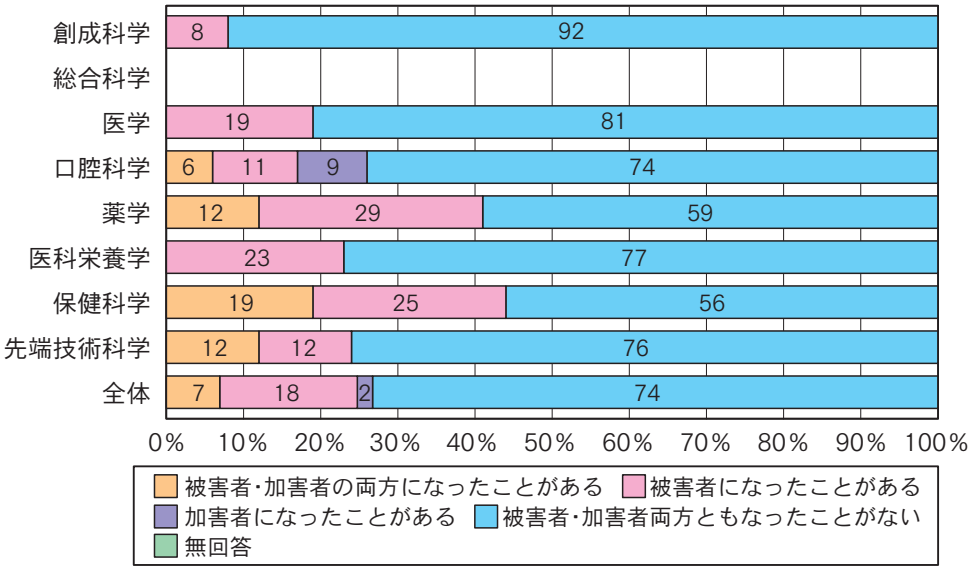

図５－３－４　交通事故遭遇の有無と加害・被害の別

違法薬物の使用についてありと回答した学生が前期課程，後期課程両方においてごく少数ながら存在し，違法薬物を入手しようとすれば入手できる状況が存在することを示唆している。最近は直接購入するという入手方法だけでなく闇サイトなどからネット経由で手軽に購入できることも影響していることが推察される。入手経路を完全に断つことができないため，薬物の危険性を繰り返し周知させていく活動が必要である。

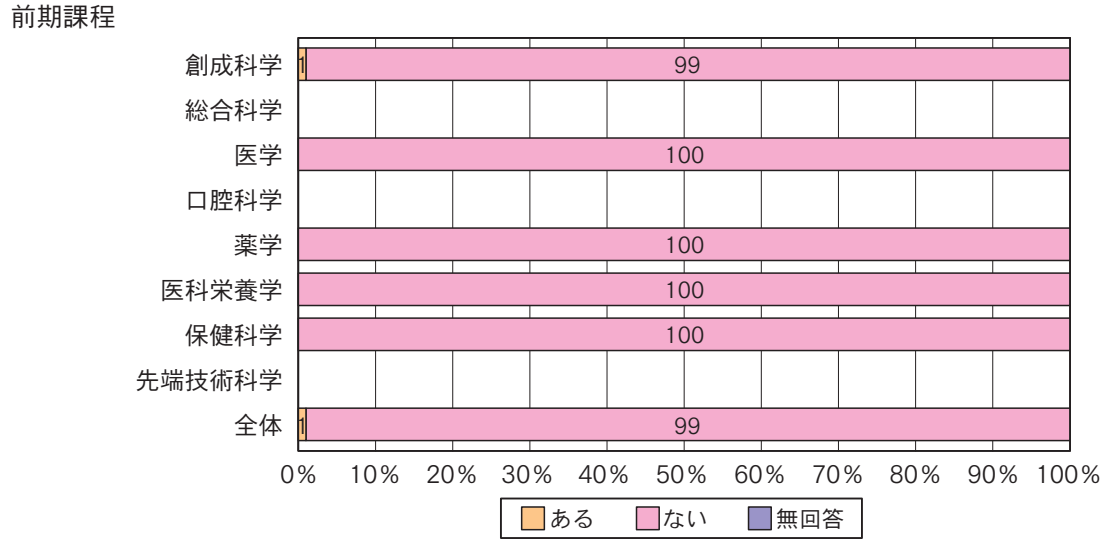

図５－３－５　違法薬物使用の有無

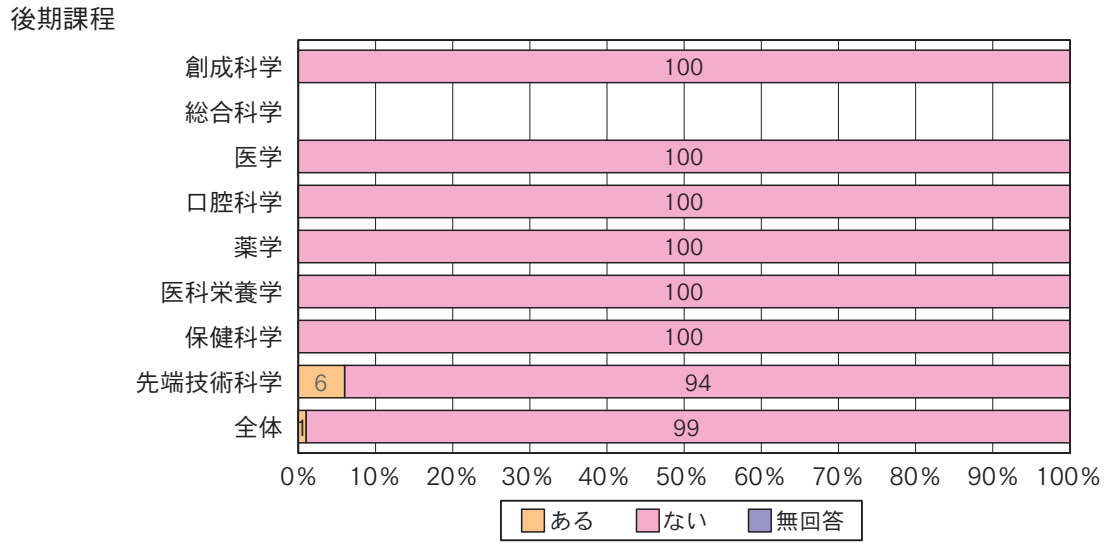

図５－３－６　違法薬物使用の有無

5－4　大学事務室の対応（図5－4－1，図5－4－2）

前期課程で約9割，後期課程でほぼ全員の学生が大学事務室の対応について満足しているまたはどちらかと言えば満足していると回答しており，第8回調査時よりも満足していると回答した者の割合が多くなっている。大学事務室が個々の学生に日々丁寧に対応している成果であると推察される。ただし，研究科・教育部間で満足度の差があるように見受けられるので満足度が低かった研究科・教育部においては引き続き学生への対応改善に努めることが求められる。

前期課程

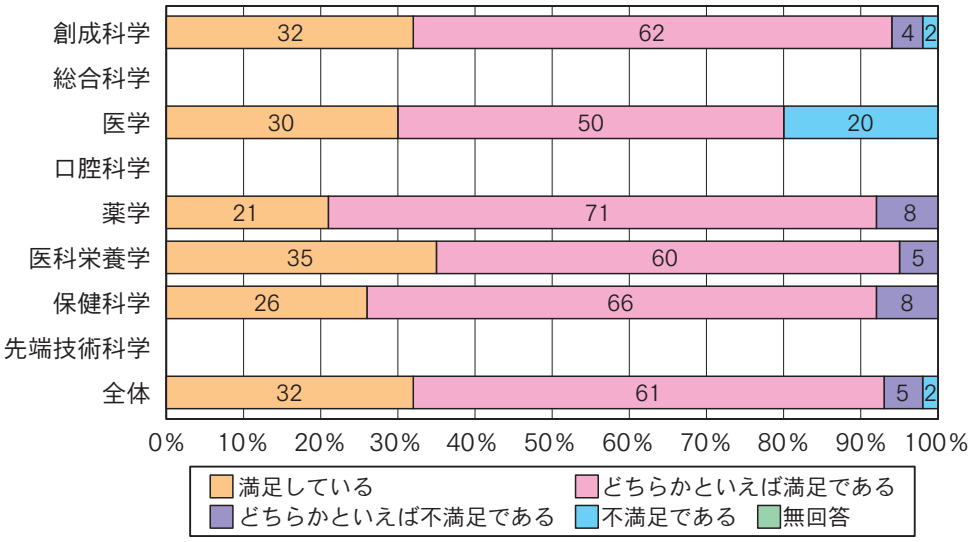

図5－4－1　大学事務室の対応への満足度

後期課程

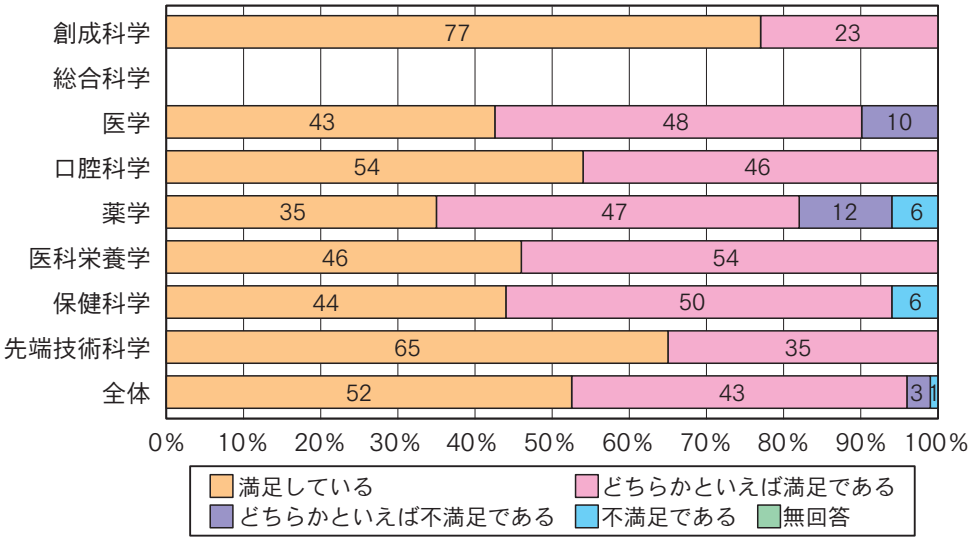

図5－4－2　大学事務室の対応への満足度

第６章　修学状況について

６－１　教育理念・方針と教育に対する満足度（図６－１－１～図６－１－６）

前期課程において，所属する研究科･教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は72％（良く知っている：14％，だいたい知っている：58％）であり，いずれも前回の第８回調査（68％（良く知っている：12％，だいたい知っている：56％））からわずかに増加していた（図６－１－１）。前回の第８回の調査で大幅に増加したことから，今回の増加の割合は妥当な結果と判断できる。また，いずれの研究科･教育部においても60％以上と，６割以上の学生が概ね教育理念や方針を知っていると判断できる。一方，後期課程では，全体として75％の学生が認知しており，第８回調査から11ポイントと大幅に増加した（図６－１－２）。教育部別に見ると，総合科学の100％から医学の62％とばらつきはあるものの，前回調査

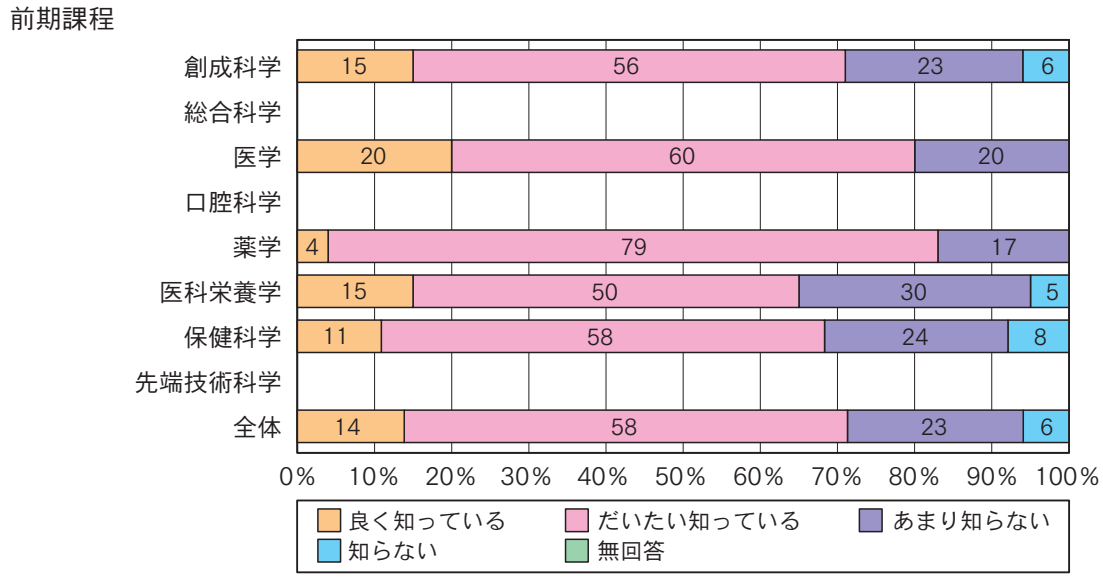

図６－１－１　教育理念や教育方針の理解度

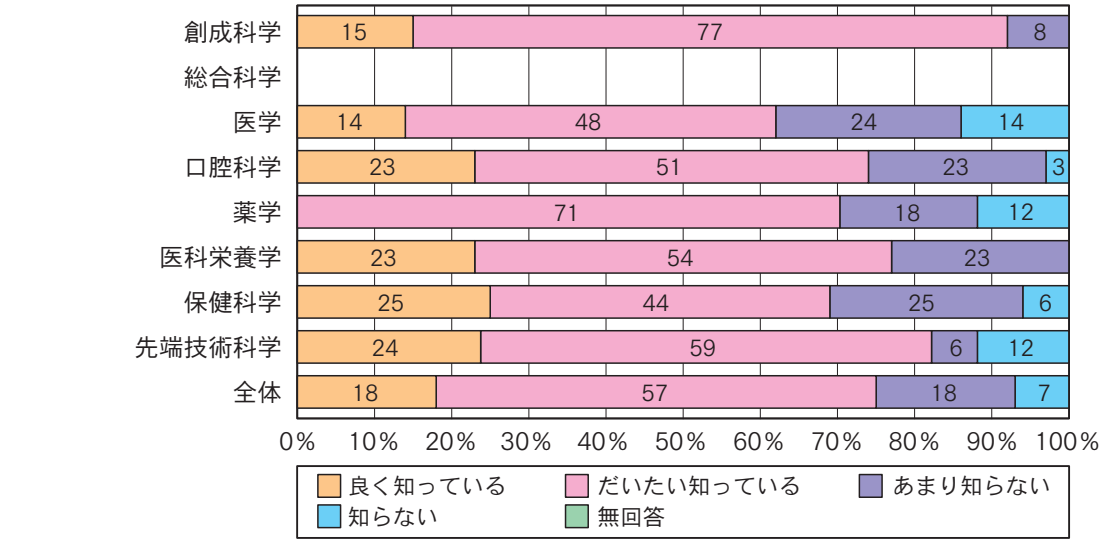

図６－１－２　教育理念や教育方針の理解度

の最低ポイント41％（薬科学）と比較すると，ばらつきは大幅に解消されている。これに伴って全体的なポイントは大幅に上昇しており，教育理念の周知は順調に進んでいると判断できる。留学生については，「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が，前期課程で96％，後期課程で80％であり，前回調査の81％および64％に比べて大幅に上昇している。留学生への周知も順調に進んでいると判断できる数値であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して，教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ，前期課程では93％，後期課程では89％が「思う」と答えており（図６－１－３，図６－１－４），前回の第８回調査から前期課程は２ポイント上昇し，後期課程は変化はなかった。留学生については，「思う」と回答した割合が，前期課程，後期課程共に100％であった（前回調査ではそれぞれ95％および85％）。いずれの結果も，満足できる数値であると思われる。

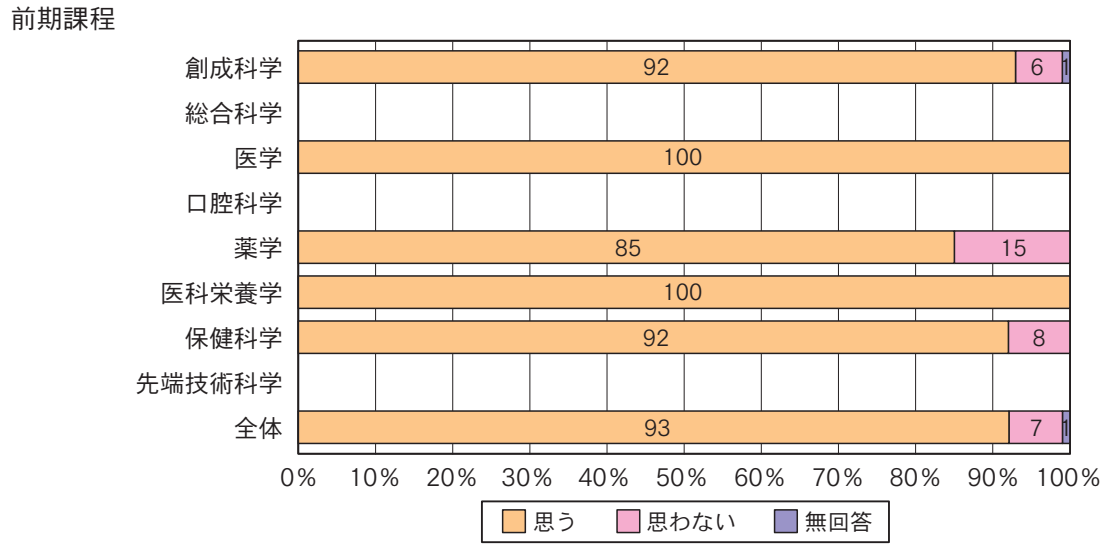

図６－１－３　教育理念や教育方針に沿った教育の実践度

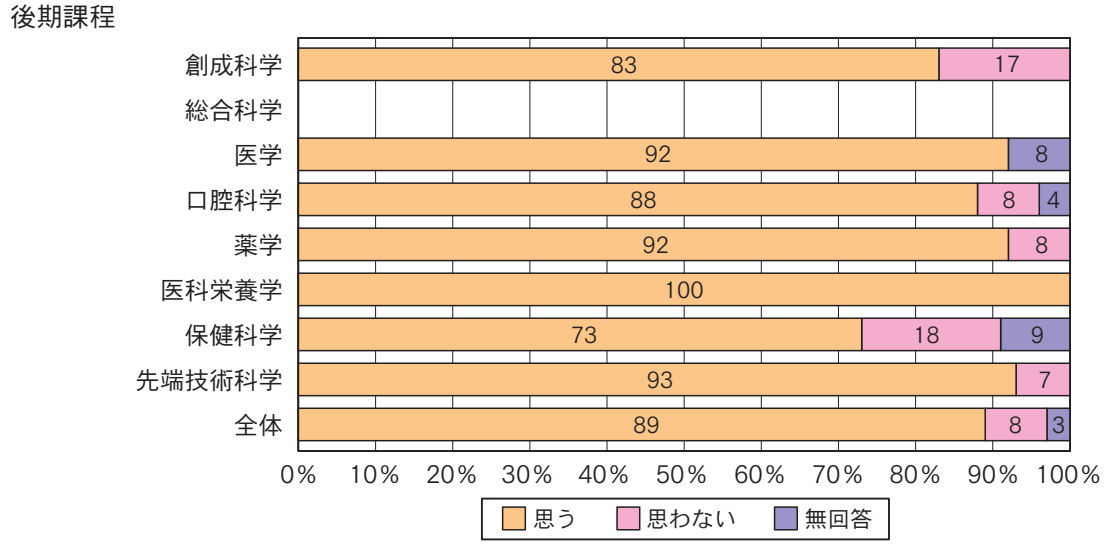

図６－１－４　教育理念や教育方針に沿った教育の実践度

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は36％であり，「どちらかといえば満足している」と答えた学生（60％）と合わせると96％となり（図６－１－５），前回の第８回調査同様，十分満足できる数値であると思われる。注目すべき点としては，「満足している」と答えた学生が前回の29％から大幅に増加しており，前回よりも高い満足度が得られている結果となっている。後期課程では全体で93％がほぼ満足しており，こちらも十分満足できる数値であった（図６－１－６）。留学生についても，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合は，前期課程，後期課程共に100％であり，こちらも満足できる数値であった。

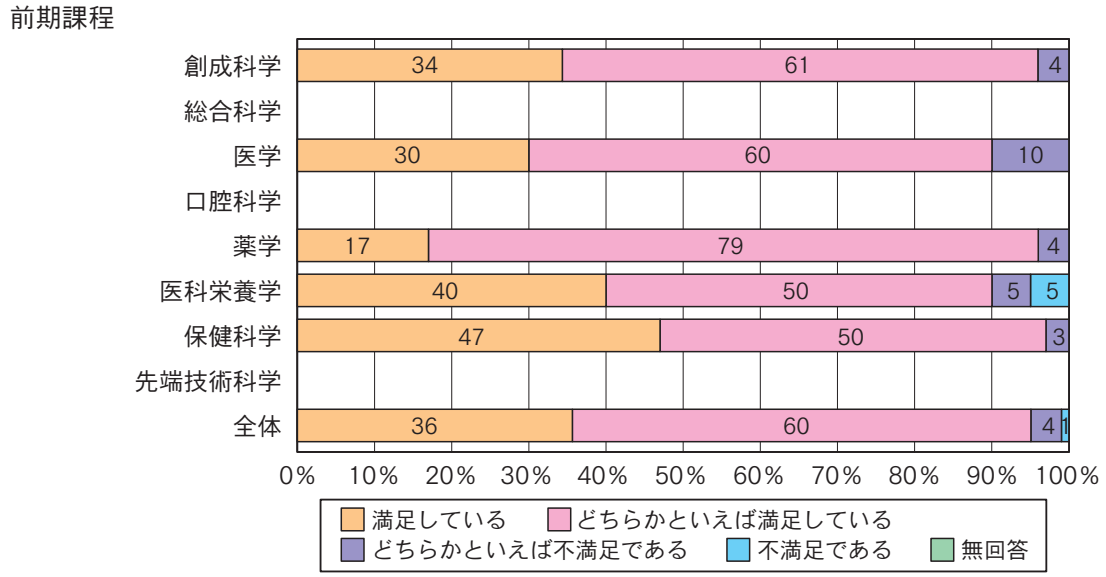

図６－１－５　教育課程の満足度

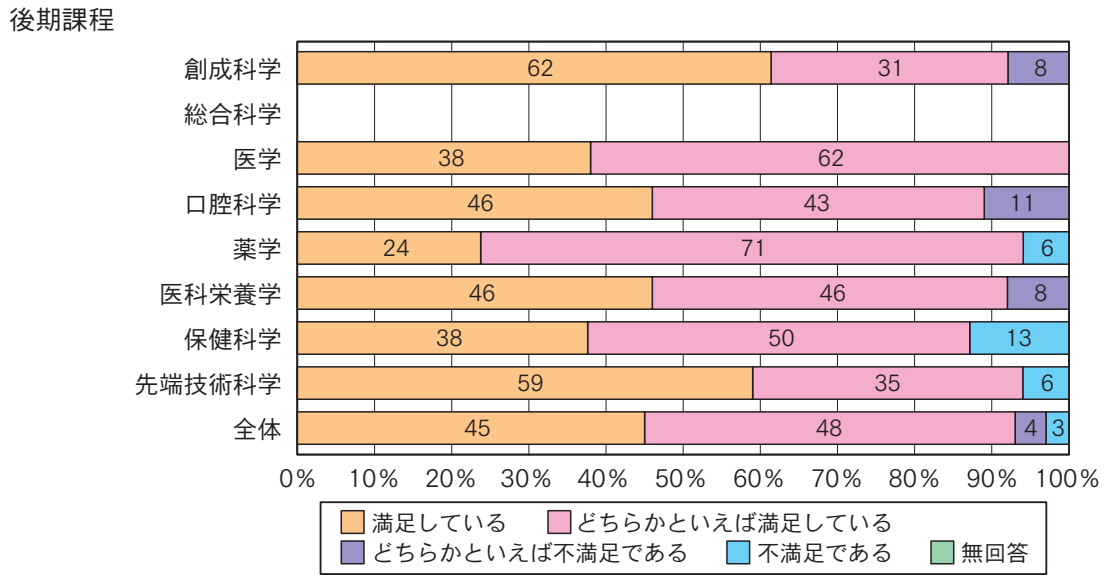

図６－１－６　教育課程の満足度

6－2　本学を選んだ理由と目的（図6－2－1～図6－2－10）

大学院進学に関する調査では，徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行った。まず徳島大学卒業生について，「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は全体で93%であった（図6－2－1）。後期課程では「第一志望だった」と回答した学生が前回の82%から93%へと増加しており，本学の大学院への進学を希望する学生が増加していると判断できる（図6－2－2）。

前期課程

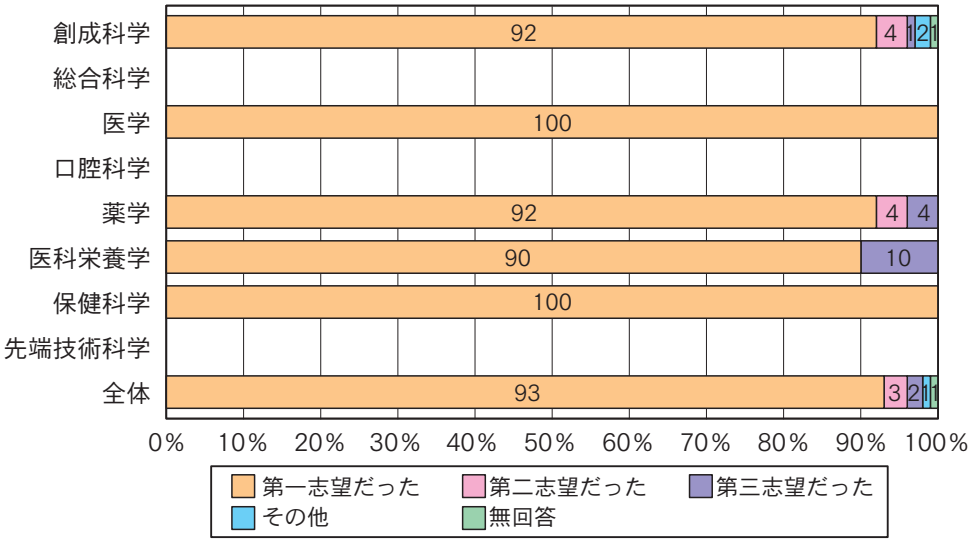

図6－2－1　徳島大学卒業者の志望順位

後期課程

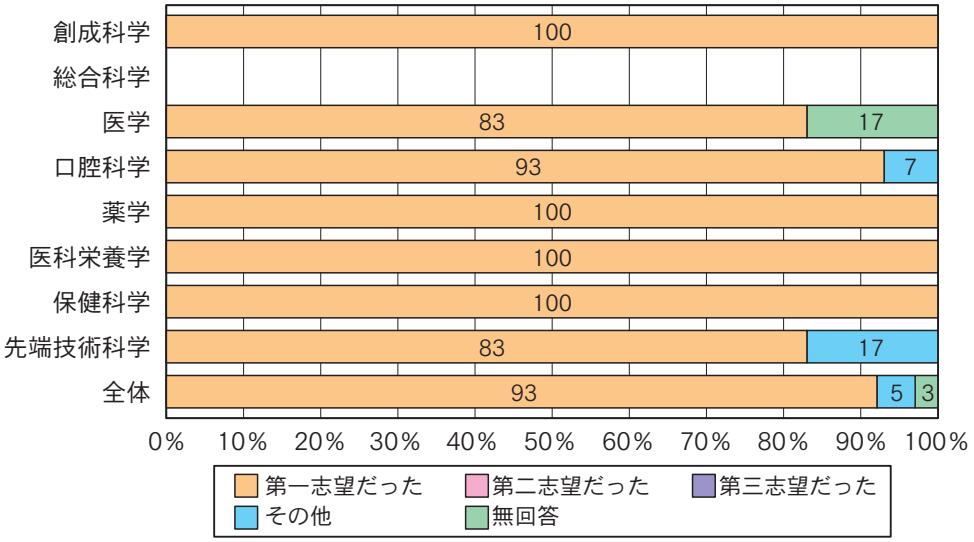

図6－2－2　徳島大学卒業者の志望順位

他大学を卒業した学生については，前期課程に進学した学生の 89％が「第一志望だった」と回答しており，前回第８回の調査（81％）からわずかに増加していた（図６－２－３)。一方，他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については，「第一志望だった」が 63％であり，前回調査の 73％から減少していた（図６－２－４)。本学の後期課程の情報発信力をより高めていく必要がある。

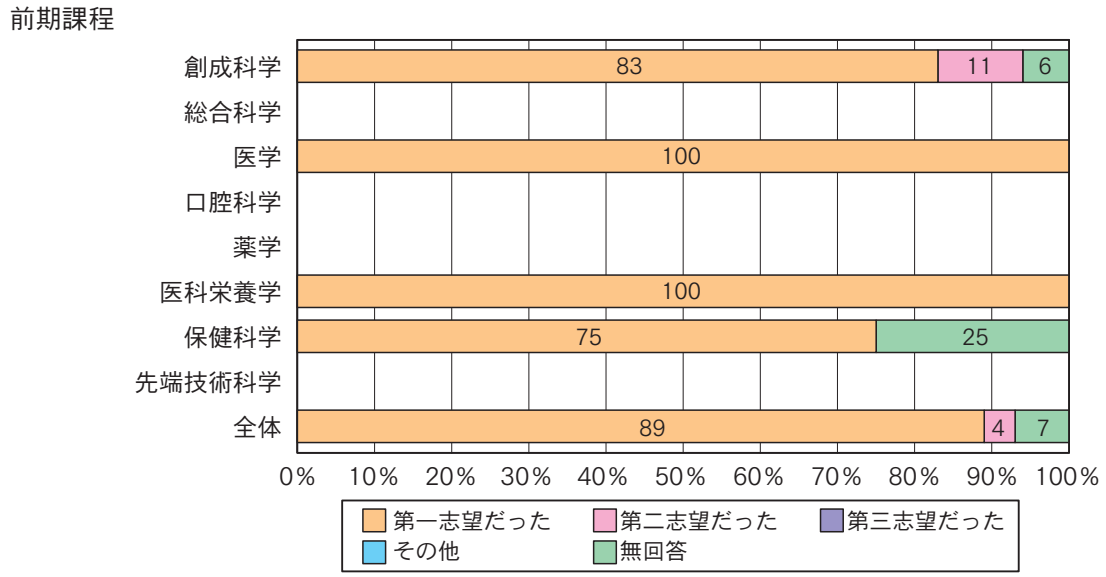

図６－２－３　他大学卒業者の志望順位

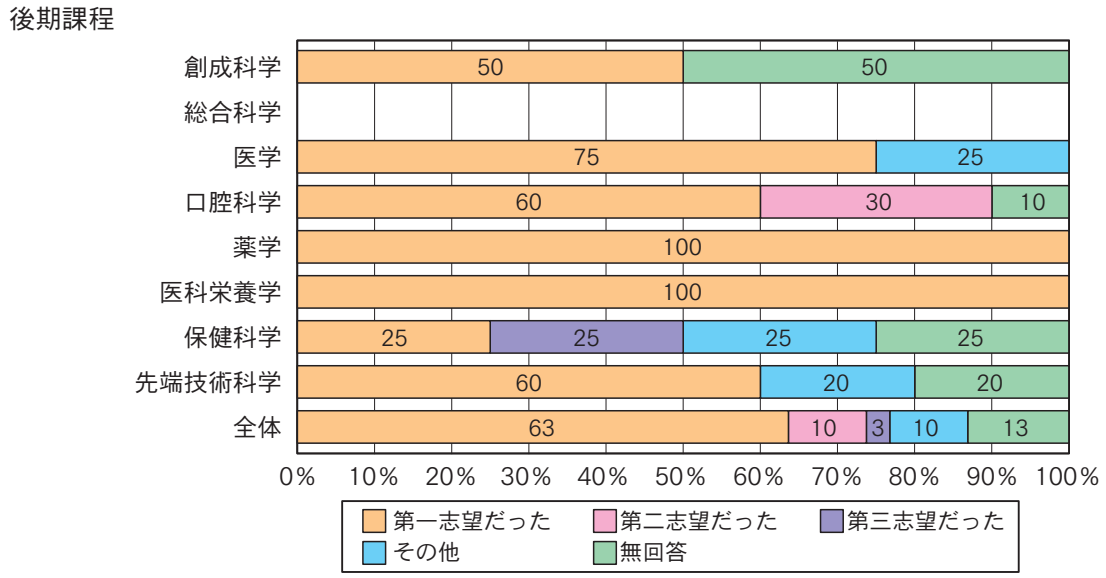

図６－２－４　他大学卒業者の志望順位

前期課程の学生の主な入学理由は，「出身大学だから」が 28％，「希望する研究分野があるから」が 17％，「継続して就学するため」が 15％，「就職等将来を考慮して」が 14％となっており，第８回調査とほぼ同様の結果であった（図６－２－５)。研究科・教育部別に見ると，概ね「出身大学だから」，「希望する研究分野があるから」，「就職等将来を考慮して」が理由の上位を占めるが，その割合は薬学，創成科学，保健科学では「出身大学だから」が多く，医学，医科栄養学では「希望する研究分野があるから」が多い。また，各研究科・教育部共に「就職等将来を考慮して」の割合が高く，大学院進学後に希望の就職先に就けると考えている学生が多いことが伺える。後期課程の学生は，「希望する研究分野があるから」が最も多く（図６－２－６)，留学生についても両課程ともに「希望する研究分野があるから」

と回答した学生の割合が最も多かった。これらは，本学の研究分野が進学希望の学生に選ばれ，大学院の教育・研究が正しい方向性にあること，また大学院修了後に希望の就職先に就職できていることの証拠であると思われる。

前期課程

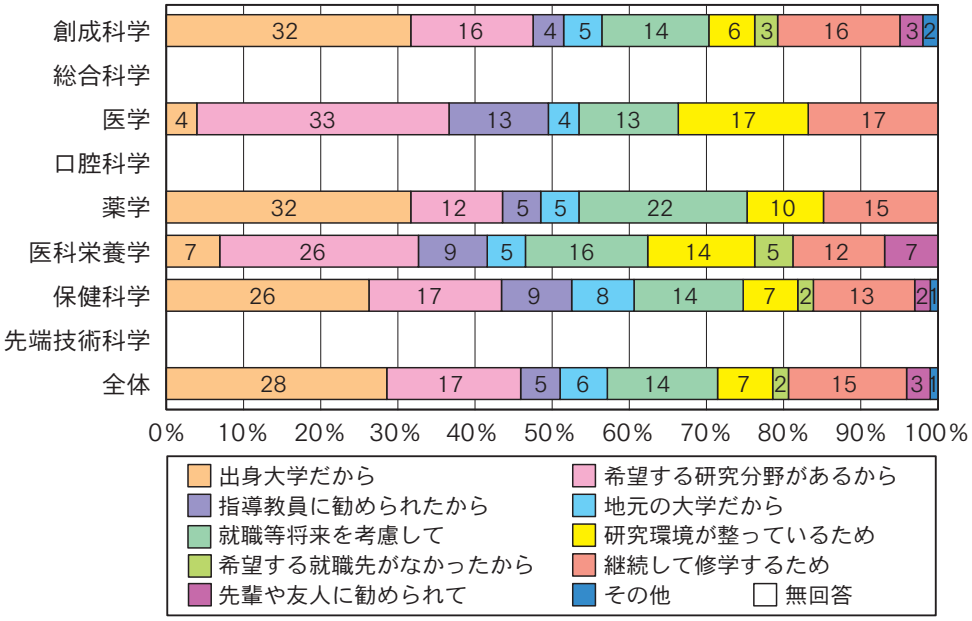

図６－２－５　主な大学院進学理由（複数回答可）

後期課程

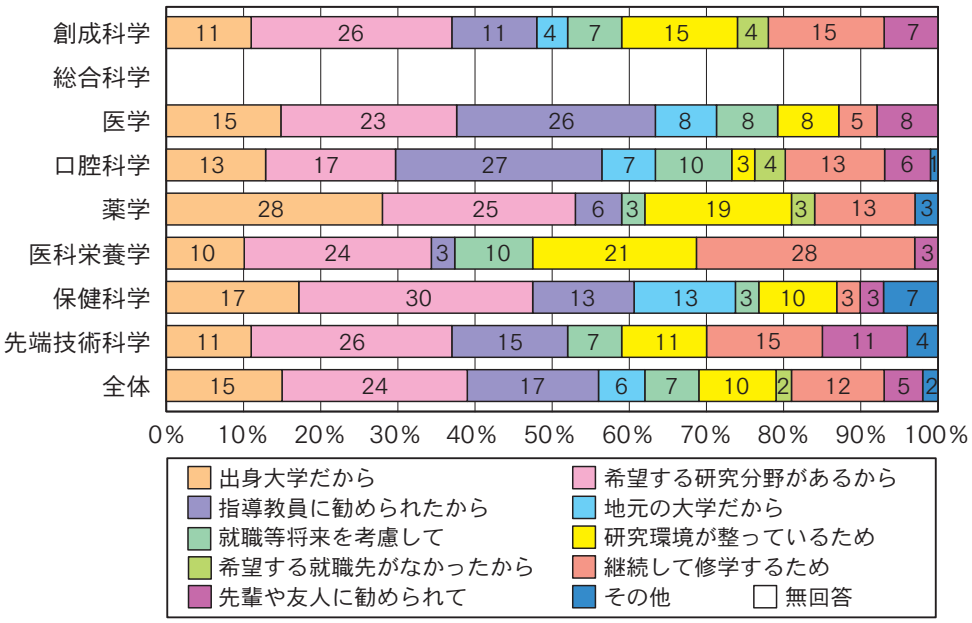

図６－２－６　主な大学院進学理由（複数回答可）

大学院での勉学で目指すものとして，前期課程全体では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」を目指す学生が最も多く（39%），次いで，「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が35%，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」が22%と，前回第８回調査とほぼ同じであった（図６－２－７）。研究科・教育部別に見ると，保健科学（68%）では「高度専門職業人」を目指す学生が特に多いのに対し，医学（50%）と薬学（46%）では「研究者」を目指す学生が，創成科学（38%），医科栄養学（45%）では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」を目指す学生が，口腔科学（50%）では「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」

がそれぞれ最も多い等，学生の意識の違いが現れる結果となった。後期課程の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」（35％）と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」（32％）を目指す学生が多く，次いで「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」が18％となっている（図６－２－８）。第８回の調査まで「大学教員」を目指す学生の割合が続けて増加している傾向がみられていたが，今回の調査では「大学教員」を目指す学生が減少していた。大学教員が疲弊している現状を見て，学生にとってアカデミア職が魅力ある職に映らなくなっているのかもしれない。留学生については，前期課程では「高度専門職業人」と「高度で知的な素養のある社会人」が多く，後期課程では「研究者」と「高度専門職業人」が共に39％と最も多く，日本人学生と同様の結果となった。

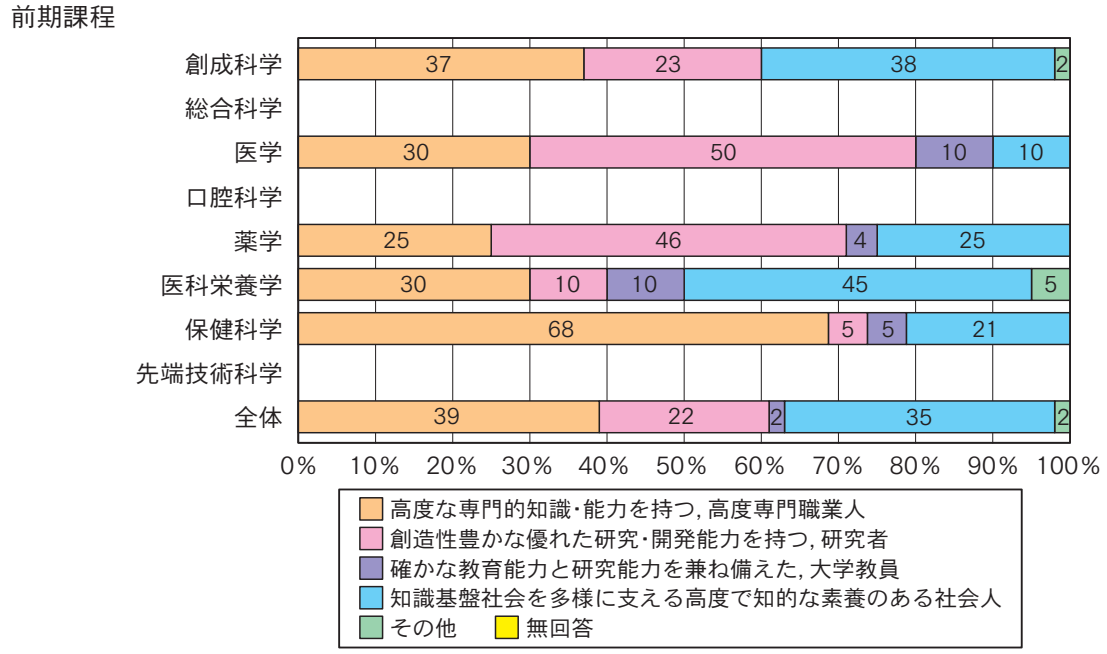

図６－２－７　大学院での勉学で目指すもの

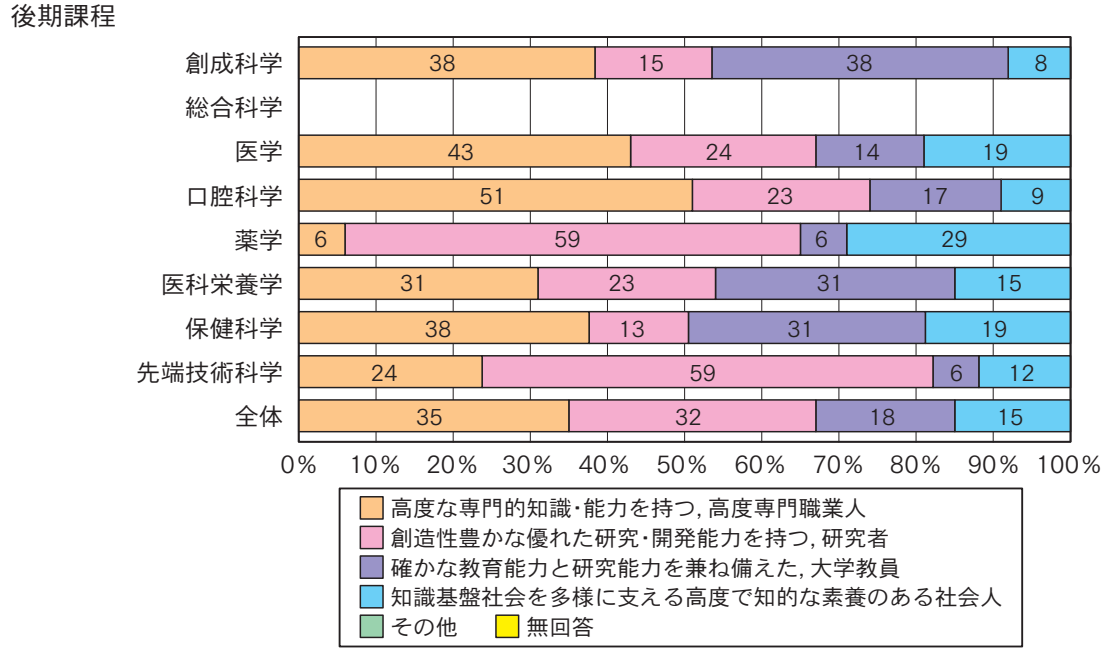

図６－２－８　大学院での勉学で目指すもの

図６－２－９および図６－２－10に示した授業の内容や進め方に関する満足度については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程で95％（満足している：36％，どちらかといえば満足している：59％），後期課程で94％（満足している：51％，どちらかといえば満足している：43％）であり，前回第８回調査よりわずかに高い結果となり，両課程とも「満足している」との回答割合が増加しており，授業に高い満足感を感じているようである。一方，「不満足」と回答した学生が前期課程では医学（10％）と医科栄養学（10％），後期課程では保健科学（13％）で一定数見られ，細かいニーズに対応した授業設定なども今後必要となっていくかもしれない。留学生については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程，博士後期課程共に100％であり，こちらも授業に高い満足感を感じているようである。

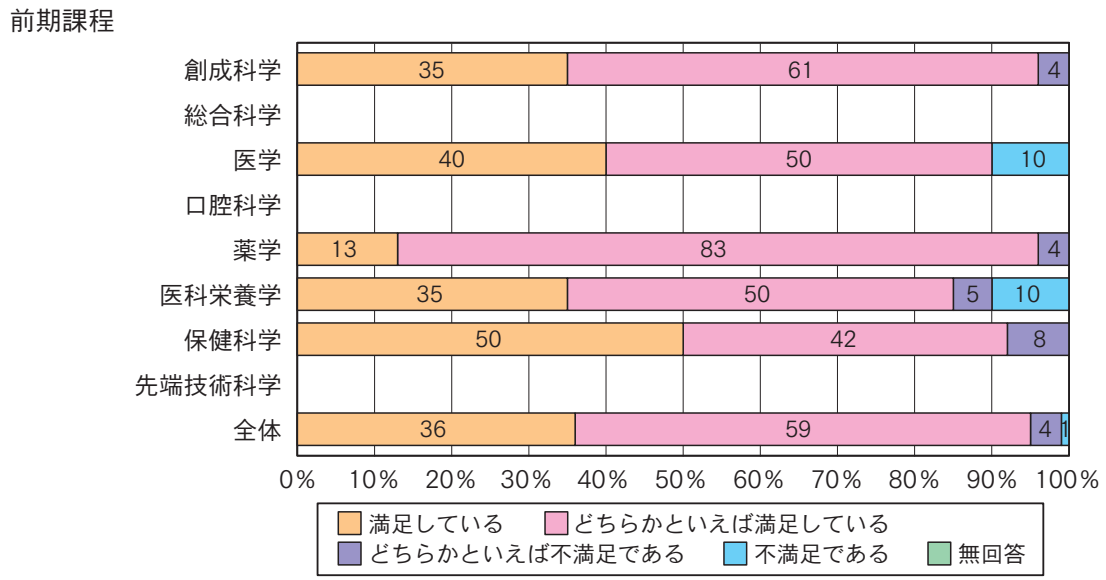

図６－２－９　授業の内容・進め方の満足度

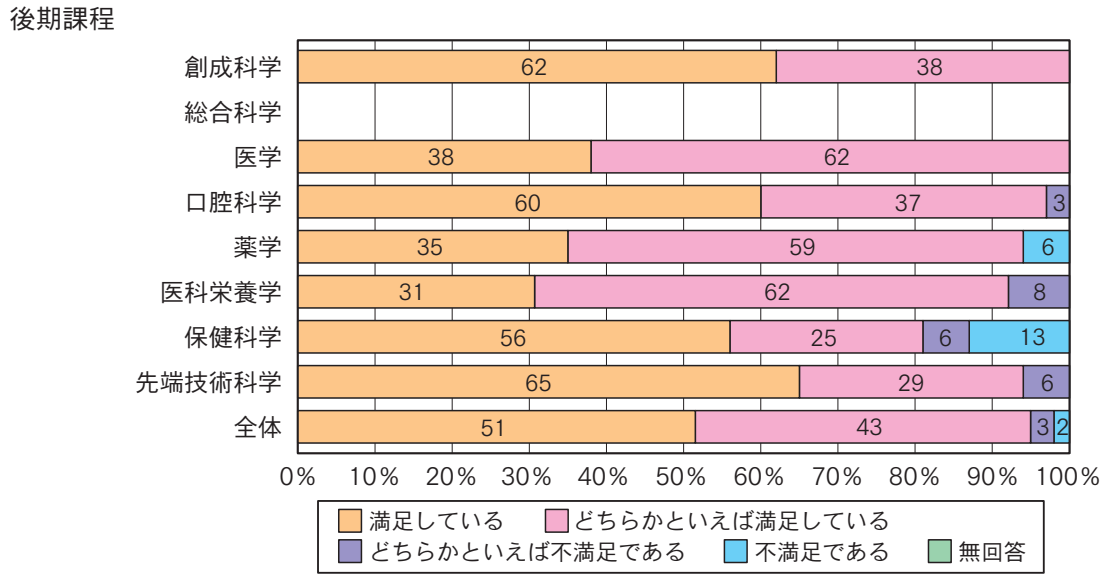

図６－２－10　授業の内容・進め方の満足度

6－3　研究活動と研究指導（図6－3－1～図6－3－14）

前期課程の学生全体では、授業以外の自分で行う1週間の平均研究活動時間は，「20～40時間未満」との回答（27%）が最も多く，次いで「10～20時間未満」が18%，「90分～5時間未満」が16%であった（図6－3－1）。週20時間以上の研究活動を行っている学生（49%）は，前回調査より2ポイントの微増結果となったが，前々回に対しては7ポイント少なく，特に「90～5時間未満」と回答した学生割合が増加し二極化していることが懸念される。保健科学は研究活動に「40時間以上」を費やすと回答した学生はおらず，20時間未満が8割を超えている。

後期課程の学生については，研究活動に費やす1週間の平均時間が20時間以上は全体の46%，60時間以上は13%で，前回調査よりともに11ポイント，5%の減少であり大きく減少している（図6－3－2）。保健科学では，研究活動に20時間未満と回答した学生が68ポイントで，前回調査より改善したものの依然として研究時間が少ない。留学生については，週20時間以上研究活動を行っている割合が，

前期課程

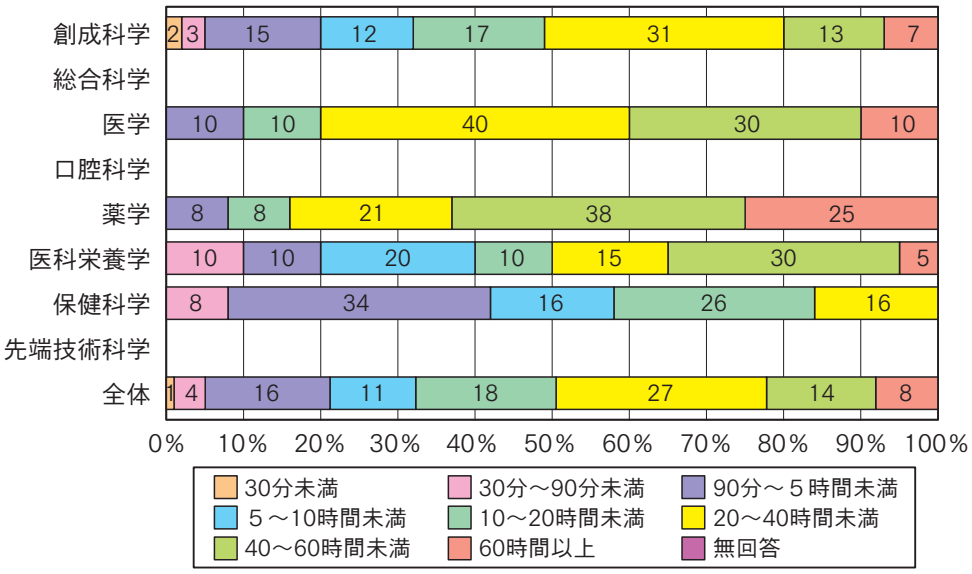

図6－3－1　1週間の研究活動時間

後期課程

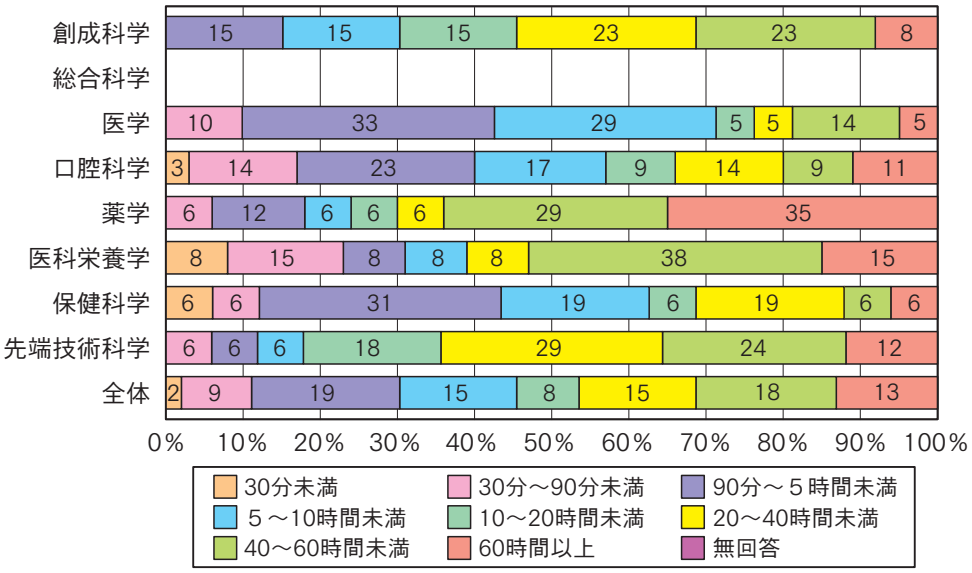

図6－3－2　1週間の研究活動時間

前期課程で 26%，後期課程で 66%であり，前回調査と同様大幅に少ない状況が持続している。留学生および後期課程での研究時間減少は，新型コロナ禍による，研究活動制限が少なからず影響しているものと思われる。

研究の直接の指導教員は，前期課程全体で教授 55%，准教授 28%，講師 11%（図 6 － 3 － 3），後期課程全体で教授 67%，准教授 13%，講師 11%（図 6 － 3 － 4）であった。留学生についても前・後期課程とも，教授または准教授による直接指導が 8 割以上であり，特に問題を感じられない。

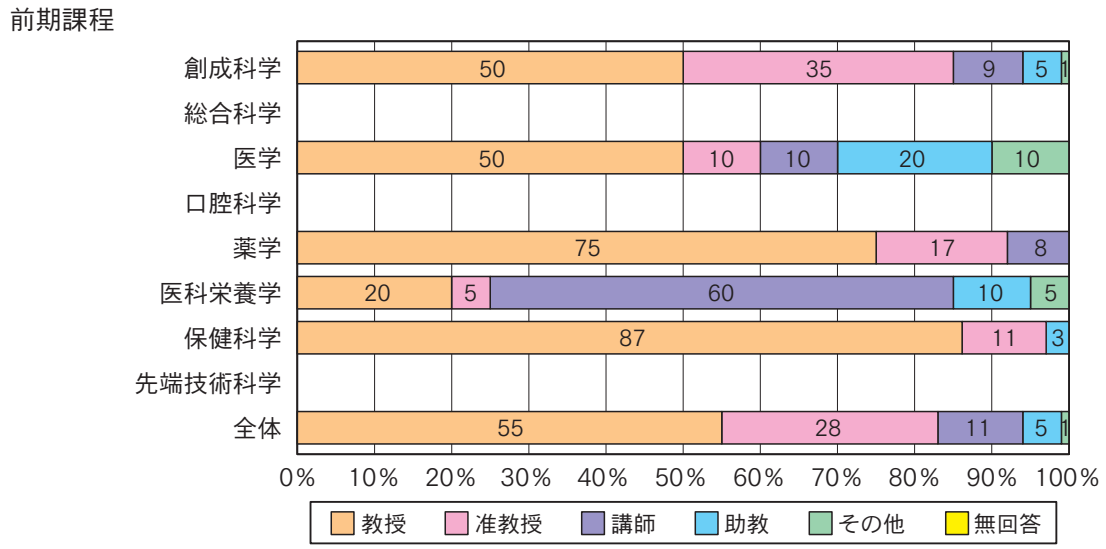

図 6 － 3 － 3　研究の指導教員

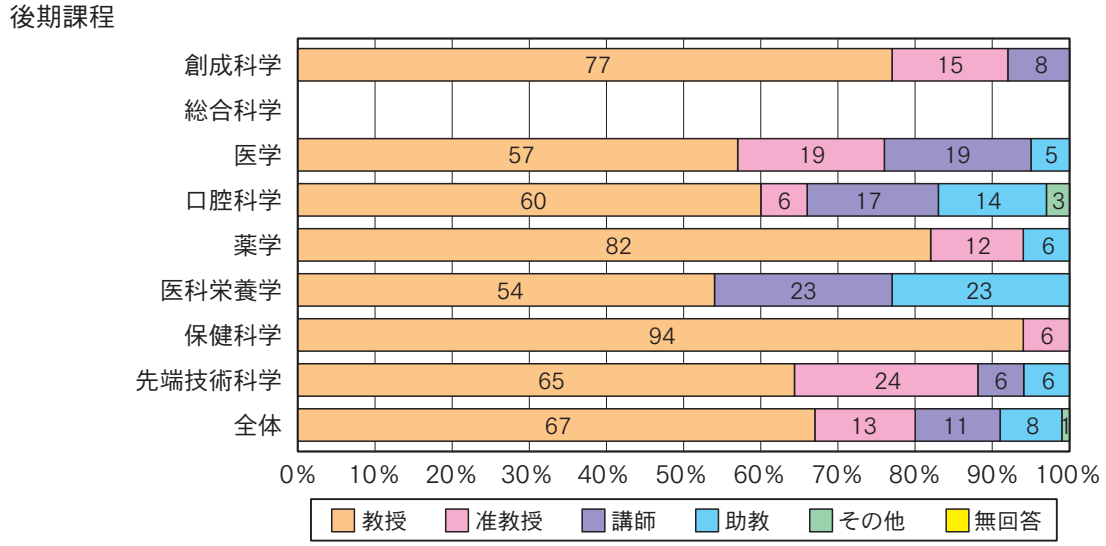

図 6 － 3 － 4　研究の指導教員

学生が指導教員から研究指導を受けている１週間の平均時間は，前期課程全体では「30 ～ 90 分未満」が最も多く（45％），次いで「90 分～５時間未満」（32％）であった（図６－３－５）。後期課程（図６－３－６），留学生の回答も同傾向であり，新型コロナ禍以前の水準を保っている。遠隔指導等の工夫が示唆される。

前期課程

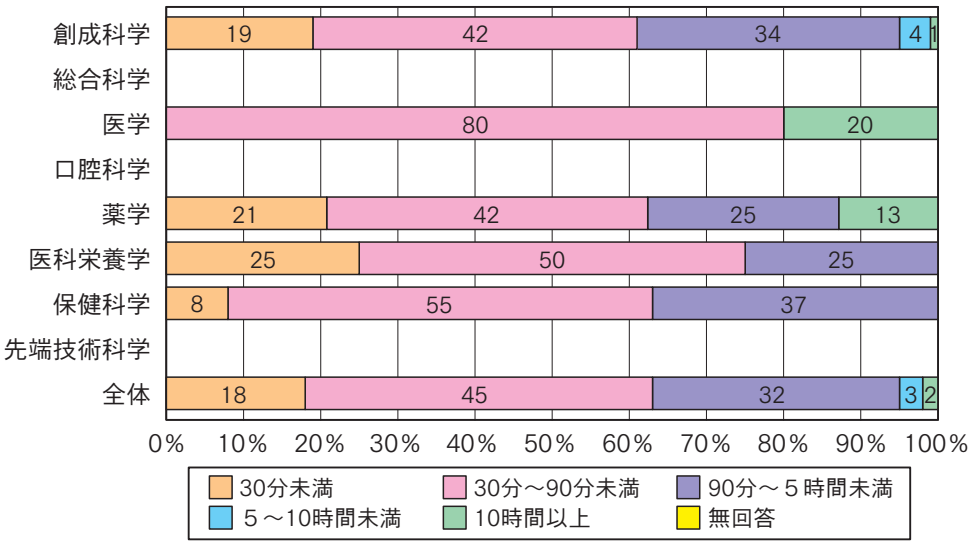

図６－３－５　１週間に研究指導を受ける時間

後期課程

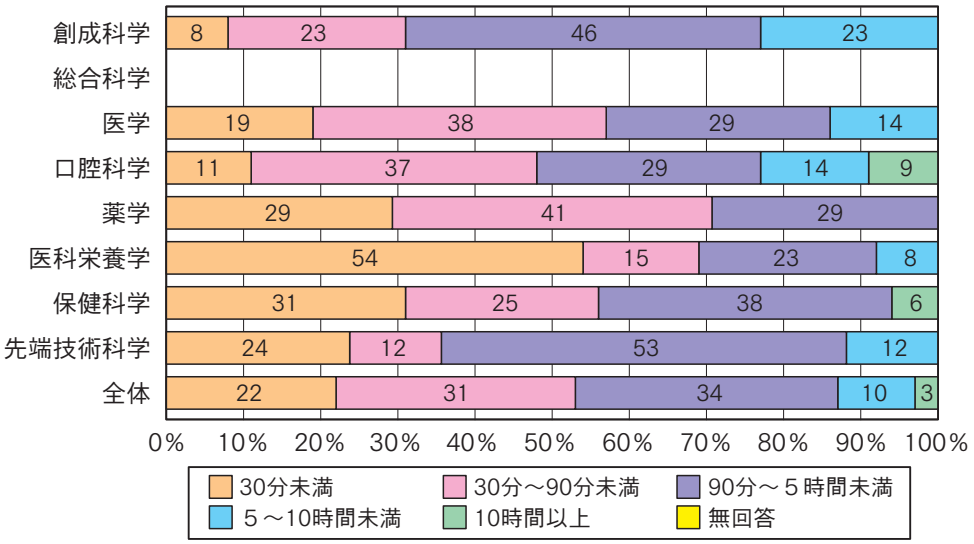

図６－３－６　１週間に研究指導を受ける時間

研究指導の内容や進め方に対して，前期課程全体では「満足している」との回答が53％で最も多く，「どちらかといえば満足している」との回答を合わせると94％であった（図６－３－７）。各研究科でもほぼ同様の傾向であるが，医科栄養学において，20％が「どちらかといえば不満足である」あるいは「不満足である」と回答し，前回調査より増加している。後期課程においても同様で（図６－３－８），全体では，94％が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しているが，医科栄養学において15％が「どちらかといえば不満足である」と回答しており，前回調査時と同様の傾向である。留学生においては，「満足している」，「どちらかといえば満足している」の回答が100％を占め，特に問題はない。一部を除き，学生への研究指導に対する満足度は概ね高く，新型コロナ禍に対応した適切な指導が行われていると思われる。

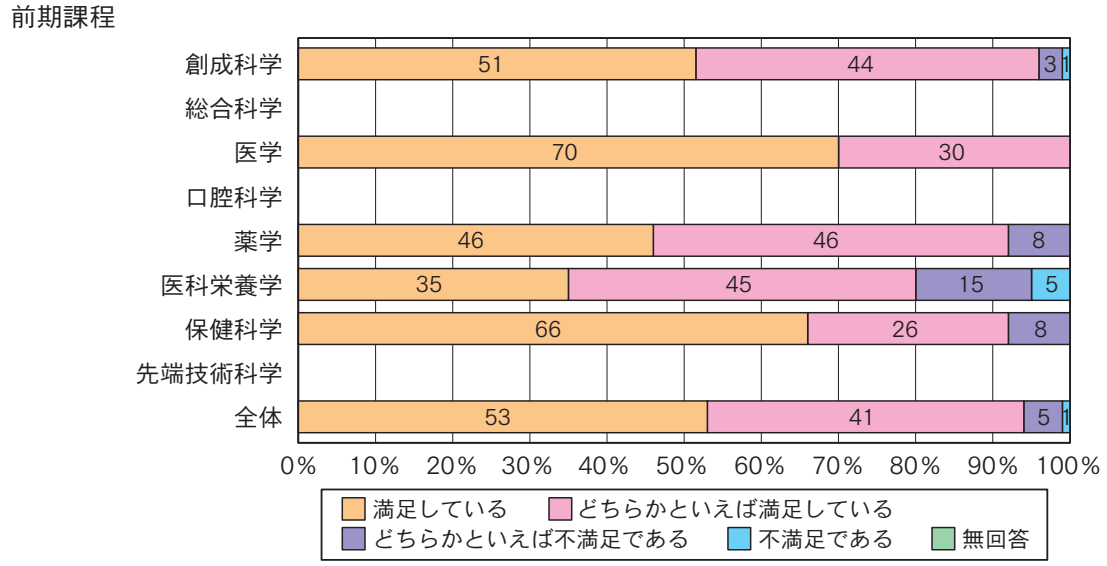

図６－３－７　研究指導についての満足度

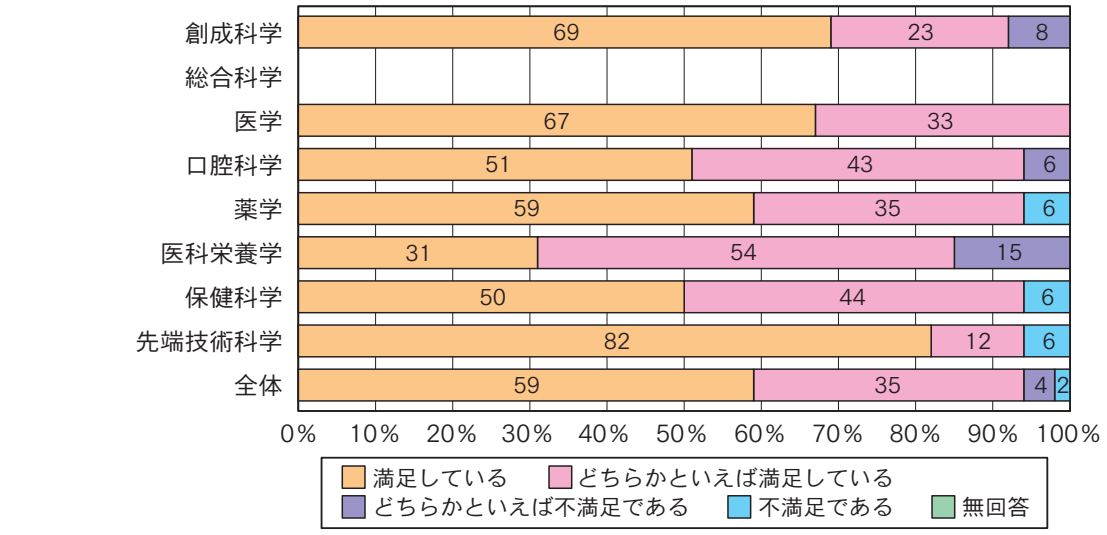

図６－３－８　研究指導についての満足度

修士論文の研究テーマに関しては，「満足している」が最も多く（52%），「どちらかといえば満足している」（45%）と合わせると，97%の学生が概ね満足している（図６－３－９）。この傾向は各研究科でほぼ共通している。博士論文の研究テーマに関する満足度（図６－３－10）も98%であり，留学生についても同様であった。

前期課程

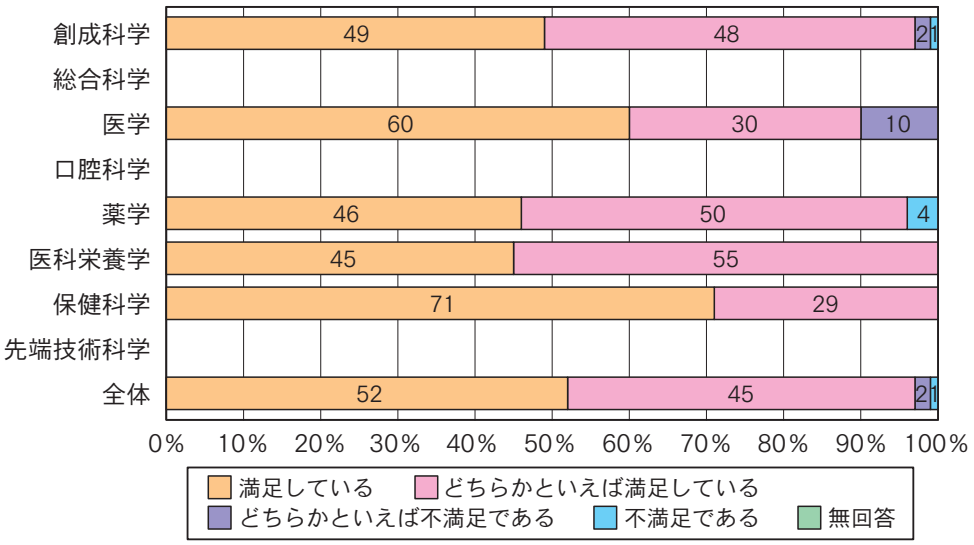

図６－３－９　修士論文の研究テーマについての満足度

後期課程

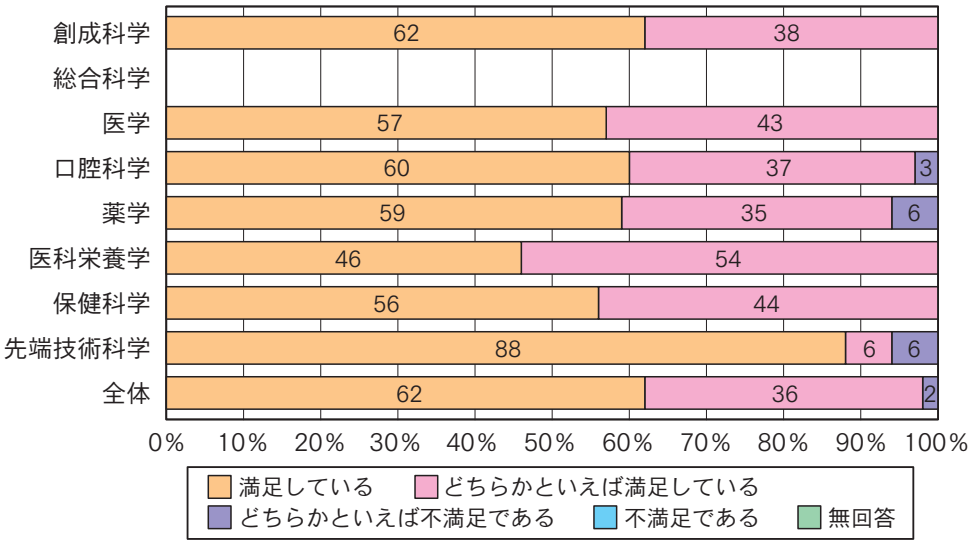

図６－３－10　博士論文の研究テーマについての満足度

指導教員とのコミュニケーションに関しては，前期課程全体では「充分とれている」との回答が最も多く（49%），次いで「ある程度とれている」（43%）であり，9割以上の学生が概ね満足している。（図6－3－11）。後期課程全体でもやはり9割の学生が「充分とれている」，「ある程度とれている」のいずれかに回答し（図6－3－12），留学生についても問題はない。ただし，前期・後期課程ともに「あまりとれていない」あるいは「あまりとれていない」の回答が1割弱あり，注意を要する。また，後期課程の医科栄養学において3割程度が「あまりとれていない」と回答しており研究指導の内容に対する回答と相関を有する。

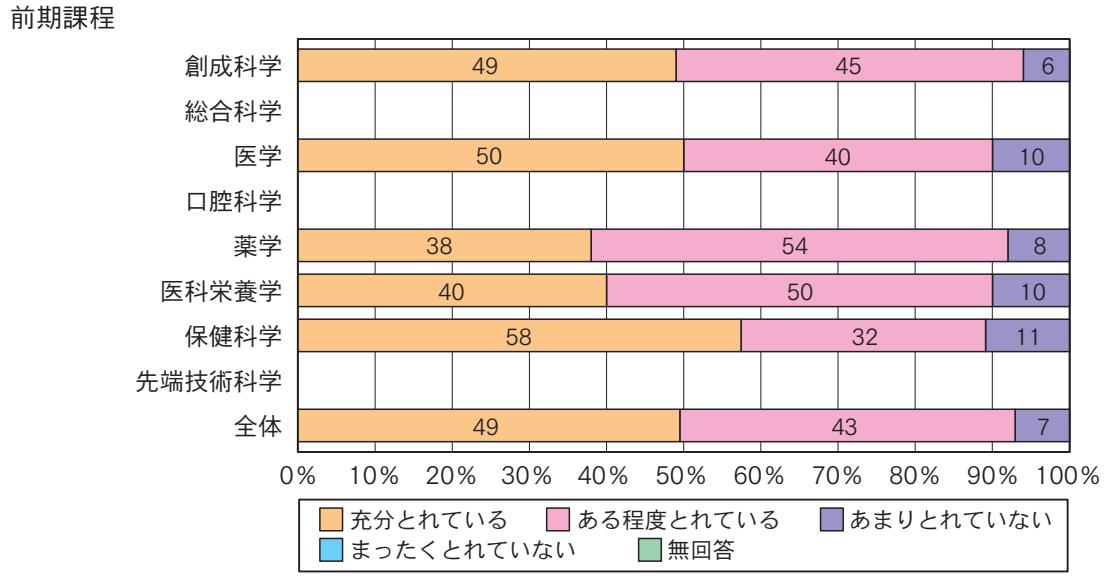

図6－3－11　指導教員とのコミュニケーション

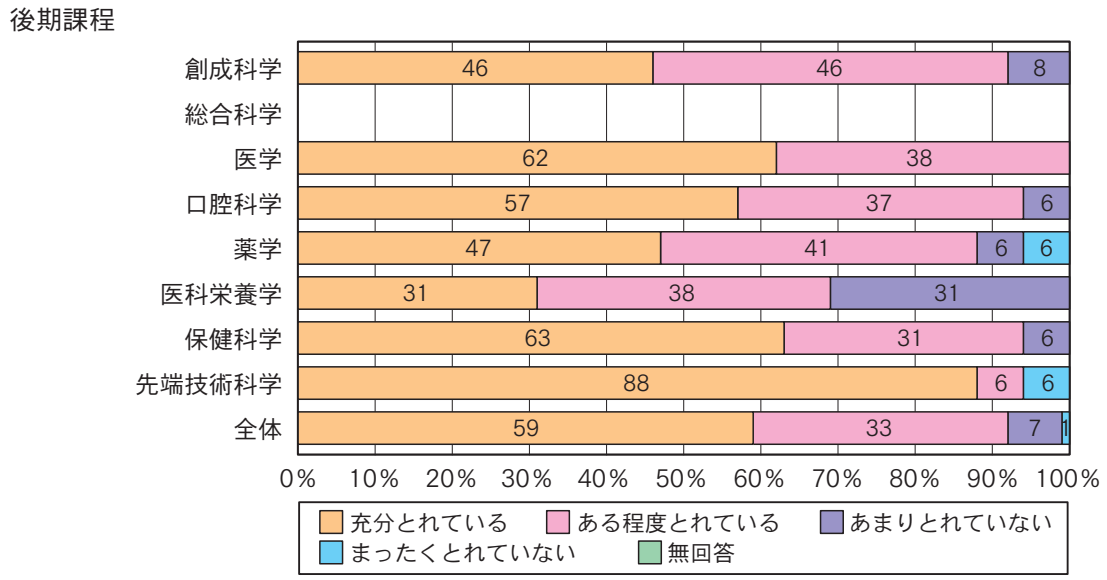

図6－3－12　指導教員とのコミュニケーション

大学院に相応しいレベルの教育がおこなわれているかどうかについては，前期課程全体では，「充分に行われている」（49％）または「ある程度行われている」（47％）の回答が大半である（図６－３－13）。後期課程の学生も同様であり，前回調査で「あまり行われていない」，「全く行われていない」とする回答が24％あった薬学において教育レベルに対する肯定的意見割合が増加し，全研究科同傾向である。（図６－３－14）。留学生においても，回答者全員が概ね相応しいレベルの教育が行われていると回答している。

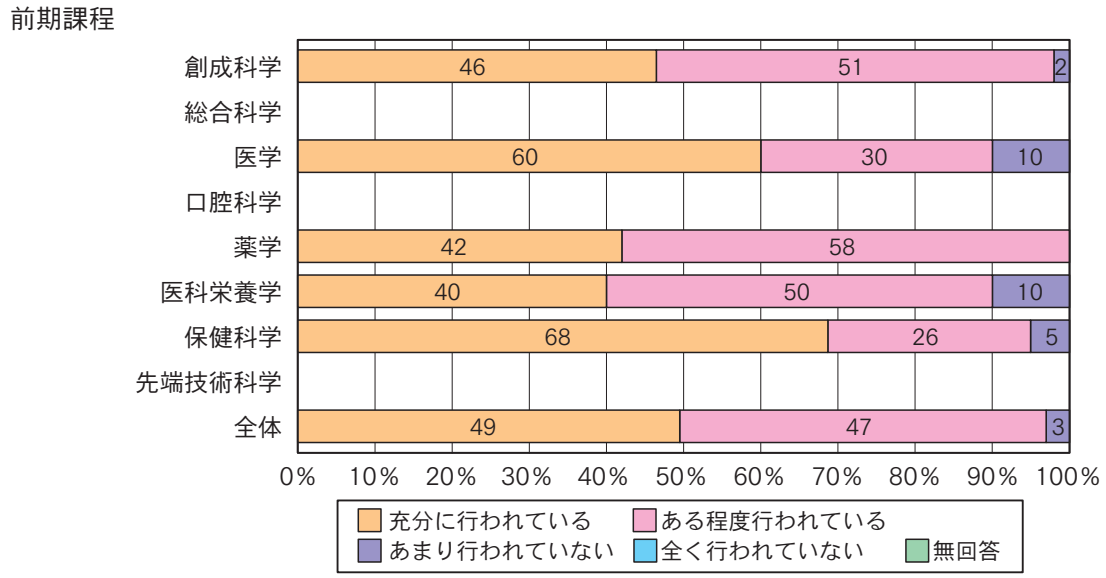

図６－３－13　大学院の教育レベル

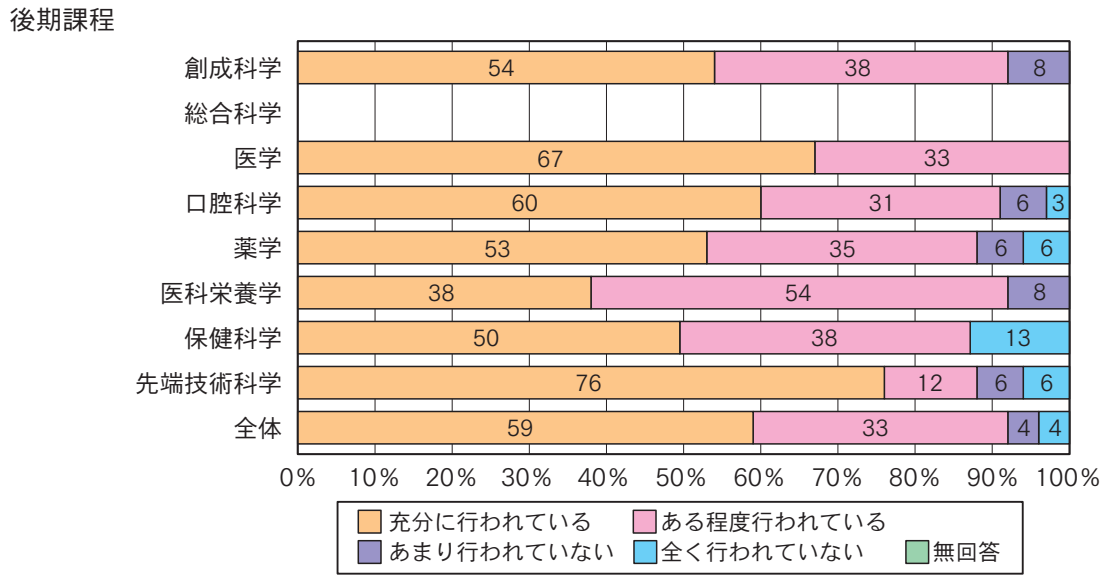

図６－３－14　大学院の教育レベル

6－4　研究環境と所属大学院に対する満足度（図6－4－1～図6－4－6）

現在の研究環境について，前期課程においては，「満足している」（46%）または「どちらかといえば満足している」（41%）と回答し，研究環境には概ね満足しているとの結果であった（図6－4－1）。後期課程の学生も全体ではほぼ同様の割合で満足していると回答しているが，前回調査と同様，1割程度の学生が「どちらかといえば不満足」，「不満足」と回答している（図6－4－2）。留学生はほぼ100%の学生（前期課程では全ての学生）が概ね満足していた。また，調査毎で若干のばらつきはあるが，医科栄養学，薬学および保健科学において，「どちらかといえば不満足」，「不満足」と回答する学生割合が若干高くあり継続している。

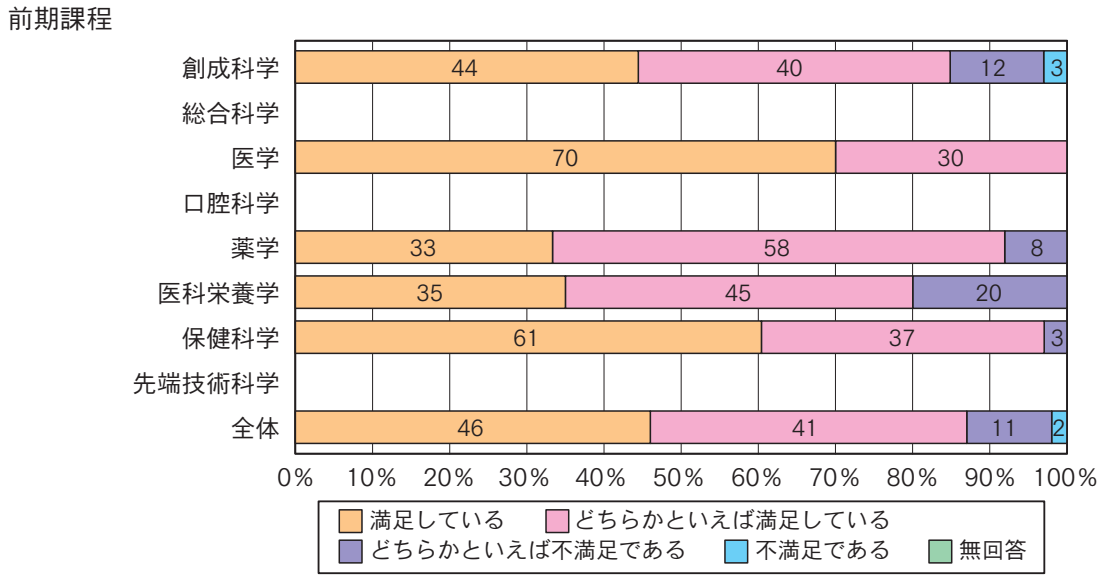

図6－4－1　研究環境についての満足度

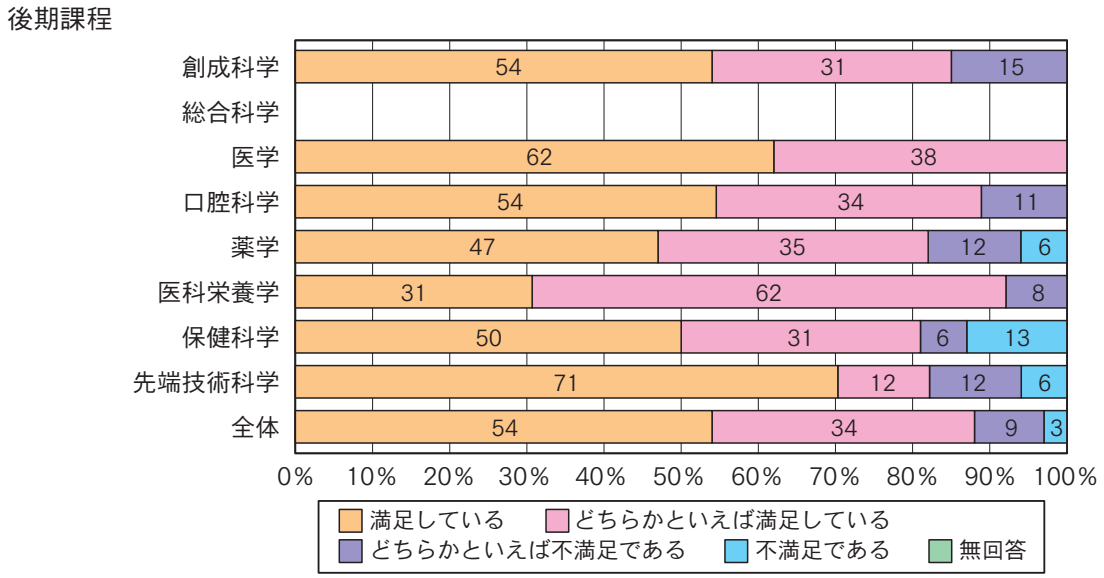

図6－4－2　研究環境についての満足度

研究環境に不満足な理由について，前期課程全体では「施設・設備」が42%，次いで「研究費用」35%，「研究時間」15%であった（図６－４－３)。また，医科栄養学において，「研究時間」(17%)，その他（33%）の回答があり，他研究科と異なる。後期課程では，前期課程と比較し「研究時間」を不満とする割合が増加している（図６－４－４)，「施設・設備」および「研究費用」に対する不満解消は，高額・大型機器導入に対する大学からの支援策，機器共用利用等の対策が望まれる。

前期課程

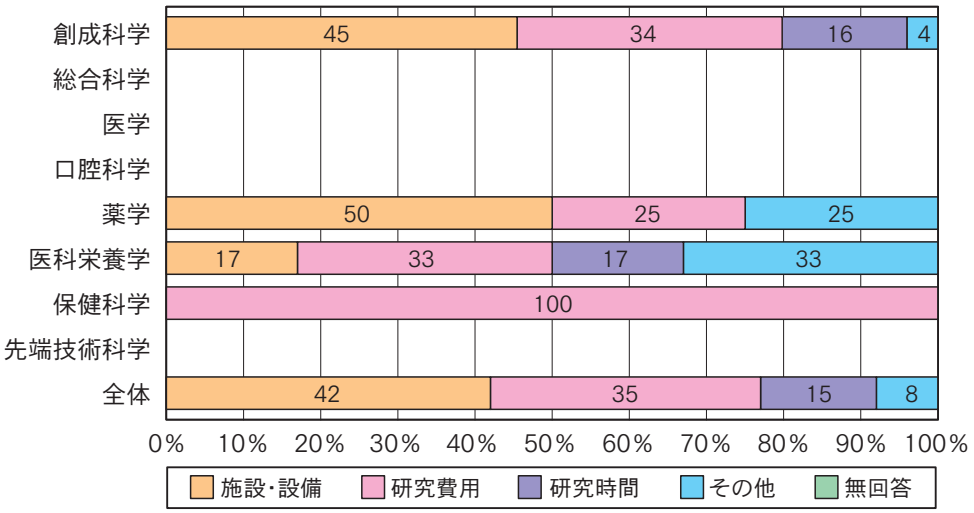

図６－４－３　研究環境に不満足な理由（複数回答可）

後期課程

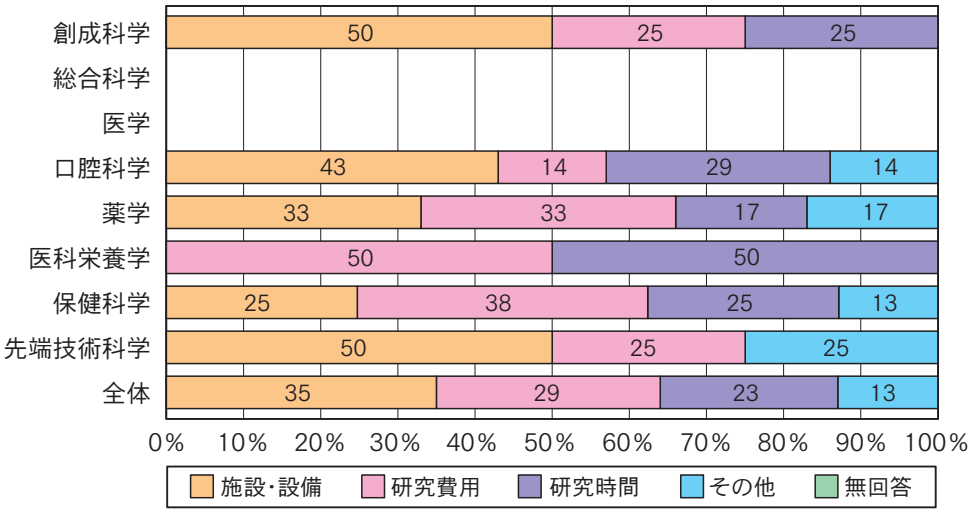

図６－４－４　研究環境に不満足な理由（複数回答可）

所属大学院の満足度について，前期課程では「満足している」(49%）あるいは「どちらかといえば満足している」(48%）と回答し，所属大学院には概ね満足しているとの結果であった（図６－４－５)。後期課程の学生の回答からも，99%（前回調査より４ポイント増加）の学生が概ね満足していることが窺える（図６－４－６)。留学生も100%の学生が「満足」,「どちらかといえば満足」のいずれかに回答した。

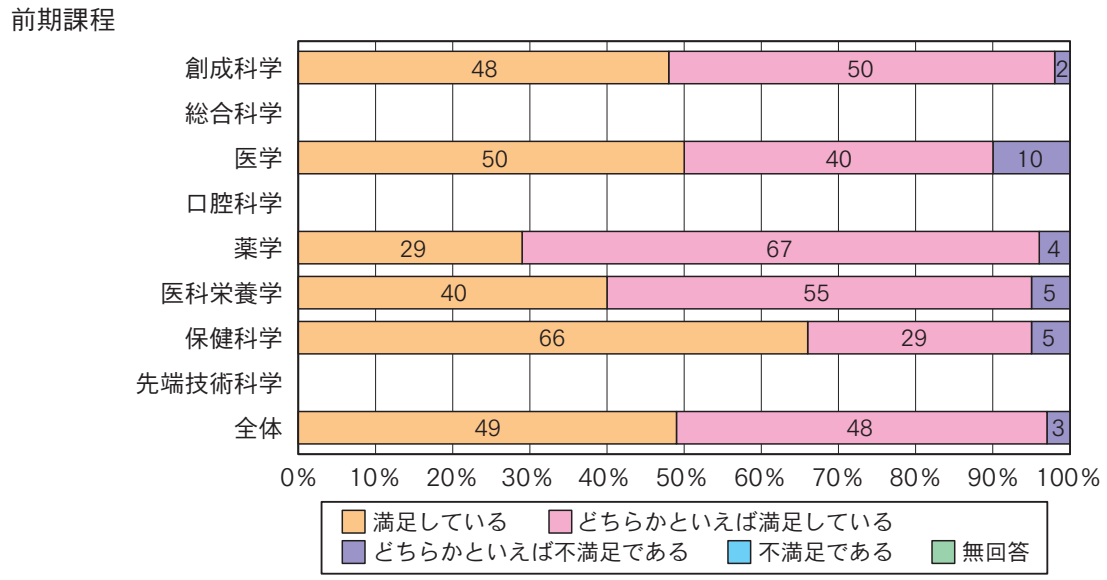

図６－４－５　所属大学院についての満足度

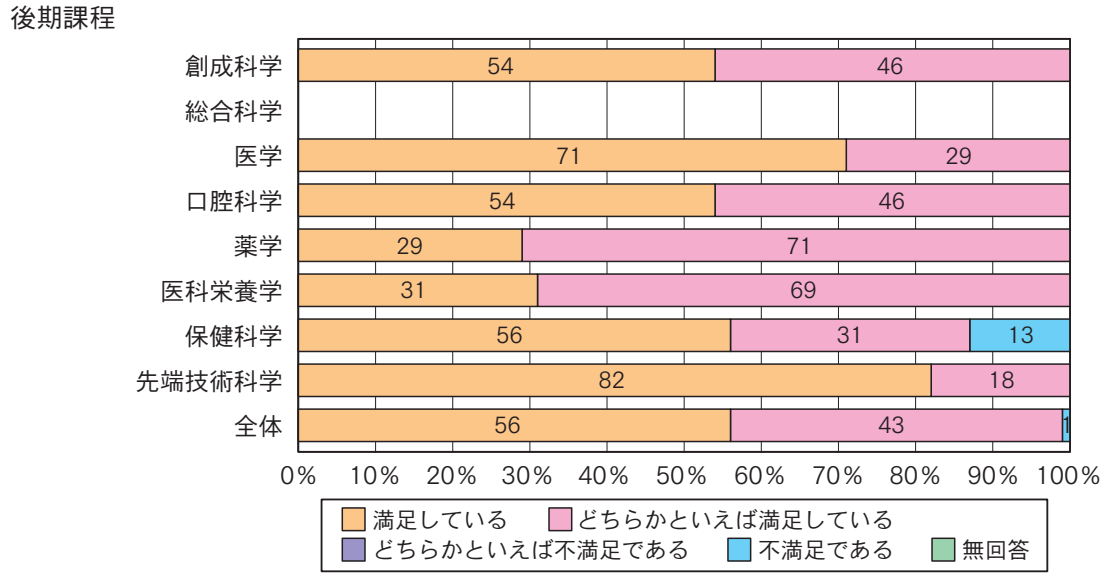

図６－４－６　所属大学院についての満足度

6－5　図書館の利用状況（図6－5－1～6－5－12）

図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で11%，後期課程は9%であり，前回の第8回調査に比べると，前期課程は3%減少し，後期課程は5%減少した（図6－5－1，図6－5－2）。第8回の調査において，前期課程は第7回調査より5%減少しており，減少傾向が顕著である。後期課程は第8回調査では第7回調査から変化がなかったものの，第7回調査において第6回調査から3%減少していたことから，両課程ともに減少傾向の継続が認められる。利用頻度の分布は研究科・教育部間で大きく異なる結果となった。週に複数回利用する学生の多い研究科・教育部は，前期課程では医学，医科栄養学であり，後期課程では創成科学であった。特に後期課程の創成科学で，ほぼ毎日利用する学生の割合が顕著に高いことが示された。ただし，研究科全体の利用頻度にはやや二極化の傾向が認められる。一方，両課程で総合科学の学生の利用頻度が特に低い結果となっているが，これは同教育部の回答数が非常に少ないことが影響している。留学生については，回答数が少ないので参考程度であるものの，創

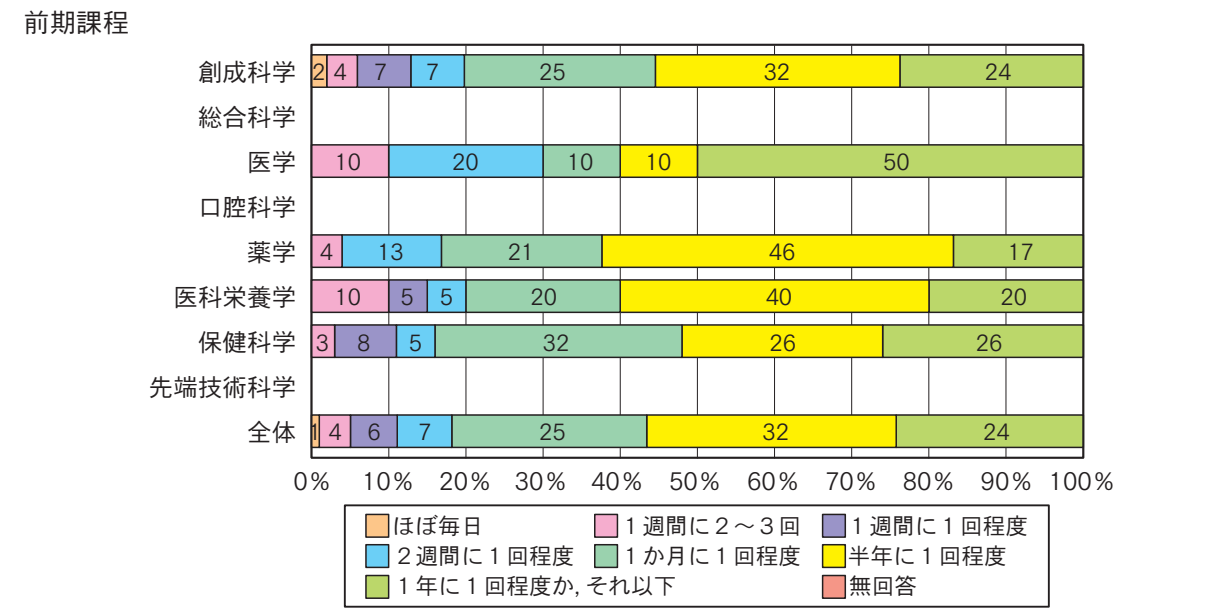

図6－5－1　図書館の利用頻度

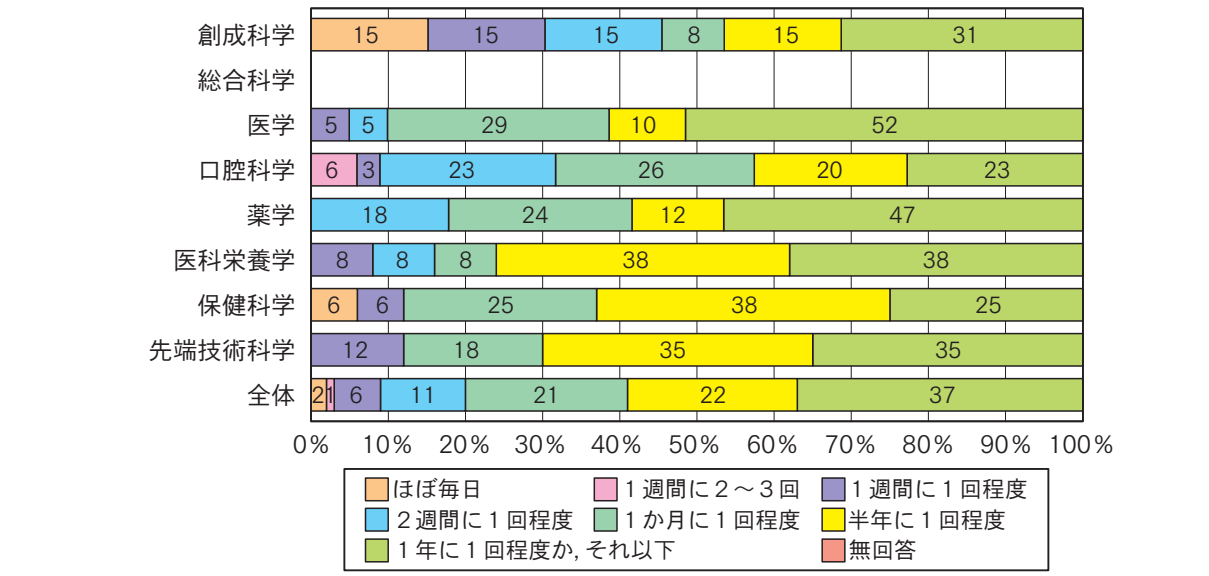

図6－5－2　図書館の利用頻度

成科学においてほぼ毎日利用する学生の割合が高く，特に後期課程の学生による活発な利用がうかがえる（図６－５－３，図６－５－４）。

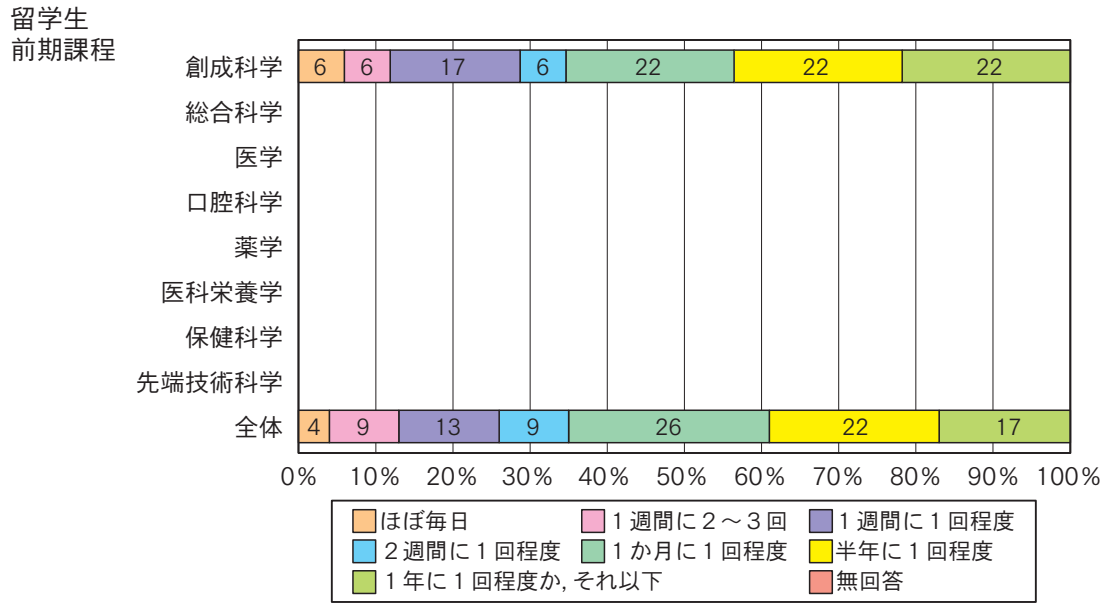

図６－５－３　図書館の利用頻度（留学生）

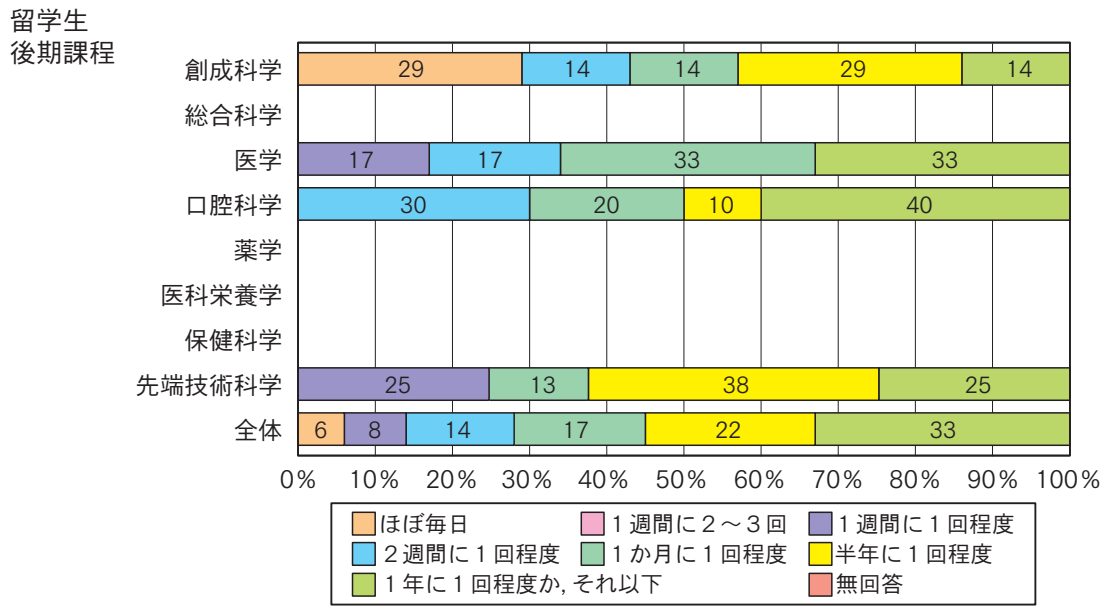

図６－５－４　図書館の利用頻度（留学生）

次に，図書館を利用する主な目的は，全体平均において前期課程の58%，後期課程の52%の学生が「図書等の貸し出し」あるいは「図書等の閲覧やコピー」という結果であった（図６－５－５，図６－５－６）。前回調査と比較して，前期課程が6%，後期課程が3%減少していた。後期課程において「図書等の貸し出し」の割合が前期課程より低くなっており，一方で「電子ジャーナル・データベース」の割合が高くなっている。これは前回調査と同様であり，後期課程における電子ジャーナル・データベース等の検索の重要性がうかがえる。また，前期課程において，「自習」の全体平均が前回調査の14%から22%へ増加していた。研究科・教育部ごとに見ると，特に医科栄養学において自習を目的とした利用が大きく増加していることが示された。留学生では前後期両課程で「自習」の割合が全学生平均より高い結果であった（図６－５－７，図６－５－８）。

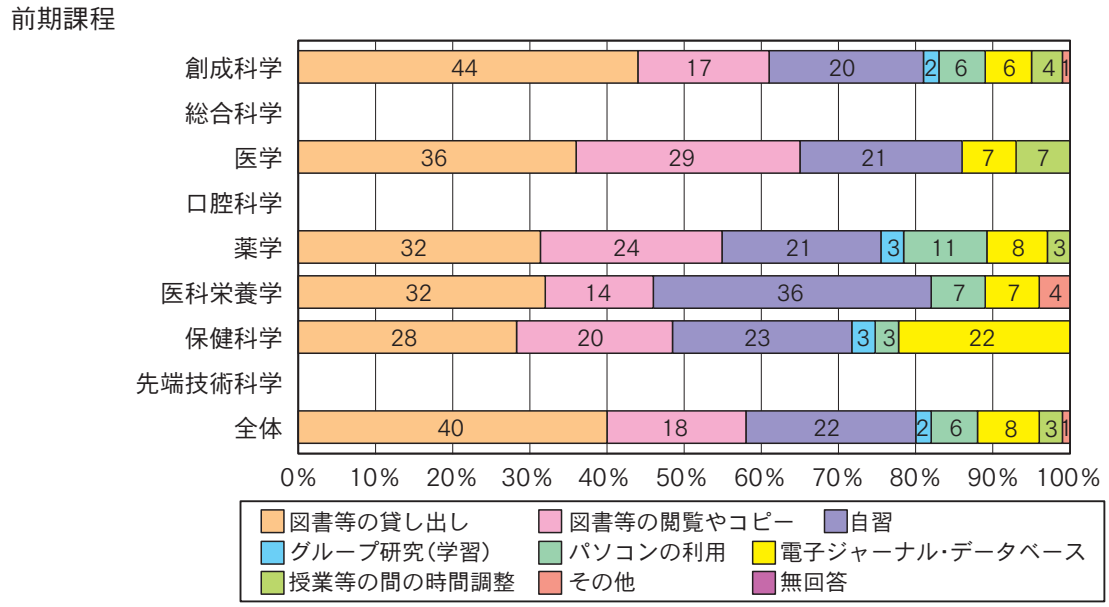

図６－５－５　図書館を利用する主な目的（複数回答可）

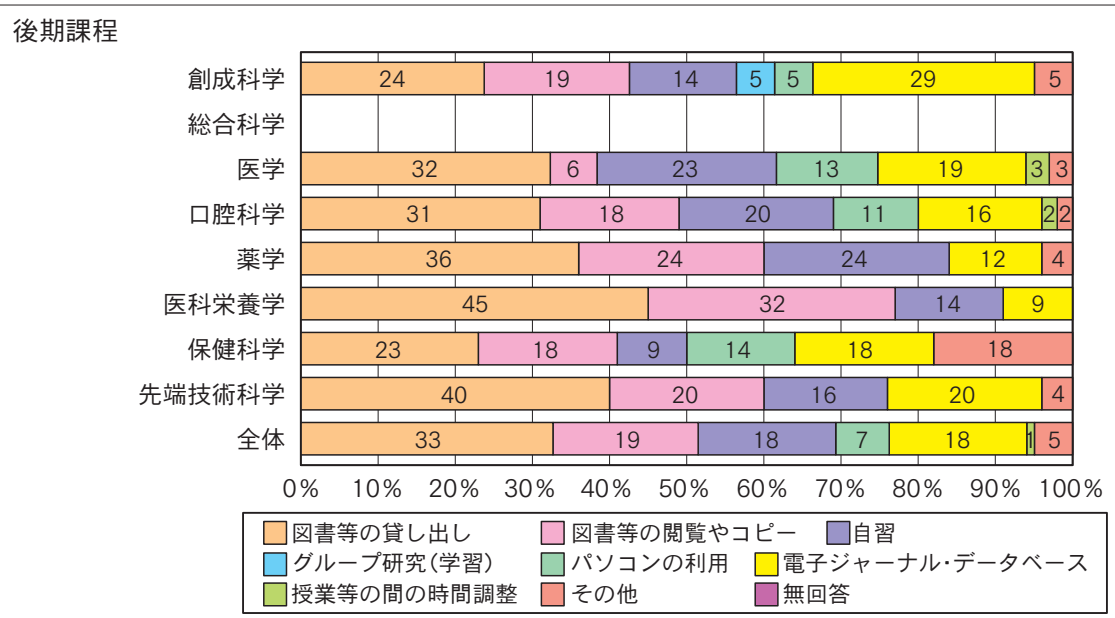

図６－５－６　図書館を利用する主な目的（複数回答可）

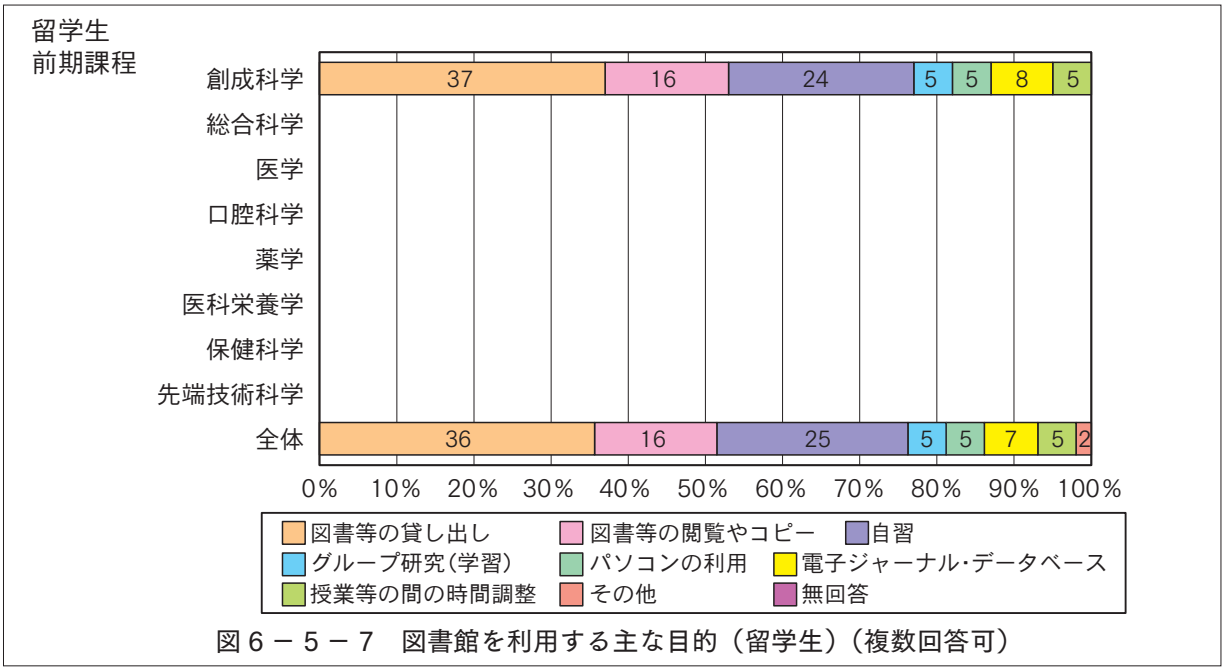

図６－５－７　図書館を利用する主な目的（留学生）（複数回答可）

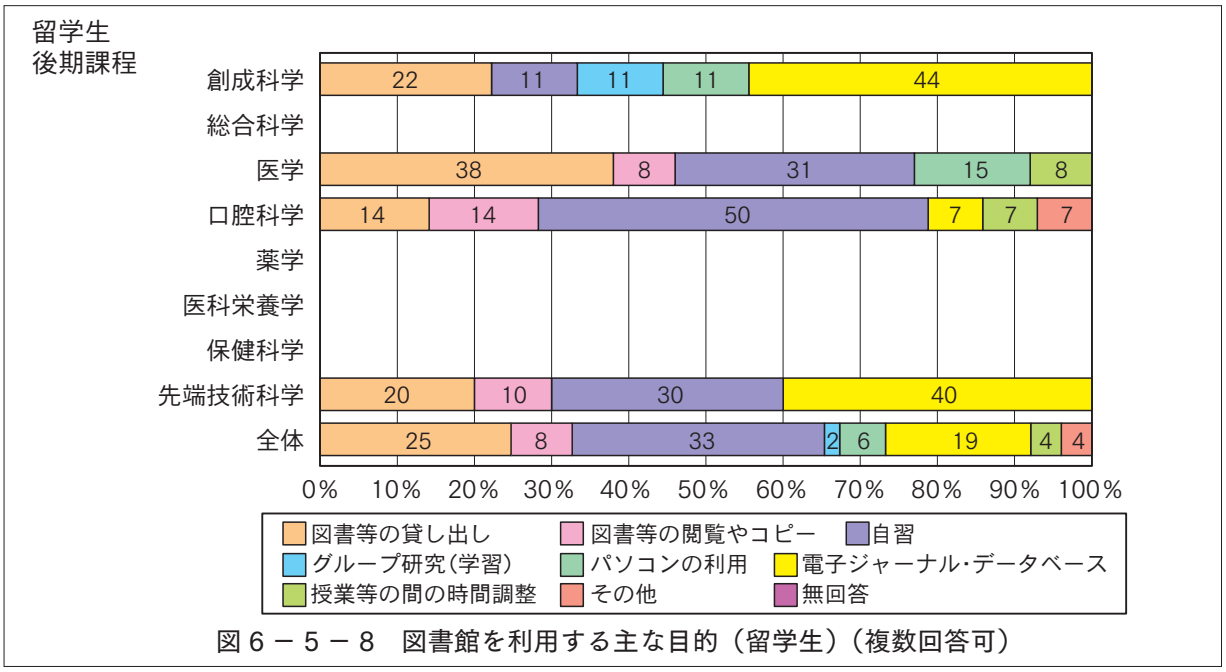

図６－５－８　図書館を利用する主な目的（留学生）（複数回答可）

図書館の提供するサービスに対する満足度は，全体平均において前期課程の 97%，後期課程の 95%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果で，前回の第８回調査に続いて概ね評価が高かった（図６－５－９，図６－５－10）。しかし，後期課程において医学，薬学などで「どちらかといえば不満足である」と「不満足である」が前期課程に対し増加している点が注目される。前回調査で同様の傾向について電子ジャーナル・データベース等の削減と関係する可能性が指摘されている。図書館を利用する主な目的についてのアンケート結果により，後期課程で「電子ジャーナル・データベース」の重要性が前期に対して高いことが示されており，電子ジャーナルやデータベース等の閲覧サービスの拡充を改めて検討する必要があると考えられる。留学生については，前後期両課程で 100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，図書館の提供するサービスに関する満足度が全研究科・教育部を通じて高いことを示す結果となった（図６－５－11，図６－５－12）。

前期課程

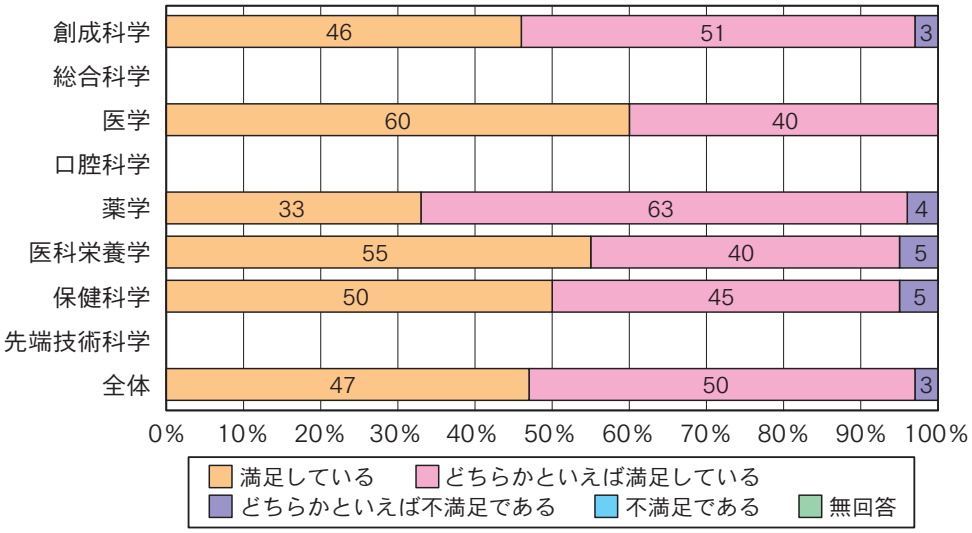

図６－５－９　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度

後期課程

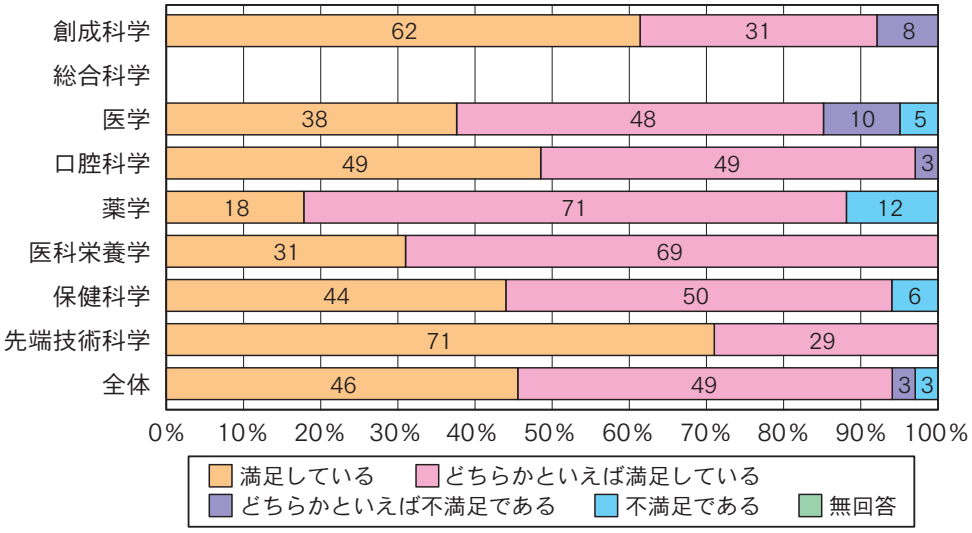

図６－５－10　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度

留学生
前期課程

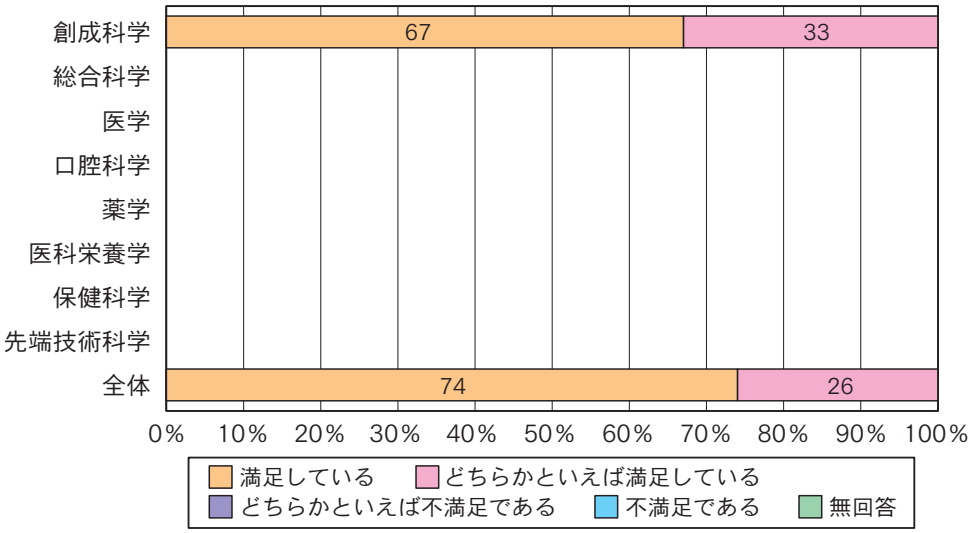

図６－５－11　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度（留学生）

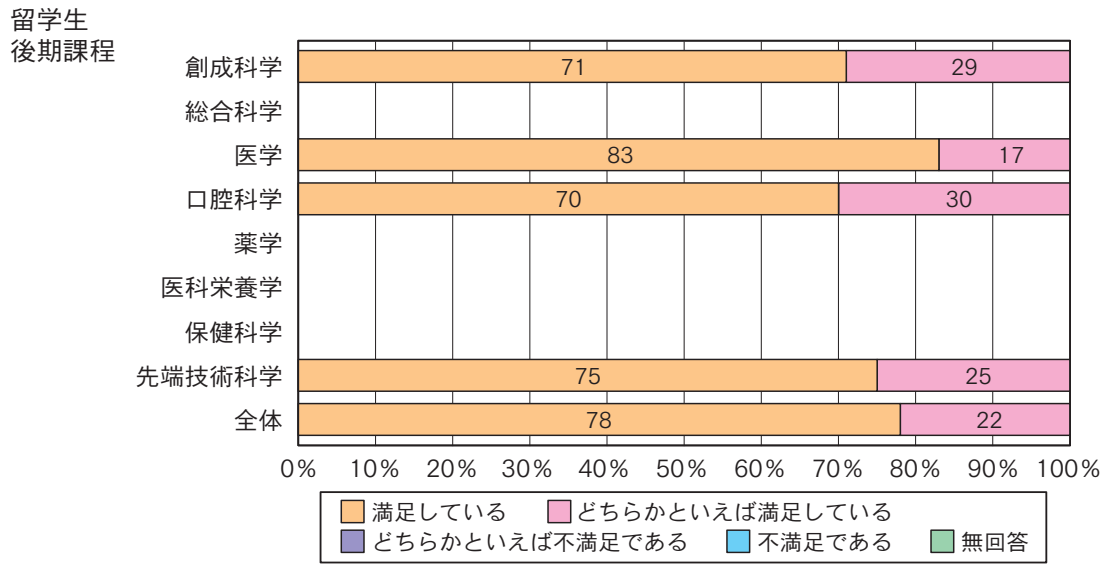

図６－５－12　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度（留学生）

６－６　学習への取り組み（図６－６－１～６－６－４）

現在所属している大学院に相応しい学習への取り組み状況について，「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生が，前期課程全体で77％，後期課程全体で78％であった（図６－６－１，図６－６－２）。前回である第８回調査ではそれぞれ78％，82％であり，前期課程ではほぼ変化していないが後期課程でやや減少している。教育部別で見ると，前期課程で他の研究科・教育部が全て75％以上であるのに対し薬学が54％であり特に低かった。後期課程では，医科栄養学と保健科学がそれぞれ62％，50％でありそれ以外が77％以上であるのに対し特に低い結果であった。薬学，医科栄養学，保健科学については前回調査では前後期両課程で70％以上を示しており，顕著な減少となった。学習意欲の低い学生が増加している可能性があり，原因究明と対策の検討が望まれる。留学生では，前期課程で95％，後期課程で100％の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており，前回調査に続き学生全体の数値を顕著に上回っていた（図６－６－３，図６－６－４）。前回調査でも指摘されている通り，日本人学生の学習意欲を高める取組みが重要と考えられる。

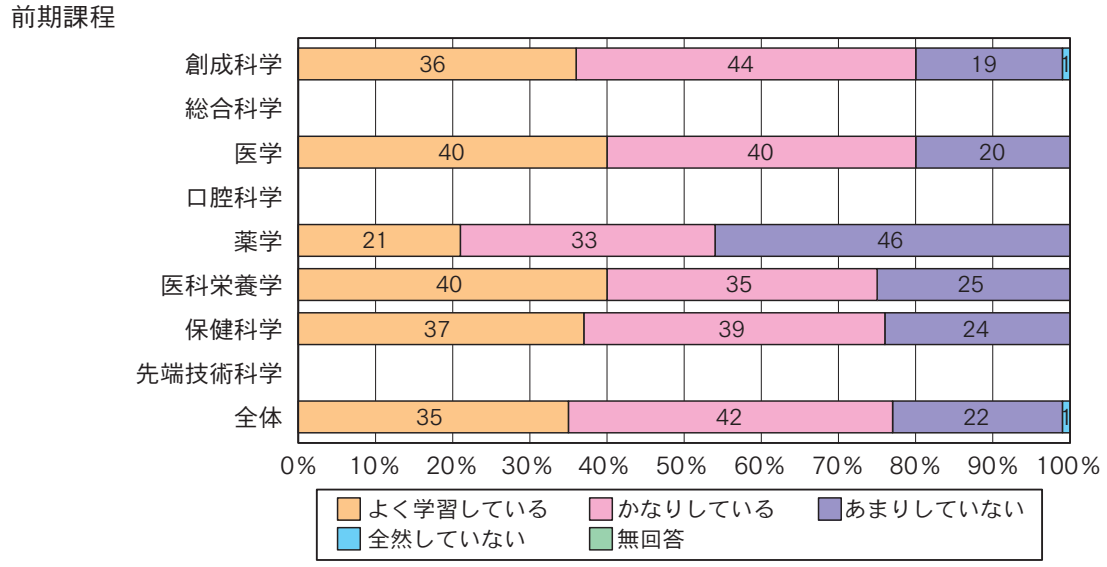

図６－６－１　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

後期課程

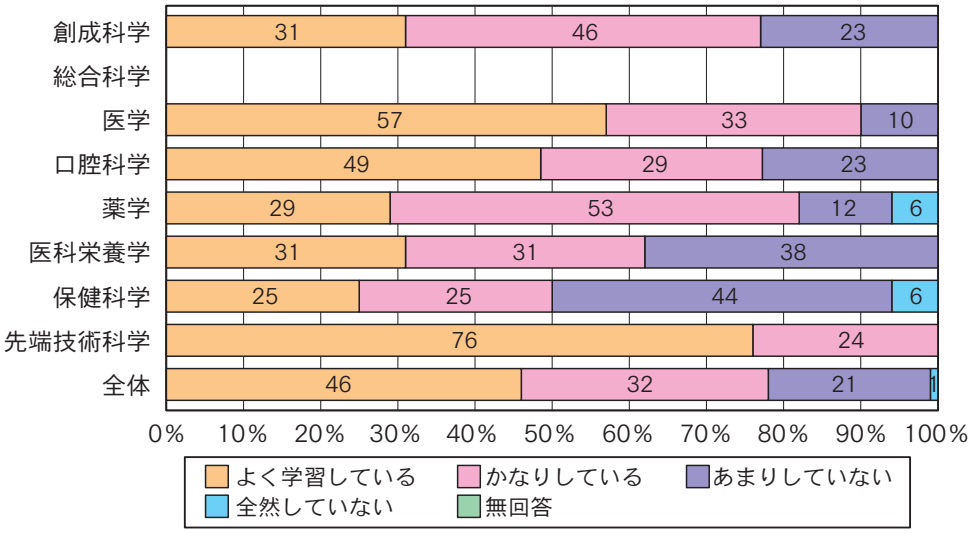

図６－６－２　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

留学生
前期課程

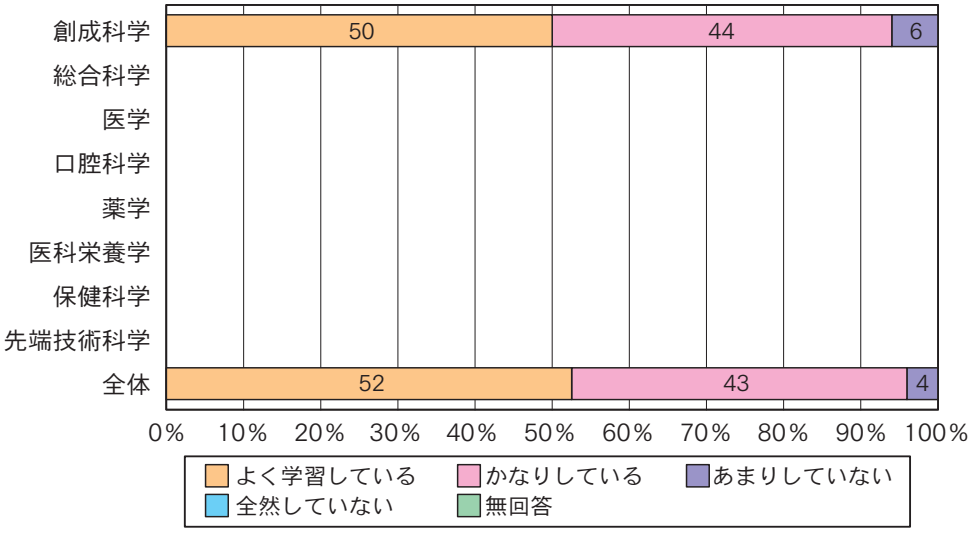

図６－６－３　所属している大学院に相応しい学習の取り組み（留学生）

留学生
後期課程

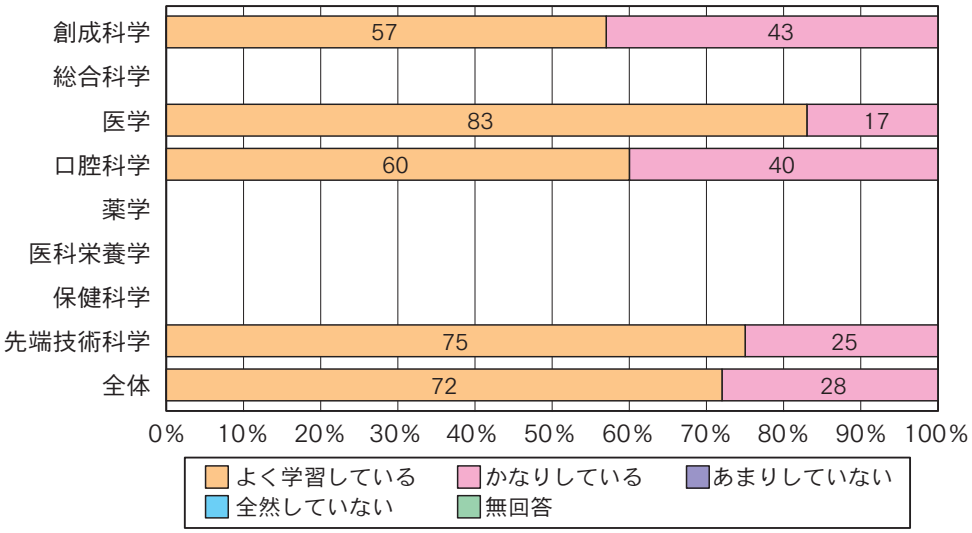

図６－６－４　所属している大学院に相応しい学習の取り組み（留学生）

6－7　海外渡航の経験と英会話（図6－7－1～6－7－10）

入学後の海外渡航経験については，前期課程全体の87％の学生が海外渡航経験が「ない」との回答であった（図6－7－1）。渡航経験の無い学生は前回の第8回調査で第7回調査の67％から81％へと大きく増加しており，今回さらに増加を示す結果となった。加えて後期課程において，渡航経験が「ない」と答えた学生が前回調査の57％から今回79％へと顕著に増加した（図6－7－2）。前後期両課程を通じて，長引くコロナ禍の影響の大きさがうかがえる。

前期課程

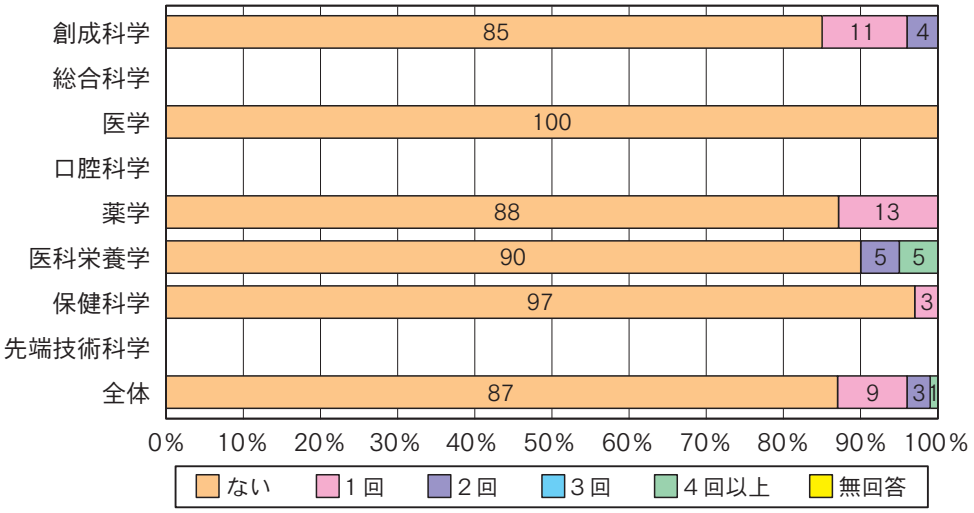

図6－7－1　入学後の海外渡航経験

後期課程

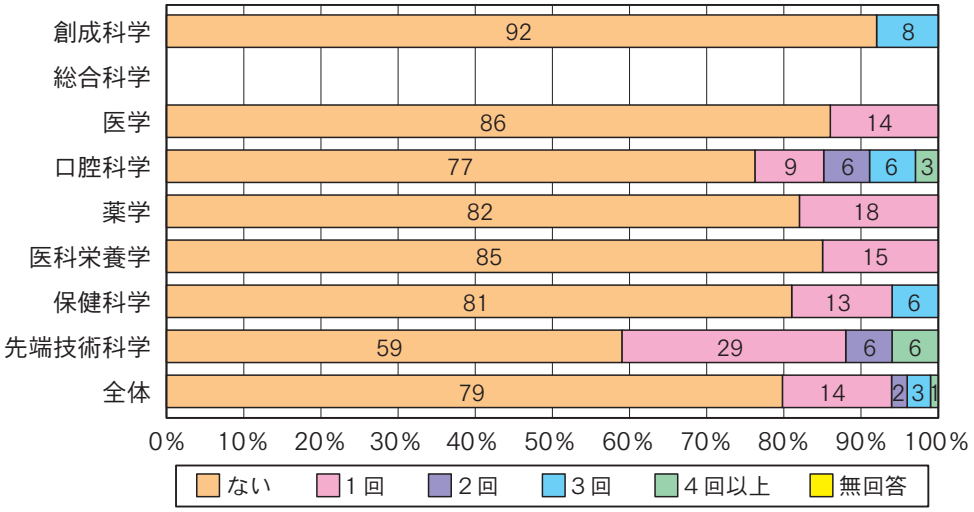

図6－7－2　入学後の海外渡航経験

海外渡航の目的については，前期課程全体では観光が34％と最も多く，次いで語学研修が18％，留学が15％であった（図６－７－３）。第８回調査では学会参加が２番目に多かったものの第７回調査の29％から16％へと激減したが，今回13％とさらに低い結果であった。後期課程においても，学会参加は第８回調査の42％から28％へと大きく減少した（図６－７－４）。コロナ禍で国際学会が中止やオンライン開催になっていることが影響していると考えられる。大学院生の段階で対面での国際学会に参加を経験することは国際性を身につけた人材としての成長に大変重要なことであり，ポストコロナでの国際学会参加を促進する取り組みを強力に進める必要がある。

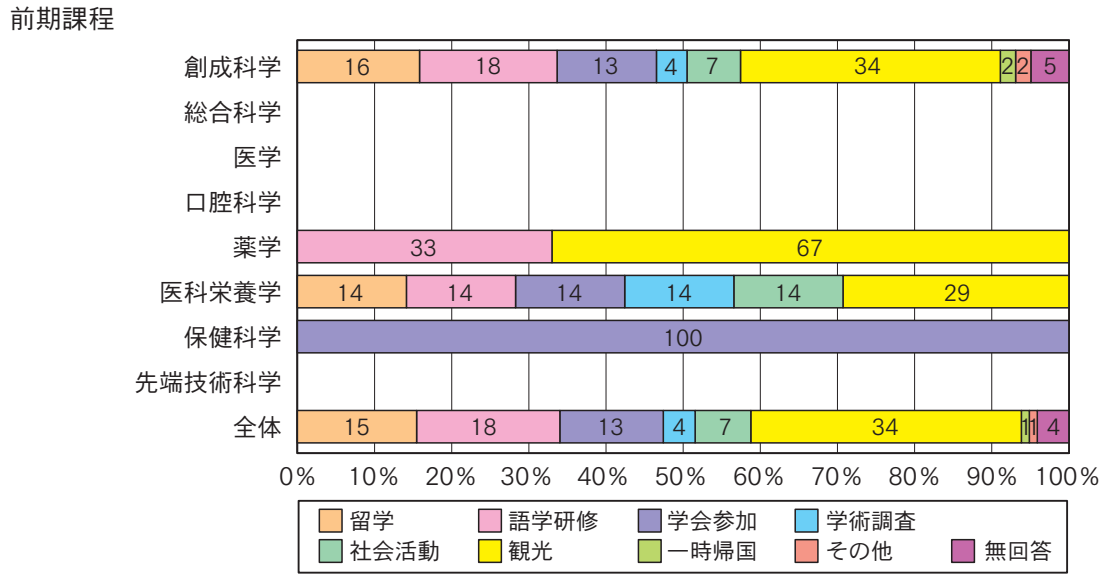

図６－７－３　海外渡航の目的（複数回答可）

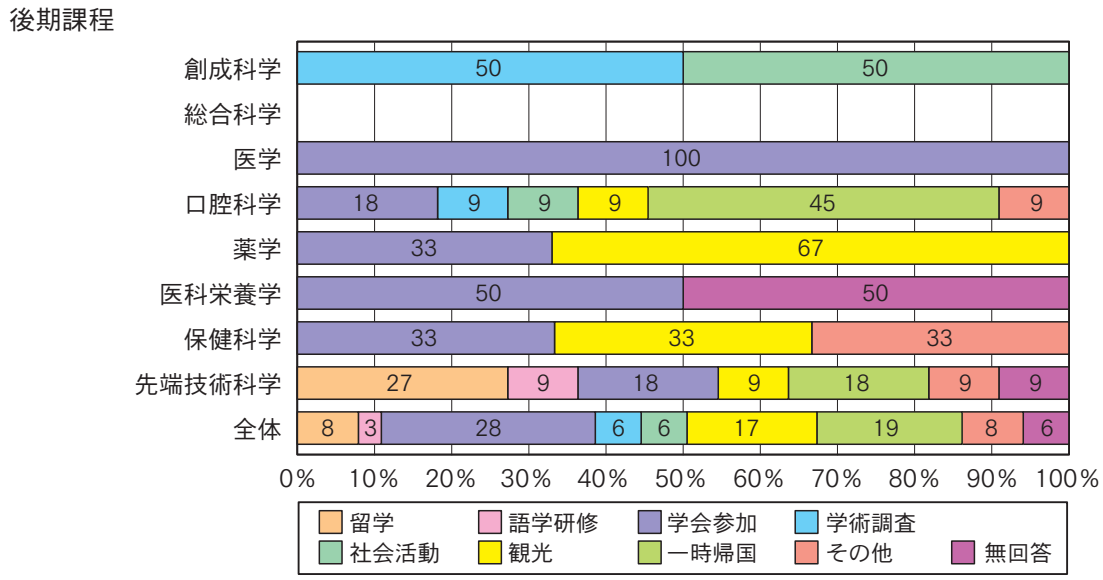

図６－７－４　海外渡航の目的（複数回答可）

国際会議における研究発表については，前期課程全体では83%，後期課程全体で66%の学生が「発表をしたことがない」との回答であった（図６－７－５，図６－７－６）。研究科別で見た発表経験としては，前期課程では医科栄養学で国内の国際学会での口頭発表が11%であったのが最も高く，他の研究科では10%以下であった。後期課程の研究科・教育部で見ると，医学，保健科学，先端技術科学での国内外合わせた発表経験がそれぞれ40%，50%，44%と比較的高い結果であった。その中でも保健科学では海外での口頭発表が29%と他と比して特に高い割合であり，一部学生の積極的な姿勢がうかがえる。しかし，総じて発表経験者の割合は低く，特に後期課程では今後コロナ禍からの回復に対応した学会参加への支援体制の強化や積極的な参加指導が望まれる。

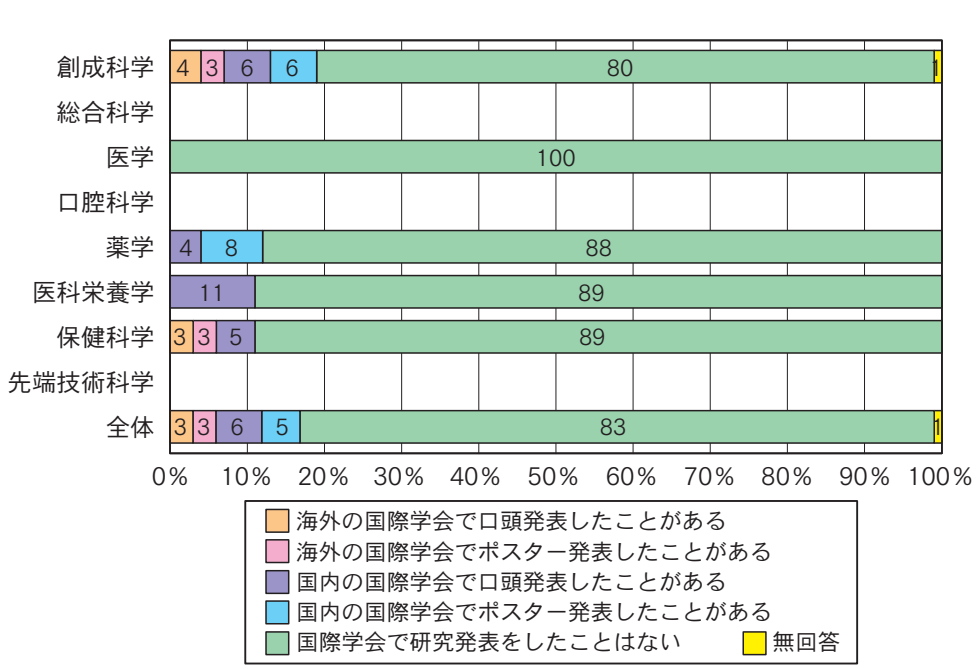

図６－７－５　国際学会への参加（日本人のみ）

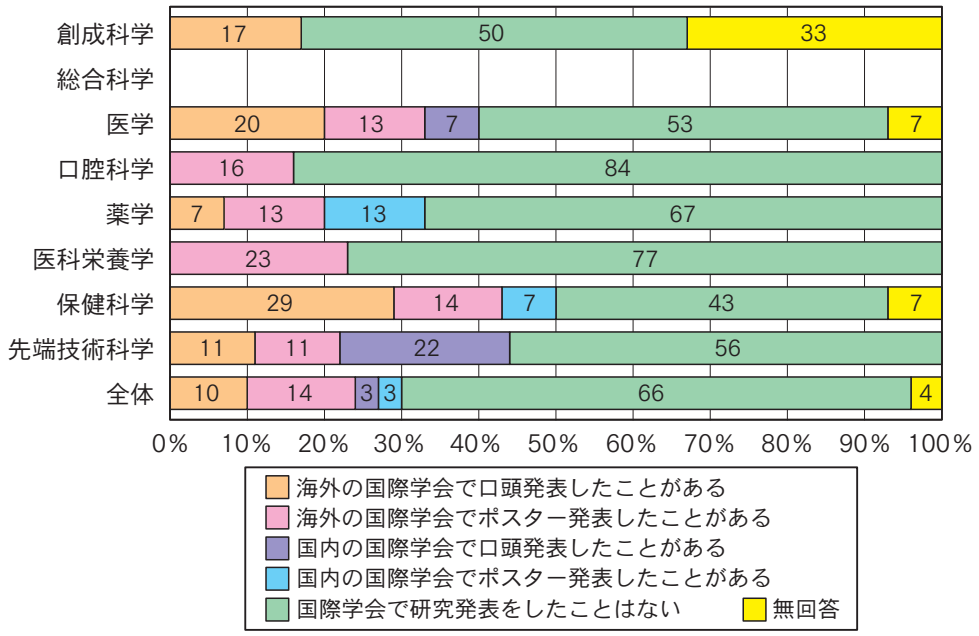

図６－７－６　国際学会への参加（日本人のみ）

英会話能力については，前期課程の日本人学生全体では57％が，後期課程の学生では55％が「できない」もしくは「あまりできない」と回答した（図６－７－７，図６－７－８）。前回調査ではそれぞれ63％と49％であり，前期課程では悪化したが後期課程では改善がみられた。「専門用語を使った会話ができる」，「日常会話ができる」，「なんとか日常会話ができる」を合わせた割合は両課程とも50％に満たず，国際的な人材育成の観点から改善が望まれる。国際会議発表を前提とした研究指導をより強く推進するなど，英会話能力向上へのモチベーションを高める工夫が重要であろう。

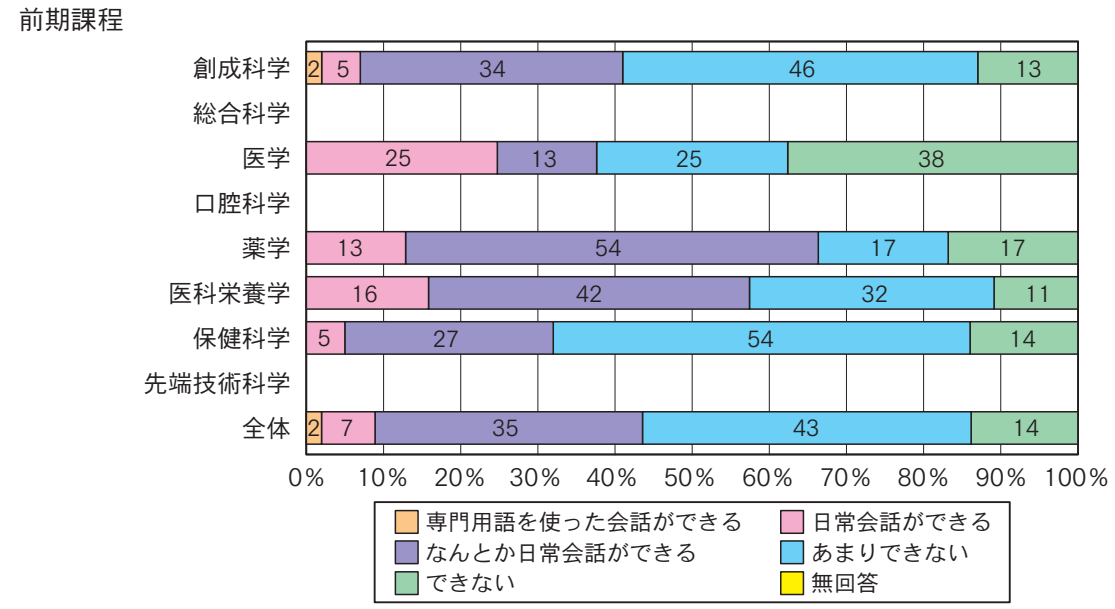

図６－７－７　英会話（日本人のみ）

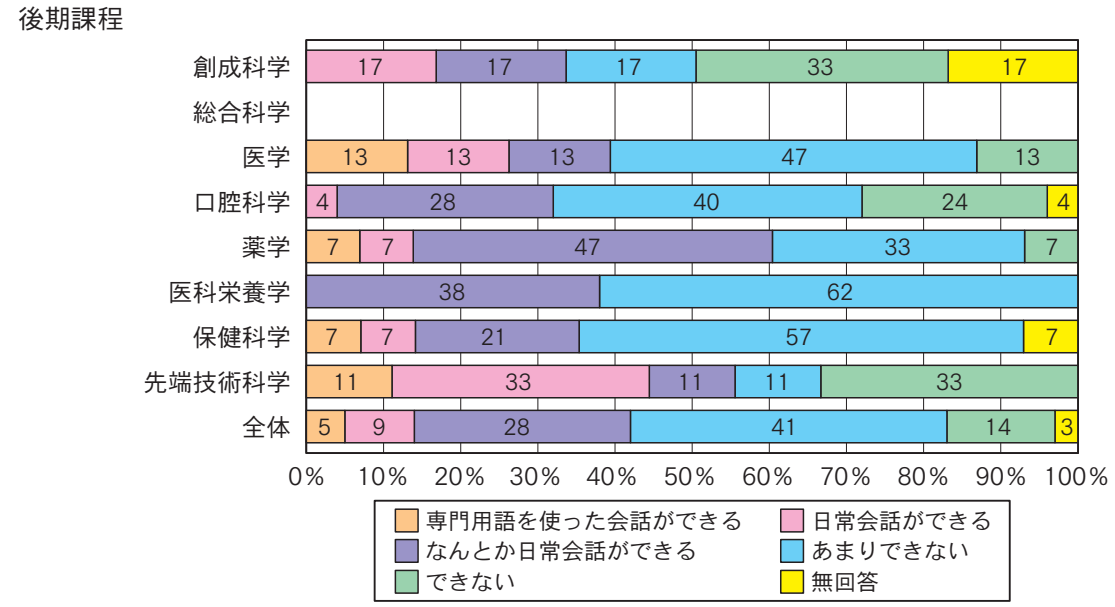

図６－７－８　英会話（日本人のみ）

英会話に関する自己学習状況については，「何もしていない」という学生が前期課程と後期課程で，それぞれ45％と46％という結果であった。前回調査では41％および38％であり，今回両課程で増加，特に後期課程で学生の語学力向上への意識が低下していることを示す結果となった。しかし，研究科・教育部間で分布は大きく異なっており，前期課程においては創成科学，薬学ではＴＯＥＩＣ，ＴＯＥＦＬ等の受験の割合が比較的高く，これらの研究科では語学力向上への何らかの取り組みを行なっている割合が50％を超えている。一方後期課程では，医学，口腔科学以外の全研究科・教育部で50％を超えており，前期課程と異なる分布を示した。また，後期課程の各研究科・教育部で，「外国のラジオ，テレビを視聴している」と回答した学生の割合が前期より高くなっていた。全体的に，後期課程の方が取り組みの内容は多様化していることがうかがえる。

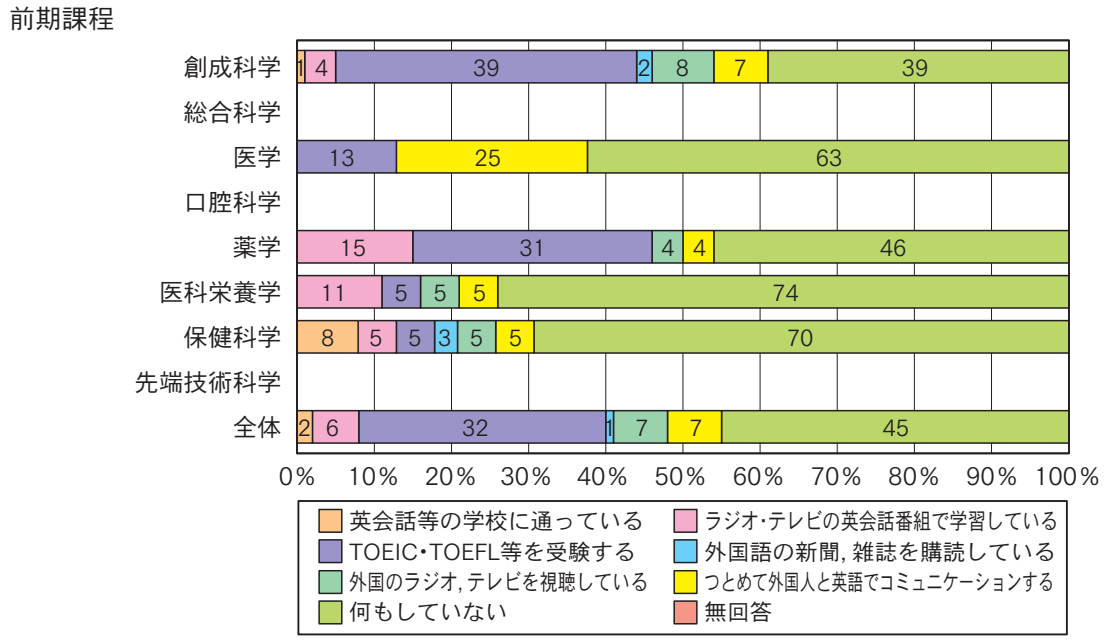

図６－７－９　語学に関する自己学習（日本人のみ）（複数回答可）

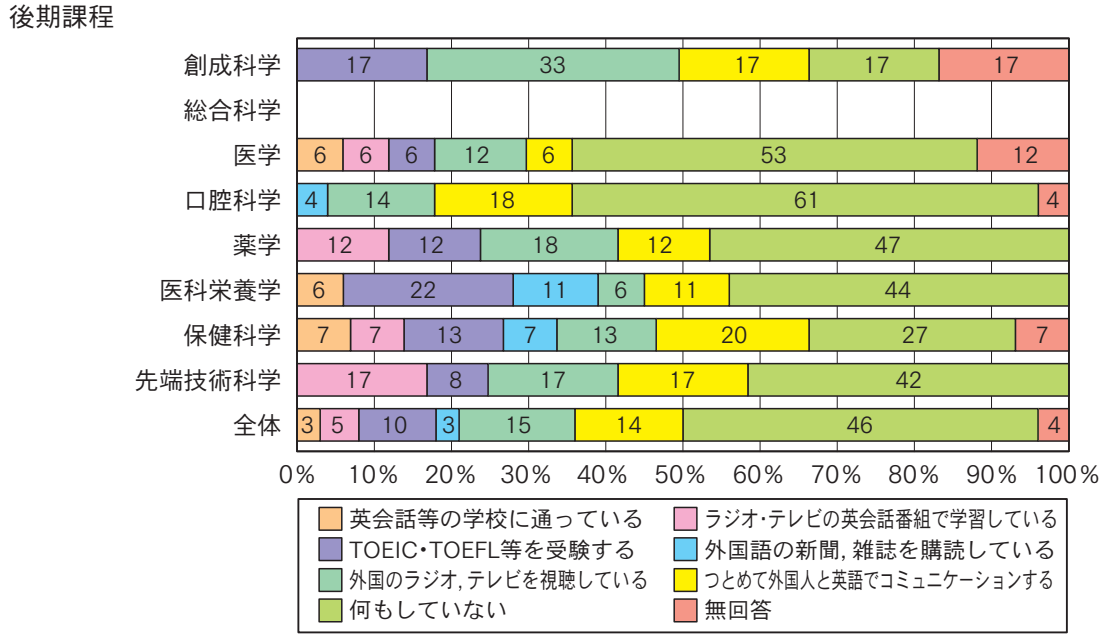

図６－７－10　語学に関する自己学習（日本人のみ）（複数回答可）

6－8　日本語会話（図6－8－1～6－8－6）

留学生の日本語会話の能力について，前期課程では91％，後期課程では61％の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上と回答した（図6－8－1，図6－8－2）。前回調査では前期課程で92％，後期課程で64％でありほぼ変わっていない。後期課程の留学生における日本語会話に支障がある割合が前回に続き高いことから，事務手続き等の英語でのサポート体制や日本語習得へのサポートが十分であるか検討が必要と考えられる。

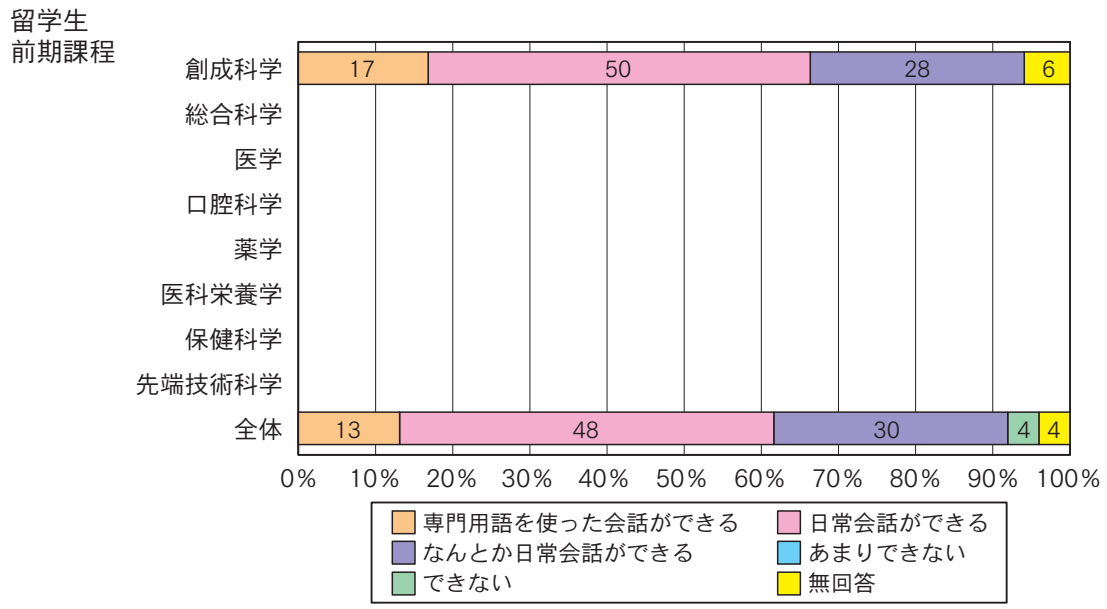

図6－8－1　日本語会話（留学生のみ）

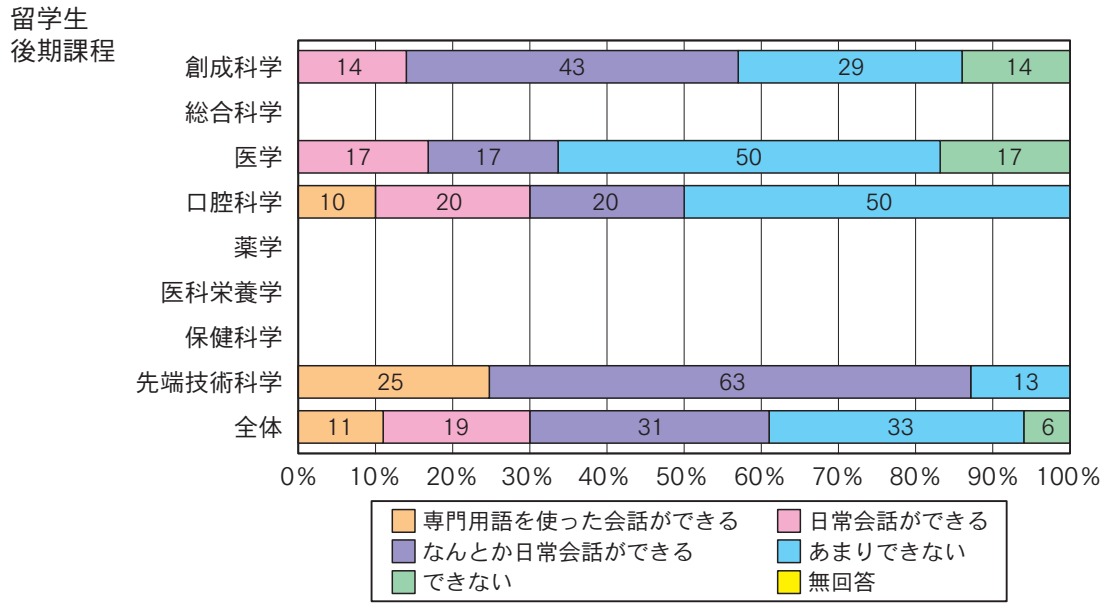

図6－8－2　日本語会話（留学生のみ）

留学生の日本語コース受講については，前期課程では78％，後期課程では95％が「受講している」，「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており，前回調査に続き日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示された（図6－8－3，図6－8－4）。前回調査ではこれらの回答割合が前期課程で78％，後期課程で81％であり，今回特に後期課程で向上している。一方，日本語コースの満足度については，前回調査で前後期両課程で100％の学生が「満足している」あるい

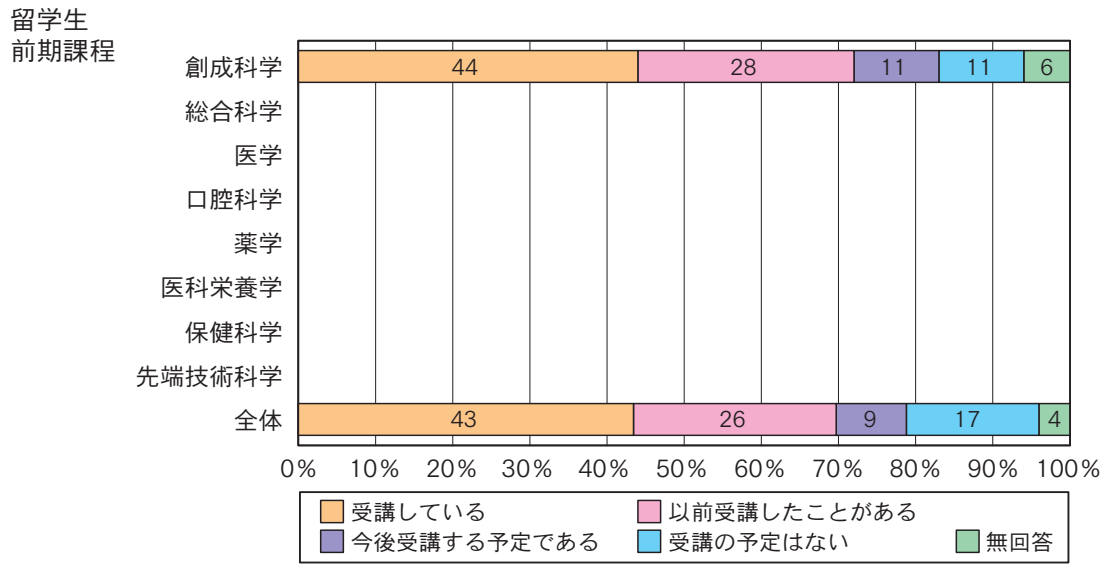

図６－８－３　日本語コースの受講（留学生のみ）

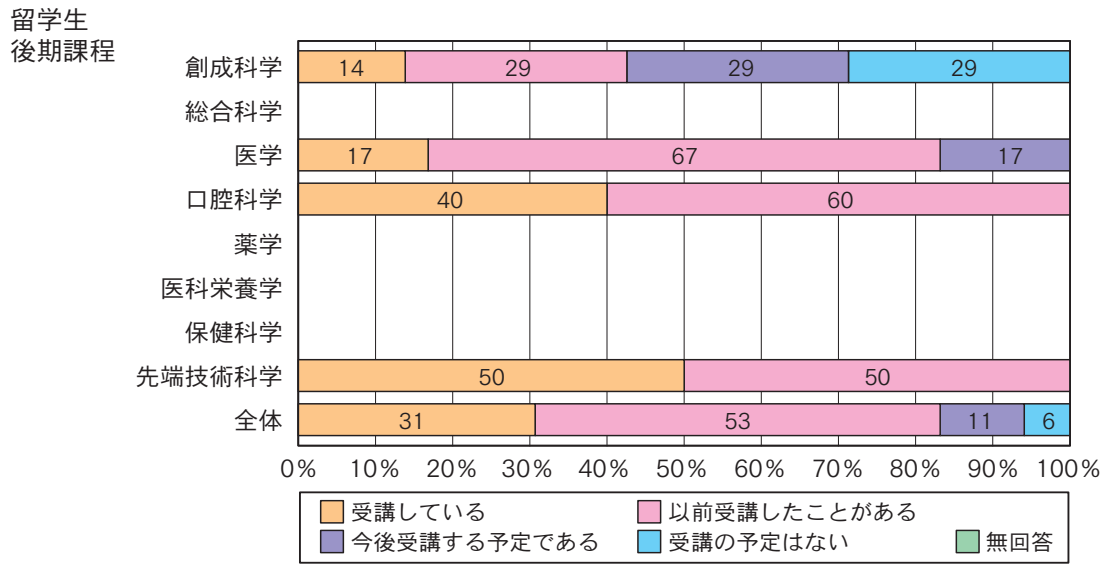

図６－８－４　日本語コースの受講（留学生のみ）

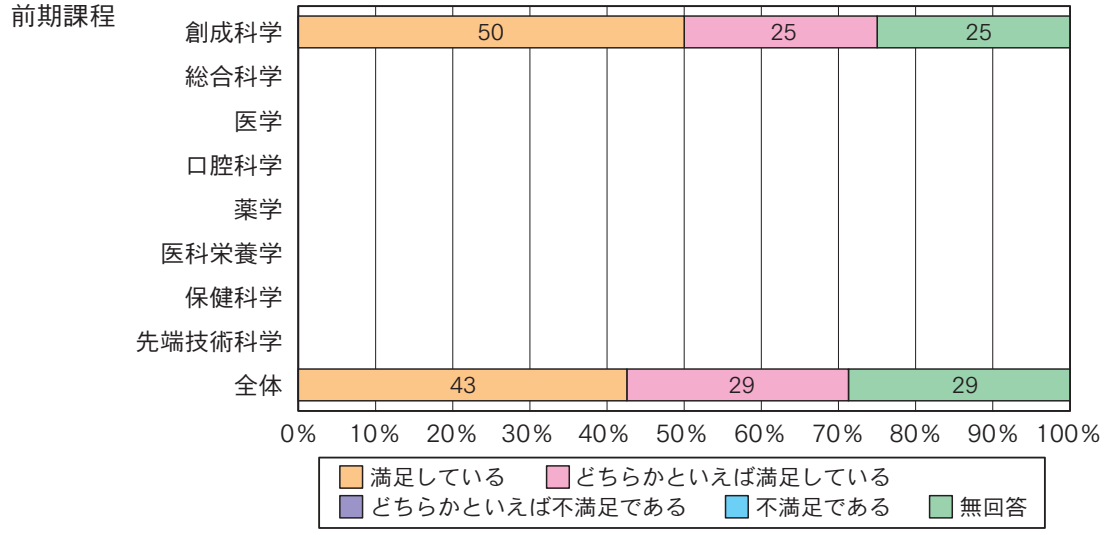

図６－８－５　日本語コースの満足度（留学生のみ）

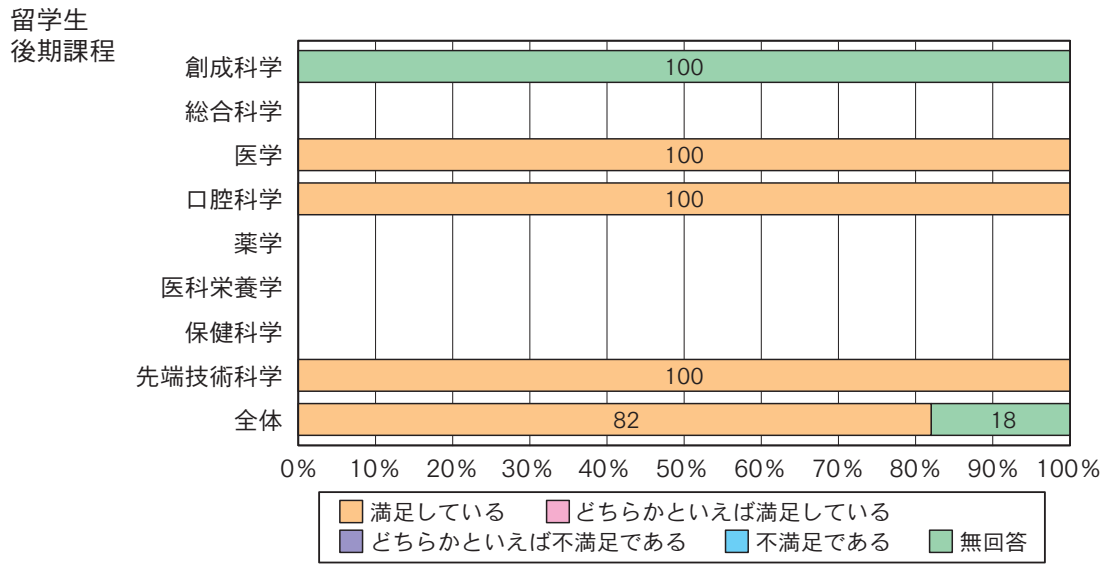

図６－８－６　日本語コースの満足度（留学生のみ）

は「どちらかといえば満足している」と回答したのに対し，今回の調査では前期課程で 72％と後期課程で 82％と両課程で減少していた（図６－８－５，図６－８－６）。回答数は前期 14 名，後期 11 名と少ないため評価は難しいものの，本学で開講されている「日本語コース」の内容のさらなる充実に向けた取り組みが望まれる。

６－９　本学の教育への期待（図６－９－１～６－９－８）

学生が自身の将来のために本学の教育に望むものについては，前後期両課程で６種類の選択肢がまんべんなく選ばれており，前回までの調査に続いて学生ごとのニーズの多様性を示す結果となった（図６－９－１，図６－９－２）。留学生では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」を望む割合が学

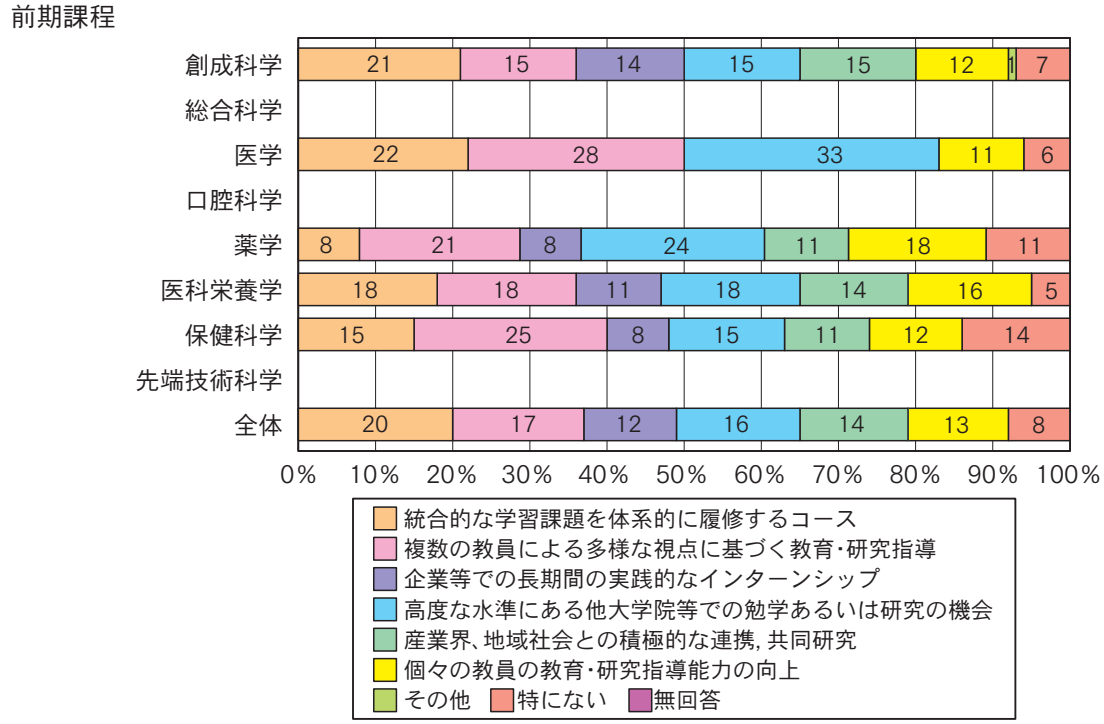

図６－９－１　本学の教育への期待

生全体に比べ特に高い（図６－９－３，図６－９－４）。多様なニーズを考慮しつつ教育プログラムや指導体制などの改善を続けることが重要と考えられる。

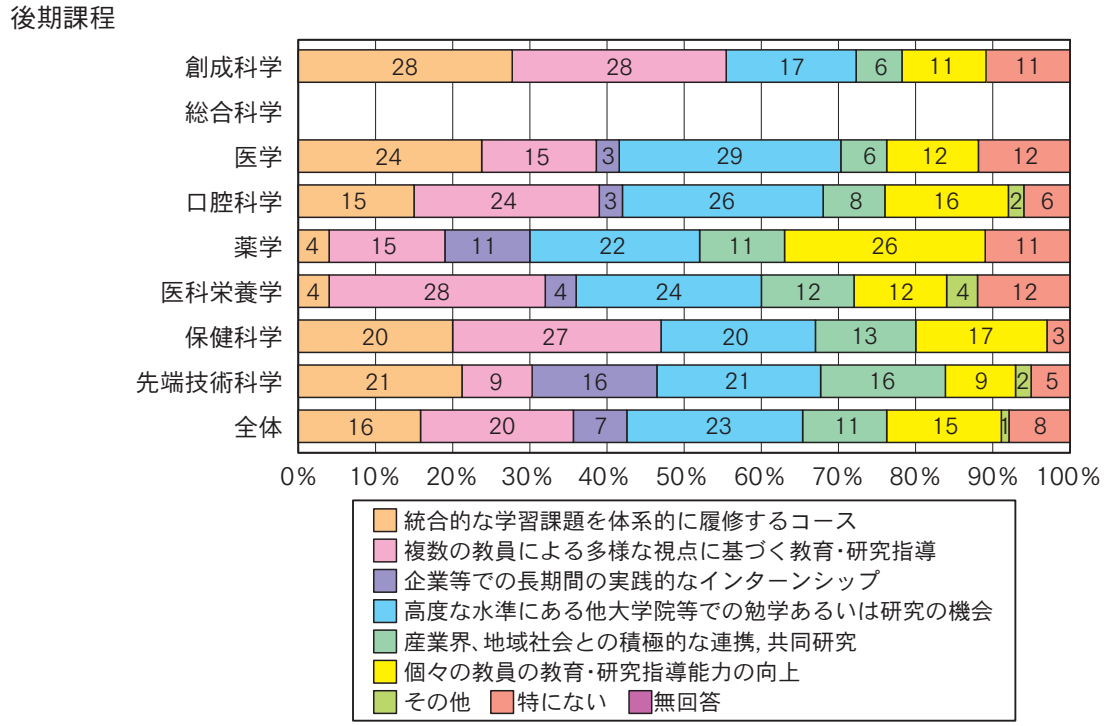

図６－９－２　本学の教育への期待

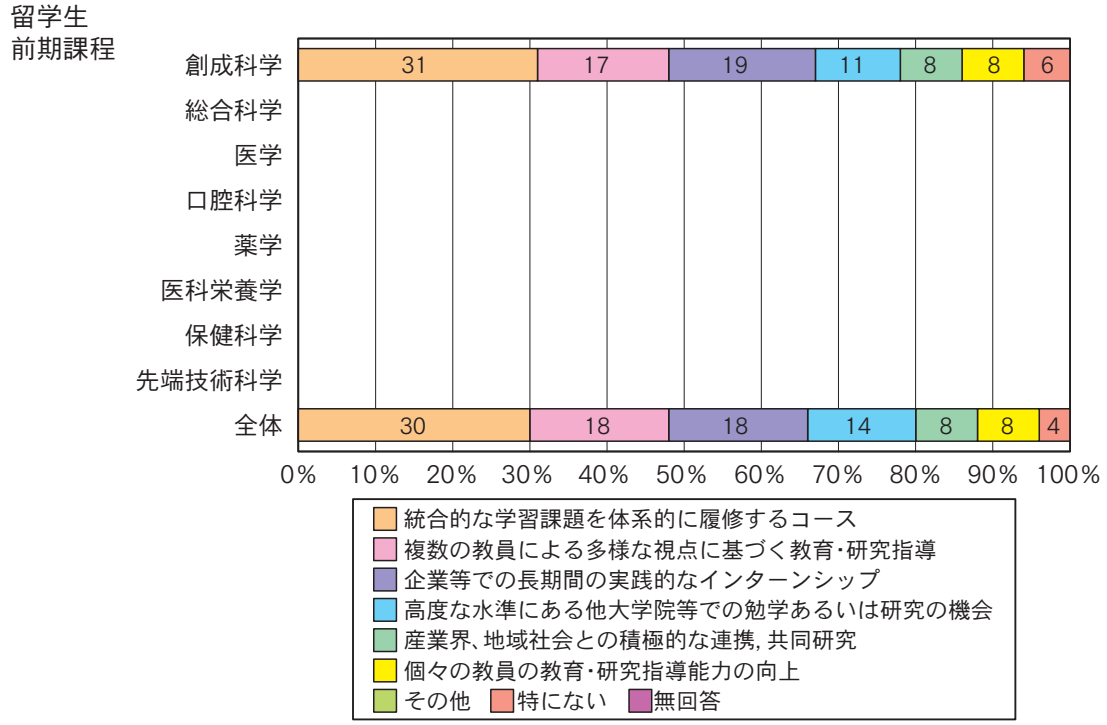

図６－９－３　本学の教育への期待（留学生）

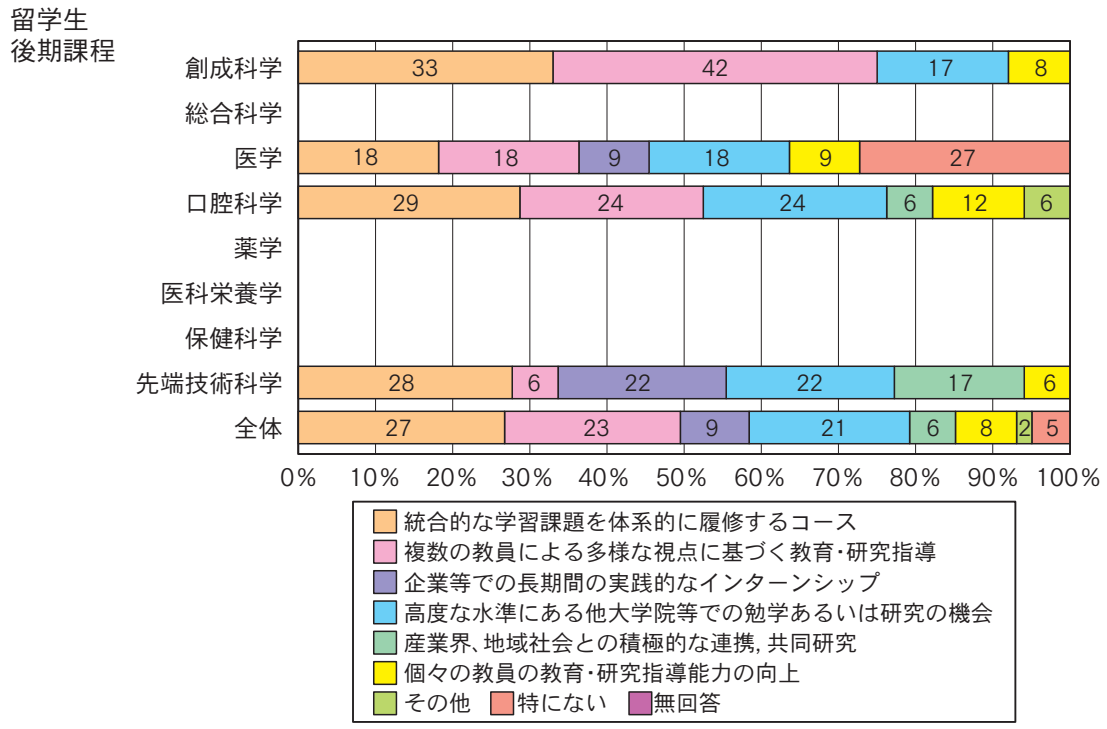

図６－９－４　本学の教育への期待（留学生）

本学の国際化への対応については，前期課程全体の 77%，後期課程全体の 89%の学生が，「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した（図６－９－５，図６－９－６）。前回調査の 73%，85%から両課程ともやや上昇しており，本学の国際化への取り組みに対する学生の評価の高さがうかがえる。この傾向は留学生でも明確に表れており，前後期両課程で 100%となっている（図６－９－７，図６－９－８）。今後コロナ禍からの社会の回復に伴い留学や国際会議などの機会も増加するものと期待され，国際化に向けた取り組みが一層重要性を増すと考えられる。国際化の目的に沿う形での教育カリキュラムや研究指導体制の改善・強化の取り組みを継続することが重要であろう。

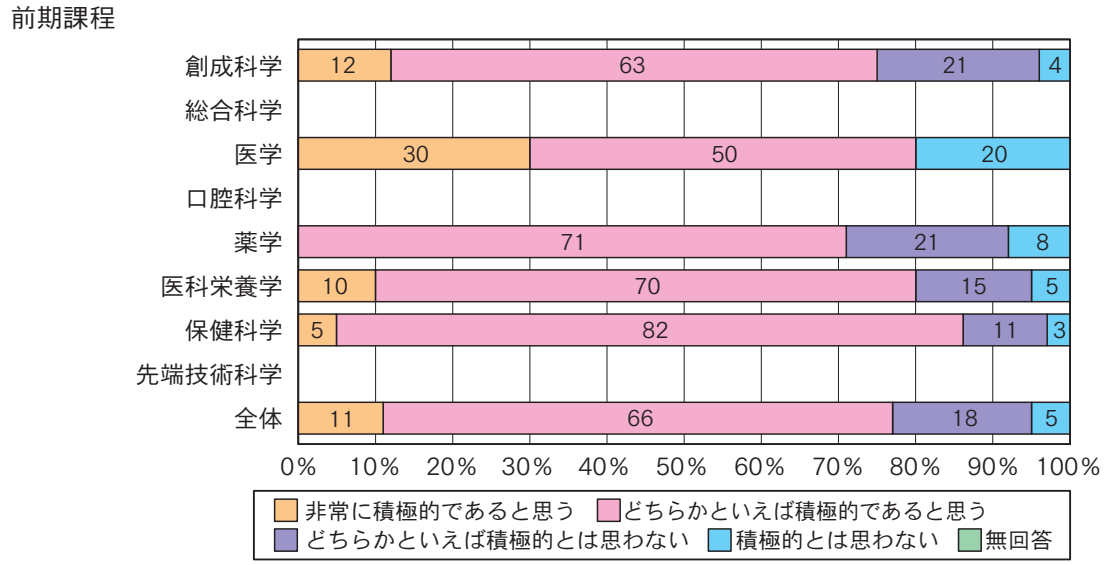

図６－９－５　本学の国際化への対応

後期課程

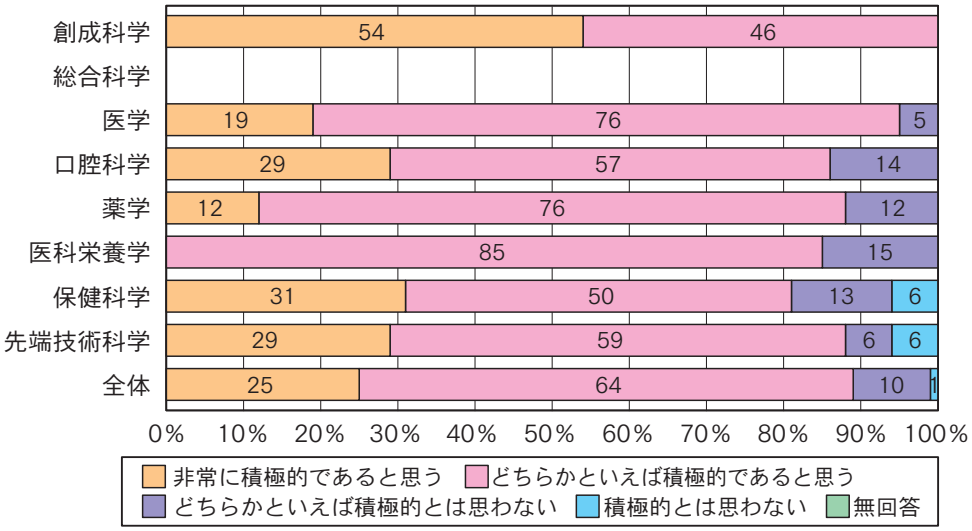

図６－９－６　本学の国際化への対応

留学生
前期課程

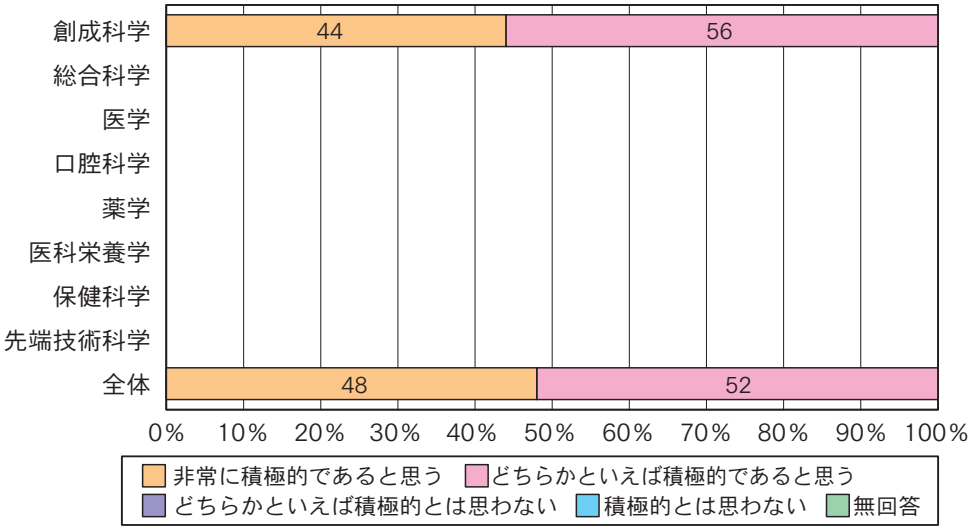

図６－９－７　本学の国際化への対応（留学生のみ）

留学生
後期課程

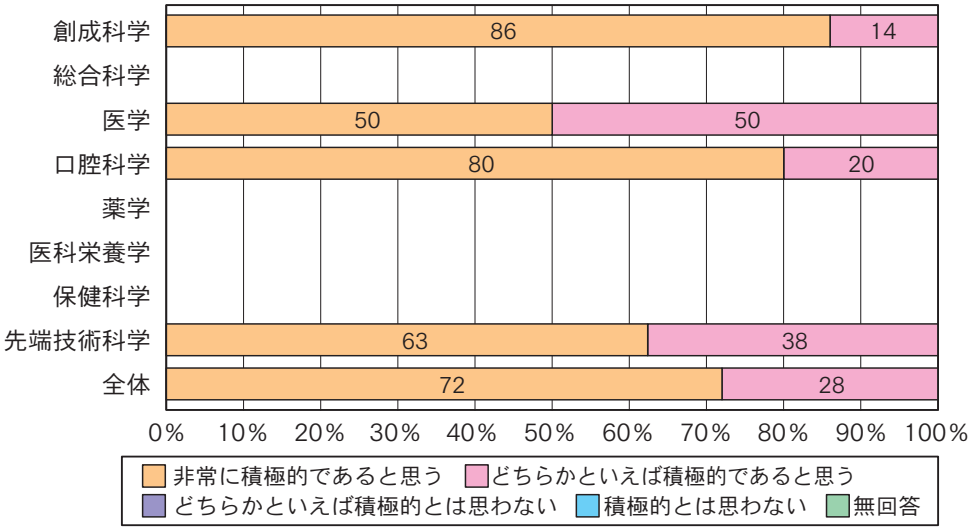

図６－９－８　本学の国際化への対応（留学生のみ）

第７章　進路選択・就職について

７－１　後期課程への進学意思（図７－１－１，図７－１－２）

前期課程学生の後期課程への進学意思について，全体では「進学したい」（8%，前回：11%），「経済的支援があれば進学したい」（3%，前回：7%）で進学を考えている割合の合計は 11%となり，前回調査に比べて 7%減っており，「就職したい」（81%，前回：70%）に比してかなり少ない。研究科・教育部別では，「進学したい」の割合が，医学が最も高く 60%，次いで薬学（21%），保健科学（16%）の順で医歯薬系の割合が高い（口腔科学は在籍者・有効数が少なく対象外）。一方，常三島地区の創成科学は 2%と極めて低い（総合科学と先端技術科学は在籍者・有効数が少なく対象外）。「経済的支援があれば進学したい」の割合は 2 ～ 10%であり，経済的な問題が解決されれば進学希望者を 1.4 倍程度まで

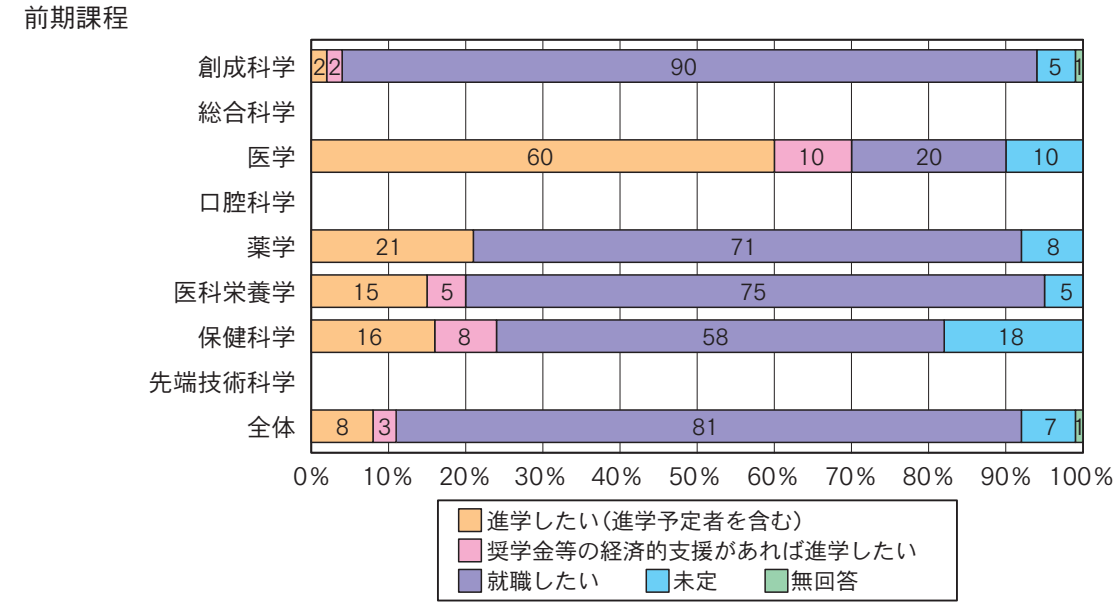

図７－１－１　後期課程への進学意思

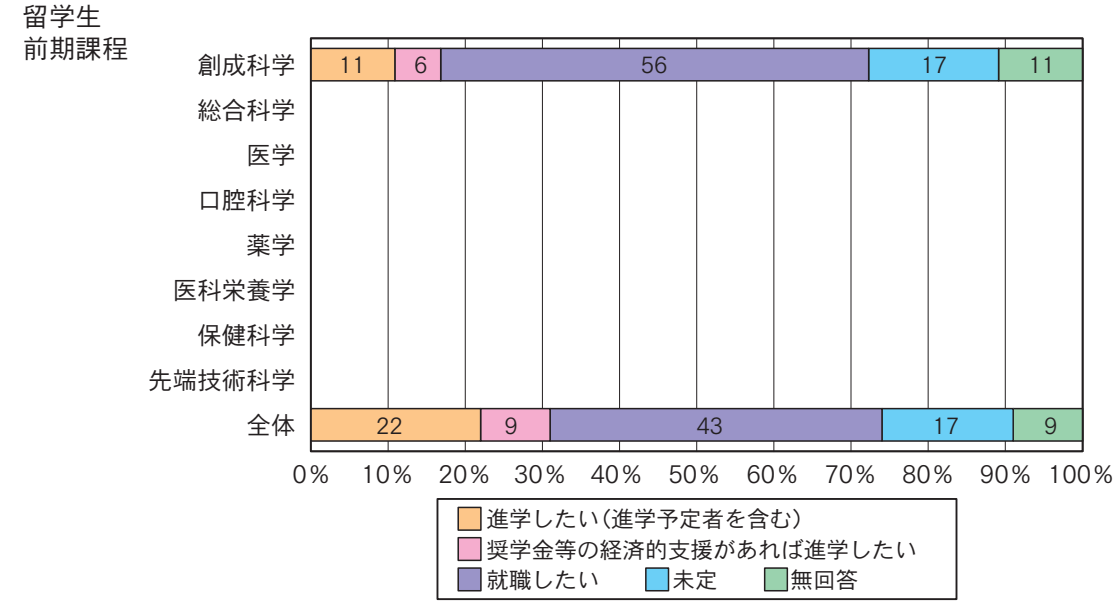

図７－１－２　留学生の後期課程への進学意思

増やす効果が期待できる。

留学生については，全体では「進学したい」（22%，前回：30%）が日本人学生の約３倍，「経済的支援があれば進学したい」（9%，前回：26%）が日本人学生の３倍となっており，日本人学生に比較して後期課程への進学意欲は高い。

７－２ 進学希望先（図７－２－１，図７－２－２）

進学意思（「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」）を示した学生（37 名，前回：71 名）の進学希望先大学院調査である。全体で 81%（前回：75%）が本学の，また 14%（前回：8%）が他大学の後期課程に進学することを希望している。なお，薬学では全員が本学の後期課程への進学を希望している。前回に比べて未定とした学生が少なく（17%→ 5%），進学先選択のための相談・指導体制を強化したことが功を奏していると思われる。

留学生（7 名）の場合は，86%（前回：47%）が本学，14%（前回：13%）が他大学への進学を希望しており，日本人学生と同様の傾向となっている。

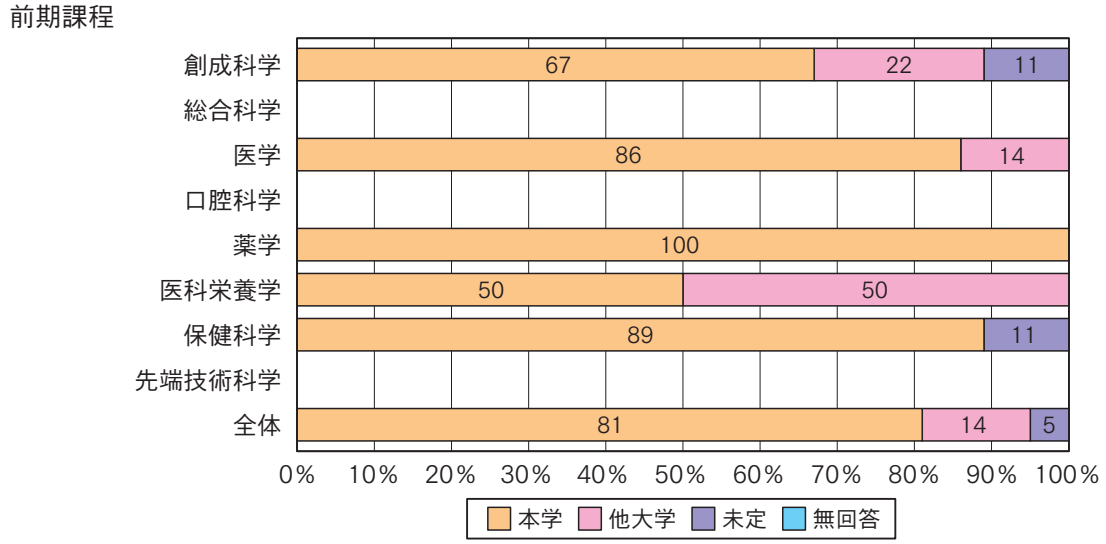

図７－２－１　進学希望先

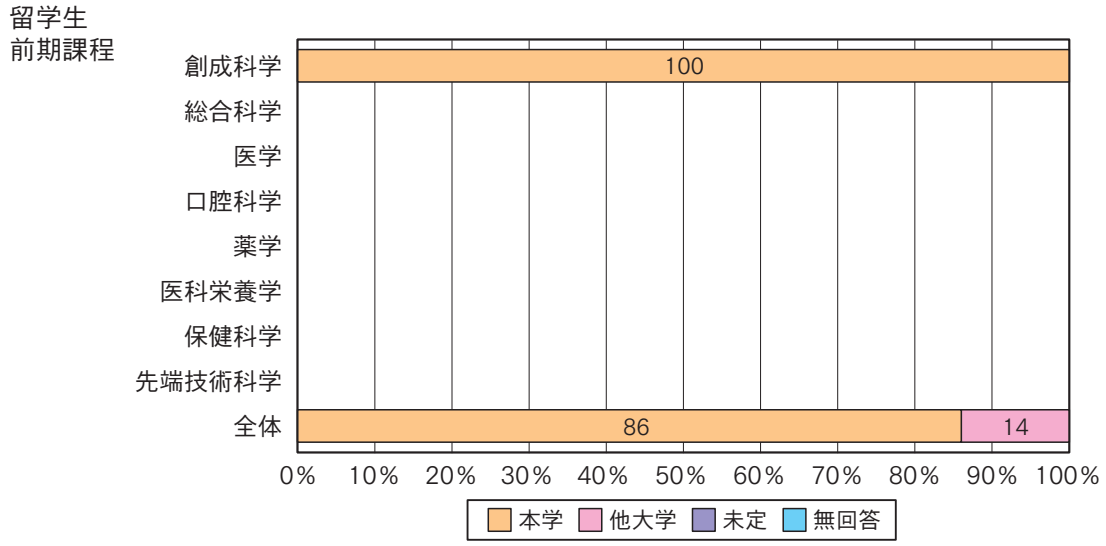

図７－２－２　留学生の進学希望先

7－3 就職希望職種（図7－3－1～図7－3－4）

図7－3－1は，項目7－1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生（390名）の就職希望職種である。各研究科・教育部における主な希望職種は，①創成科学：「技術職」（56%），「企業等の研究職」（20%），②医学：「技術職」（33%），「企業等の研究職」（33%），③薬学：「企業等の研究職」（43%），「技術職」（35%），④医科栄養学：「技術職」（27%），「専門職（医師等）」（23%），⑤保健科学：「専門職（医師等）」（70%），となっている。

図7－3－2は後期課程の学生（160名）に就職希望職種を尋ねたものである。全体では，無回答が49%と半数であり，「大学・官公庁の教育・研究職」（14%），「専門職（医師等）」（11%），「企業等の研究職」（6%），「技術職」（4%）に分散している。創成科学や先端技術科学で「大学・官公庁の教育・研究職」が22～29%と多い傾向である。

留学生に関しては，前期課程の回答者は25名（創成科学24名，総合科学1名）であり，後期課程の

前期課程

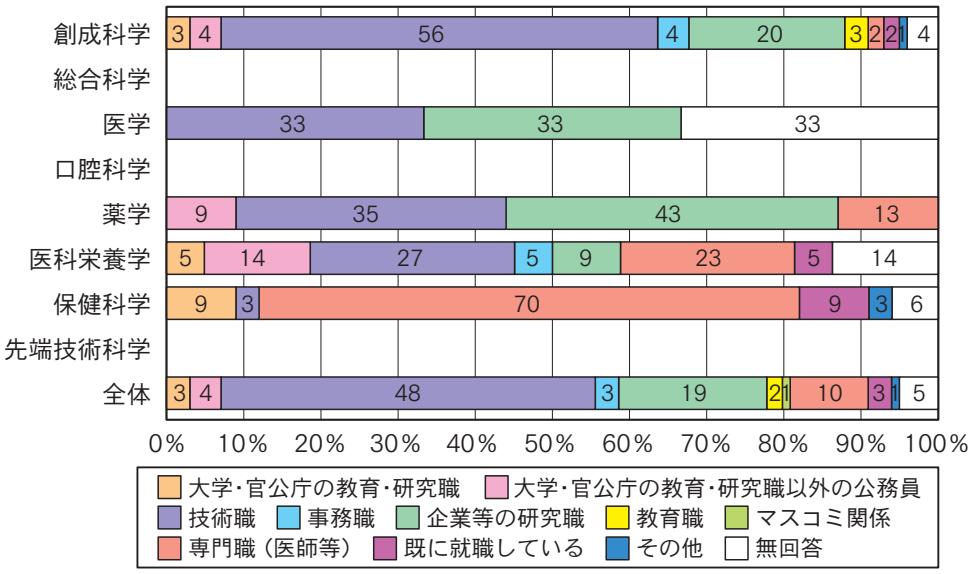

図7－3－1　就職希望職種（複数回答可）

後期課程

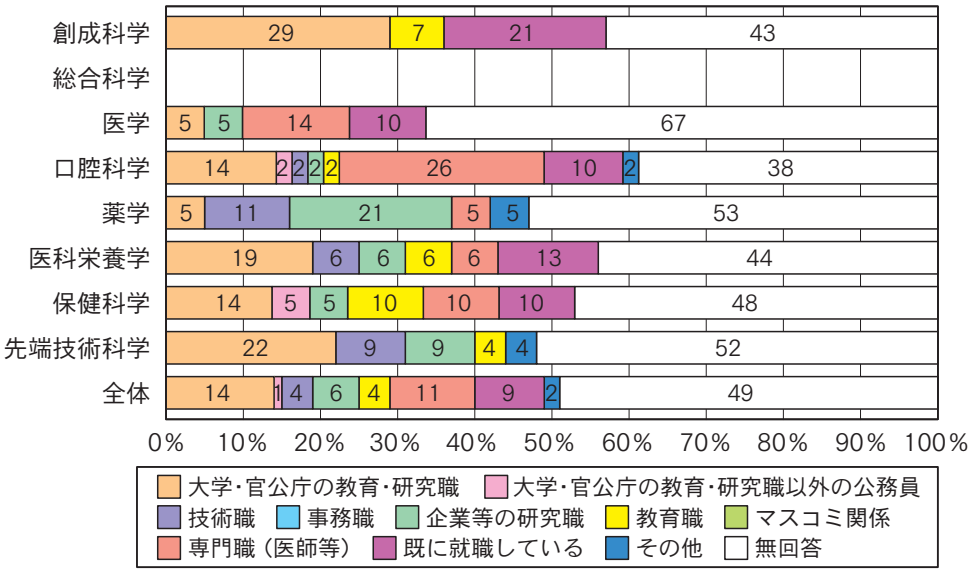

図7－3－2　就職希望職種（複数回答可）

回答者は 47 名（創成科学 8 名，総合科学 1 名，医学 6 名，口腔科学 14 名，薬学 2 名，保健科学 3 名，先端技術科学 13 名）である。前期課程では「技術職」と「教育職」がいずれも 28％と多い。後期課程では「大学・官公庁の教育・研究職」（26％），「企業等の研究職」（11％）となっている。

今回の調査では，日本人学生，留学生ともに後期課程で無回答が多い。本学ではキャリア支援室を中心として就職支援に力を注いでいるところではあるが，このように明確な就職志望を形成できない学生に対するケアが必要だと思われる。

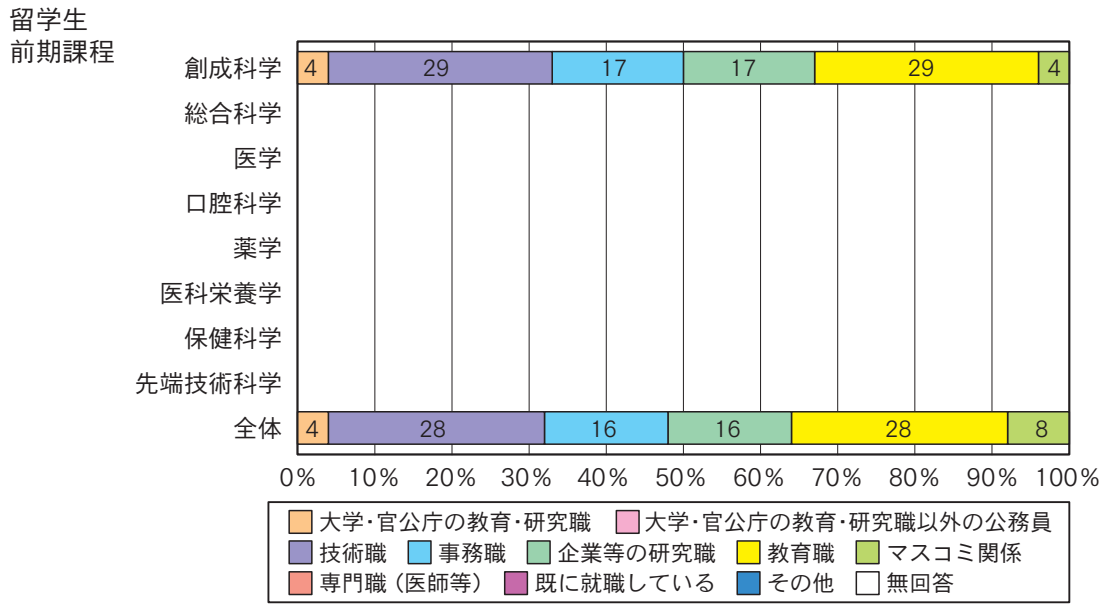

図７－３－３　留学生の就職希望職種（複数回答可）

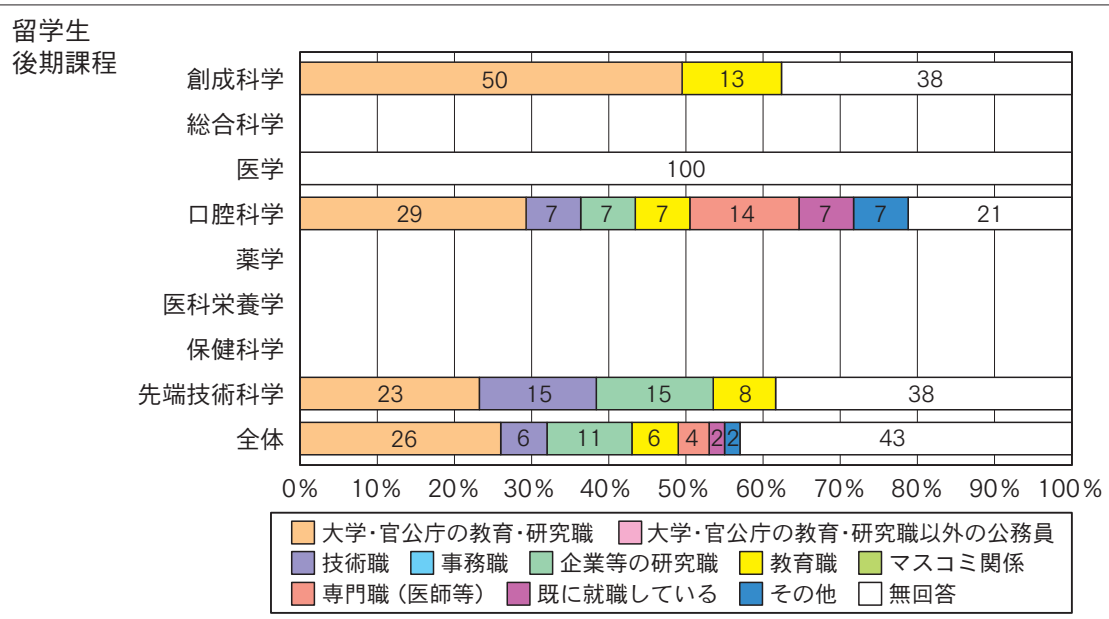

図７－３－４　留学生の就職希望職種（複数回答可）

7－4　進路選択の要件（図7－4－1～図7－4－4）

図7－4－1は前期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたもので3個以内の複数回答結果である。全体では前回と同様の傾向であり，「収入」（23%）と「就職先の将来性・安定性」（23%）が最も高い比率を示し，「能力を発揮できること」（16%），「勤務地の地理的条件」（10%）が続いている。全ての研究科･教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが，医学では「能力を発揮できること」（27%）が他の研究科・教育部と比較して高いことが特徴的である。

図7－4－2は後期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたものである（3個以内で回答）。全体では，「収入」（21%），「就職先の将来性・安定性」（21%），「能力を発揮できること」（19%），が重視されており，前回と同様に前・後期課程ともこれら3つが共通して重視されている傾向がある。

前期課程

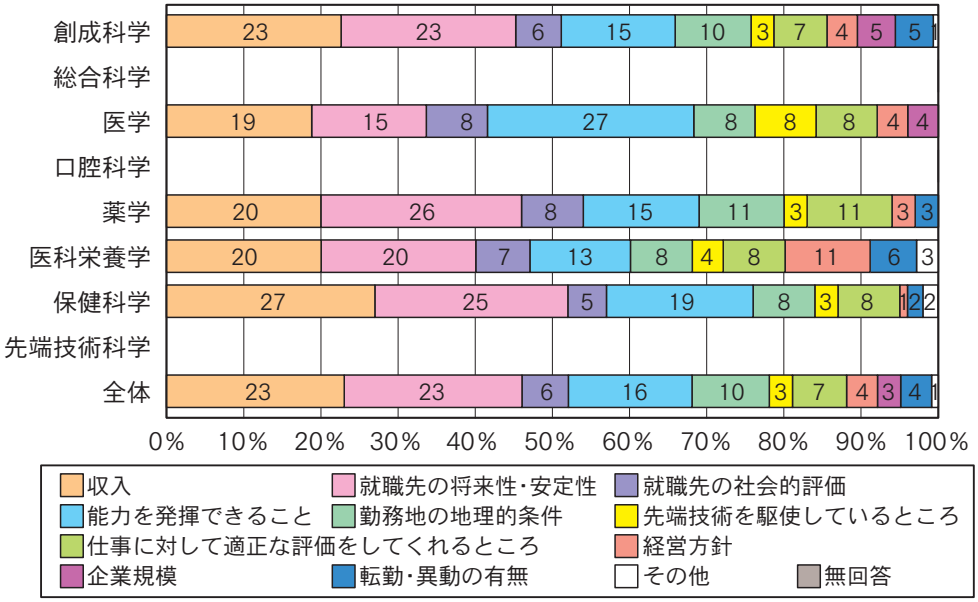

図7－4－1　進路選択の要件（3個以内で回答）

後期課程

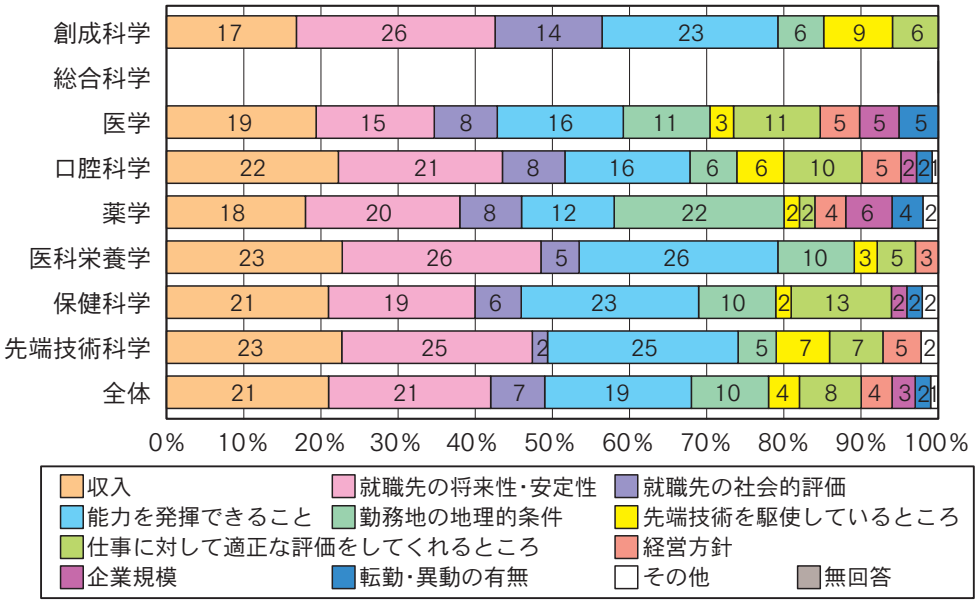

図7－4－2　進路選択の要件（3個以内で回答）

留学生においても（図７－４－３および図７－４－４），前･後期課程とも「収入」,「就職先の将来性･安定性」,「能力を発揮できること」が主要件となっており，日本人学生と類似した傾向がある。

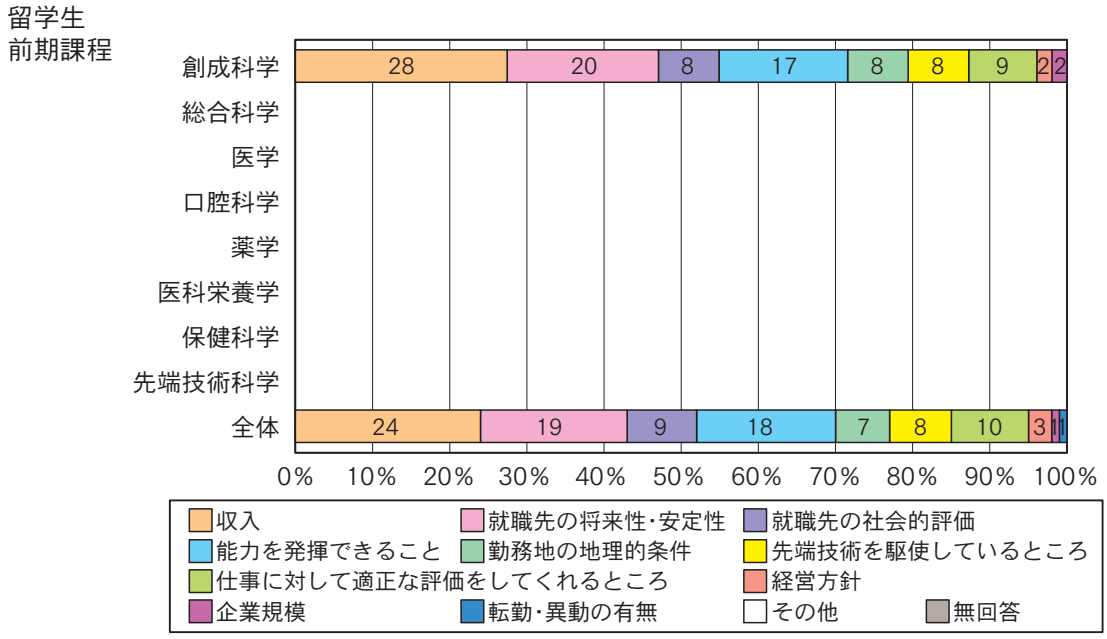

図７－４－３　留学生の進路選択の要件（3 個以内で回答）

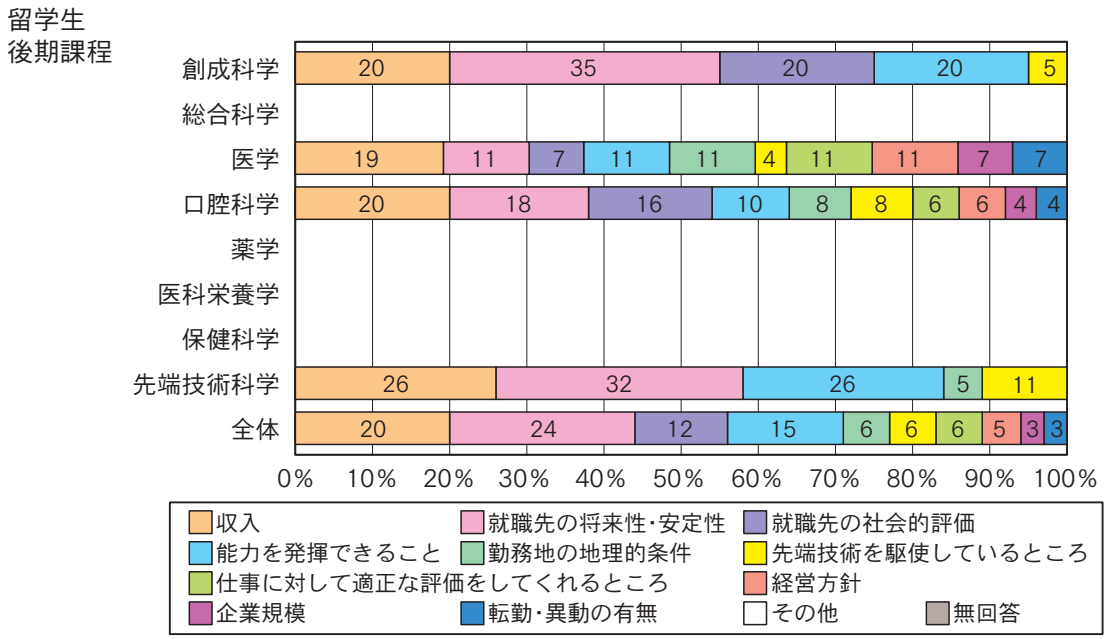

図７－４－４　留学生の進路選択の要件（3 個以内で回答）

7－5　進路選択の情報入手手段（図７－５－１～図７－５－４）

進路情報の入手手段においては，前期課程は前回と同様に「Ｗｅｂ・インターネット」が26％と最も高い比率を示しており，「先輩・知人」（19％），「会社説明会」（13％），「指導教員」（10％）と続いている。一方，後期課程においては「Ｗｅｂ・インターネット」が22％に対して「指導教員」が23％と逆転しており，後期課程の学生は前期課程に比べて専門性が高いために「指導教員」の役割が大きいと想像される。

留学生においても，全体としては日本人学生とほぼ同様の傾向が見られており，キャリア支援室や国際課における情報提供が日本人同様に有効に機能しているものと思われる。

前期課程

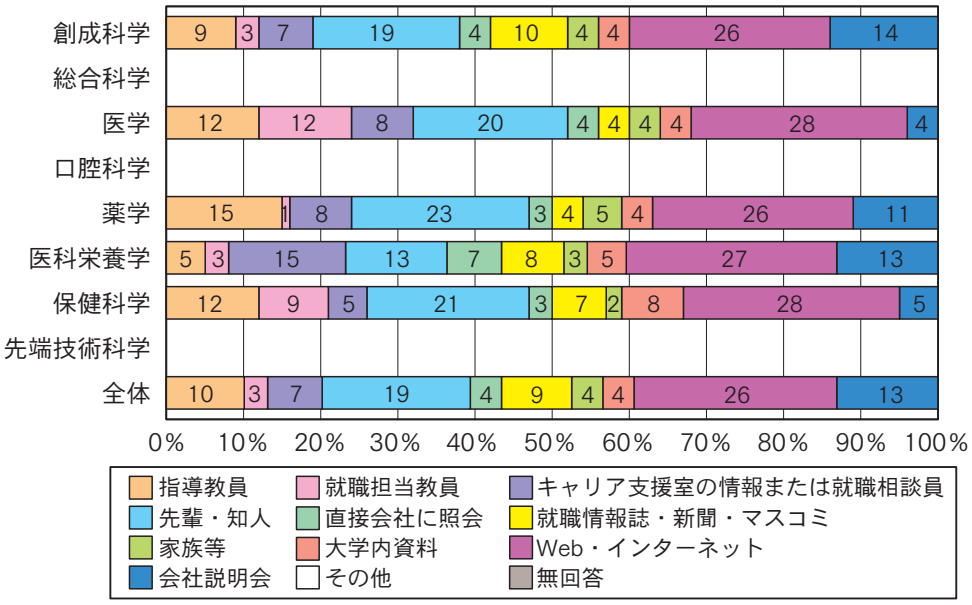

図７－５－１　進路選択の情報入手手段（複数回答可）

後期課程

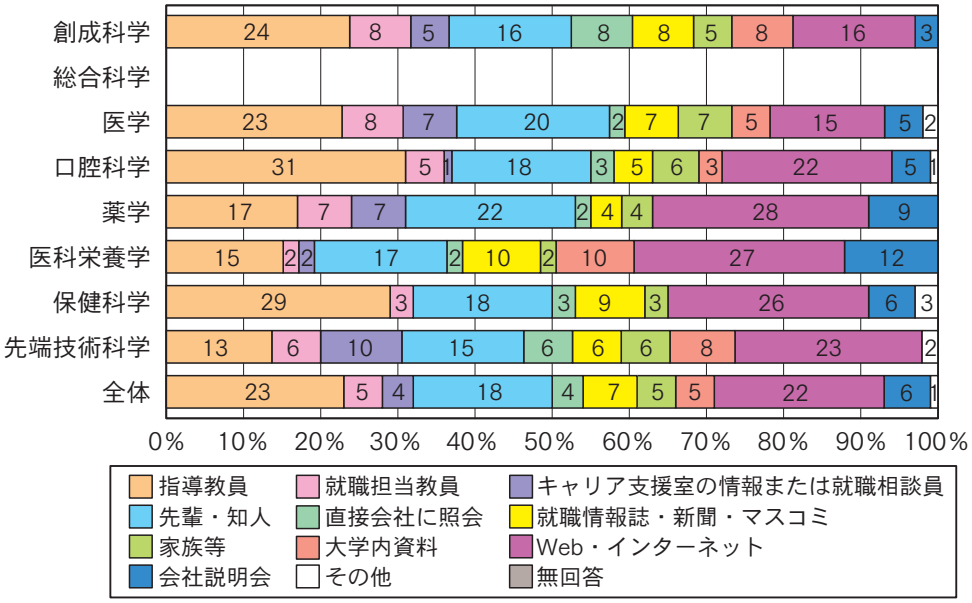

図７－５－２　進路選択の情報入手手段（複数回答可）

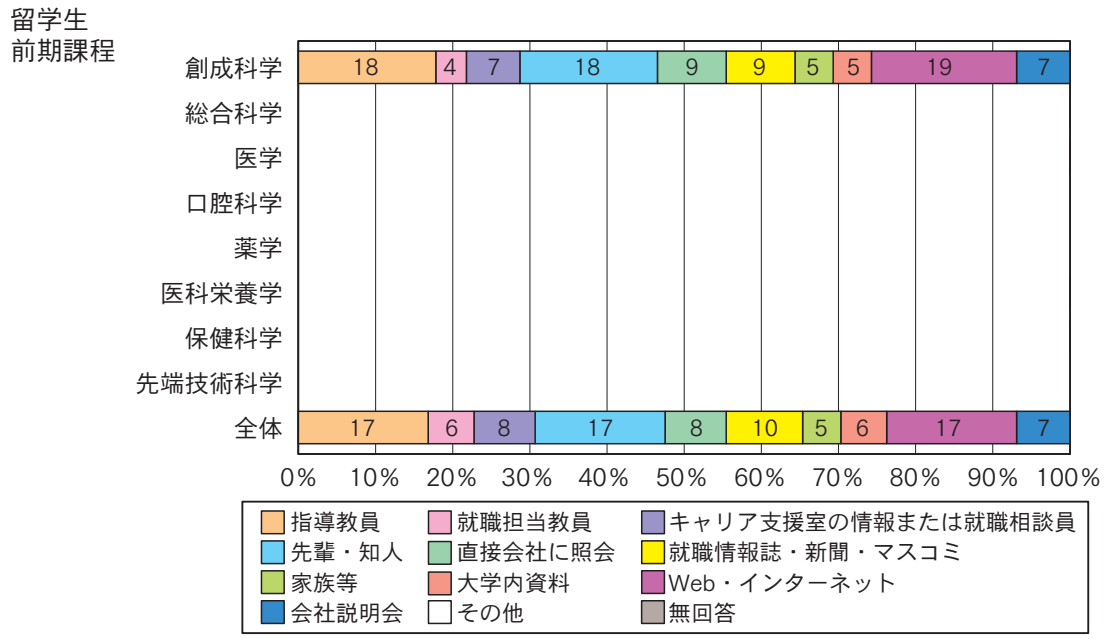

図７－５－３　留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

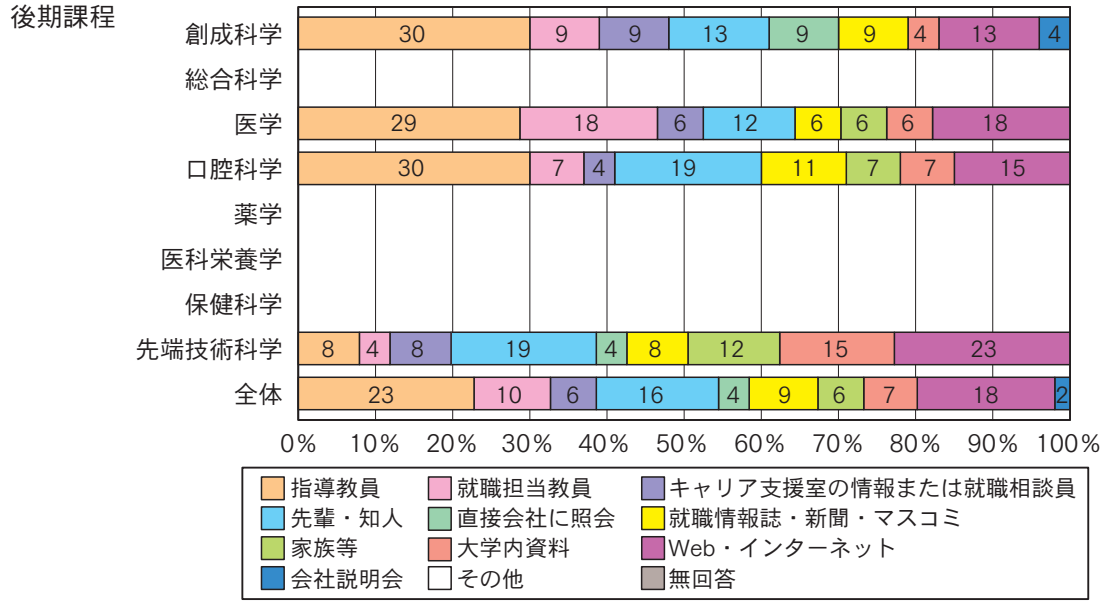

図７－５－４　留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

7－6　キャリア支援室の利用状況（図7－6－1～図7－6－4）

キャリア支援室の利用状況について，全体では前期課程で52%（前回:59%）が，後期課程で84%（前回：83%）が「利用したことがない」と回答しており，前期課程では改善傾向がみられているものの利用率は必ずしも高いとは言えない（図7－6－1，7－6－2）。研究科・教育部別に「利用したことがない」の割合を見ると，前期課程では医学，薬学，保健科学が71～84%，後期課程では，薬学，先端技術科学（71%）を除いていずれも8割以上となっている。本学大学院生は，専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く，そうした求人・就職情報は実態として各研究室や研究科・教育部経由で入手される場合も多い。そのような背景の中，前回の調査結果から改善傾向がみられたことから，キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力により，利用率が向上したものと思われる。

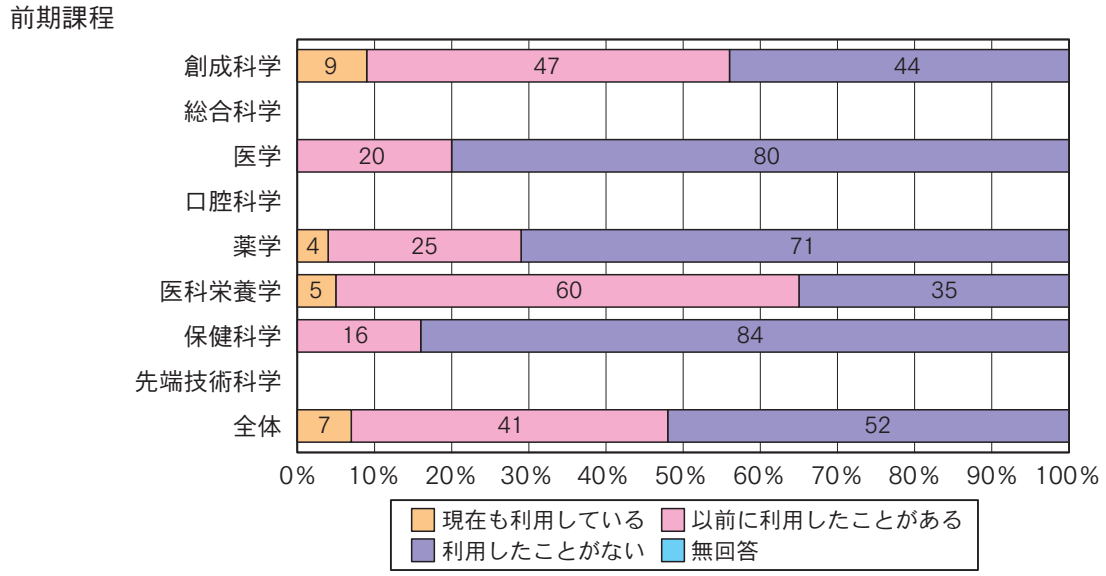

図7－6－1　キャリア支援室の利用状況

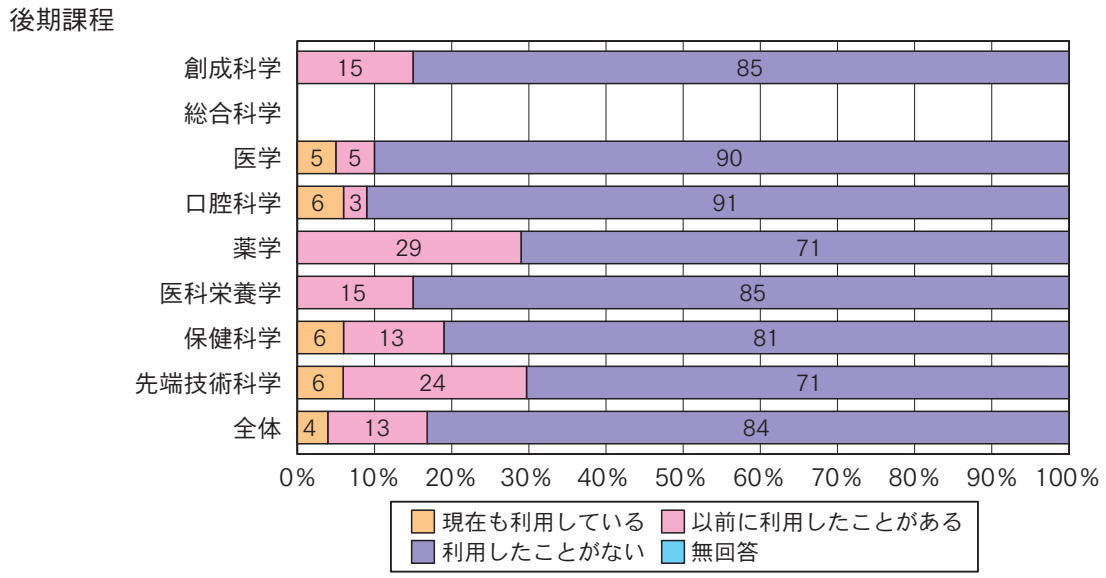

図7－6－2　キャリア支援室の利用状況

留学生については，前回と同様に前期課程では日本人学生に比べて利用率が低いが，語学や文化など特異な支援項目もあり，国際課にも支援を求めながら就職活動が行われているものと思われる。

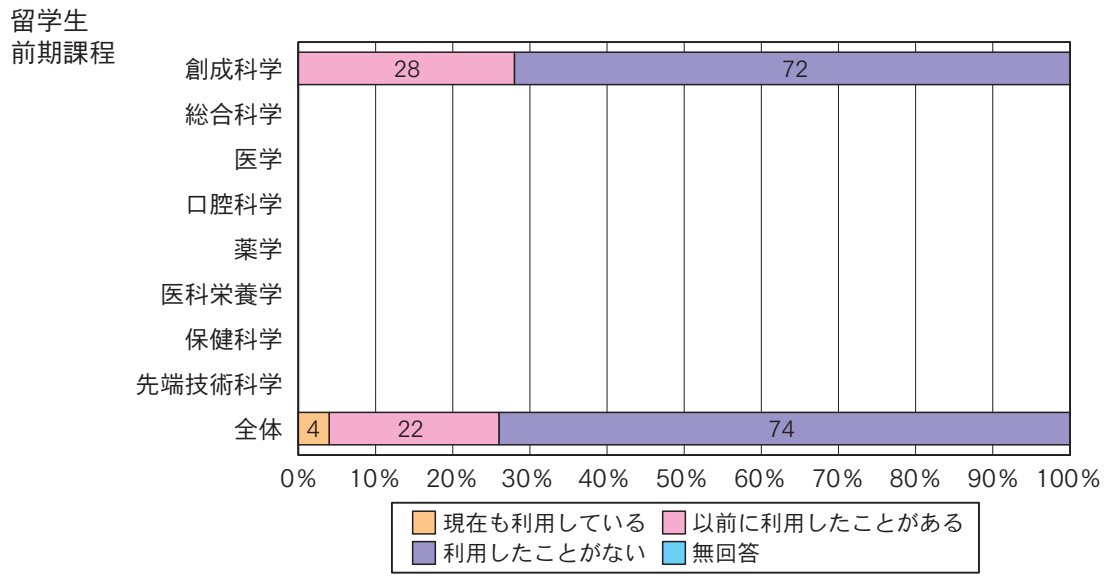

図７－６－３　留学生のキャリア支援室の利用状況

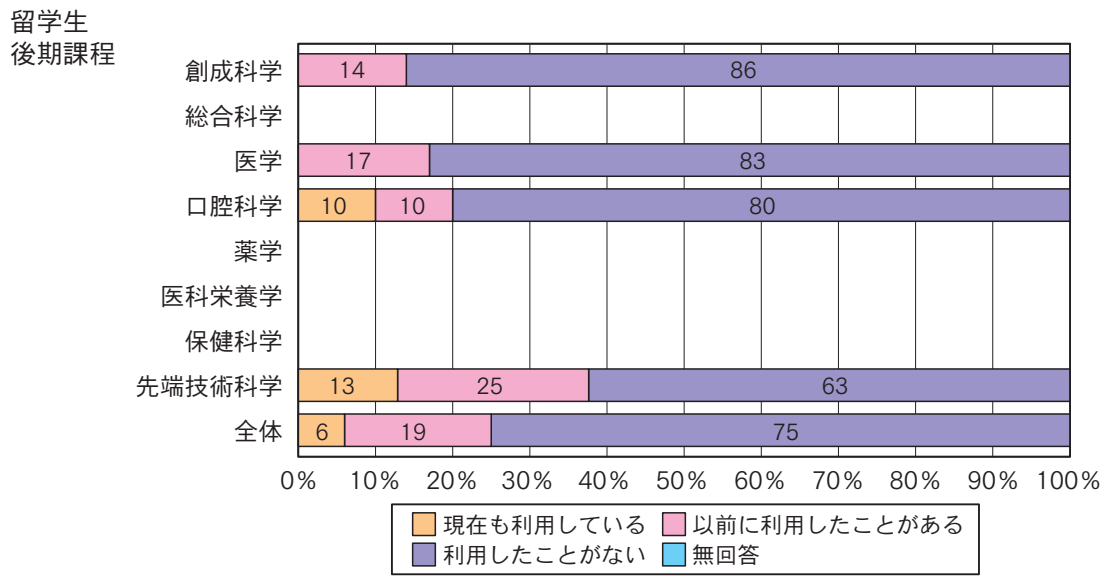

図７－６－４　留学生のキャリア支援室の利用状況

７－７　就職に関する大学への要望（図７－７－１～図７－７－４）

本質問・要望（複数回答）については延べ792件を数え，選択肢としたすべての項目について要望が寄せられている。その割合も前回と同様である。ただし，キャリア支援室側から見ると，今回選択肢とした項目はいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスでもある。前項目７－６で示されたように，キャリア支援室の利用状況は前回調査時から改善傾向であり，引き続き学生に利用を呼びかけ内容周知が徹底すれば，学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

①要望１（就職関係書籍）：学生目線に立った書籍を備えるように，継続的に学生からの意見も聴きながら多種多様な就職関係書籍を増やしている。また，図書館にも就職関係書籍があるが，連携しながら双方で必要な図書が閲覧できる体制を新たに構築している。

②要望２（面接対策・履歴書の書き方）：面接対策・履歴書の書き方指導等は支援室の主業務の一つであり，専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室するとともに，予約外の相談にも対応するなど相談体制を強化している。また，就職相談の内容を分析した上で，キャリア支援室のセミナーやガイダンスに重点項目として反映している。

③要望３（試験対策）：キャリア支援室と徳島大学生協の共催により，本学では公務員講座を開講している。また，集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に努めている。

④要望４＆５（企業説明会＆就職ガイダンス）：年間を通じてガイダンス・セミナーを開催し，スタイルもよりきめ細やかな支援を目標に少人数型やワークショップ型をより多く提供している。また，ＯＢ・ＯＧ紹介，内定者による就職活動報告会及び学内での個別企業説明会や合同企業説明会の開催，県外で開催される合同企業説明会へ参加するバスツアーなども企画している。なお，毎年保護者に対する説明会も開催し，好評をいただいている。

⑤要望６（企業開拓）：各研究科・教育部ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また，平成28年度から令和元年度にかけて雇用主インタビューを実施し，企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対するキャリア支援業務に反映している。さらに，キャリア支援室企業情報システムを構築し，来室企業や提携インターンシップの情報をＷｅｂで閲覧可能にすることで，学生の職業観の醸成及び県内企業認知度向上に役立てている。

留学生については，前・後期課程ともに日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。よって今後も，国際課との連携をより一層強くしていく必要がある。

これまでの分析結果をもとに，①後期課程への進学意思と進学希望先，②就職希望職種と進路選択要件，③就職情報の入手手段，④キャリア支援室の利用状況，⑤就職に関する大学への要望，の５項目に整理し，それらのまとめを以下に示す。

①　後期課程への進学意思と進学希望先

前期課程学生の後期課程への進学意思は，前回調査に引き続き全般的に高いとは言えない。しかしながら，経済的な問題が解決されれば進学希望者をある程度増やす効果があるものと考えられる。現在，本学において後期課程の学生に向けた経済的支援を検討中であり，その効果が期待される。

留学生については，日本人学生に比較して後期課程への進学意識は高く，留学生の確保が後期課程の定員を充足させるカギになると思われる。

進学希望先としては，日本人学生と留学生ともに本学を希望するものが80％を超えており，各指導教員の努力の賜物であると思われる。

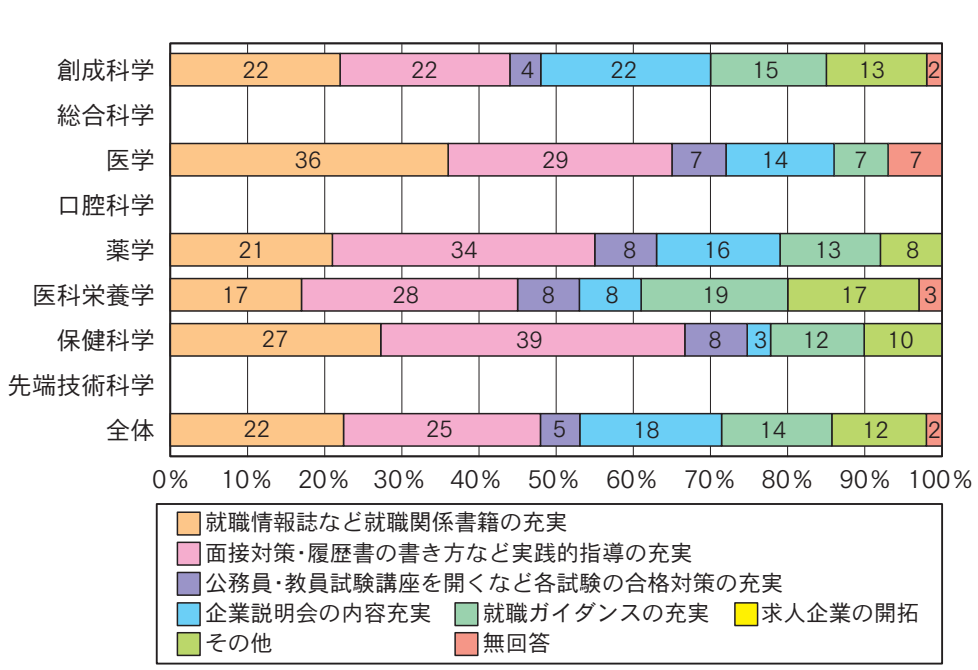

図７－７－１　就職に関する大学への要望（複数回答可）

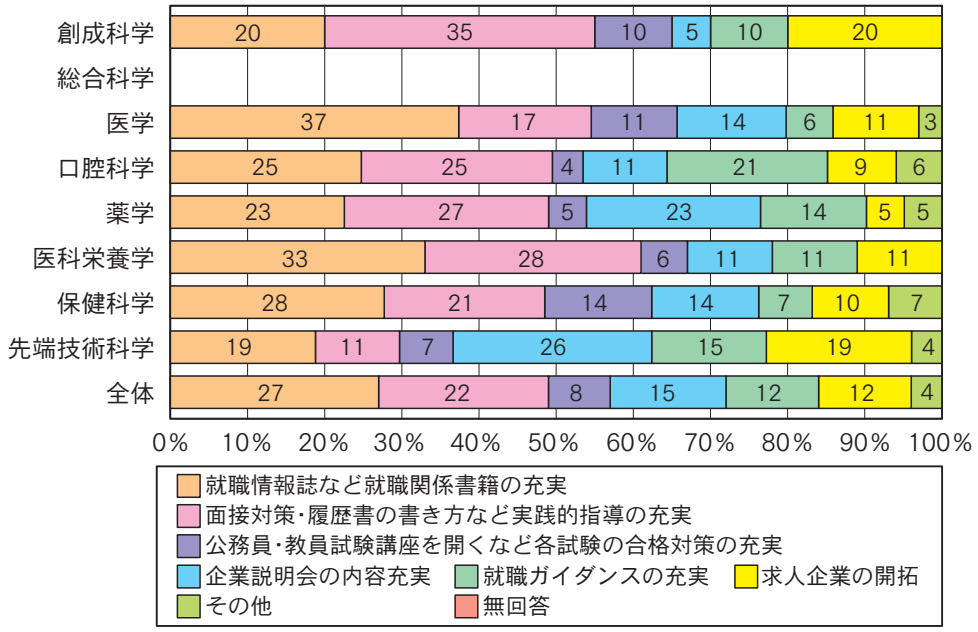

図７－７－２　就職に関する大学への要望（複数回答可）

②　就職希望職種と進路選択要件

就職希望職種について，前期課程の場合，「就職したい」に「未定」を合わせた比率は，常三島地区の創成科学では９割と高いのに対し，蔵本地区では２～７割と常三島地区に比べて低い上にばらついている。蔵本地区では「既に就職している」が一定数存在することの影響と考えられる。多くの研究科・教育部で「企業等の研究職」や「技術職」，「専門職（医師等）」を希望するものが多い。

後期課程の場合，「大学・官公庁の教育・研究職」の希望者が最も多く，次いで「専門職（医師等）」，「企業等の研究職」と，高度な専門性を生かせる職種を希望する状況は前回から変わっていない。

留学生に関しては，前期課程では「技術職」と「教育職」が多く，後期課程では「大学・官公庁の

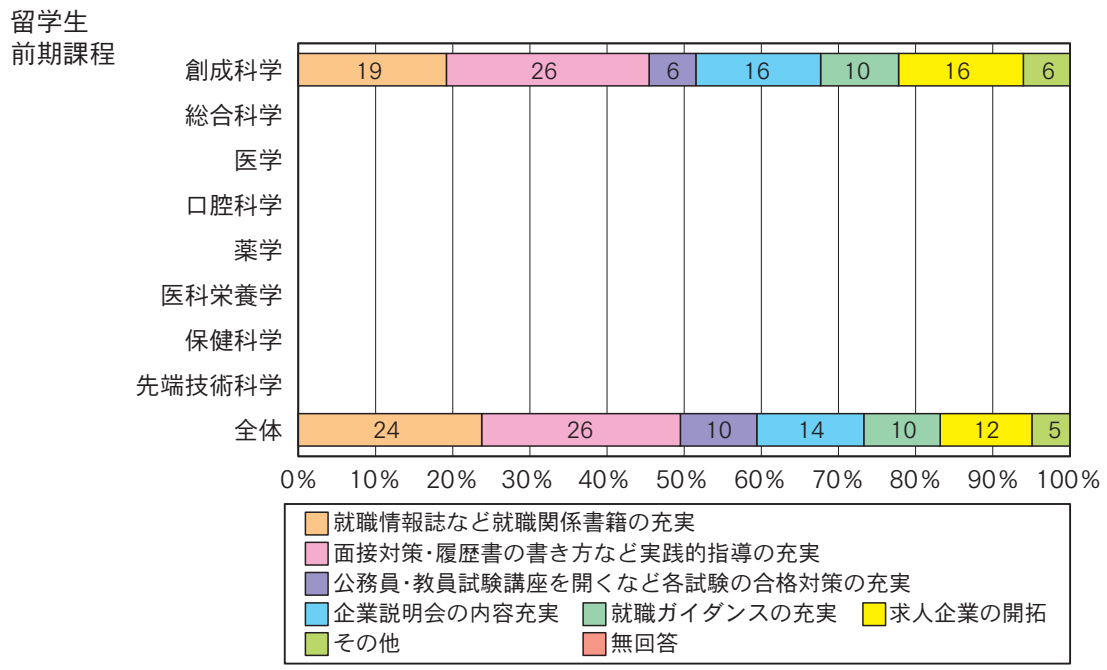

図７－７－３　留学生の就職に関する大学への要望（複数回答可）

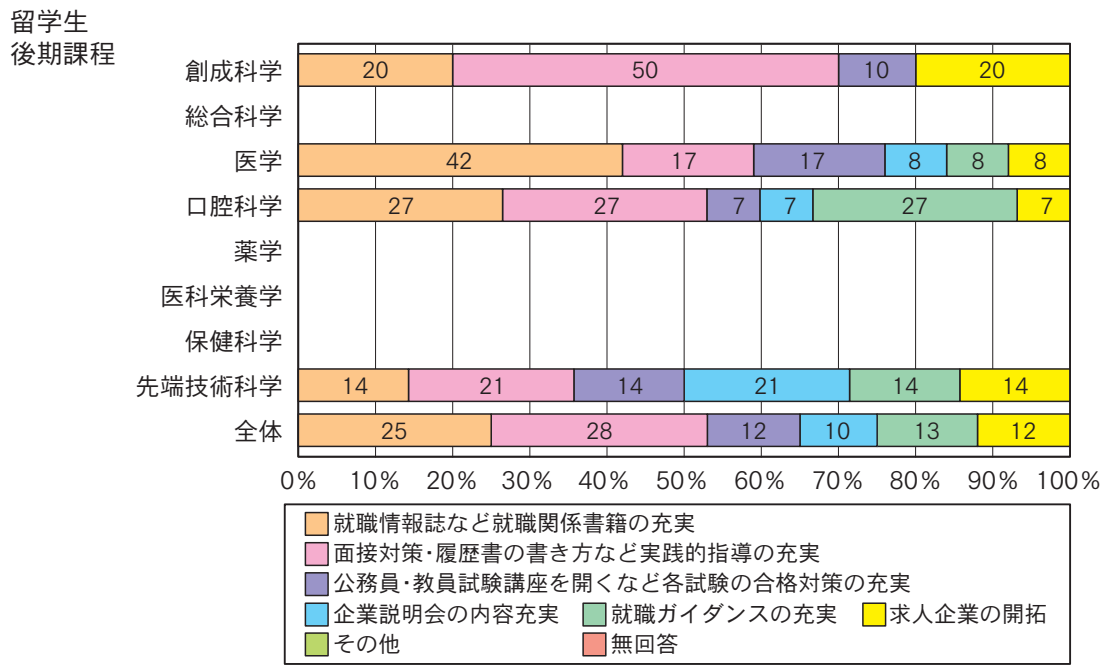

図７－７－４　留学生の就職に関する大学への要望（複数回答可）

教育・研究職」が最も多い。後期課程においては「無回答」としたものも目立っており，キャリア支援室や国際課の更なるサポートが必要だと思われる。

進路選択要件については，前期課程・後期課程の別，あるいは日本人学生・留学生の別なく，いずれも前回と同様に「収入」，「就職先の将来性・安定性」，「能力を発揮できること」の３要件が重視されている。

③　就職情報の入手手段

進路情報の入手手段について，日本人学生および留学生ともに「Ｗｅｂ・インターネット」，「先輩・知人」，「会社説明会」，「指導教員」が主要手段となっている。キャリア支援室では「会社説明会」の

充実化を図っており，その成果を反映した結果となっている。

④　キャリア支援室の利用状況

キャリア支援室の利用状況について，前期課程で５割程度，後期課程で８割強が「利用したことがない」と回答しており，値だけ見れば利用率は必ずしも高いとは言えない。しかしながら，前期課程においては7%の改善効果が得られており，キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力によるものと思われる。今後は各教育部・研究科の就職担当の先生方との連携を図ることで，キャリア支援室の利用率を高める努力が必要だと思われる。

留学生については，特に前期課程で日本人学生の利用率に比べて利用率が低く，国際課とのより一層の連携を図る必要があると思われる。

⑤　就職に関する大学への要望

学生からの要望の多くはいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスであるが，利用状況が低い現状から，より一層広く学生に利用を呼びかけ内容周知を徹底することで，学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

近年，学生からの要望に基づきキャリア支援室として改善ないしは力を入れている項目としては，キャリアカウンセラー・各コーディネーターによる相談体制の強化，少人数型やワークショップ型によるきめ細やかな就職ガイダンス・セミナー，ＯＢ・ＯＧ紹介，内定者による就職活動報告会，保護者に対する説明会，キャリア支援室企業情報システムの構築，新たな試みとして，学生と本学学生を採用したい企業とのマッチングを支援する「就職マッチング支援事業」の実施などがあげられる。今後もアンケートを活用して学生・企業双方の要望を収集・分析しつつ，各教育部や研究科と連携しながら新たな企画の立ち上げや既存の企画の満足度を高める工夫に務めることで，両者のマッチング・サポートに貢献して行くつもりである。

第８章　研究科・教育部の現状と課題

８－１　創成科学研究科

創成科学研究科は，2020 年 4 月に総合科学教育部と先端技術科学教育部を再編・統合して設立された研究科であり，後期課程の学生募集は 2022 年度より行われたところである（第 8 回調査の対象者は前期課程のみ）。在学者数は，前期課程 752 名（休学者を除く）と後期課程 1 年の 28 名である。今回の調査における回収率は，前期課程 32.0%，後期課程 39.3%，合わせると 32.3%であり，全体の回収率と大差はない。

「本調査の対象者について」より，出身地をみると，前期課程では徳島県 32%，近畿 34%で，全体の傾向と大差はない。一方，後期課程では，54%が海外で，中国・関東が 8%と低い割合であるのが特徴である。本学出身者の割合は，前期課程で 90%，後期課程で 38%となっている。前期課程の多くが本学出身者で，後期課程で出身がばらつくのは全体的な傾向と同じである。一方，後期課程においては外国の大学・大学院の出身者が全研究科・教育部の中で最も高い割合であった。社会人と留学生についてみると，前期課程の社会人が 4%で薬学・医科栄養学と並んで低い割合であったが，後期課程の留学生が 54%であるのは，先端技術科学の 47%と並んでかなり高い割合となっているのが特徴である。

「家族・住居・通学について」より家庭の年間所得をみると，概ね全体の傾向と同じであるが，500 万円未満が後期課程で 69%，留学生に限れば前期課程 73%，後期課程 86%であり，後期課程と留学生の所得の低さが目に付く。住居区分では家族と別居したアパート・マンションが前期課程で 66%，後期課程で 31%であり，後期課程は全体より割合が低いが，これは国際交流会館に住まいする後期課程の留学生が 57%という高率であることと表裏をなすであろう。自宅外通学者の家賃をみると，5 万円未満が前期課程 67%，後期課程で 55%である。生計を共にする配偶者・子供の有無で両方無が前期課程で 98%，後期課程で 62%であった。なお，子供がいるのは後期課程の数名に留まる。通学方法は，前期課程の 77%が徒歩か自転車，後期課程の 46%が自転車で，通学時間は前期課程の 97%，後期課程の 69%が 1 時間未満であった。

「収入・支出について」より，1 か月の平均収入額で 3 万円未満に着目すると，前期課程では薬学 79%，医科栄養学 50%に次ぐ 49%であり，後期課程においても先端技術科学の 53%に次ぐ 38%の高い割合となっている。第 8 回調査の 59%からも低い収入の傾向が続いている。一方，親等から援助を受けていないが前期課程 24%，後期課程 62%であった。また，奨学金受給希望（現在受けているかどうかに拘わらず）が前期課程で 47%，後期課程 69%となっている。家計に関しては個別の家庭事情が絡んでいるものと思われる。さらにアルバイトについては，前期課程の 69%，後期課程の 23%が従事している。特に前期課程においては，第 8 回調査で指摘されたアルバイトに頼ろうとする傾向が続いているものと思われる。

「健康状態について」より，睡眠時間をみると，6 時間未満が前期課程で 35%，後期課程で 38%で，全般的にはまずまずである。また，気になる身体症状が時々また常にあるのが前期課程で 42%，後期課程で 53%で，第 8 回調査の 34%から増加傾向にあるのは注意される。悩みや不安については，ないと回答したのが前期課程で 35%，後期課程で 23%で，あると回答した者の種類は複数回答可で多岐にわたっている。複数回答可の相談相手として，友人･家族を挙げるのがどれも半数を超えていた一方，キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門を挙げるのが前期課程の 2%と後期課程の 8%しかなかった。後期課程では誰にも相談しない者も 15%存在しており，大学としても対応が必要である。現在の精神状態については，何らかの問題を抱えている者が前期課程で 31%，後期課程で 23%いるので，こ

れにも対応が求められる。

「学生生活上の問題点について」より，入学以来迷惑行為を受けたことはないとの回答は，前期課程32%，後期課程31%であった。第8回調査では88%であったので，迷惑行為が大幅に増加していることになる。中で，前期課程の34%が大学内でのセクハラの被害を，1%が大学内でのアカハラの被害を回答している。ただ，相談先として教員とキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門を挙げているのはアカハラを受けた34%に過ぎない。総合相談部門については，前期課程の29%，後期課程の31%が存在を知らないと回答しており，その周知から始めなければならないであろう。犯罪被害については，前期課程の8%が盗難に遭ったのみであった。交通事故は，被害者・加害者のいずれかになったことがあるのが，前期課程19%，後期課程8%である。盗難予防と交通安全教育は特に力を入れる必要がある。また，違法薬物の使用について，前期課程の1%が経験があると回答しており看過できない。大学事務室の対応は，前期課程の94%，後期課程の100%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており，全体と比較してもおおむね満足しているといえよう。

「修学状況について」より，研究科の教育理念や教育方針は，「良く知っている」または「だいたい知っている」が前期課程71%，後期課程92%であった。また，教育理念や教育方針で教育を受けているかについては，前期課程で92%，後期課程で83%が思うと回答している。さらに教育課程の満足度は，「満足している」または「どちらかといえば満足している」が前期課程で95%，後期課程で93%と良好であり，かつ第8回調査よりもさらに好転している。本学への進学が第一志望であったかどうかについては，後期課程の他大学卒業者が50%であった他は，ほとんどが第一志望であったと言ってよい。これが50%であるのは保健科学の25%に次ぐ低さで，理由の分析が必要かもしれない。入学した理由は複数回答可で多岐に亘るが，前期課程では出身大学だからが32%で最も高くなっている。他の研究科では他の理由の割合の方が高いところも多く，出身大学であること以外でもっと惹きつけることも必要であろう。大学院での勉学により目指すものはばらつきがみられたが，前期課程で大学教員を目指すものがいないのが目に付く。授業の内容や進め方については，前期課程の4%を除いて，「満足」または「どちらかといえば満足」であった。授業以外の研究活動の1週間平均時間は，20時間未満が前期課程49%，後期課程45%で，全般的には十分であるとは言えないであろう。中には前期課程の2%が30分未満と回答している。上で見た健康面・心の状態も視野に入れての対策が必要である。また，直接の指導教員は，教授・准教授が前期課程で85%，後期課程で92%となっている。研究指導を受ける時間は，週30分未満が前期課程で19%，後期課程で8%いるのが気になるが，研究指導，研究テーマ及び指導教員とのコミュニケーション，教育レベル，研究環境，大学院に対する満足度は，非常に高い割合となっている。注意するところを挙げるとすれば，満足していない学生からは施設・設備がその理由として挙げられている点（複数回答可で前期課程45%，後期課程50%）である。この点は，第8回調査でも課題とされていた。図書館の利用頻度については，週に1回程度以上が前期課程で13%，後期課程で30%しかいないが，これでも後期課程は全体からするとやや多い方である。図書館の提供するサービスに対する満足度は，前期課程の97%，後期課程の93%が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」であり，利用者からは好評を得ているので，図書館の利用をもっと促してもよいであろう。大学院にふさわしい学習への取り組みは，前期課程で80%，後期課程で77%が，「よく学習している」または「かなりしている」であった。入学後の海外渡航については，前期課程の85%，後期課程の92%がないと回答しており，そのうち留学は前期課程の16%のみであった。コロナ禍の影響が強いと考えられるが今後は国内外のコロナに対する対処の仕方が変化する中，安全を確保しつつ留学などを増やしていく方策が求められよう。日本人学生の英会話については，「あまりできない」「できない」が，前期課程で59%，後期課程で50%いる中で，語学力を高めるためには何もしていないと回答した学生が，前期課程で39%，後期課程で17%いた。個々の学生にとって英会話がどれほど必要であるかにもよるが，

全体的にはもう少し英会話の実践的な学習を促す必要があろうかと思われる。この点は，第８回調査でも課題とされていた。留学生の日本語会話については，前期課程はおおむね問題ないと思われるが，後期課程ではなんとか日常会話ができるレベル以下が86％であり，対処が必要であろう。

「進路・就職について」をみると，前期課程の90％が就職希望であるが，留学生では奨学金を受ける条件付きを含めて17％が進学を希望している。その進学希望先は100％が本学であった。また，就職希望職種としては，複数回答可で後期課程で研究職・教育職あわせて36％であったのが目立つ他は，おおむね多岐に亘ると言ってよい。進路選択で重視するものも複数回答可で多岐に亘っている。情報入手手段も複数回答で多岐に亘るのであるが，キャリア支援室の情報または就職相談員が前期課程で7％，後期課程で5％であるのが気になる。同時に，キャリア支援室を利用したことがないのが前期課程で44％，後期課程で85％もあった。一方で，就職に関して大学に対する要望することも多岐に亘っている（複数回答可で「ない」という選択肢がないので当然かもしれないが）。学生に確実な情報入手先としてキャリア支援室の活動内容を周知し，より一層の利用を呼びかける必要がある。

８－２　総合科学教育部

大学院改組に伴い，総合科学教育部は2021年度より学生募集を停止しており，現在の在学者数は，前期課程２名，後期課程６名である。第８回調査時における在籍者数は，前期課程39名，後期課程11名であったので，着実に減少している。在籍者の中から，今回は後期課程の２名を除く６名から回答が得られた。このような状況であるので，他の教育部・研究科や第８回以前の調査結果との比較などを行いながらの立ち入った分析は有効ではないと判断し，今回の調査結果で寄せられた回答を参考にしながら，現在在籍中の８名が無事学位の授与を受けるまで，統計的処理によって何かを探るより指導教員を中心として実際に一人一人に寄り添った対応をしていくことが何より肝心である。その際，創成科学研究科の院生や総合科学部の学生などは勿論まわりにいるのだが，総合科学教育部院生という立場を同じくする者がごく限られているという点に対する配慮も欠かせないと考える。

８－３　医学研究科

医学の前期課程には18名の大学院生が在籍し，10名からアンケートが回収された（回収率55.6％）。前期課程の留学生は２名であり，全員が回答した（回収率100.0％）。後期課程には172名の大学院生が在籍し，アンケートが回収できたのは21名（回収率12.2％）である。後期課程の留学生は17名で６名からアンケートが回収された（回収率35.3％）。アンケートの回収率は前期課程で55.6％であり，前期課程の留学生２名全員からは回収できたが，後期課程では12.2％，後期課程の留学生で35.3％と低かったことから，アンケートに積極的に参加してもらうためには，アナウンス等を行ってアンケートの目的を理解してもらうとともにアンケート内容を簡素化するなどの回収率を上げる対策が必要である。

１．本調査の対象者について

前期課程では，徳島県と四国（徳島県以外）の出身がそれぞれ30％で最も多く，次いで，近畿とその他（海外）がそれぞれ20％である。後期課程では徳島県出身者が38％で最も多く，次いで，その他（海外）が24％，四国（徳島県以外）が14％，近畿と中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）がそれぞれ10％，関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）が5％である。大学院生の中で本学出身者の割合は前期課程が20％，後期課程が34％であり，両課程ともに本学出身者の割合は低い。社会人大学院生の割合は前期課程で40％，後期課程で57％であり，後期課程で割合がやや高い。医師免許を有する大学院生が多いことがその理由と思われる。

2．家族・住居・通学について

大学院生の年収は，前期課程では，250 ～ 500 万円未満が 30％と高く，次に 500 ～ 750 万円未満が 20％に減少し，250 万円未満，750 ～ 1,000 万円未満，1,000 ～ 1,500 万円未満がそれぞれ 10％である。後期課程では，500 ～ 750 万円未満が 29％と最も高く，次いで 250 万円未満が 19％に減少して，250 ～ 500 万円未満と同じ割合となり，750 ～ 1,000 万円未満が 14％と続き，1,000 ～ 1,500 万円未満と 1,500 万円以上が 5％である。

住居区分では，前期課程の大学院生の 30％，後期課程では 38％が自宅から通学している。自宅から通学している大学院生は前期課程で 27％，後期課程で 24％であり，アパート／マンションから通学している大学院生は，前期課程で 50％，後期課程で 48％である。

住居費については，前期課程では，3 万円未満はみられず，3 万円～ 4 万円未満，4 万円～ 5 万円未満，5 万円～ 6 万円未満がそれぞれ 25％である。後期課程では，5 万円～ 6 万円未満と 8 万円～ 9 万円未満がそれぞれ 14％と最も高く，次いで，3 万円未満，3 万円～ 4 万円未満，4 万円～ 5 万円未満，6 万円～ 7 万円未満がそれぞれ 10％，7 万円～ 8 万円未満が 5％である。後期課程では大学院生の住居費は前期課程に比べてやや高い傾向である。

通学方法については，前期課程では，自動車が 40％に増加し最も高く，次いで，自転車が 30％と続き，徒歩が 20％，バス・JR が 10％であり，後期課程では，自転車が 38％で最も多く，次いで，徒歩が 29％，自動車が 19％，バス・JR が 14％である。前期課程，後期課程ともに，徒歩，自転車，自動車を主に使用している。通学時間については，15 分未満が前期課程で 30％，後期課程で 57％であり，15 分～ 30 分未満が前期課程で 40％，後期課程で 29％である。大学院生の 7 ～ 8 割が蔵本地区周辺に居住していると思われる。

3．収入・支出について

1 か月の平均収入額（親等からの援助は除く）については，前期課程では 3 万円未満が 30％で最も多く，次いで，10 ～ 15 万円未満が 20％，3 ～ 5 万円未満，5 ～ 7 万円未満，7 ～ 10 万円未満，15 ～ 20 万円未満，20 ～ 25 万円未満が各々 10％であり，収入額に個人差がみられる。後期課程では 25 ～ 30 万円未満と 30 万円以上が 24％で最も多く，次いで，7 ～ 10 万円未満が 14％，3 万円未満，10 ～ 15 万円未満，20 ～ 25 万円未満がそれぞれ 10％であり，後期課程の大学院生の収入は低額と高額に分かれるようである。留学生の前期課程では，3 万円未満であり，後期課程では，7 ～ 10 万円未満が 50％で最も多く，次いで，3 万円未満，3 ～ 5 万円未満，10 ～ 15 万円未満がそれぞれ 17％である。

親からの仕送りを受けず経済的に自立している大学院生の割合は，前期課程で 30％，後期課程で 90％である。仕送りを受けている大学院生は，前期課程で 7 ～ 10 万円未満が 30％，3 ～ 5 万円未満が 20％，3 万円未満と 5 ～ 7 万円未満がそれぞれ 10％であり，後期課程では仕送りを受けている大学院生は 3 万円未満と 3 ～ 5 万円未満，7 ～ 10 万円未満がそれぞれ 5％である。留学生の前期課程では，5 ～ 7 万円未満と 7 ～ 10 万円未満がそれぞれ 50％であり，後期課程では，親等からの援助がないが 67％，3 ～ 5 万円未満と 7 ～ 10 万円未満がそれぞれ 17％である。大学院生の後期課程では経済的に自立している割合が高い。

1 か月の平均支出額（授業料支出は除く）については，前期課程では，3 ～ 5 万円未満と 7 ～ 10 万円未満がそれぞれ 30％で最も多く，次いで，5 ～ 7 万円未満と 15 ～ 20 万円未満が 20％であり，後期課程では，20 ～ 25 万円未満が 24％で最も多く，次いで，10 ～ 15 万円未満が 19％であり，3 万円未満，15 ～ 20 万円未満，30 万円以上が 14％である。留学生の前期課程では，5 ～ 7 万円未満，7 ～ 10 万円未満が各々 50％であり，後期課程では，5 ～ 7 万円未満が 33％で最も高く，3 万円未満，10 ～ 15 万円未満，15 ～ 20 万円未満，20 ～ 25 万円未満がそれぞれ 17％である。5 万円以上の支出額の割合は，前期課程では 70％，後期課程では 86％であり，大学院生の多くが医師免許を取得して

おり，社会人大学院生が多いことが関係すると思われる。

奨学金受給者／受給希望者の割合は前期課程では 80%，後期課程では 48%であり，留学生は前期課程，後期課程ともに 100%である。前期課程，後期課程ともに大学院生の多くは奨学金を受給しているか希望している。

アルバイトに従事している大学院生は前期課程で 20%，後期課程で 33%であり，留学生の前期課程では 0%，後期課程では 83%である。週あたりの時間は，前期課程では 5 ～ 10 時間未満が 100%であり，後期課程では 15 ～ 20 時間未満が 43%，次いで，5 ～ 10 時間未満が 29%，10 ～ 15 時間未満と 25 時間以上がそれぞれ 14%である。留学生の後期課程では，5 ～ 10 時間未満が 40%，15 ～ 20 時間未満が 60%である。アルバイトの目的は生活費や学費のためが最も多く，前期課程では 40%，後期課程では 46%であり，留学生の後期課程では 36%であった。次いで，前期課程では，日常の娯楽・嗜好品等購入のため，高額商品（パソコン，バイク，自動車等）購入のため，社会体験のためがそれぞれ 20%であり，後期課程では，レジャー・旅行費のためが 23%，学会参加のためが 15%，日常の娯楽・嗜好品等購入のためが 8%である。アルバイト収入は，前期課程では 3 万円未満と 10 ～ 15 万円未満がそれぞれ 50%であり，後期課程では 3 万円未満，7 ～ 10 万円未満，15 万円以上がそれぞれ 29%で最も多く，次いで，5 ～ 7 万円未満が 14%である。留学生の後期課程では，3 万円未満と 7 ～ 10 万円未満がそれぞれ 40%で最も多く，次いで，5 ～ 7 万円未満が 20%である。

アルバイトに関わるトラブルは前期課程，後期課程，留学生の後期課程ともにみられなかった。

4．健康状態について

睡眠時間が 6 時間以上は前期課程では 30%，後期課程では 48%であり，前期課程の大学院生の 70%は睡眠時間が 6 時間未満である。後期課程の 5%の大学院生で睡眠時間が 4 時間未満であるのは問題である。健康のみならず安全管理の観点からも 6 時間以上の睡眠時間を確保することが望まれる。

気になる症状があると回答した大学院生は前期課程で 60%，後期課程で 43%であり，症状の内容は，前期課程ではアトピー・アレルギーが主で，後期課程では多岐にわたる。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては，前期課程では経済状態と就職や進路がそれぞれ 60%であり，勉学が 40%である。後期課程では悩みがないと経済状態がそれぞれ 43%であり，就職や進路が 33%である。これらの悩みの相談相手は，前期課程では，友人が 70%で最も多く，次いで，家族 50%であり，後期課程では，家族が 71%で最も多く，次いで，友人が 33%であり，誰にも相談しない大学院生は前期課程で 10%，後期課程で 29%である。総合相談部門（総合相談室），保健管理部門などの学内の相談窓口が十分に活用されるように周知が望まれる。

現在の精神状態については，前期課程で 80%，後期課程で 81%の大学院生の気分は普通あるいは充実しているが，前期課程，後期課程ともに 20%の大学院生が，なんとなく不安，落ち込みやすい，やる気がでないなどの問題を抱えている。

キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識については，前期課程で 30%，後期課程で 57%が存在を知らず，前期課程で 10%，後期課程で 29%が存在を知っているが行ったことがない。健康の管理や相談に関して，キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門が有効に活用されるための方策が必要と思われる。

5．学生生活上の問題点について

迷惑行為の経験については，迷惑行為を受けたことがないのは，前期課程で 30%，後期課程で 38%であるが，前期課程では，悪徳商法に引っかかったが 30%，大学内でセクハラを受けたが 20%あり，後期課程では，悪徳商法に引っかかったが 14%，大学内でセクハラを受けたと大学内でアカハラを受けたがそれぞれ 10%，飲酒を強要されたが 5%である。セクハラを受けた時の相談者は，前期課程では，誰にも相談しないが 100%であり，後期課程では回答がなかった。アカハラを受けた時

の相談者は，後期課程では，教員と学務（教務）係がそれぞれ50％である。総合相談部門（総合相談室）の利用の有無と認知度について，前期課程では，利用したことがあるが10％であり，総合相談部門（総合相談室）を知らないが70％，総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが，利用したことがないが20％であり，後期課程では，利用したことがあるが14％であり，総合相談部門（総合相談室）を知らないが48％，総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが，利用したことがないが38％である。総合相談部門（総合相談室）利用後の満足度については，前期課程では，どちらかといえば不満足であるが100％であり，後期課程では，満足であるが100％である。総合相談部門（総合相談室）を積極的で有効に活用することが望まれる。

犯罪被害経験の有無とその種類については，前期課程では，被害に遭ったことがないが90％，傷害に遭ったことがあるが10％であり，後期課程では，被害に遭ったことがないが95％，傷害に遭ったことがあるが5％である。交通事故遭遇の有無と加害･被害の別について，前期課程では，被害者･加害者両方ともなったことがないが60％，被害者になったことがあるが30％，被害者・加害者の両方になったことがあるが10％であり，後期課程では，被害者・加害者両方ともなったことがないが81％，被害者になったことがあるが19％である。大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている違法薬物を使用したことがありますかについては，前期課程，後期課程ともに，使用したことがないが100％である。違法薬物の使用は，一度でも使用するとその後の人生を破壊する危険性があるので，違法薬物を使用しないように学生への一層の注意と周知が必須である。

大学事務室の対応に満足していますかについては，満足あるいはどちらかといえば満足であるが，前期課程で80％，後期課程で91％，前期課程では，20％が不満足であり，後期課程では，どちらかといえば不満足であるが，10％である。

6．修学状況について

教育理念や教育方針の理解度について，前期課程で80％，後期課程で62％が良くあるいはだいたい知っているが，前期課程で20％があまり知らない，後期課程で38％があまりあるいは全く知らないことから，大学院で何を学び将来にどのように繋げていくのかを周知させる必要がある。

医学研究科の教育理念や教育方針を知っている大学院生の多く（前期課程で100％，後期課程で92％）は教育理念や教育方針に沿った教育が行われていると考えている。教育課程の満足度については，前期課程では90％，後期課程では100％が満足あるいはどちらかといえば満足であったが，前期課程で10％がどちらかといえば不満足である。教育理念や教育方針に沿った教育であると考えている大学院生の割合が100％近くあることから，教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると思われる。

医学研究科の大学院に入学した理由について，現在所属する大学院が第一志望であったのは，徳島大学卒業者において，前期課程では100％，後期課程では83％であり，他大学卒業者において，前期課程では100％，後期課程では75％である。入学した主な理由について，前期課程では，希望する研究部があるからが33％と最も多く，次いで，研究環境が整っているためと継続して修学するためがそれぞれ17％，指導教員に勧められたからと就職等将来を考慮してがそれぞれ13％であり，後期課程では，指導教員に勧められたからが26％で最も多く，出身大学だからが15％である。

大学院での勉学で目指すものについて，前期課程では，創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が50％で最も多く，次いで，高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が30％，確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員と知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人がそれぞれ10％であり，後期課程では，高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が43％で最も多く，次いで，創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が24％，知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が19％，確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教

員が14％である。

受講している授業の内容や進め方についての満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で90％，後期課程で100％であり，どちらかといえば不満足が，前期課程で10％である。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動の時間について，前期課程では，20～40時間未満が40％で最も多く，次いで，40～60時間未満が30％，90分～5時間未満，10～20時間未満，60時間以上がそれぞれ10％であり，後期課程では，90分～5時間未満が33％で最も多く，次いで，5～10時間未満が29％，30分～90分未満が10％である。前期課程は後期課程に比べて研究活動に使う時間が多い傾向にある。

研究の指導教員について，前期課程では，教授が50％で最も多く，次いで，助教が20％，准教授と講師がそれぞれ10％であり，後期課程では，教授が57％で最も多く，次いで，准教授と講師がそれぞれ19％，助教が5％である。

１週間に研究指導を受ける時間について，前期課程では，30～90分未満が80％で最も多く，次いで，10時間以上が20％であり，後期課程では，30～90分未満が38％で最も多く，次いで，90分～５時間未満が29％，30分未満が19％，5～10時間が14％である。

研究指導の内容や進め方の満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程，後期課程ともに100％である。

研究テーマに対する満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で90％，後期課程で100％であり，どちらかといえば不満足であるは，前期課程で10％である。

指導教員とのコミュニケーションがとれているかについて，充分あるいはある程度取れているが，前期課程で90％，後期課程で100％であり，あまり取れていないが，前期課程で10％である。

大学院に相応しいレベルの教育が行われているかについて，充分あるいはある程度行われているが，前期課程では90％，後期課程で100％であり，あまり行われていないが，前期課程で10％である。

現在の研究環境に対する満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程，後期課程ともに100％である。

所属している研究科又は教育部・専攻に対する満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足であるが，前期課程で90％，後期課程で100％であり，前期課程では，10％がどちらかといえば不満足である。

図書館をどのくらいの頻度で入館利用（実際に登校して入館すること）について，前期課程では，１か月に１回程度か，それ以下が50％で最も多く，次いで，２週間に１回程度が20％，１週間に２～３回，１か月に１回程度，半年に１回程度がそれぞれ10％であり，後期課程では，１か月に１回程度か，それ以下が52％で最も多く，次いで，１か月に１回程度が29％，半年に１回程度が10％，１週間に１回程度と２週間に１回程度が5％である。前期課程，後期課程ともに，図書館の来館頻度は低いようである。

図書館を利用する主な目的について，前期課程では，図書等の貸し出しが36％で最も多く，次いで，図書等の閲覧やコピーが29％，自習が21％，電子ジャーナル・データベースと授業等の間の時間調整がそれぞれ7％であり，後期課程では，図書等の貸し出しが32％で最も多く，次いで自習が23％，電子ジャーナル・データベースが19％，パソコンの利用が13％，図書等の閲覧やコピーが6％，授業等の間の時間調整が3％である。

図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度について，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で100％，後期課程で86％であり，どちらかといえば不満足であるが後期課程で10％，不満足であるが後期課程で5％である。

所属している大学院に相応しい学習をしているかについて，よく学習しているあるいはかなり学習しているが，前期課程で 80%，後期課程で 90%であり，あまりしていないが，前期課程で 20%，後期課程で 10%である。前期課程，後期課程ともに，大部分の学生が大学院に相応しい学習をしているようである。

入学後の海外渡航経験について，前期課程では，「ない」が 100%であり，後期課程では，「ない」が 86%で最も多く，次いで 1 回が 14%である。

海外渡航の目的について，後期課程では，学会参加が 100%である。

国際学会への参加について，前期課程では，研究発表したことがないが 100%であり，後期課程では，研究発表したことがないが 53%，海外の国際学会で口頭発表したことがあるが 20%，海外の国際学会でポスター発表したことがあるが 13%，国内の国際学会で口頭発表したことがあるが 7%である。

日本人学生の英会話能力について，前期課程では，できないが 38%で最も多く，次いで，日常会話ができるとあまりできないがそれぞれ 25%，なんとか日常会話ができるが 13%，後期課程では，あまりできないが 47%で最も多く，次いで，専門用語を使った会話ができる，日常会話ができる，なんとか日常会話ができる，できないがそれぞれ 13%である。前期課程，後期課程ともに，学生の半数以上は英会話があまりできないあるいはできない状況であり，英語での会話ができるように努力することが望まれる。

語学力を高めるために何をしていますかについて，前期課程では，何もしていないが 63%で最も多く，次いで，つとめて外国人と英語でコミュニケーションするが 25%，TOEIC，TOEFL 等を受験するが 13%であり，後期課程では，何もしていないが 53%で最も多く，次いで，外国語のラジオ，テレビを視聴しているが 12%，英会話等の学校に通っている，ラジオ・テレビの英会話番組で学習している，TOEIC，TOEFL 等を受験する，つとめて外国人と英語でコミュニケーションするがそれぞれ 6%である。

留学生の日本語会話はどの程度できますかについて，前期課程では，日常会話ができるとなんとか日常会話ができるがそれぞれ 50%であり，後期課程では，あまりできないが 50%で最も多く，次いで，日常会話ができる，なんとか日常会話ができる，できないがそれぞれ 17%である。

留学生において徳島大学が開講する日本語コースの受講状況について，前期課程では，受講していると受講の予定はないがそれぞれ 50%であり，後期課程では，以前受講したことがあるが 67%で最も多く，次いで，受講していると今後受講する予定であるがそれぞれ 17%である。日本語コースの満足度について，後期課程では，満足しているが 100%である。

あなたの将来のために本学の教育に何を望みますかについて，前期課程では，高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が 33%で最も多く，次いで，複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が 28%，統合的な学習課題を体系的に履修するコースが 22%，個々の教員の教育・研究指導能力の向上が 11%であり，後期課程では，高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が 29%で最も多く，次いで，統合的な学習課題を体系的に履修するコースが 24%，複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が 15%，個々の教員の教育・研究指導能力の向上が 12%，産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究が 6%である。

本学の国際化への対応について積極的であると思いますかについて，どちらかといえば積極的であると思うが，前期課程で 50%，後期課程で 76%であり，非常に積極的であるが，前期課程で 30%，後期課程で 19%であり，積極的とは思わないが，前期課程で 20%である。留学生は，前期課程では，非常に積極的であると思うが 100%であり，後期課程では，非常に積極的であると思うとどちらかといえば積極的であると思うがそれぞれ 50%である。

7．進路選択・就職について

後期課程への進学意思について，前期課程では，進学したい（進学予定者を含む）が60％で最も多く，次いで，就職したいが20％，奨学金等の経済的支援があれば進学したいと未定がそれぞれ10％であり，進学希望先について，本学が86％，他大学が14％である。就職すると答えた学生の希望職種について，前期課程では，技術職と企業等の研究職がそれぞれ33％であり，後期課程では，専門職（医師等）が14％で最も多く，次いで，既に就職しているが10％，大学・官公庁の教育・研究職と企業等の研究職がそれぞれ5％である。

進路選択の要件について，前期課程では，能力を発揮できることが27％で最も多く，次いで，収入が19％，就職先の将来性・安定性が15％，就職先の社会的評価，勤務地の地理的条件，先端技術を駆使しているところ，仕事に対して適正な評価をしてくれるところがそれぞれ8％，経営方針と企業規模がそれぞれ4％であり，後期課程では，収入が19％で最も多く，次いで，能力を発揮できることが16％，就職先の将来性・安定性が15％，勤務先の地理的条件と仕事に対して適正な評価をしてくれるところがそれぞれ11％，就職先の社会的評価が8％，経営方針，企業規模，転勤・異動の有無がそれぞれ5％，先端技術を駆使しているところが3％である。

進路を考える上での情報入手手段について，前期課程では，Web・インターネットが28％で最も多く，次いで，先輩・知人が20％，指導教員と就職担当教員がそれぞれ12％，キャリア支援室の情報または就職相談員が8％，直接会社に照会，就職情報誌・新聞・マスコミ，家族等，大学内資料，会社説明会がそれぞれ4％であり，後期課程では，指導教員が23％で最も多く，次いで，先輩・知人が20％，Web・インターネットが15％，就職担当教員が8％，キャリア支援室の情報または就職相談員，就職情報誌・新聞・マスコミ，家族等がそれぞれ7％，大学内資料と会社説明会がそれぞれ5％，直接会社に照会が2％である。

キャリア支援室の利用状況について，利用したことがないが，前期課程では80％，後期課程では90％であり，以前に利用したことがあるが，前期課程では20％，後期課程では5％であり，現在も利用しているは後期課程では5％である。留学生について，利用したことがないが，前期課程では100％，後期課程では，83％であり，以前に利用したことがあるが，後期課程では17％である。キャリア支援室の大学院生による利用率は極めて低いようである。

就職に関する大学への要望について，前期課程では，就職情報誌などの就職関係書籍の充実が36％で最も多く，次いで，面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が29％，企業説明会の内容充実が14％，公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実と就職ガイダンスの充実がそれぞれ7％であり，後期課程では，就職情報誌などの就職関係書籍の充実が37％で最も多く，次いで，面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が17％，企業説明会の内容充実が14％，公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実と求人企業の開拓がそれぞれ11％，就職ガイダンスの充実が6％である。留学生の後期課程では，就職情報誌などの就職関係書籍の充実が42％で最も多く，次いで，企業説明会の内容充実，面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実と公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実がそれぞれ17％，企業説明会の内容充実，就職ガイダンスの充実，求人企業の開拓がそれぞれ8％である。

結語

調査結果をより正確に解析するためにはアンケートの回収率を上げることが必要と思われる。質問項目が多岐にわたっていることが回収率の低い理由であるかもしれないので，アンケートの回収率を引き上げるために質問項目を簡略化するなどの工夫ならびにアンケートの実施と期間についての大学院生への徹底周知が望まれる。また，大学院における研究理念や教育理念を十分に知らない大学院生が存在していることから，大学院の研究理念や教育理念をさらに理解させるとともに研究指導を充実

させて質の高い大学院教育を実践する必要がある。キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門，総合相談部門（総合相談室）ならびにキャリア支援室などの支援施設についても積極的な活用が望まれる。

8－4　口腔科学研究科

口腔科学研究科には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（博士前期課程と博士後期課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻の博士前期課程（以後, 前期課程）の大学院生 6 人中 4 人（1 年生 2 人，2 年生 2 人）（回収率 66.7%）と，同じく博士後期課程および口腔科学専攻（以後，後期課程）の大学院生 78 人中 35 人（回収率 44.9%）から回答を得た。留学生は後期課程の 17 人のみで，そのうち回答が得られたのは 10 人（回収率 58.8%）であった。上記のうち，前期課程のサンプル数が不十分であることから，以降の分析では対象外とした。

第 1 章の「本調査の対象者について」をみると，後期課程で徳島県出身者は 26%と全体と大差なかった。次いで比率が高い順にその他（海外出身），近畿地方，中部地方，九州地方，徳島県以外の四国三県，関東地方であり，全体と大差なかった。後期課程の社会人大学院生は 49%であり，全体と大差なかった。最終学歴については，徳島大学が 40%，徳島大学大学院が 11%と，合わせて約半数を占め，全体と大差なかった。

第 2 章の「家族・住居・通学について」をみると，家庭の年間所得の中央値は後期課程で 250 ～ 500 万円，留学生で 250 万円未満であり，前者は全体と大差なく，後者は全体より高い傾向にあった。住居区分では，後期課程ではアパート・マンション住まいで家族と別居している学生がもっとも多く，全体と大差なかった。留学生では国際交流会館に居住している学生がもっとも多く, 全体より高い傾向にあった。住居費の中央値は後期課程では 5 ～ 6 万円で全体と大差なく，分布も全体と大差なかった。留学生では 4 ～ 5 万円で全体より高い傾向にあった。生計を共にしている配偶者・子供の有無については，後期課程，留学生ともに，いずれもなし，がもっとも多く，全体と大差なかった。授業や研究の時間中に子供の世話を担っているのは，後期課程，留学生ともに配偶者がもっとも多く，全体と大差なかった。通学方法は，後期課程，留学生ともに自転車がもっとも多く，全体と大差なかった。通学時間は後期課程，留学生共に 15 分未満がもっとも多く，全体と大差なかった。

第 3 章の「収入・支出について」をみると，後期課程の 77%は親等からの援助はなく，全体と大差なかった。平均月収額の中央値は 20 ～ 25 万円であり，全体より高い傾向にあった。平均支出額の中央値は 10 ～ 15 万円であり，全体より高い傾向にあった。中央値だけ見れば，授業料支出を考慮しても収入不足を想定する必要はないと考えられる。留学生の 60%は親等からの援助はなく，全体と大差なかった。平均月収の中央値は 5 ～ 7 万円であり，全体より高い傾向にあった。平均支出額の中央値は 5 ～ 7 万円であり，全体と大差なかった。中央値だけ見れば，授業料支出を考慮すると収入不足を想定する必要性が認められた。奨学金受給は，後期課程では 71%が希望しており，全体より高い傾向にあった。留学生では 90%が希望しており，全体と大差なかった。アルバイトについては，後期課程では 46%が従事しており，全体より高い傾向にあった。また，アルバイト従事時間の中央値は 10 ～ 15 時間であり，全体と大差なかった。アルバイト収入の中央値は 7 ～ 10 万円であり，全体より高い傾向にあった。アルバイトの目的は,「生活費や学費」がもっとも多く，次いで「学会参加のため」,「社会体験のため」であり，全体と大差なかった。留学生では 20%がアルバイトに従事しており，全体より低い傾向にあった。また，アルバイト従事時間の中央値は 5 時間未満であり，全体より低い傾向にあった。アルバイト収入の中央値は 3 万円未満であり，全体より低い傾向にあった。アルバイトの目的は全員が「生活費や学費」と回答しており，全体より高い傾向にあった。アルバイトでのトラブル経験は，後期課程では

82%が「ない」と回答しており，全体と大差なかった。留学生では全員が「ない」と回答した。経験したトラブルの種類としては「解雇」と「雇用者との意見の不一致」が挙げられており，全体と大差なかった。

第4章の「健康状態について」をみると，睡眠時間の中央値は6～8時間であり，全体と大差なかった。気になる身体症状を訴える学生の比率は51%であり，全体と大差なかった。現在の悩みや不安は多岐にわたるが，「経済状態」，「勉学」，「就職や進路」が主なもので，全体と大差なかった。相談相手は主に「友人」，「家族」，「教員」であり，全体と大差なかった。現在の精神状態に特に問題がないとの回答は合計71%であり，全体と大差なかった。キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門については，20%が存在を認識しておらず，健康診断以外の利用経験者はほとんどいなかった。

第5章の「学生生活上の問題点について」をみると，26%は迷惑行為の経験がなく，受けた迷惑行為の種類は「その他」，「大学内でセクハラ」，「大学内でアカハラ」の順に多く，いずれも全体と大差なかった。「大学内でセクハラ」と回答した者は家族に相談し，「大学内でアカハラ」と回答した者は友人とその他の人に相談しており，総合相談室に相談した者はいなかった。総合相談室を利用したことがある者は14%で全体と大差なかった。利用した者は満足している比率が高く，全体と大差なかった。犯罪被害に遭遇したものは3%，交通事故に遭遇したものは26%でいずれも全体と大差なく，違法薬物の経験があるものはいなかった。また，大学事務室の対応に不満を感じているものはいなかった。

第6章「修学状況について」をみると，74%が所属研究科の教育理念や教育方針を概ね理解しており，88%は理念や方針に沿って教育が実践されていると感じており，全体と大差なかった。教育課程に不満を感じているものは11%で全体と大差なかった。大学院進学に際して，徳島大学卒業者の93%は第1志望で入学しており，全体と大差なかった。他大学卒業者では40%が第1志望ではなく，全体と大差なかった。大学院入学理由では，「指導教員に勧められたから」，「希望する研究分野があるから，」，「出身大学だから」，「継続して修学するため」が上位を占め，全体と大差なかった。大学での勉学で目指すものとしては，「高度専門職業人」，「研究者」，「大学教員」が上位を占め，全体と大差なかった。大学での教育に不満を感じているのは3%で全体と大差なかった。研究活動と研究指導では，授業外の研究活動時間の中央値は5～10時間で，全体より低い傾向にあった。直接の指導教員は60%が教授と回答しており，全体と大差なかった。指導時間の中央値は90分～5時間であり，全体と大差なかった。研究指導の内容や進め方に不満を感じているのは6%，研究テーマに不満を感じているのは3%，指導教員とのコミュニケーションに不満を感じているのは6%，教育のレベルに不満を感じているのは9%，研究環境に不満を感じているものは11%で，いずれも全体と大差なかった。研究環境に不満を感じている対象は「施設・設備」，「研究時間」，「研究費用」の順に多く，全体と比べて「研究費用」への不満を感じる率が低い傾向であった。所属大学院への満足度では，不満を感じているものはいなかった。図書館の利用について，入館利用時間の中央値は後期課程，留学生ともに1か月に1回程度で，全体より高い傾向にあった。利用目的は，後期課程では「貸出」，「自習」，「閲覧やコピー」，「電子ジャーナル・データベース」の順に多く，全体と大差なかった。留学生でも同様の傾向だが，「自習」がもっとも多く，全体と大差なかった。図書館のサービスに不満を感じているのは後期課程で3%，留学生では0%で，いずれも全体と大差なかった。所属大学院にふさわしい学習をしていると感じていないのは，後期課程で23%，留学生は0%で，いずれも全体と大差なかった。入学後の海外渡航経験は77%が0回で，全体と大差なかった。海外渡航の目的は，「一時帰国」が45%で全体より高い傾向にあり，それを除けば学会参加が最多であるのは全体と大差なかった。国際学会発表は84%が未経験であり，全体より高い傾向がみられた。英会話能力では，最低限の日常生活レベル以上が32%と全体より低い傾向がみられた。その反面，61%は語学力を高める努力をしておらず，全体より低い傾向がみられた。留学生の日本語能力については，「あまりできない」が50%を占め，全員が日本語コースを受講中あるいは受講済みであ

る効果が出ていないように見受けられる。しかし，満足度は高いことから，留学生の日本語能力の需要は満たしているとも考えられる。本学の教育への期待としては，後期課程では「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」を最多として分散しており，留学生では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」を最多として分散しており，いずれも全体と大差なかった。国際化への対応が積極的とは思わないのは後期課程で14%，留学生で0%であり，いずれも全体と大差なかった。

第7章「進路選択・就職について」をみると，後期課程の就職希望職種は特に「専門職」が多く，医療系研究科の特徴と考えられた。留学生では「教育・研究職」が多く，全体と大差なかった。進路選択の要件は，後期課程では「収入」,「将来性・安定性」,「能力を発揮できるところ」の順に多く，全体と大差なかった。留学生では「収入」,「将来性・安定性」に次いで「社会的評価」が挙げられる点が日本人学生と異なるが，全体とは一致していた。進路選択の情報入手手段としては，後期課程，留学生とも「指導教員」,「Web・インターネット」,「先輩・知人」が多く，いずれも全体と大差なかった。キャリア支援室の利用状況では，後期課程の91%，留学生の80%が利用したことがなく，全体と大差なかった。就職に関する要望としては，後期課程，留学生ともに「書籍の充実」,「実践的指導」,「就職ガイダンス」が挙げられており，全体と大差なかった。

以上のように，口腔科学研究科に特有の顕著な傾向は認められないため，大学院全体の課題として，以下の項目を挙げる。

1．ハラスメントの根絶に向け，予防のためのFD活動を継続するとともに，多角的な相談支援体制である総合相談室やメンター制度の広報を充実する。
2．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用促進のため，大学院生の需要を把握し，大学院生に対する広報を充実する。
3．英語・英会話能力向上プログラムの敷居を下げ，始めやすく継続しやすい内容やスケジュールなどの需要を把握し，カリキュラムの多様化を図る。
4．キャリア支援室は，ネットからでは得られない多様で専門的な就職情報を把握し，その利用価値を高め，大学院生に対する広報を充実する。

8－5　薬学研究科

薬学研究科は，薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻からなり，薬剤師養成のための専門教育を目的とする薬学部薬学科（6年制）と，創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする薬学部創製薬科学科（4年制）それぞれの特徴を継続した学部・大学院一貫教育により，新規医薬品の創製から医療現場での医薬品の適正使用に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成を目指している。今回のアンケート調査対象者は，創薬科学専攻博士前期課程68名（うち留学生1名），同専攻博士後期課程28名（うち留学生4名），薬学専攻博士課程8名（うち留学生1名）であり，アンケート回収率は前期課程35.3%（第8回調査55.1%），後期課程47.2%（第8回調査47.2%）と，前期課程において前回調査から大きく減少した。COVID-19流行下での調査であったため，感染防止対策としてWEBによる回答を依頼したことが低回収率の主な要因ではあるが，同じくWEBでの回答を依頼した昨年度よりも回収率は低下している。次回以降も本調査がWEBで行われる場合には各研究室に回答を依頼するなどの新たな対策が課題となる。

第1章「本調査の対象者について」より，徳島県内の出身者は博士前期課程で17%，博士後期課程では6%と低い割合であり，一人暮らしをしている院生が多いことがわかる。COVID-19の感染拡大防止のため行動や交流が制限される状況下では，これら一人暮らしの院生のメンタルケアが重要である。

第2章「家族・住居，通学」より，家庭の年間所得は，前期課程では500万円未満が12%（第8回

調査 39％），500 ～ 1000 万円未満が 46％（第 8 回調査 40％），1,000 万円以上が 21％（第 8 回調査 21％）であり，前回調査よりも 500 ～ 1,000 万円未満が増加し，500 万円未満が減少した。前回調査時の COVID-19 禍による社会経済悪化状態が改善されてきたものと考えられる。後期課程では，500 万円未満は 53％（第 8 回調査 53％）と第 8 回調査と同様であったが，500 ～ 1,000 万円未満が 6％（第 8 回調査 30％），1,000 万円以上が 12％（第 8 回調査 18％）と減少していた。博士前期課程に比べて 500 万未満の割合が高いのは両親が既に定年退職している家庭の割合が高いためと考えられる。住居費については，前期課程では「3 万円～ 4 万円未満」が 42％（第 8 回調査 29％）と最も多く，以下「4 ～ 5 万円未満」33％（第 8 回調査 24％），「5 万円以上」8％（第 8 回調査 19％）「3 万円以下」4％（第 8 回調査 21％）となった。3 万円～ 5 万円の範囲が大半を占めており，前回調査よりも偏りが大幅に減少した。後期課程では，「3 万円～ 4 万円未満」が 41％（第 8 回調査 24％）と最も多く，次いで「3 万円未満」29％（第 8 回調査 29％），「4 ～ 5 万円未満」18％，5 万円以上が 12％（第 8 回調査 24％）と，博士後期課程でも偏りが減少していた。この住居費の変化は家庭の収入の変化を反映していると思われる。通学方法としては「自転車」（前期課程：92％，後期課程：82％）が，通学時間としては「15 分未満」（前期課程：83％，後期課程：82％）が，それぞれ両課程ともに最も多く，本調査開始以来変わりがない。

第 3 章「収入・支出」については，親等からの援助が「全くない」と回答した学生の割合は，前期課程 0％，後期課程 59％となった。博士後期課程では奨学金の充実により親からの援助を必要としない院生が増加した一方，博士前期課程では親の援助が必要である現状が分かる。奨学金については，前期課程で 29％（第 8 回調査 47％），後期課程で 65％（第 8 回調査 53％）の学生が「現在受給中であるが，更に希望する」と回答している。博士前期課程では奨学金の受給を希望しない学生が増加しており，前回調査時よりも家庭からの援助が増加している様子が伺える。これは，COVID-19 による経済悪化状態が改善されているためだと期待したい。博士後期課程では「今後受給を希望する」を加えると，83％の学生が奨学金を希望しており，前回調査時の 77％から増加している。アルバイトをしている学生の割合は，前期課程で 25％，後期課程で 24％であり，第 8 回調査（前期課程：37％，後期課程：41％）よりも減少している。COVID-19 の影響によるアルバイトの減少が考えられる。アルバイトの従事時間は前期課程では一週間に 10 時間以下が半数の 50％となっており，後期課程では 5 時間以下が 75％と最も多く，研究活動に影響を与えない程度にアルバイトに従事している様子が伺える。アルバイト収入の 1 か月の平均は，第 8 回調査と同じく「3 万円未満」が最も多く（前期課程：50％，後期課程：50％），ついで「3 ～ 5 万円未満」が多かった（前期課程：33％，後期課程：25％）。アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した学生の割合が，前期課程 42％（第 8 回調査 40％），後期課程 60％（第 8 回調査 36％）と最も多く，アルバイトは生活や学費に必要な最低限に留めていると考えられる。

4 章「健康状態」について，「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と回答した学生は，前期課程 54％，後期課程 41％と，第 8 回調査とほぼ同じ結果（前期課程:52％，後期課程:53％）であった。「常にある」と回答した学生はわずかであるが（前期課程：4％，後期課程：6％），症状は様々である。睡眠時間については，「6 ～ 8 時間未満」と回答した割合（前期課程：63％，後期課程：59％）が，前回調査と変わっておらず，「4 時間未満」との回答がなかった。精神状態については，「充実している」あるいは「気分は普通」との回答が，前期課程では 67％（第 8 回調査 52％）と増加した一方，後期課程 53％（第 8 回調査 77％）と大幅に減少した。COVID-19 禍の社会状況に慣れてきた一方で，博士後期課程では COVID-19 による研究活動の中断が学位取得の研究計画に大きく影響を与えたと考えられる。悩みごとの相談相手としては，第 8 回調査と変わらず，「友人」と「家族」との回答が多く，精神面を含めた健康維持管理を目的とした専門相談機関である総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は前期課程 4％，後期課程 0％と極めて少ない。一方で，「誰にも相談しない」が前期課程 21％，後期課程 12％と，第 8 回調査（前期課程：18％，後期課程：24％）から後期課程は減少しているが，前

期では依然として多いことから，総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生に周知徹底し，有効利用を促す取り組みを継続していく必要がある。

第５章「学生生活上の問題点」について，前期課程で 83%（第８回調査 12%），後期課程で 94%（第８回調査 28%）の学生が，何らかの迷惑行為（悪徳商法，ストーカー，セクハラなど）を受けたと回答している。両課程共に前回調査よりも大幅に増加していることに留意する必要がある。特に，「悪徳商法に引っかかった」と回答した学生が前期課程では 25%，後期課程では 24%と最も多く，ガイダンス時などでの悪徳商法に対する注意喚起を強化する必要がある。また，教員によるものかについては不明であるが，アカハラ・セクハラの回答も 20 ～ 30%程度あるため FD 研修の強化も必要である。充実した学生生活のためには，学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い，教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また，依然として総合相談部門の利用は前期課程で 4%，後期課程で 6%と低迷していることから，総合相談部門との緊密な連携のもとに，学生生活支援に係る啓発活動と指導を今後も継続的に進めていく必要がある。

第６章「修学状況」については，薬学研究科の教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と回答した学生の割合は，前期課程で 83%（第８回調査 81%）と前回調査と変わらず高い割合を維持していた。また，後期課程も 71%（第８回調査 41%）と前回から大幅に増加しており，教育理念や教育方針はよく周知されている。教育課程に対する満足度は，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生が，前期課程は第８回調査（95%）とほぼ同じ 96%であり，後期課程も第８回調査（83%）から増加し 95%の学生が満足していると回答している。一方，後期課程で 6%の学生が「不満足である」と回答しており，第８回調査の 12%よりも減少しているものの，不満足と感じている学生がいることに留意すべきである。教育理念や教育方針の入学前周知に一層努め，入学後には学生の満足度が 100%となるよう教育部全体での取り組みと教員個々の不断の努力が求められる。授業以外の研究活動に費やす１週間の平均時間は，40 時間以上が前期課程で 63%，後期課程で 64%と，大学全体の平均（前期課程：22%，後期課程：31%）を大きく上回っており，これまでの調査結果同様，他の研究科・教育部に比べて研究活動時間が長い。引き続き，大学院生が研究活動に専念できる環境を整備していくことが重要である。研究指導の内容や進め方については，前期課程 92%，後期課程 94%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，研究テーマへの満足度については，前期課程では 96%，後期課程では 94%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答している。また，「全体として薬学研究科に満足していますか」との設問については，前期課程で 96%，後期課程で 100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，これらの結果は第８回調査とあまり変わりなく，修学状況は比較的高い満足度が維持されている。しかし，後期課程では，わずかではあるが，研究指導の内容や進め方に満足していない（6%），指導教員とのコミュニーケションが取れてない（12%），大学院に相応しいレベルでの教育が行われていない（12%）と回答しており，また一定数の学生が現在の研究環境に「どちらかといえば満足していない」あるいは「満足していない」と回答している（前期課程 8%，後期課程 18%）。不満足と回答した理由の大半は「施設・設備」（前期課程 50%，後期課程 33%）および「研究費用」（前期課程 25%，後期課程 33%）であった。大学院生に充実した研究環境を提供するために，外部資金獲得に向けた教員個々のより一層の努力が求められる。図書館のサービス（施設設備，図書･雑誌，電子ジャーナル等）に対して，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程 96%（第８回調査 97%），後期課程 89%（第８回調査 71%）で，全体として満足度は高いと言えるが，後期課程では満足度は若干低い。これは，ダウンロードできるジャーナルが以前よりも削減されたことによるものと推察される。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は，前期課程で 13%（第８回調査 16%），後期課程で 18%（第８

回調査 53%）であり，後期課程では渡航経験は大幅に減少している。これは，COVID-19 の世界的流行で海外渡航が規制されたことによるものである。前回調査までは渡航目的として「学会参加」が最も多かったが，今回の調査では「観光」が前期・後期共に最も多かった（前期 67%，後期 67%）。COVID-19 の影響で国際学会が延期もしくはオンライン化していることが大きな要因と考えられる。なお，国際学会での発表経験については，前期課程では 12%，後期課程では 33%であった。国際学会も再開しつつあるため，今後は両課程ともに国際学会での発表経験は増加していくと期待できる。語学力を高めるために「何もしていない」と回答した学生が, 前期課程 46%, 後期課程 47%と, 第 8 回調査（前期課程 29%，後期課程 27%）より大幅に増加している。国際学会での発表が英語学習のモチベーションとなるため，国際学会での発表が減少していることが要因と考えられる。薬学研究科では独自に薬学英語特論を必修科目として開講し，英語力強化に取り組んでいるが，今後も国際学会への参加を促すなど積極的な対策を行う必要がある。なお，本学の国際化への対応については，前期課程で 71%，後期課程で 88%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していたが，まだ十分とは言えず，国際化への取り組みをさらに加速していくことが望まれる。

第 7 章「進路選択・就職」では，前期課程学生の後期課程への進学希望者は 21%であり，第 8 回調査（37%）から減少している。前期課程の就職を希望する学生（71%）の希望職種は「専門職」,「公務員」,「企業等の研究職」など多種にわたっているが，いずれも専門性を活かした職種を希望している。後期課程学生の就職希望職種としては「企業等の研究職」（21%）が多かった。進路選択で重視する要件として，両課程ともに「収入」,「将来性・安定性」,「能力を発揮できること」が上位を占めていたが, 後期課程では「勤務地の地理的条件」の割合いが最も高かった。県外からの学生が殆どであることを考慮すると，都心に近い勤務地を希望しているものと推察される。情報入手手段としては両課程ともに「Web・インターネット」との回答（前期課程：26%，後期課程：28%）が最も多く，情報源として中心的役割を果たしている。一方で，本学のキャリア支援室を「利用したことがない」と回答した学生が, 前期課程で 71%，後期課程で 71%であった。薬学研究科では，独自の組織的な就職支援に加え，キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているところであるが，今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に一層努力する必要がある。

最後に，本調査より明らかとなった薬学研究科の現状と課題を総括する。

1．社会経済の状況を踏まえ，経済的理由が大学院への進学を妨げることがないように，大学院生を対象とした経済的支援体制の充実は継続的な重要課題である。
2．研究・教育の現状には概ね学生は満足しているが，満足していない学生が一定数いることに留意し，修学環境等の改善に向けた一層の取組みが求められる。
3．研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康保持・増進のため，総合相談部門・健康管理部門との緊密な連携による学生支援体制のより一層の強化が望まれる。また，迷惑行為根絶に向け，注意喚起を徹底するとともに，教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。
4．就職支援に関しては，研究科およびキャリア支援室が行っている様々な支援活動への学生の積極的な参加や利用の啓発・促進に努めるとともに，学生の多様化するニーズにきめ細かく対応する支援体制の強化が望まれる。

以上，COVID-19 禍の影響が反映したと思われる項目もみられたが，全体としては第 8 回調査結果と大きく変わっておらず，上記課題の克服に向けて今後も学生のニーズという視点に立って鋭意努力していく必要がある。なお, COVID-19 禍の影響は今後小さくなっていくと期待されるため, 対面でアンケートの回答を依頼するなどアンケート回収率の向上に向けた取り組みが必須である。

８－６　医科栄養学研究科

医科栄養学研究科において，前期課程在籍者は 59 人で，回答した者は 20 人，回答率は 33.9％であった。留学生は 1 名であった。後期課程在籍者は 32 人で回答した者は 13 人，回答率は 40.6％，留学生は 4 名で回答はなかった。前回よりも前期課程在籍者の回答率は大きく低下したが，後期課程在籍者の回答率は上昇した。全体では男子よりも女子の回答率が高いが，医科栄養学研究科においては女子よりも男子の回答率が高い状況であった。前回調査とは前期課程の回答率が前回の 60.4％から大幅に低下しているので，以下の各項目において前回調査と単純に比較することはできない。

「本調査の対象者」について，前期課程では，近畿地区出身者が 30％と最も多く，次いで徳島県出身者の割合が 20％であった。後期課程では，近畿地区出身者の割合が 38％と最も多く，次いで徳島県出身者の割合が 31％であった。出身大学別に見ると，前期課程では，徳島大学出身者が 50％と多かった。後期課程では，徳島大学大学院修士・博士前期課程が 54％で最も多かった。「社会人か留学生か」については，後期課程では，社会人が 46％であった。

「家族･住居･通学について」の設問の「住居区分」では，前期課程では，全体で「アパート･マンション」が 70％，次いで「自宅（家族と同居）」が 20％であった。後期課程では，「アパート・マンション」が 77％で一番多く，次いで「自宅（家族と同居）」が 15％であった。

「住居費」に関しては，前期課程では ,「4 ～ 5 万円未満」が 28％で最も多く，次いで「3 万円未満」が 22％となっている。後期課程では，「3 ～ 4 万円未満」が同率で 23％ともっとも多かったが，無回答が 38％であったことからも，そもそも本設問を問うことの意義が問われている。

「配偶者・子供の有無」については，前期課程では 100％が「配偶者・子供ともなし」であった。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が 77％であった。

「通学方法」では，前期課程では「自転車通学」が 65％と一番多く，次いで「自動車」が 15％であった。後期課程では，「自転車通学」が 38％と一番多く，次いで「自動車」が 23％であった。「通学時間」に関しては，前期課程では，「15 分未満」が 70％，後期課程では，「15 分未満」が 54％であった。

「収入・支出」については，前期課程では，50％が親等からの援助を除く平均収入額は「3 万円未満」, 25％が「3 ～ 5 万円未満」であった。後期課程では，38％が収入額「15 ～ 20 万円未満」，23％が「20 ～ 25 万円」であった。

「親等からの援助」に関しては，前期課程では，35％が親等からの援助が全くなく，55％が 10 万円未満の援助を受けている。後期課程では，77％が親等からの援助が全くなく，100％が 10 万円未満の支援であった。

「1 か月の平均支出額」については，前期課程では，「5 ～ 7 万円未満」が 45％と一番多く，次いで「3 万円未満」が 20％であった。後期課程では，「7 ～ 10 万円未満」と「10 ～ 15 万円未満」が 23％と一番多く，次いで「5 ～ 7 万円未満」と「15 ～ 20 万円未満」が 15％であった。

「奨学金の希望」においては，前期課程では，45％が「奨学金を受給しているが更に希望している」, 後期課程では，31％が「奨学金を受給しているが更に希望する」と回答した。

「アルバイト」については，前期課程では，70％の大学院生が , 後期課程では，15％がアルバイトをしていると回答した。一方，1 週間あたりのアルバイト従事時間は，前期課程では「5 ～ 10 時間未満」が 43％であったのに対し，後期課程では 50％が「5 時間未満」であった。アルバイトの目的は , 前期課程では，「生活費や学費のため」が 27％，「レジャー・旅行」と「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」を合わせると 44％と全体で最も高く，半数近くが娯楽などのためにアルバイトをしている。後期課程では，「生活費や学費のため」が 20％と「学会参加のため」が 20％で，「レジャー・旅行」と「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」を合わせると 40％であった。

「アルバイト収入金額」については，前期課程では「3 ～ 5 万円未満」が 36%，「3 万円未満」が 29%であった。一方で，後期課程では「3 万円未満」が 50%であり，「無回答」が 50%であった。後期課程では，アルバイトの従事時間についても「無回答」が 50%，アルバイトの目的についても 20%が無回答であったことから，住居費に関する質問と合わせて，お金に関する質問に対しての慎重な回答姿勢が見られた。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては，前期課程では「6 ～ 8 時間未満」が 50%，「4 ～ 6 時間未満」が 40%であった。後期課程では，「6 ～ 8 時間未満」が 62%，「4 ～ 6 時間未満」が 38%であった。

「気になる症状」において，「ある」と答えた学生は，前期課程は「時々ある」と「常にある」を合わせて 40%，後期課程では 69%であった。主な症状は，前期課程は「その他」，後期課程は，「頭痛」，「下痢・便秘」，「アトピー・アレルギー」であった。

「主な悩みや不安」は，前期課程では「ない」が 45%，「勉学」が 35%，「就職や進路」が 30%の順であった。後期課程は，「就職や進路」と「勉学」が 46%，「生きがいや目標」が 23%であった。悩み事は，前期課程の約 7 割，後期課程の約 3 ～ 4 割の学生が「友人」もしくは「家族」に相談するとしており，悩みを最も身近な人に相談することで，ストレスを軽減したり，助言を得たり，問題解決をはかるなど，適切な対処行動をとっていることが推測される。また「悩みを誰にも相談しない」という学生は，前期課程，後期課程それぞれ 20%，31%であった。

「現在の精神状態」として，前期課程では 35%の学生が「充実している」，30%が「気分は普通」を選び，精神的な健康を保っていると考えられるが，35%は「なんとなく不安」あるいは「落ち込みやすい」と回答した。後期課程では，54%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し，38%が「なんとなく不安」，8%が「落ち込みやすい」と回答した。キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を利用したことがあると回答したものは，前期課程で 80%，後期課程で 62%であった。

「学生生活上の問題点」の設問では，「大学内でセクハラを受けた」が前期課程で 30%，後期課程で 38%と多かったが，セクハラを受けた場合の相談相手についての質問には回答がなかった。調査の方法や回答方法に問題があると思われる。キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門を利用したことがあると回答したものは，前期課程で 0%，後期課程で 15%であった。

「盗難，強盗，傷害，痴漢などの事件」の被害については，いずれかにあったと回答した者は，前期課程で 5%（盗難），後期課程で 0%であった。「交通事故」については，被害者･加害者のいずれかになったことがある者が，前期課程で 20%，後期課程で 23%で，いずれも被害者であった。「大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物の使用」については，使用について「あり」と回答した学生はいなかった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して，「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は，前期課程で 95%，後期課程で 100%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は，所属する教育部の教育理念や教育方針について，「良く知っている」，「だいたい知っている」と答えた人の割合は，前期課程で 65%，後期課程で 77%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して，教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ，前期課程，後期課程ともに 100%が「思う」と答えた。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は 40%であり，「どちらかといえば満足している」と答えた学生（50%）と合わせて 90%であった。後期課程も全体の 92%がほぼ満足している（「満足している」46%，「どちらかといえば満足している」46%）と回答した。

「本学を選んだ理由と目的」において，前期課程の学生の主な入学理由は，「出身大学だから」が

17%,「希望する研究分野があるから」が 26%,「就職等将来を考慮して」が 16%,「研究環境が整っているため」が 14%であった。後期課程の学生は,「継続して修学するため」が最も多く 28%, 次いで「希望する研究分野があるから」が 24%,「研究環境が整っているから」が 21%であった。大学院進学における志望順位について，当大学院を第一志望としていたものの割合は，本学出身者では前期課程で 90%，後期課程で 100%に対し，他大学出身者では，前期課程で 100%，後期課程で 100%であった。

「大学院での勉学で目指すもの」では，前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」30%,「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」45%,「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」と「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」がそれぞれ 10%であった。後期課程では,「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」と「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」がそれぞれ 31%で,「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が 23%,「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が 15%であった。

「授業の内容や進め方」に対して，前期課程では,「満足している」35%,「どちらかといえば満足している」50% , 後期課程では,「満足している」31%,「どちらかといえば満足している」62%であった。

「授業以外の研究活動に費やす 1 週間の平均時間」は，前期課程では「40 ～ 60 時間未満」が 30%,「5 ～ 10 時間未満」が 20%,「20 ～ 40 時間未満」が 15%であった。後期課程では,「40 ～ 60 時間未満」が 38%,「30 ～ 90 分未満」と「60 時間以上」のいずれもが 15%であった。あまりにも研究活動の時間に差があり，実態を反映していないか，あるいは後期課程では社会人学生が多く , 研究時間がとれていないこと , そもそも回答率が低いことなどが原因として考えられる。今後の調査において質問の方法を検討する必要がある。

研究指導としては，前期課程において，講師から指導を受ける院生の割合は 60%で最も多く，次いで教授が 20%，助教が 10%であった。後期課程では，教授が 54%と最も多く，次いで講師，助教がともに 23%であった。医科栄養学科の教員構成から考えても，助教による指導を受ける機会がもっと多いと思われるが，実態あるいは教員側の意識と回答の解離がある。主指導教員は講師以上の教員であるが，実際の指導は助教が中心に行っていることが多く，本設問での指導教員の定義に問題がある。

「指導教員から研究指導を受けている 1 週間の平均時間」の設問で，前期課程では「30 ～ 90 分未満」が 50%と最も多く，次いで「30 分未満」と「90 ～ 5 時間未満」がそれぞれ 25%の順であった。後期課程では,「30 分未満」が 54%,「90 ～ 5 時間未満」が 23%であった。「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は,「どちらかといえば満足している」が最も多く 45%,「満足している」の 35%と合わせると，80%であった。後期課程の回答は,「満足している」31%と「どちらかといえば満足している」54%をあわせて 85%であった。

論文のテーマについての満足度では，前期課程の「満足している」,「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が 100%，後期課程でも 100%であった。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では，前期課程の学生は,「ある程度とれている」が 50%,「充分とれている」が 40%,「あまりとれていない」が 10%であった。同じ設問に対して，後期課程では「ある程度とれている」が 38% ,「充分とれている」が 31%で ,「あまりとれていない」が 31%であった。「まったくとれていない」という回答は前期課程，後期課程ともになかった。

「大学院の教育レベル」に関する設問では,「充分に行われている」と「ある程度行われている」とをあわせて前期課程で 90%，後期課程で 92%であった。

「研究環境に対する満足度」においては, 前期課程では, 研究環境に「どちらかといえば満足している」45%,「満足している」35%,「どちらかといえば不満足である」が 20%,「不満足である」は 0%であった。後期課程では，研究環境に,「満足している」が 31%,「どちらかといえば満足している」62%,「どちらかといえば不満足である」が 8%,「不満足である」は 0%であった。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では，前期課程では「研究費用」と「その他」がそれぞれ 33%，「施設・設備」「研究時間」がともに 17%であった。後期課程では，「研究費用」と「研究時間」がそれぞれ 50%であった。

「所属大学院に対する満足度」の設問では，前期課程では，「満足している」が 40%，「どちらかといえば満足している」が 55%であった。後期課程では，「満足している」が 31%，「どちらかといえば満足している」が 69%であり，「不満足である」はいずれも 0%であった。

「図書館の利用頻度」については，前期課程で「半年に 1 回程度来館する」の 40%が最も多く，次に「1 か月に 1 回程度来館する」と「1 年に 1 回程度かそれ以下」がそれぞれ 20%であった。後期課程では「半年に 1 回程度来館する」と「1 年に 1 回程度かそれ以下」がそれぞれ 38%であった。図書館利用の目的では，前期課程では「自習」が 36%，「図書等の貸し出し」が 32%，後期課程では，「図書等の貸し出し」が 45%，「図書等の閲覧やコピー」が 32%であった。「図書館のサービスに対する満足度」については，前期課程では「満足している」，「どちらかといえば満足している」の合計で 95%，後期課程では 100%であった。

所属している大学院に相応しい学習をしているかの問については，前期課程では，「良く学習している」が 40%，「かなりしている」が 35%，「あまりしていない」が 25%であった。後期課程では，「良く学習している」が 31%，「かなりしている」が 31%，「あまりしていない」が 38%であった。

「入学後の海外渡航経験」に関しては，1 回以上渡航経験のあるものが前期課程で 10%，後期課程で 15%であった。「国際学会での研究発表」に関しては，「国内の国際学会で口頭発表したことがある」が 11%，後期課程では，「海外の国際学会でポスター発表をしたことがある」が 23%，それ以外は，前期課程，後期課程ともに国際学会での発表経験がないと回答した。この設問は COVID-19 感染の影響がかなり大きいと考えられる。

日本人学生の「英会話」に関して，「日常会話ができる」と「なんとか日常会話ができる」をあわせて前期課程では 58%，後期課程で 38%であった。全学で比較して特段，医科栄養学研究科の学生が英会話を苦手にしているという訳ではないが，どの程度をできるというのかについては，個人の判断に大きな差があると思われる。一方で，「語学に関する自己学習」は，「何もしていない」が前期課程では 74%，後期課程では 44%であり，国際学会などの参加の機会が無くなっていることが影響していると思われる。

「本学の教育への期待」に関して「あなたの将来のために，本学の教育に何を望みますか」について，前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」，「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」，「企業等での長期間の実践的なインターンシップ」，「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」，「産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究」，「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」のいずれもが 11 ～ 18%と分散された回答であった。後期課程では，「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」と「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ 28%，24%と多かった。

「本学の国際化への対応」については，「非常に積極的であると思う」，「どちらかといえば積極的であると思う」を合わせると，前期課程では 80%，後期課程では 85%であった。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で，前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは 15%で，「奨学金等の援助があれば進学したい」の 5%とあわせて 20%であった。なお，進学希望先を本学としたものは 50%であった。一方，50%が「他大学」と答えた。前期課程の学生の就職希望職種は，「技術職」が 27%，「専門職（医師など）」が 23%，「上記以外の公務員」が 14%であった。後期課程では，「大学，官公庁の教育・研究職」が 19%，「既に就職している」が 13%で，「無回答」が 44%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね，3 個以内での複数回答結果では，前期課程では「収入」,「就職先の将来性・安定性」がそれぞれ 20%，次いで「能力を発揮できること」が 13%であった。後期課程では,「就職先の将来性･安定性」と「能力を発揮できること」がそれぞれ 26%,「収入」が 23%であった。

「進路選択の情報の入手手段」について，前期課程では,「Web・インターネット」27%,「キャリア支援室の情報または就職相談員」15%,「先輩・知人」と「会社説明会」がそれぞれ 13%の順であった。後期課程では,「Web・インターネット」が 27%,「先輩・知人」17%,「指導教員」が 15%,「会社説明会」12%であった。

「キャリア支援室利用状況」については，前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は 65%，後期課程は過去の利用も含めて 15%であった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く，その求人･就職情報は各研究室･教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

冒頭にも触れたが，前回調査とは特に前期課程の回答率が大幅に低下しているので，各項目について前回調査との変化を単純に比較することはできない。また，後期課程については，回収率はやや上昇したものの，回答数そのものが少なく，また半数が社会人学生であった。社会人学生かそうでないかで，奨学金の希望や，親等からの仕送り，アルバイトの収入や生活環境，学習時間，研究活動の時間，就職などの回答に大きな差が生じる。これらの調査項目については，社会人学生かそうでないかで区分して評価する必要がある。指導教員については，複数教員が担当することになっており，指導教員の定義が，学生によって認識が異なる可能性が否定できない。この点も実態に即した設問に変更する必要がある。

8－7　保健科学研究科

保健科学研究科における前期課程在籍者は 57 人，回答者は 38 人，回収率は 66.7%であった。後期課程在籍者は 28 人で，回答者は 16 人，回収率は 57.1%であった。留学生は，前期課程在籍者は 2 人，後期課程在籍者は 6 人である。第 8 回調査の回収率と比較すると，前期課程では約 6%低下し，後期課程では約 16%上昇した。回収率を高めるため指導教員から調査への協力依頼を行っているものの，両課程とも社会人が多く，回収率を高めにくい状況は継続している。回収率をさらに高めるためには，回答するためのまとまった時間を設ける等の工夫を講じる必要があるものと考えられた。

第 1 章「本調査の対象者について」では，回答者の出身地は，前期課程の 42%が「徳島県」で，第 8 回調査よりも 1%低下した。次いで「中国」と「近畿」が 18%ずつであった。後期課程では,「近畿」が 44%,「徳島県」が 25%，徳島県以外の「四国」と「その他（海外)」が 13%ずつで，第 8 回調査と比較し，徳島県の割合は約 40%低下した。

回答者の出身大学（大学院）は，前期課程では「徳島大学」が 76%で，第 8 回調査より 14%増加した。後期課程は「徳島大学大学院」が 38%，徳島大学以外の「国内の大学院」が 19%であった。社会人が占める割合は，前期課程 24%であり，第 8 回調査よりも 16%低下した。後期課程については前回調査とほぼ同水準の 81%を占め，全研究科の中で社会人学生の割合が最も高い。

第 2 章「家族・住居・通学について」の「家庭の収入」では，前期課程は 250 万円未満が 24%で最も多く，次いで 500 ～ 750 万円未満（21%），250 ～ 500 万円未満が 16%であった。前回調査からの大きな変化として，250 万円未満が 12%増えていることが挙げられる。後期課程は，250 ～ 500 万円未満が 38%で最も多かった。

「住居区分」では，前期課程で最も多かったのが,「アパート・マンション（家族と別居)」で 58%，次いで「自宅（家族と同居)」が 37%で，第 8 回調査とほぼ同様の傾向であった。社会人学生の割合が

高い後期課程は，「アパート・マンション（家族と別居）」が 50%，「自宅（家族と同居）」が 44%と二分された。

「住居費」は，前期課程では 3 万円～ 4 万円未満が 32%，3 万円未満が 16%であった。社会人学生の割合が高い後期課程は 3 万円～ 4 万円未満が 19%，3 万円未満が 13%であった。

「婚姻状況」は，前期課程では「配偶者なし･子供なし」が 87%で，第 8 回調査より 16%増加した。「配偶者あり・子供あり」は 8%で，第 8 回調査より 11%低下した。授業や研究をしているとき，子供の世話をしているのは「配偶者」が 20%であるのに対し，保育施設や小学校等の回答が合わせて 60%と増加傾向にある。後期課程の「配偶者なし・子供なし」は 38%，「配偶者あり・子供あり」が 44%で，授業や研究をしているとき，子供の世話をしているのは，「配偶者」と「親や親戚」を合わせると 82%で，前回調査より 27%増加した。家族や親戚の協力を得られている様子がうかがえる。

「通学方法」は，前期課程では，「自転車」通学が 53%で最も多く，次いで「自動車」が 32%であった。社会人学生の割合が高い後期課程では，「自動車」が 81%である。いずれの課程も前回調査とほぼ同様の傾向であった。「通学時間」は，前期課程では，「15 分未満」が 61%，「15 分～ 30 分未満」が 21%で「30 分以内」が約 8 割を占めた。後期課程は，「15 分未満」が 31%，「15 分～ 30 分未満」が 50%で，前回調査に比べ「30 分以内」が約 8 割を占めた一方，「1 時間以上」も 12%おり，県外の学生は通学に長い時間を費やしている。

第 3 章「収入・支出について」の「1 か月の平均収入額」については，前期課程では 31%の学生が 5 万円未満の収入であるが，16%は 20 万円以上の収入を得ている。前期課程留学生では，「10 ～ 15 万円未満」が 100%であった。後期課程では，30 万円以上が 25%いるが，前回調査より 19%低下した。「親等からの援助」は，前期課程の 53%が全くないと答えており，「3 万円未満」（18%）や「3 ～ 5 万円未満」（13%）と合わせると 8 割を超え，収入面での独立傾向がうかがえる。後期課程は，88%は援助が全くないと回答していた。

「1 か月の平均支出額（授業料支出は除く）」は分散しているものの，前期課程で「5 ～ 7 万円未満」が 26%で最も多く，次いで「3 ～ 5 万円未満」が 24%であった。10 万円未満の区分を合算すると，前回調査に比べ 24%増となる 81%が支出を 10 万円未満に抑えていた。社会人学生の割合が高い後期課程では，「15 ～ 20 万円未満」と「20 ～ 25 万円未満」がそれぞれ 25%で，研究科の中で 15 万円以上の割合が 62%と最も高かった。

「奨学金」について，前期課程では，「現在受給中であるが，更に希望する」（24%）と「現在受給していないが，希望する」（5%）を合わせると全体の 29%が奨学金を希望しているが，残りの 71%は受給も希望もしていない。また，後期課程で奨学金を希望するのは 44%で，56%は奨学金を受給も希望もしていない。第 8 回調査と比べ，受給希望者は前期課程で 7%減少し，後期課程で 11%増加した。

「現在アルバイトをしているか」では，前期課程では，アルバイトをしている割合は 68%で前回調査より 32%増加した。前期課程のアルバイトをしているもののうち，「アルバイトの従事時間」は，38%が週に 10 時間未満で，20 時間を越えるものは 20%であった。アルバイトの目的は，「生活費や学費のため」が 39%で，「アルバイトの収入額」は，「7 ～ 10 万円未満」が最も多く 31%であり，口腔科学研究科に次いでアルバイトによる収入額は多い傾向がある。「アルバイトのトラブル」は，「客とのトラブル」と「雇用者との意見の不一致」がそれぞれ 4%おり，92%はトラブルがなかった。また，社会人学生の割合が高い後期課程ではアルバイトは 19%であった。

第 4 章「健康状態について」では，「睡眠時間」は前期課程で「4 ～ 6 時間未満」が 21%，「6 ～ 8 時間未満」が 68%であった。後期課程では，「4 時間未満」が 6%，「4 ～ 6 時間未満」が 25%，「6 ～ 8 時間未満」が 63%であった。両課程とも睡眠不足に留意が必要である。「気になる身体症状」については，前期課程では「ない」が 47%，「時々ある」が 42%であった。症状として「頭痛」（50%），「下痢･便秘」

(50%),「めまい･立ちくらみ」(25%),「生理痛･生理不順」(50%),「不眠」(25%),「その他」(25%)と多岐に渡り，分類しにくい多様な症状を抱えている。後期課程では69%が気になる症状を抱えており，その内訳は,「頭痛」(50%),「めまい･立ちくらみ」(50%),「不眠」(50%),「その他」(50%) と様々であった。

「主な悩みと不安」については，前期課程の37%は「ない」と回答しており，前回調査の31%より6%改善した。最も多い悩みは「勉学」(29%)，次いで「就職や進路」(21%) であった。また16%が「経済状態」と回答していた。後期課程では,「勉学」と「就職や進路」がそれぞれ38%で，前回調査に比べ「勉学」や将来の「就職や進路」に対する悩みや不安はそれぞれ29%，6%低下した。「相談相手」は，前期課程は,「友人」が74%,「家族」が50%,「教員」が24%と,「誰にもしない」が13%であった。後期課程は,「家族」が56%,「友人」が50%,「教員」が31%と,「誰にもしない」が19%であった。

現在の「精神状態」は，前期課程では「気分は普通」が37%で最も多い一方で,「いらいらする」「なんとなく不安」,「落ち込みやすい」,「やる気がでない」を合わせると35%で，精神状態への支援が必要である。後期課程では,「いらいらする」「なんとなく不安」,「やる気がでない」を合わせると25%で，心理状態への支援が必要である。

男子の83%は非喫煙者であったが，14%は喫煙者であった。女子の98%は非喫煙者であったが，1%は喫煙者であった。飲酒は男女共に「たまに飲酒する」が最も多く6割程度であった。

「キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門」の利用については,「健康診断のために行ったことがある」が前期課程で66%であるのに対し，後期課程では31%と著しく低下した。その他のサービスの利用は低調で，健康管理のための様々なサービスが提供されていることの周知が必要と考えられた。

第5章「学生生活上の問題点」において,「迷惑行為を受けたことがあるか」では，前期課程では「ストーカーにあった」と「大学内でセクハラを受けた」がそれぞれ18%おり，後期課程では「大学内でセクハラを受けた」が44%,「大学内でアカハラを受けた」が6%と，50%が何らかのハラスメント経験を有していた。前回調査では，前期課程回答者の90%，後期課程回答者全員が迷惑行為を「受けたことはない」と回答しており，迷惑行為の被害状況が急激に悪化していることが明らかとなった。

「総合相談部門（総合相談室）の利用」について,「利用したことがある」学生は前期課程ではいなかったが，後期課程では6%が「利用したことがある」と回答した。「知らない」と回答した学生は前期課程42%，後期課程19%で,「知らない」と回答した割合は前回調査よりもそれぞれ6%，25%低下した。

盗難や強盗，傷害，痴漢事件の被害については，前期課程の95%が「被害に遭ったことがない」と回答したが,「盗難に遭ったことがある」と「痴漢に遭ったことがある」がそれぞれ3%であった。後期課程では,「盗難に遭ったことがある」学生が6%いた。また，前期課程で交通事故の「被害者となったことがある」と回答したのは16%,「被害者・加害者の両方になったことがある」が8%であった。後期課程では「被害者となったことがある」が25%,「被害者・加害者の両方になったことがある」が19%であった。大麻・覚せい剤などの薬物使用は前期課程，後期課程ともに0%であった。

「大学事務室の対応満足度」は,「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は，前期課程で92%，後期課程は94%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念･方針と教育に対する満足度」では，前期課程において,「教育理念や教育方針を知っている」割合は,「良く知っている」「だいたい知っている」の合計が69%で前回調査より10%増加した。後期課程は「良く知っている」と「だいたい知っている」の合計が69%で，前回調査より8%減少した。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は，前期課程で92%，後期課程が73%であった。教育課程の満足度は，前期課程では,「満足している」「どちらかといえば満足している」が97%,「どちらかといえば不満足である」が3%であった。後期課程は,「満足している」「どちらかといえば満足している」が88%で，前回調査とほぼ同じ割合であった。

徳島大学出身者は，前期・後期課程とも 100％が第一志望で入学していた。他大学卒業者の大学院進学の際には，前期課程の 75％，後期課程の 25％が「第一志望だった」と回答した。「現在所属する大学院に入学した主な理由」について，前期課程では「出身大学だから」が最も多く 26％，次いで「希望する研究分野があるから」（17％），「就職等将来を考慮して」（14％），「継続して修学するため」（13％）であった。後期課程では，「希望する研究分野があるから」が 30％で最も多く，次いで「出身大学だから」（17％），「指導教員に勧められたから」（13％），「地元の大学だから」（13％），「研究環境が整っているから」（10％）であった。

「大学院での勉学により目指すもの」については，前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」が 68％と最も高かった。後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」（38％），「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」（31％）であった。他研究科と比較して後期課程の学生は大学教員を目指す学生の割合が高かった。

「授業の内容や進め方」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程で 92％，後期課程では 81％であった。

「授業以外の研究活動に費やす 1 週間の平均時間」について，前期課程では「90 分～ 5 時間未満」が最も多く 34％，また，5 時間未満の区分をまとめると 42％になり，研究科全体（5 時間未満が 20％）よりも研究活動に費やす時間が少なかった。一方，「40 ～ 60 時間未満」と「60 時間以上」の合計は前回調査では 15％いたが，今回調査では 0％となった。社会人学生の割合が高い後期課程でも前期課程と同様に 5 時間未満の区分が 43％であったが，前回調査では 0％だった「40 ～ 60 時間未満」と「60 時間以上」の区分合計が 12％に増加した。前回調査で長時間研究に取り組んでいた前期課程学生が後期課程に進学し継続して研究に取り組んでいることが増加の理由の一つとして考えられた。

「研究を直接指導している教員」について，「教授」と回答した学生は，前期課程では 87％，後期課程は 94％で，後期課程は研究科の中で最も多かった。また，「指導教員から研究指導を受けている 1 週間の平均時間」について，前期課程では「30 分～ 90 分未満」が 55％で最も多く，次いで「90 分～ 5 時間未満」がそれぞれ 37％であった。後期課程では「90 分～ 5 時間未満」が 38％，「30 分未満」が 31％，「30 ～ 90 分未満」が 25％，「10 時間以上未満」が 6％であった。研究の進行状況によって指導の重点が異なるため，学年によって差が生じている可能性がある。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程が 92％，後期課程は 94％で，前回調査とほぼ同様の割合であった。「修士／博士論文の研究テーマに関する満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は両課程とも 100％であった。

「指導教員とのコミュニケーション」について，前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」の両区分で 90％と高い割合を示し，「まったくとれていない」学生はいなかった。同様に後期課程では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせると 94％，「まったくとれていない」学生はいなかった。一方，「あまりとれていない」が前期課程で 11％，後期課程で 6％おり注視が必要である。

「大学院の教育レベル」に関しては，大学院に相応しいレベルでの教育が「充分に行われている」と「ある程度行われている」を合わせて前期課程で 94％，後期課程で 88％と肯定的な回答を得ている。

「現在の研究環境についての満足度」は，前期課程の 98％が「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した。後期課程においても，「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計が 81％となり，肯定的意見が大半を占めた。不満足と回答した学生に対する追加質問「研究環境に満足していない理由」については，前期課程では「研究費用」が 100％，後期課程では「研究費用」が 38％，「施設・設備」と「研究時間」がそれぞれ 25％であった。

「所属している研究科・専攻の全体としての満足度」について，「満足している」「どちらかといえば

満足している」と回答した学生は，前期課程で 95%，後期課程で 87%であり，後期課程の 13%は「不満足である」と回答しており，改善が望まれる。

「図書館の利用頻度」について，前期課程では「1 か月に 1 回程度利用する」学生が最も多く 32%，次いで「半年に 1 回程度利用する」「1 年に 1 回程度か，それ以下の来館頻度である」がそれぞれ 26%であった。後期課程ではさらに利用頻度が低下し「半年に 1 回程度利用する」が最も多く 38%であった。電子ジャーナルやデータベース等，非来館利用も含めた利用目的では，両課程とも「図書等の貸し出し」がそれぞれ 28%, 23%と最も多かった。「図書館のサービスに対する満足度」について,「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程で 95%，後期課程が 94%で，高い満足度であった。

「現在所属している大学院にふさわしい学習をしているか」について,「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では 76%で前回調査と比較して 4%増加した。一方，後期課程では 50%で，前回調査より 50%低下した。

「入学後の海外渡航の経験」について，前期課程で「ない」と回答した学生は 97%,「1 回」と回答した学生が 3%であった。後期課程は 81%が「ない」と回答した。前期課程で海外渡航の経験のある学生のうち「学会参加」目的が 100%であった。後期課程は「学会参加」が 33%であった。

「国際学会での研究発表」について,「国際学会で研究発表をしたことがない」学生が，前期課程で 89%，後期課程で 43%とかなりの割合を占め，コロナ禍で国際学会が中止やオンライン開催になっていることが影響したと考えられた。

「英会話能力」について,「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で 68%，後期課程では 57%であり, 前回調査から微増した。また, 後期課程において「専門用語を使った会話ができる」「日常会話ができる」を合わせた区分は前回調査では 33%であったが，今回調査では 14%に減少した。

「語学力を高めるためにしていること」では，前期課程の 70%は「何もしていない」と回答したが，少ないながらも「英会話等の学校に通っている」学生が 8%いる。後期課程では「何もしていない」が 27%,「つとめて外国人と英語でコミュニケーションする」が 20%,「TOEIC，TOEFL 等を受験する」,「外国のラジオ，テレビを視聴している」がそれぞれ 13%であった。後期課程では語学力向上のための意識向上が進んでいることがうかがえる。

「あなたの将来のために本学の教育に望むこと」について，前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育･研究指導」が最も多く 25%，次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ 15%であった。後期課程でも「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が最も多く 27%，次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ 20%であった。大学院教育への多様な希望に応じたカリキュラム設計やシラバス作成が必要である。

「本学の国際化への積極性」について,「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した学生は，前期課程で 87%，後期課程は 81%で，どちらも前回調査とほぼ同様の肯定的意見が得られた。

第 7 章「進路選択・就職について」では，前期課程の学生で「博士（後期）課程への進学」について「進学したい」,「奨学金等の経済的支援があれば進学したい」と回答したのは 24%であった。また「就職したい」と回答したのは 58%であり，前回調査よりも 18%就職志向が高まった。後期課程への進学意志のある学生のうち，本学を希望しているのは 89%で，前回調査とほぼ同様の割合であった。前期課程で就職を希望する学生のうち「専門職（医師等）」と回答した学生が 70%で最も多かった。「進路選択で重視する要件」は，前期課程では「収入」が最も多く 27%，次いで「就職先の将来性・安定性」

(25%),「能力を発揮できること」(19%) であり，これら3項目が主要件になっていた。後期課程も同様の傾向であった。

「進路を考える上での情報入手手段」について，前期課程では，「Web・インターネット」が最も多く28%，次いで「先輩・知人」が21%，「指導教員」は12%で，前回調査と比べ指導教員の割合は9%低下した。一方，後期課程では「指導教員」の割合が高く29%であるが，これも前回調査に比べ13%低下した。指導教員の寄与が低下していることについては，情報入手手段の多様化によるものと考えられたが，今後も同様の傾向が続くか注視する必要がある。

「キャリア支援室の利用状況」については，前期課程の84%，後期課程の81%がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答しており，前回調査とほぼ同様の結果を示した。保健科学研究科の大学院生は専門性の高い免許や資格を持ち，比較的限定された業種へ就職することが多いため，キャリア支援室の情報や支援よりも他のサポートを利用していることが推測される。「就職に関する大学への要望」は前期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が39%で最も多く，後期課程では「就職情報誌など就職関係書籍の充実」が最も多く28%であった。実践的な内容の就職活動支援に加えて，専門性の高い業種への就職支援の充実が望まれる。

以上を踏まえ，以下の3点を今後の課題としてあげたい。

1．学生が抱える悩みの解消としての「研究時間の確保」

前期課程，後期課程共に最も多い悩みが「勉学」であった。社会人学生や専門職有資格者が多いため安定した就労環境が得られていると同時に，勉学や研究に割く時間の確保に苦労している一面を示しているものと考えられる。今回の調査においても，奨学金の受給や受給希望が低率である一方で，アルバイトの時間や収入が多く，研究時間を割いて収入を得ている背景がうかがえた。就労活動が研究活動の障害とならないよう，奨学金制度の充実等の経済支援策が望まれる。

2．国際学会への積極的な参加への支援充実

今回の調査では「国際学会で研究発表をしたことがない」学生がかなりの割合を占めた。コロナ禍において普及した遠隔会議形式の学会開催によって旅費の問題が解消され，語学力向上のための機運が高まることを期待したが，開催中止となった国際学会も多く，発表機会の減少の影響が大きいものと考えられた。感染対策の緩和に伴い，徐々にこれらの問題が解消されていくよう参加費・旅費等の支援充実を期待したい。

3．ハラスメントの根絶

学生生活上の問題点として，前期課程の18%，後期課程の50%が学内でセクハラやアカハラ等のハラスメントを受けたことがあると回答したことは看過できない問題である。副指導教員やアドバイザー教員等，複数の教員が関わる指導教員体制が導入されたが，ハラスメント対策としては有効に機能していないようである。引き続き各教員の意識改革が必要であり，定期的な研修の機会を設ける等，ハラスメントが起こらない全学的・継続的な対策が不可欠である。

8－8　先端技術科学教育部

先端技術科学教育部は，常三島地区大学院の創成科学研究科への統合により，前期課程は2020年度学生から，博士課程は2022年度から入学者募集中止となっているため，現在，在学者（休学者を除く）は，前期課程0人，後期課程（2年・3年）51人である。したがって，本項における記述は，博士後期課程学生のみを対象としたものであることに注意されたい。今回の調査における学生の回答率は33%であり，第7回調査，第8回調査に引き続き減少傾向にあり，全学の中でも低水準であった。今回，Web上での調査実施は2回目であったが，調査結果分析精度の観点からは，さらなる回答率向上の施

策が必要である。

「本調査の対象者について」より出身地をみると，海外が47％を占め，次に近畿29％であり，地元徳島県出身者が6％と少なさが顕著である。また，本学出身者は41％，次いで海外大学36％，国内他大学18％である。社会人と留学生の割合は，18％および47％で，ここ数回の調査で傾向は変わらない。

「家族・住居・通学」より，家庭の年間所得をみると，250万円未満の割合が59％と研究科全体で最も高い割合であり，経済的支援対策の必要性を示唆している。住居は，65％が家族と別居のアパート・マンション，12％が家族と同居の自宅，同じく12％が国際交流会館（留学生割合では31％）であり，国際交流会館は一定の役割を果たしている。また，住居費が4万円未満の割合は，34％であった。前々回調査の71％，前回調査の57％より急速に減少しており，住居費負担の増大が窺えた。通学方法は，自転車が47％と最も多く，次いで徒歩24％，自動車18％であった。通学時間は，15分未満が53％と多いが，1時間以上の長時間通学が24％と一定の割合で存在している。住居費負担の増加と関連する可能性がある。

「収入・支出について」より，平均収入月額をみると，前回調査とほぼ同様であった。3万円未満が53％と最も多くを占め，前回調査の34％から大きく増加している。コロナ禍におけるアルバイト従事の困難さが関係しているものと思われる。また，親等からの援助については，全くないが76％を占め，前回調査より16％増加しており，コロナ禍の影響が推察される。奨学金については「受給中であるが，更に希望する」が24％，「現在受給していないが，希望する」が35％であり，6割程度の学生が奨学金を希望しており，奨学金制度のさらなる拡充の必要が見て取れる。一方，アルバイトに従事している学生は12％であった。コロナ禍前より著しく減少しており，前回，前々回調査と単純に比較することはできない。

「健康状態について」より，睡眠時間の時間別割合をみると，「6～8時間未満」の学生が53％，「4～6時間未満」が35％であった。また，気になる症状が「時々ある」または「常にある」の割合も，24％および12％で，前回調査の38％，49％から大きく低下している。主な悩みや不安については，経済状態，勉学および就職・進路が4割を超えていた。悩みについての相談相手は，家族，友人，教員の順であった。しかし，誰にも相談しないと回答した学生も一定割合存在する。また，現在の精神状態については，「充実している」または「気分は普通」が71％で，前回86％より減少した。一方，キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門・総合相談部門の認識度は低く，その役割や利用方法等についての周知方法の改善が望まれる。

「学生生活上の問題点について」より，迷惑行為に関しては94％が何らかの迷惑行為を受けたと回答した。「大学内でセクハラを受けた」,「いたずら電話を受けた」,「カルトのような集団への勧誘を行けた」が29％，12％，6％と大きな割合を占めている。それ以外も47％あり，注意喚起，対策の継続が必要である。相談の窓口機関であるキャンパスライフ支援センター・総合相談部門の利用者満足度は非常に高いので，利用促進が強く望まれる。犯罪被害については，6％が何らかの被害に遭っている。交通事故については，24％が被害者・加害者のいずれかを経験している。心がけ次第である程度は回避できるため，犯罪被害や事故に係る教育と指導，繰り返し注意喚起を行う必要がある。違法薬物の使用については，1名の学生が経験ありと回答しており看過できない。その違法性・危険性等について継続した周知徹底が必要である。大学事務室の対応について，「どちらかといえば不満足」または「不満足」とした学生は，0％であり大きな問題はない。

「修学状況について」より，教育部の教育理念や教育方針を，「よく知っている」または「だいたい知っている」と回答した学生は，83％と前回調査の69％から大きく改善している。そのうち，93％の学生が，その理念や方針に沿った教育を受けていると答えており，また，94％の学生が，教育課程および授業の内容や進め方について，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答しており満

足度は高い。本学大学院を第1志望とした学生は，本学出身者では，83%，他大学卒業者では，60%と高い水準を維持している。大学院への入学理由は，「希望する研究分野があるから」を理由とする学生が26%で最も多く，次いで「指導教員に勧められたから」「継続して就学するため」がそれぞれ15%と高い。大学院の勉学で目指すところは，研究者59%であり，研究志向が持続している。一方，授業以外の自分で行う研究活動に，週40時間（週5日，1日平均8時間）以上を費やす学生は，36%で，前回調査より15ポイントの減であった。研究活動が週10時間（週5日，1日平均2時間）に満たないとの回答は，18%と前回と同じである。コロナ禍での研究制約もあるとは思われるが，前々回，前回と継続して6割程度の学生が十分な研究時間を確保していないことは，指導教員の指導方法とともに，学生の能動的な姿勢が強く望まれる。直接の指導教員が教授，准教授，講師である割合は，それぞれ65%，24%，6%であった。研究指導を受ける時間は，週30分未満の割合が24%，30～90分未満が12%，90分～5時間未満は53%であった。前回調査では，それぞれ34%，26%，34%であったので，指導を受ける時間についての改善が見られる。前々回と比較しても90～5時間未満の割合が増加しているので，コロナ禍で導入されたWEBミーティング等が効果的役割を果たしていると思われる。また，学生の多くが大学院レベルに概ね相応しい教育を受けていると回答しているが，全く指導教員とのコミュニケーションがない学生もおり，その対策が必須である。研究環境については，施設・設備，研究費用の点で不満足であるとする学生もおり，研究環境の充実は今後の課題であるが，高額設備については，施設の共用化，全国共同利用施設の利用等，柔軟な対応が望まれる。図書館利用について，コロナ禍のため実際に入館しての利用が少ない状況がうかがえる。一方，電子ジャーナルの利用等，オンライン形式での利用は比較的高い。電子ジャーナルを含む図書館に対するサービスへの満足度は，100%の学生が「満足している」または「どちらかといえば満足している」と評価は高い。この評価を維持するためには，さらなる電子コンテンツ削減を可能な限り実施しないことが望まれる。学習への取り組みについて，現在所属している大学院に相応しい学習を「よくしている」または「かなりしている」を合わせると，100%の高水準な回答であった。一方，研究に費やす時間が少ない学生が少なからずいることと本回答は矛盾しているように思える。具体的な到達目標等を提示しながら，学習意欲を高め，高い学習水準を維持する教育手法の検討が必要である。海外渡航の経験については，59%の学生が海外渡航経験がない。全研究科内では最も少ない割合ではあるが，コロナ禍の影響が非常に大きいものと考えられる。留学と学会参加を目的とする渡航が45%であり，前回調査時より9%減少している。日本人について，何らかの国際会議発表は44%の学生が経験しておりコロナ禍前とほぼ同様である。国際会議発表自体は，オンライン発表形式などによりコロナ禍の影響が最小限にとどまっていることがうかがえる。英会話について，「何とか日常会話ができる」のレベルまで含めれば，55%であり，前々回，前回調査とほぼ変わらない。TOEICのみならず種々の手段を用いて語学力向上に努めている学生は58%であり，微減傾向である。4割強の学生が何ら取り組んでいないと回答していることは，研究成果の発信等の妨げる要因になると考えられる。自分の将来のために本学の教育に望むこととして，「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」および「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ21%を占めているが，6つの選択肢にそれぞれ一定数の要望がある結果であった。また，本学の国際化への対応については，「非常に積極的であると思う」または「どちらかといえば積極的であると思う」が88%であり，前回より5%増加した。

「進路・就職について」より，就職希望職種としては，教育・研究職が22%，技術職が9%，企業等の研究職が9%であった。進路選択で重視される上位3項目は，前々回調査から変わらず，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できることであった。進路の情報入手先として，Web・インターネットが最も利用されており，次いで，先輩・知人，指導教員の順になっている。就職に関する大学への要望において，就職情報誌など就職関係書籍の充実や企業説明会の内容の充実を求める学生は少なくない

が，博士課程学生に対する求人や方法が前期課程学生と必ずしも同様ではないことを勘案すると，進路選択・就職活動時においても指導教員とコミュニケーションをよくとることが重要と思われる。

今回調査結果から読み取れる課題は以下の通りである。

1．奨学金等による生活支援の拡充
2．研究活動に費やす時間を適切な水準に引き上げる方策の検討
3．違法薬物使用の違法および有害性の徹底周知
4．語学力向上にかかる種々手段の提供
5．悩みや不安の相談に対する総合相談部門利用促進の方策
6．指導教員とのコミュニケーションのより一層の促進

（特記）留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院に在籍する留学生は，前期課程 41 名，後期課程 81 名の合計 122 名であり，前回の第 8 回調査と比較して前期課程で 15 名，後期課程で 2 名，計 17 名の減少となった。留学生の占める割合は，前期課程 4.3%，後期課程 18.8%と，前回調査時よりそれぞれ 1.6%，0.4%減少している。留学生の回答率は，前期課程 56.1%，後期課程 42%であり，前回調査より前期課程で 10%増，後期課程では 6%減であった。

学生の住居区分に関しては，前期課程では，国際交流会館が 57%と最も高く，次いでアパート・マンション（家族と別居）が 35%，自宅（家族と同居）と間借りがそれぞれ 4%で，後期課程ではアパート・マンション（家族と別居）が 36%で最も高く，次いで国際交流会館 31%，間借り 22%，自宅（家族と同居）11%であった。前回調査と比較すると，国際交流会館での居住（前回：15%）は著増し，アパート・マンション居住（前回：前期課程 67%，後期課程 73%）は半分に減少している。住居費用では，前期課程では，3 万円未満が 20%（前回：65%）に著減し，3 ～ 4 万円未満が 70%（前回：13%）に著増して，後期課程では，3 万円未満が 28%（前回：57%）に著減し，3 ～ 4 万円未満は 28%と変わらず，4 ～ 5 万円未満が 24%に増加し，5 ～ 6 万円未満が 8%と続いた。

収入については，1 か月平均収入が 3 万円未満の割合は，前期課程で 52%，後期課程で 44%と，共に前回調査と比較すると 8 ～ 10%増加している。親からの援助を受けていない割合では，前期課程で 39%，後期課程で 61%と，前回調査と比較すると増加している。アルバイトをしている学生は，前期課程で 39%，後期課程で 31%であり，前期課程では前回調査より 13%減少している。平均支出では，7 万円未満の留学生の割合は前期・後期課程ともに 56%で，前期課程では前回調査より 14%減少している。奨学金に関しては，前期課程では 65%　後期課程では 61%が支給を受けており，現在受けていない学生でも，ほとんどの学生が受給を希望している。

留学生の健康状況については，気になる症状が「ある」学生は 5 割を超えていたが，気になる症状が「常にある」学生はほとんどいなかった。悩みや不安が「ない」学生は 3 割弱であった。前回調査では「経済状態」の悩みと不安をもつ者が約 7 割であったが，今回調査では 5 割を切っていた。また，悩み事の相談者として，友人，家族，教員が挙がっていたが，約 1 割弱は悩みを誰にも相談しないと回答していた。現在の精神状態では，8 ～ 9 割が「充実している」または「気分は普通」であった。嗜好品では，留学生ではほとんどが飲酒習慣はないとの回答であったが，男子の喫煙率は 20%であった。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が，前期・後期課程ともに 100%である。本学を選んだ理由と目的では，両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が最も多かった。大学院での勉学で目指すものとして，前期課程では「高度専門職業人」と「高度で知的な素養のある社会人」が多く，後期課程では「研究者」と「高度専門職

業人」が多かった。授業に対しては前期・後期課程の全学生が,「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した。

留学生の研究活動では，週 20 時間以上研究活動を行っている割合が，前期課程 26%，後期課程 66%（前回調査より 16% 減少）で，前回調査と同様に減少傾向が持続している。一方，指導教員から研究指導を受けている 1 週間の平均時間は「30 ～ 90 分未満」と「90 分～ 5 時間未満」に集中しており，前回調査と同様の傾向である。研究指導の内容や進め方については,「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」の回答が 100%であり，同様に，全員が概ね大学院に相応しいレベルの教育が行われていると回答している。現在の研究環境では，ほぼ 100%の学生（前期課程では全ての学生）が概ね満足していた。所属大学院の満足度に関しても, 100%の学生が「満足」,「どちらかといえば満足」のいずれかに回答した。大学院での学習への取り組み状況については,「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した留学生は，前期課程で 95%，後期課程で 100%であり，前回調査同様高い割合を示した。コロナ禍のため，留学生による研究時間の減少はあるものの，指導教員の工夫した指導によって，研究指導や研究内容に対しての満足度は高かったと考えられる。

日本語会話の能力について,「なんとか日常会話ができる」以上の回答した留学生は，前期課程では 91%，後期課程では 61%で，前回調査とほとんど同様の結果であった。また，前期課程では 78%，後期課程では 95%が，日本語コースを「受講している」,「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており，後期課程では前回調査より 14%の増加が見られた。日本語コースの満足度については,「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した留学生は，前期課程 72%，後期課程 82%で，前回調査（共に 100%）と比較すると減少していた。前回調査に続き日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示された。しかし，日本語コースの満足度は低下した結果となった。コロナ禍の中で，対面授業が制限されるなどの制約などが影響していることも考えられその理由を明らかにし,「日本語コース」の内容のさらなる充実に向けた取り組みが必要であると考える。

本学の国際化への対応については，前期・後期課程の 100%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えている。従って本学が行っている国際化への対応は留学生に評価されているものと考えられる。

前期課程学生の進学選択に関して，全体として「進学したい」が 22%（前回調査：30%),「経済的支援があれば進学したい」が 9%（前回調査：26%）であり，前回調査よりともに減少していた。進学希望者 7 名のうち，86%が本学を希望していた。就職希望職種では，前期課程では「技術職」と「教育職」がそれぞれ 28%と多く，後期課程では「大学・官公庁の教育・研究職」(26%),「企業等の研究職」(11%）であった。進路選択で重視するものでは，前期課程・後期課程の学生共に,「収入」,「就職先の将来性･安定性」,「能力を発揮できるところ」が主要件であった。進路情報の入手手段については,「指導教員」,「先輩・知人」,「Web・インターネット」が多かった。キャリア支援室の利用状況では，利用したことがない学生は 75%前後と利用率は低い。就職に関する大学への要望では,「面接対策・履歴書の書き方」,「就職情報誌」などが多かった。進学選択の希望が減少した理由として，コロナ禍による母国への帰国制限や，日本での生活や学習への制限が影響しているのかもしれない。就職に関しては，言語の問題もあり，キャリア支援室の利用やインターナショナルオフィスでの就職支援プログラムの参加状況も低く認知が不十分であるかもしれない。

今後の課題

本学では，第 3 期中期目標期間中に 350 人以上の外国人留学生を受け入れる目標を立てている。また,「徳島大学改革プラン」においても，外国人留学生を日本に定住させることを目標に，学部留学生を増

加させ，外国人留学生の在籍者率を3%から6%に引き上げる目標を掲げ，加えて日本人学生のグローバル化を推進するため，海外派遣を倍増する目標も掲げている。しかし，2020年の新型コロナ禍により，インバウンド学生の受け入れプロセスに影響が出たため，新入留学生数が減少している。また，留学生の平均収入が減少し，さらに，卒業生の帰国や就職も困難になるなど，卒業後の進路にも影響を与えている。コロナ禍前の状況にいつか戻ることができる可能性があるが，上記の目標を達成するとともに，留学生支援に向けて以下のことを考える。

1．渡日前入学許可制度により，優秀な留学生の入学実績が蓄積された。コロナ禍で，現地での渡日前入学許可制度の説明会等が難しくなっており，オンライン説明会，オンライン入試相談等実施した。このようなオンラインを用いたリクルート活動を充実させるとともに，各卒業留学生同窓会や現地拠点との連携を推進し，優秀な人材を受け入れる必要がある。

2．経済状況が恵まれてない留学生に対する住宅，奨学金や授業料免除制度の拡充，TA／RA制度の活用などを含むさらなる支援を充実し，安心して勉学できる環境を整備する必要があると思われる。

3．前回の調査結果と比較して，大学の宿舎への入居を希望する留学生が増加傾向にある。将来的には，留学生用の宿舎の定員を増やすことを考える必要がある。

4．コロナ禍の影響もあり，留学生の日本文化体験や国際交流の機会が制限されている。留学生が日本文化理解や日本語能力を向上するため，日本人学生や地域住民との交流に関して取り組み等を整備する必要があると思われる。同様に，日本人学生の国際化意識の向上および異文化体験，英語能力，コミュニケーション能力の向上を強化する必要もある。すでに実施されている海外留学プログラムなどを維持・拡大することが求められる。

5．コロナ禍の影響もあり，留学生の就職が困難になっている。インターナショナルオフィス，キャリア支援室，留学生共同サポートセンターなど学内外の関連機関が引き続き連携し，学生の就職支援，特に県内就職支援を強化する必要がある。

第９章　総括と提言

大学院生を対象とした学生生活実態調査は，大学院生の就学及び生活の実情を的確に把握し，大学として支援する事項を見出すことが主な目的である。今回（第９回）の調査は，本学大学院に在籍する 1,393 名（前期課程 962 名（うち留学生 41 名），後期課程 431 名（うち留学生 81 名））を対象に行い，全体のアンケート回収率は 34％であった。回収率は，第５回 53％，第６回 60％，第７回 66％と着実に向上していたが，前回 37％に引き続き今回調査も新型コロナウイルスの影響により，WEB による調査となったため，回答率が減少していることが考えられる。本調査目的である学生の生活実態を正確に把握するためには，より高い回収率が望まれることから，特に回収率の低い研究科・教育部においては今後，回収率の向上に向けた取り組み・工夫が求められる。

今回の調査結果は，２年前に実施した前回（第８回）調査から数値の変動はあるものの，傾向は大きくは変わっていない。研究科・教育部間で結果にバラつきがあるが，本調査の目的である大学院生の支援に大学全体としてどう活かすかという観点から，以下に総括と提言を取りまとめた。

１．経済状態について

大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しいことが窺われ，奨学金希望者の割合は両課程ともに約半数に上る。特に後期課程では，いずれの研究科・教育部においても保護者等からの経済的支援を受けていない大学院生の割合が最も多く，全体では 77％（前期課程 27％）に上る。そのため，収入面での独立傾向が強く，アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した割合が後期課程（47％）の方が前期課程（37％）よりも高く，また，10 万円以上のアルバイト収入を得ている大学院生が後期課程で 31％（前期課程 3％）という結果に繋がっていると思われる。アルバイトに 25 時間以上従事している大学院生も少なからずいることから，学業への支障が危惧される。徳島大学では，研究に専念できるような環境を提供するとともに，多様なキャリアパスの形成に向けた支援として，令和３年度より大学院博士課程又は博士後期課程対象に生活費相当額と研究費が支給・配分される事業（ひかりフェローシップ・うずしおプロジェクト）が創設された。学生がこのような制度を有効に利用できるよう，全学的に周知を行っていく必要がある。経済的に援助が必要な大学院生が学業に専念する時間を持つことができる支援の構築は，大学院の充実に向けて取り組むべき継続的重要課題の一つである。

２．健康状態について

身体的健康については，約半数の大学院生が「気になる症状がある」と回答しており，症状の多くは生活習慣の不良を原因として発生していると考えられることから，健康管理に対する学生の意識向上対策が求められる。精神的健康については，約７割の大学院生が悩みや不安などの何らかの精神的不調感を持っており，その多くは「勉学」,「就職」,「経済状態」といった学生特有の問題であるが，これには新型コロナウイルスの影響によるさまざまな方面の行動制限も少なからず影響していると思われる。この結果から，健康面・精神面の問題に対する支援の強化が望まれるが，悩みや不安の相談相手は身近な友人や家族が主であり，専門家による支援が得られる総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は依然として低調である。支援窓口としてのキャンパスライフ健康支援センターを気軽に利用してもらうための一層の啓蒙活動に加え，指導教員が学生の変調を一早く把握し，必要に応じて大学院生に当センターの利用を促すことも必要であろう。

３．生活上の問題点について

大学院生の約７割が，何らかの迷惑行為を受けている。ハラスメント（「セクハラ」,「アカハラ」,「飲酒強要」）が，前回の調査に比べてかなり増加していることから，さらに適切な予防啓発の活動と対

策が必要である。支援窓口となる総合相談部門（学生相談室）の利用率は 10% であり，利用後の満足度が高い。なお，同部門の認知率，利用率はともに蔵本地区で低い傾向にあり，認知度向上対策が求められる。

交通事故（約 25%），盗難被害（約 5%）を経験している大学院生がいることから，身近な事件・事故防止に向けた啓蒙活動の強化・継続が必要である。

4．修学状況について

前期・後期課程ともに，授業および研究指導に対して高い満足度が維持されており，教員との意思疎通も良好で，全体として大学院生の 90% 以上が研究科・教育部に満足しており，今後も高い満足度が維持されるように努力を継続することが求められる。研究環境に対しても 80% 以上が概ね満足しているが，一方で，満足していない大学院生が少なからずおり，その理由として「施設･設備」,「研究費用」が多い。大学の財政事情が厳しく，教員個々の研究費獲得への依存度が今後更に高まることが予想される状況から，直ぐに改善するのは難しいと言わざるを得ない。また,「研究時間」を不満の理由にあげる大学院生も約２割いることから，指導教員による何らかの対応が望まれる。

図書館の利用頻度は研究科・教育部間で大きなばらつきがあるが，図書館のサービスに対して約 90%の大学院生が満足しており，評価が高い。今回の調査においても，WEB を介した学術雑誌やデータベースの利用頻度が高いことが再確認され，大学院生の日々の学習や研究活動に必要不可欠なこれら閲覧サービスの質・量の維持・充実が強く望まれる。

徳島大学の国際化への取組みは大学院生から一定の評価を受けているが，一方で，学生の英会話習得に向けた学習努力や，海外渡航経験，国際学会における発表経験などは低調に推移しており，学生の国際化意識は高いとはいえない。今回調査においては，新型コロナウイルスの影響も考えられるが，今後，オンラインを有効活用した研修や学会参加など状況に合った新しい方法を検討する必要がある。また，この傾向の原因を分析し，国際的に通用する有能な人材育成に向け，グローバル化教育の整備･推進，国際学会への発表支援などを組織的に強化していくことが求められる。

5．進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望する大学院生の割合が 11%であり，高いとはいえない。後期課程への進学を促すためには，経済的支援や修了後の就職先の開拓など大学院生が安心して進学できる環境整備を進めていくことが必要である。

キャリア支援室の利用は，依然として「利用したことがない」との回答が両課程とも半分以上あり，まだ十分に活用されていない。学生の就職希望先は高度な専門職，研究職，技術職など研究科・教育部間で異なるが，就職に関する学生の要望の多くはキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであることから，キャリア支援室は各研究科・教育部と連携してサービス内容の周知を徹底すれば，大学院生にとって貢献度の高い情報提供ソースになると期待される。

6．留学生について

留学生の学習への取り組み状況は良好で，日本人学生の学習意欲や国際化意識の向上に良い影響を及ぼしていることが期待される。留学生の良好な学習への取組み状況や教育課程への高い満足度を維持し，大学院の国際化を加速していくためには，日本人学生と同様にニーズの高い経済的支援と健康面に関する支援，就職支援を充実し，安心して学習できる環境を整備することが望まれる。また，修学・生活支援に繋がる日本語学習の充実と英語による留学生への各種サポート体制の整備に，継続して取り組んでいく必要がある。

あ　と　が　き

平成17年度から隔年で継続的に行われている大学院生を対象とした生活実態調査は，今回で9回目となりました。アンケート結果はこれまでと全体的に大きな変化は見られませんが，新型コロナウイルスの感染による3年以上にわたる行動制限やオンラインによる学修形態への移行など，日常生活や社会活動の変化によって，アンケート結果の数字だけからは窺い知れない影響が及んでいることが推測されます。生活実態調査の解析は，アンケート結果のデータを基にしており，アンケートの回収率は前々回まで5割以上で増加傾向にありましたが，新型コロナウイルスの感染のためWEBでの調査に変更した後の回収率は4割以下であることから，次回の調査では回収率を高める改善の対策が望まれます。昨今の社会状況から，大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しい状況が続いていますので，大学からの学修支援の事業などを有効活用できる取り組みが必要と考えます。ここ数年間にわたる社会情勢の急激な変化によって，大学院生の修学ならびに健康にも影響が及んでいることが考えられることから，学生生活の実態を正確に把握し，どのようにして改善や対策を行いフィードバックすることが有効で継続的な取り組みになるのかを課題として考えることが望まれます。海外から本学で勉学に励んでいる留学生においても状況は同じであり，充実した各種のサポートが受けられる一層の対応が求められます。

最後になりましたが，今回の調査にご協力いただいた大学院生，調査結果を分析して報告書を分担執筆された委員の先生方，ならびに，ご協力をいただいた事務職員の皆様方に深く感謝いたします。

学生生活支援室長

鶴　尾　吉　宏

キャンパスライフ 第9回

CAMPUS LIFE

大学院生生活実態調査報告書

徳島大学

令和5年3月

徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。（令和2年3月24日）
・認定評価機関：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
・認定期間：7年間
・（令和2年4月1日～令和9年3月31日）